

第3回草津市都市計画マスタープラン策定委員会

【アンケート調査の集計結果】

単純集計結果	1
【満足度・重要度別整理】	23
年代別単純集計結果の概要	24
【満足度・重要度別整理】	36
学区別集計結果の概要	41
【志津学区】	41
【志津南学区】	48
【草津学区】	55
【大路区】	62
【渋川学区】	69
【矢倉学区】	76
【老上学区】	83
【老上西学区】	90
【玉川学区】	97
【南笠東学区】	104
【山田学区】	111
【笠縫学区】	118
【笠縫東学区】	125
【常盤学区】	132
【満足度・重要度別整理】	139

【単純集計結果】

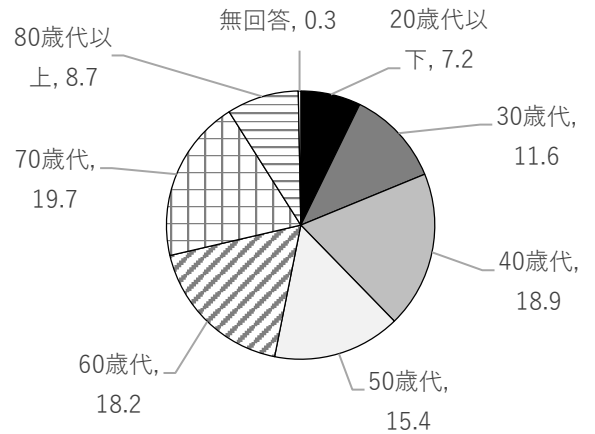
1. あなたご自身のことについて

問1-1 年齢についておうかがいします。(1つに○)

年代別の回答者数については、40歳代から70歳代がそれぞれ200票前後の回答となっており、30歳代以下の回答数がやや少なくなっています。

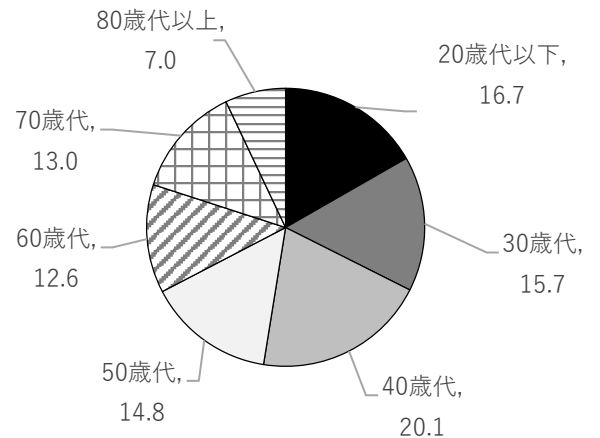
また、実際の年代別人口構成の割合と回答割合を比較すると、30歳代以下は回答割合の方が少なく、40歳代から50歳代はほぼ同じ割合、60歳代以上は回答割合の方が多くなっています。

		回答数	割合
1	20歳代以下 (18歳以上)	75	7.2
2	30歳代	120	11.6
3	40歳代	196	18.9
4	50歳代	160	15.4
5	60歳代	189	18.2
6	70歳代	204	19.7
7	80歳代以上	90	8.7
	無回答	3	0.3
	計	1,037	100.0



参考：年代別人口構成

		人数	割合
1	20歳代以下 (18歳以上)	18,466	16.7
2	30歳代	17,356	15.7
3	40歳代	22,223	20.1
4	50歳代	16,386	14.8
5	60歳代	13,939	12.6
6	70歳代	14,329	13.0
7	80歳代以上	7,785	7.0
	計	110,484	100.0



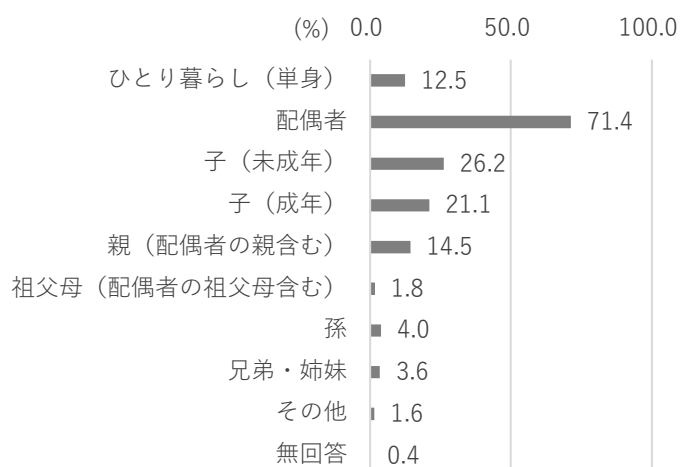
※住民基本台帳 (令和元年10月31日現在)

※外国人含む。

問1-2 現在の同居人についておうかがいします。（あてはまるもの全てに○）

同居人については、配偶者と同居している回答者が全体の71.4%を占めており、また、子（未成年）と同居している回答者は全体の26.2%となっています。

		回答数	割合
1	ひとり暮らし（単身）	130	12.5
2	配偶者	740	71.4
3	子（未成年）	272	26.2
4	子（成年）	219	21.1
5	親（配偶者の親含む）	150	14.5
6	祖父母（配偶者の祖父母含む）	19	1.8
7	孫	41	4.0
8	兄弟・姉妹	37	3.6
9	その他	17	1.6
	無回答	4	0.4

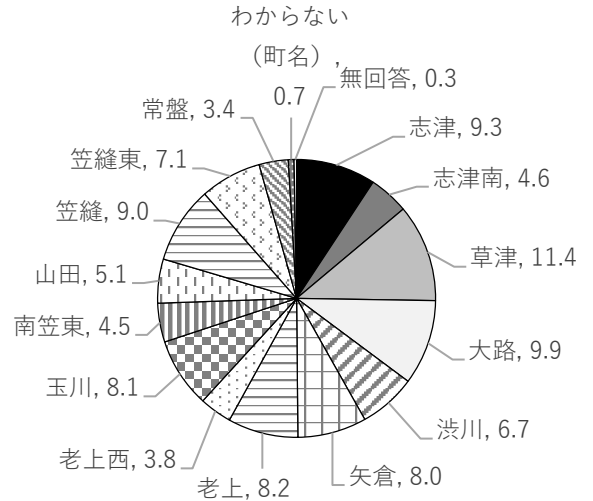


※割合は回答者数1,037人に対する割合。

問1-3 お住まいの学区についておうかがいします。(1つに○)

お住まいの学区について、実際の学区別人口構成の割合と回答割合を比較すると、回答割合の方が多い学区は、草津、大路、矢倉、老上、笠縫となっています。

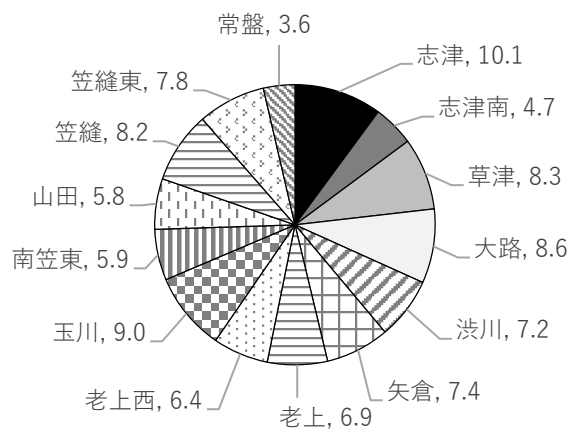
		回答数	割合
1	志津	96	9.3
2	志津南	48	4.6
3	草津	118	11.4
4	大路	103	9.9
5	渋川	69	6.7
6	矢倉	83	8.0
7	老上	85	8.2
8	老上西	39	3.8
9	玉川	84	8.1
10	南笠東	47	4.5
11	山田	53	5.1
12	笠縫	93	9.0
13	笠縫東	74	7.1
14	常盤	35	3.4
15	わからない(町名)	7	0.7
	無回答	3	0.3
	計	1,037	100.0



※「わからない」で町名を書かれた場合は、その町名が属する学区に振り分け

参考：学区別人口構成

		回答数	割合
1	志津	13,643	10.1
2	志津南	6,386	4.7
3	草津	11,198	8.3
4	大路	11,531	8.6
5	渋川	9,632	7.2
6	矢倉	9,927	7.4
7	老上	9,327	6.9
8	老上西	8,605	6.4
9	玉川	12,153	9.0
10	南笠東	7,934	5.9
11	山田	7,849	5.8
12	笠縫	11,100	8.2
13	笠縫東	10,531	7.8
14	常盤	4,873	3.6
	計	134,689	100.0



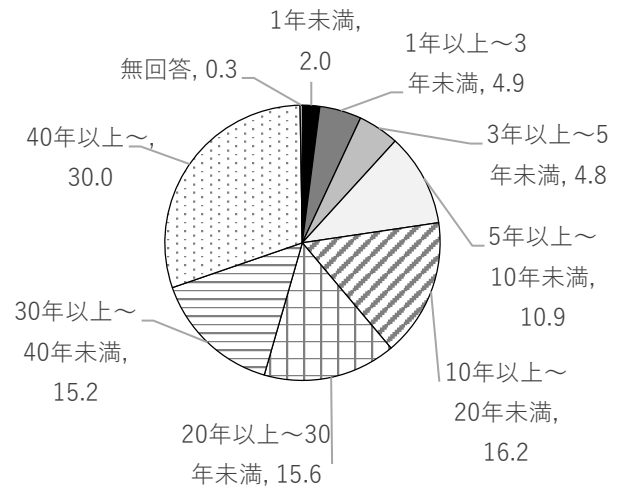
※住民基本台帳(令和元年10月31日現在)

※外国人含む。

問1-4 草津市での居住歴（通算年数）についておうかがいします。（1つに〇）

居住歴（通算年数）については、5年未満は11.7%で、10年未満は22.6%となっています。以降10年ごとに約15%ずつ増えており、40年以上は30.0%となっています。

		回答数	割合
1	1年未満	21	2.0
2	1年以上～3年未満	51	4.9
3	3年以上～5年未満	50	4.8
4	5年以上～10年未満	113	10.9
5	10年以上～20年未満	168	16.2
6	20年以上～30年未満	162	15.6
7	30年以上～40年未満	158	15.2
8	40年以上～	311	30.0
	無回答	3	0.3
	計	1,037	100.0

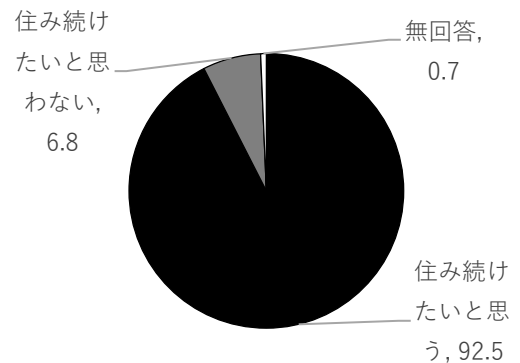


2. あなたの居住満足度について

問2-1 あなたは今後も草津市に住み続けたいですか。（1つに○）

居住継続意向については、「住み続けたいと思う」が92.5%と高くなっています。

		回答数	割合
1	住み続けたいと思う	959	92.5
2	住み続けたいと思わない	71	6.8
	無回答	7	0.7
	計	1,037	100.0

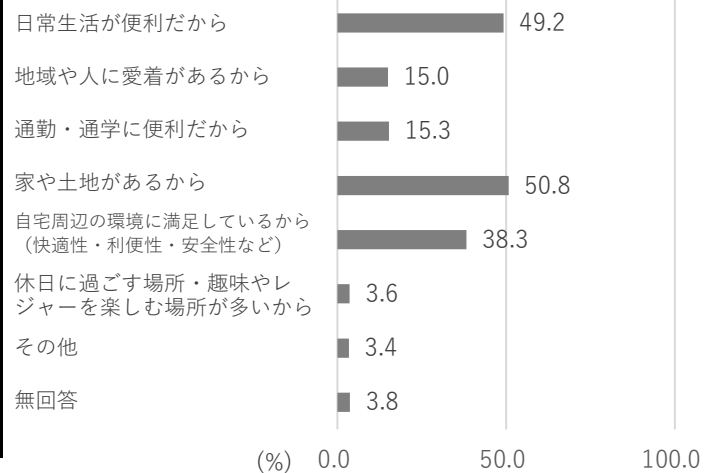


問2-2 問2-1で「1.」を選択された方におうかがいします。

住み続けたいと思う理由についてお聞かせください。（主な理由2つに○）

住み続けたいと思う理由については、「家や土地があるから」が最も多く、住み続けたいと回答された方の50.8%が回答し、次いで「日常生活が便利だから」が49.2%、「住宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）」が38.3%となっています。

		回答数	割合
1	日常生活が便利だから	472	49.2
2	地域や人に愛着があるから	144	15.0
3	通勤・通学に便利だから	147	15.3
4	家や土地があるから	487	50.8
5	自宅周辺の環境に満足しているから （快適性・利便性・安全性など）	367	38.3
6	休日に過ごす場所・趣味やレジャーを楽しむ場所が多いから	35	3.6
7	その他	33	3.4
	無回答	36	3.8
	計	1,721	



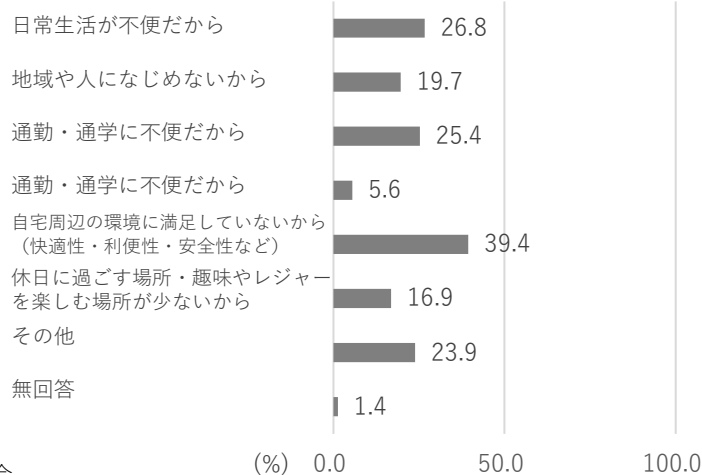
※割合は問2-1で「住み続けたいと思う」と回答した959人に対する割合。

問2-3 問2-1で「2.」を選択された方におうかがいします。

住み続けたいと思わない理由についてお聞かせください。（主な理由2つに○）

住み続けたいと思わない理由については、「住宅周辺の環境に満足していないから（快適性・利便性・安全性など）」が最も多く、住み続けたいと思わないと回答された方の39.4%が回答し、次いで「日常生活が不便だから」が26.8%、「通勤・通学に不便だから」が25.4%となっています。

		回答数	割合
1	日常生活が不便だから	19	26.8
2	地域や人になじめないから	14	19.7
3	通勤・通学に不便だから	18	25.4
4	家や土地が取得しにくいから	4	5.6
5	自宅周辺の環境に満足していないから (快適性・利便性・安全性など)	28	39.4
6	休日に過ごす場所・趣味やレジャーを 楽しむ場所が少ないから	12	16.9
7	その他	17	23.9
	無回答	1	1.4
	計	113	



※割合は問2-1で「住み続けたいと思わない」と回答した71人に対する割合。

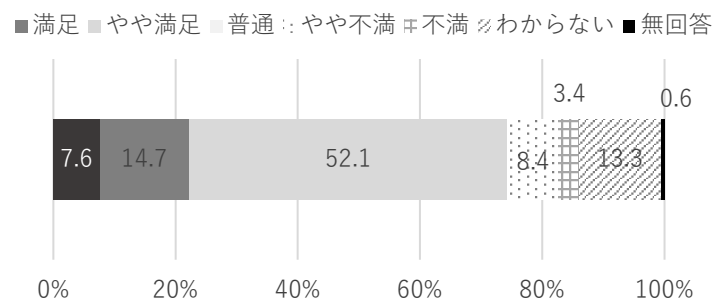
問2-4 草津市における各分野の満足度を教えてください。（分野ごと1つに○）

- 満足度が高い分野（「満足」及び「やや満足」の合計 > 「やや不満」及び「不満」の合計）
「地震や水害などに対する防災・減災対策」、「JR草津駅周辺を中心市街地のにぎわい」、
「従来から振興してきた既存産業の維持・発展」、「住宅周辺の環境」、「歴史と調和した街なみ」、
「水辺や緑地などの環境保全に向けた取組」
 - 不満度が高い分野（「満足」及び「やや満足」の合計 < 「やや不満」及び「不満」の合計）
「安全な交通環境の形成」、「防犯」、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」、
「最先端技術や将来性を有する新産業の誘致・育成」、
「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」、「公共交通機関の充実」
- ※「協働のまちづくり」は同数

問2-4-1. 地震や水害などに対する防災・減災対策

地震や水害などに対する防災・減災対策については、「満足」及び「やや満足」の合計が22.3%となっています。ただし、「普通」が最も多く52.1%です。

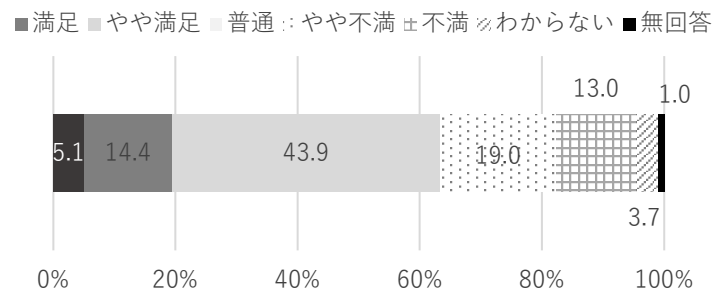
		回答数	割合
1	満足	79	7.6
2	やや満足	152	14.7
3	普通	540	52.1
4	やや不満	87	8.4
5	不満	35	3.4
6	わからない	138	13.3
	無回答	6	0.6
	計	1,037	100.0



問2-4-2. 安全な交通環境の形成

安全な交通環境の形成については、「満足」及び「やや満足」の合計19.5%より、「やや不満」及び「不満」の合計32.0%の方が多くなっています。ただし、「普通」が最も多く43.9%です。

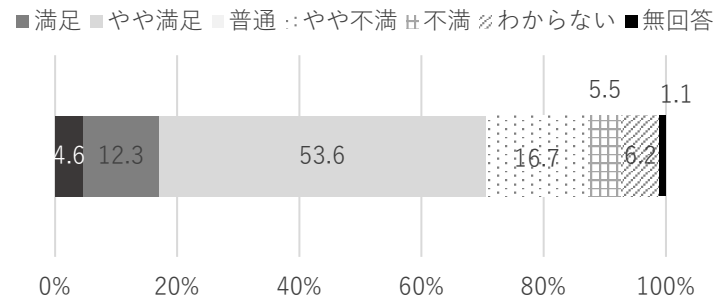
		回答数	割合
1	満足	53	5.1
2	やや満足	149	14.4
3	普通	455	43.9
4	やや不満	197	19.0
5	不満	135	13.0
6	わからない	38	3.7
	無回答	10	1.0
	計	1,037	100.0



問2-4-3. 防犯

防犯については、「満足」及び「やや満足」の合計16.9%より、「やや不満」及び「不満」の合計22.2%の方がやや多くなっています。ただし、「普通」が最も多く53.6%です。

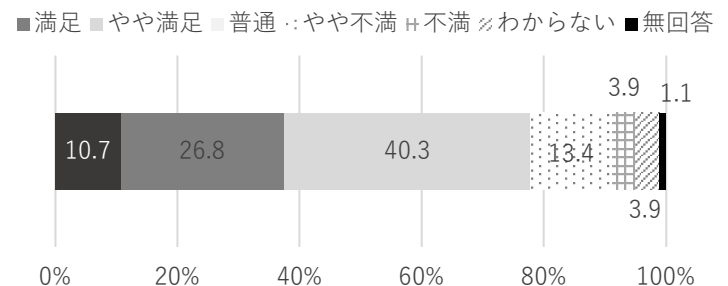
		回答数	割合
1	満足	48	4.6
2	やや満足	128	12.3
3	普通	556	53.6
4	やや不満	173	16.7
5	不満	57	5.5
6	わからない	64	6.2
	無回答	11	1.1
	計	1,037	100.0



問2-4-4. JR草津駅周辺の中心市街地のにぎわい

JR草津駅周辺の中心市街地のにぎわいについては、「満足」及び「やや満足」の合計が37.5%となっています。ただし、「普通」が最も多く40.3%です。

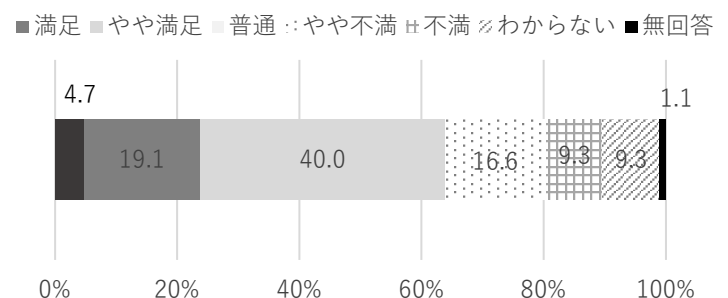
		回答数	割合
1	満足	111	10.7
2	やや満足	278	26.8
3	普通	418	40.3
4	やや不満	139	13.4
5	不満	40	3.9
6	わからない	40	3.9
	無回答	11	1.1
	計	1,037	100.0



問2-4-5. 広域幹線道路網の整備などによる交流促進

広域幹線道路網の整備などによる交流促進については、「満足」及び「やや満足」の合計23.8%より、「やや不満」及び「不満」の合計25.9%の方がやや多くなっています。ただし、「普通」が最も多く40.0%です。

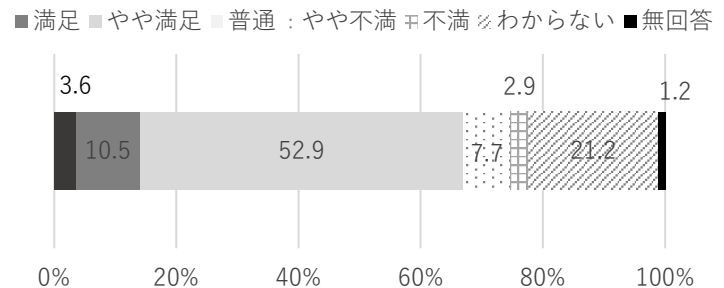
		回答数	割合
1	満足	49	4.7
2	やや満足	198	19.1
3	普通	415	40.0
4	やや不満	172	16.6
5	不満	96	9.3
6	わからない	96	9.3
	無回答	11	1.1
	計	1,037	100.0



問2-4-6. 従来から振興してきた既存産業の維持・発展

従来から振興してきた既存産業の維持・発展については、「満足」及び「やや満足」の合計が14.1%となっています。ただし、「普通」が最も多く52.9%で、「わからない」も21.2%あります。

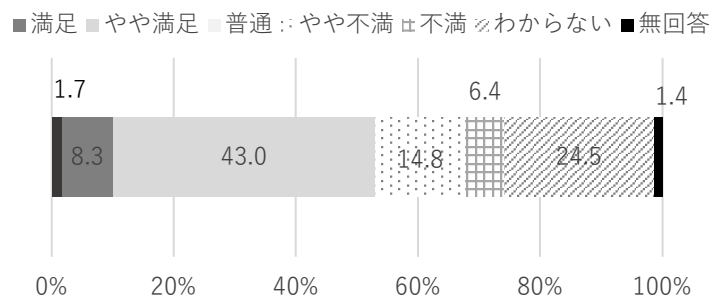
		回答数	割合
1	満足	37	3.6
2	やや満足	109	10.5
3	普通	549	52.9
4	やや不満	80	7.7
5	不満	30	2.9
6	わからない	220	21.2
	無回答	12	1.2
	計	1,037	100.0



問2-4-7. 最先端技術や将来性を有する新産業の誘致・育成

最先端技術や将来性を有する新産業の誘致・育成については、「満足」及び「やや満足」の合計10.0%より、「やや不満」及び「不満」の合計21.2%の方が多くなっています。ただし、「普通」が最も多く43.0%で、「わからない」も24.5%あります。

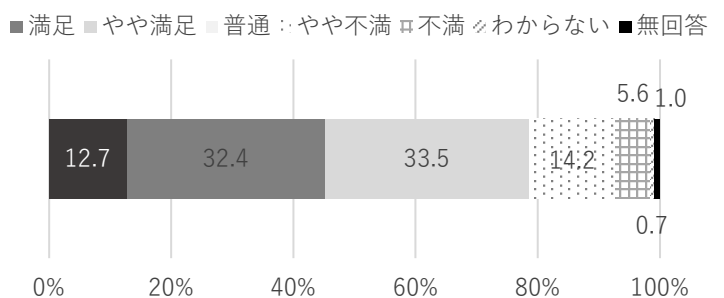
		回答数	割合
1	満足	18	1.7
2	やや満足	86	8.3
3	普通	446	43.0
4	やや不満	153	14.8
5	不満	66	6.4
6	わからない	254	24.5
	無回答	14	1.4
	計	1,037	100.0



問2-4-8. 住宅周辺の環境

住宅周辺の環境については、「満足」及び「やや満足」の合計が45.1%となっています。ただし、「普通」が最も多く33.5%です。

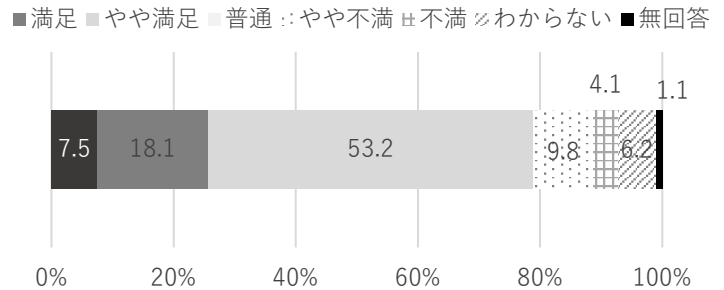
		回答数	割合
1	満足	132	12.7
2	やや満足	336	32.4
3	普通	347	33.5
4	やや不満	147	14.2
5	不満	58	5.6
6	わからない	7	0.7
	無回答	10	1.0
	計	1,037	100.0



問2-4-9. 歴史と調和した街なみ

歴史と調和した街なみについては、「満足」及び「やや満足」の合計が25.6%となっています。ただし、「普通」が最も多く53.2%です。

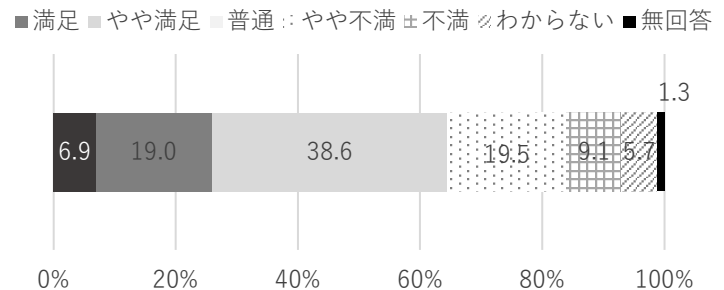
		回答数	割合
1	満足	78	7.5
2	やや満足	188	18.1
3	普通	552	53.2
4	やや不満	102	9.8
5	不満	42	4.1
6	わからない	64	6.2
	無回答	11	1.1
	計	1,037	100.0



問2-4-10. 施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成

施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成については、「満足」及び「やや満足」の合計25.9%より、「やや不満」及び「不満」の合計28.6%の方がやや多くなっています。ただし、「普通」が最も多く38.6%です。

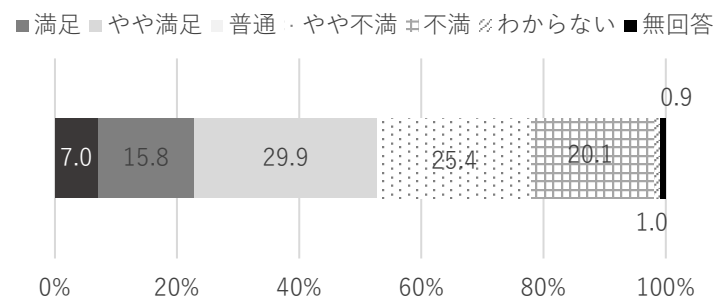
		回答数	割合
1	満足	72	6.9
2	やや満足	197	19.0
3	普通	400	38.6
4	やや不満	202	19.5
5	不満	94	9.1
6	わからない	59	5.7
	無回答	13	1.3
	計	1,037	100.0



問2-4-11. 公共交通機関の充実

公共交通機関の充実については、「満足」及び「やや満足」の合計22.8%より、「やや不満」及び「不満」の合計45.5%の方が多くなっています。ただし、「普通」が最も多く29.9%です。

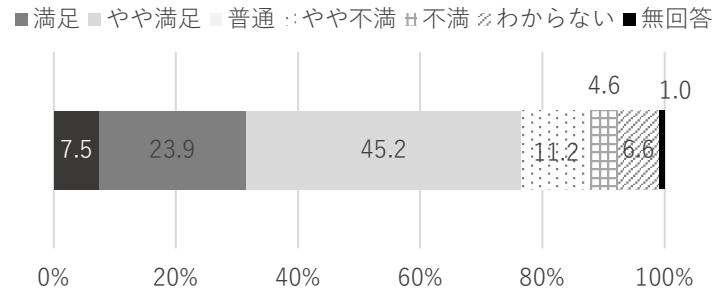
		回答数	割合
1	満足	73	7.0
2	やや満足	164	15.8
3	普通	310	29.9
4	やや不満	263	25.4
5	不満	208	20.1
6	わからない	10	1.0
	無回答	9	0.9
	計	1,037	100.0



問2-4-12. 水辺や緑地などの環境保全に向けた取組

水辺や緑地などの環境保全に向けた取組については、「満足」及び「やや満足」の合計が31.4%となっています。ただし、「普通」が最も多く45.2%です。

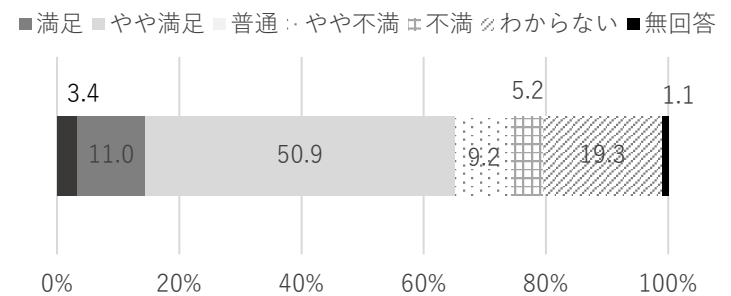
		回答数	割合
1	満足	78	7.5
2	やや満足	248	23.9
3	普通	469	45.2
4	やや不満	116	11.2
5	不満	48	4.6
6	わからない	68	6.6
	無回答	10	1.0
	計	1,037	100.0



問2-4-13. 協働のまちづくり

協働のまちづくりについては、「満足」及び「やや満足」の合計が14.4%となっています。ただし、「普通」が最も多く50.9%で、「わからない」も19.3%あります。

		回答数	割合
1	満足	35	3.4
2	やや満足	114	11.0
3	普通	528	50.9
4	やや不満	95	9.2
5	不満	54	5.2
6	わからない	200	19.3
	無回答	11	1.1
	計	1,037	100.0



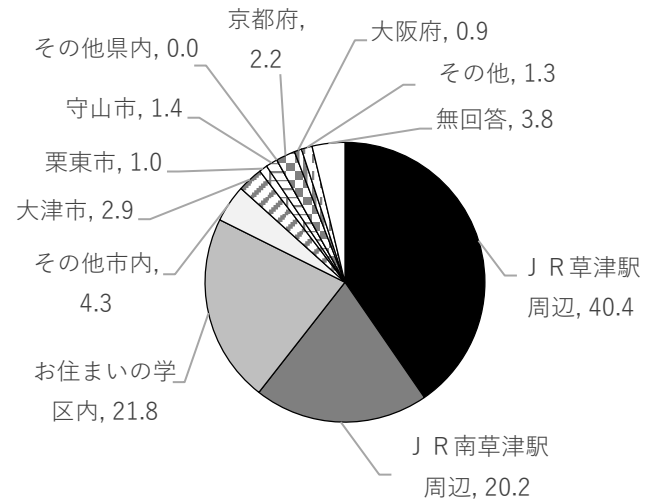
3. 日常の動向について

問3-1 日常生活における各行動で、行くことが最も多い場所を教えてください。（それぞれ1つに○）

問3-1-1. 買物場所

買物場所については、1位「J R草津駅周辺」が40.4%、2位「お住まいの学区内」が21.8%、3位「J R南草津駅周辺」が20.2%となっています。

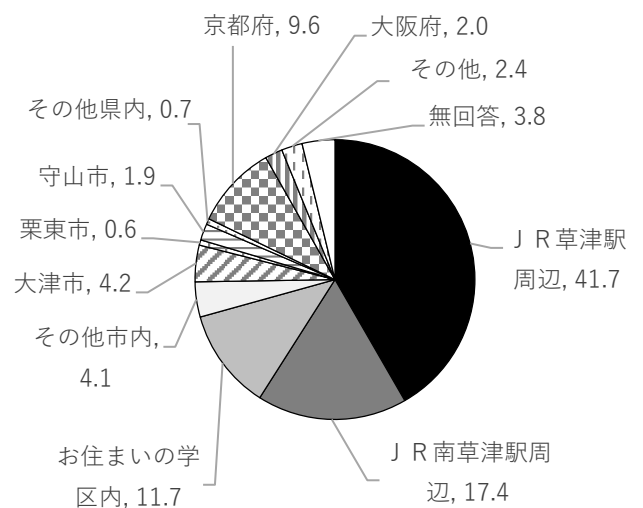
		回答数	割合
1	J R草津駅周辺	419	40.4
2	J R南草津駅周辺	209	20.2
3	お住まいの学区内	226	21.8
4	その他市内	45	4.3
5	大津市	30	2.9
6	栗東市	10	1.0
7	守山市	14	1.4
8	その他県内	0	0.0
9	京都府	23	2.2
10	大阪府	9	0.9
11	その他	13	1.3
	無回答	39	3.8
	計	1,037	100.0



問3-1-2. 家族・友人との会合や飲食場所

家族・友人との会合や飲食場所については、1位「J R草津駅周辺」が41.7%、2位「J R南草津駅周辺」が17.4%、3位「お住まいの学区内」が11.7%となっています。

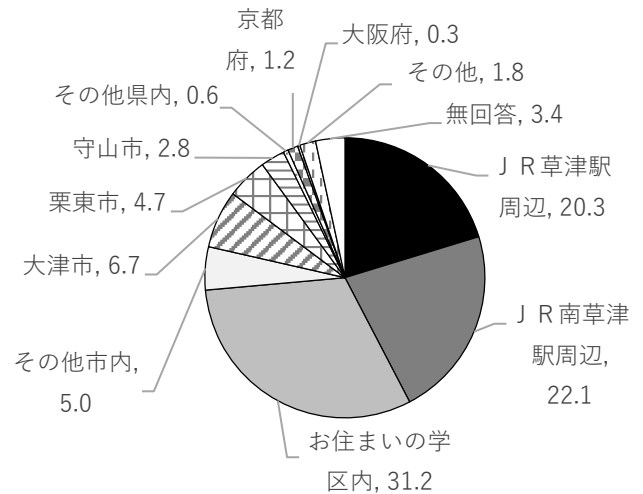
		回答数	割合
1	J R草津駅周辺	432	41.7
2	J R南草津駅周辺	180	17.4
3	お住まいの学区内	121	11.7
4	その他市内	42	4.1
5	大津市	44	4.2
6	栗東市	6	0.6
7	守山市	20	1.9
8	その他県内	7	0.7
9	京都府	100	9.6
10	大阪府	21	2.0
11	その他	25	2.4
	無回答	39	3.8
	計	1,037	100.0



問3-1-3. 通院場所

通院場所については、1位「お住まいの学区内」が31.2%、2位「J R南草津駅周辺」が22.1%、3位「J R草津駅周辺」が20.3%となっています。

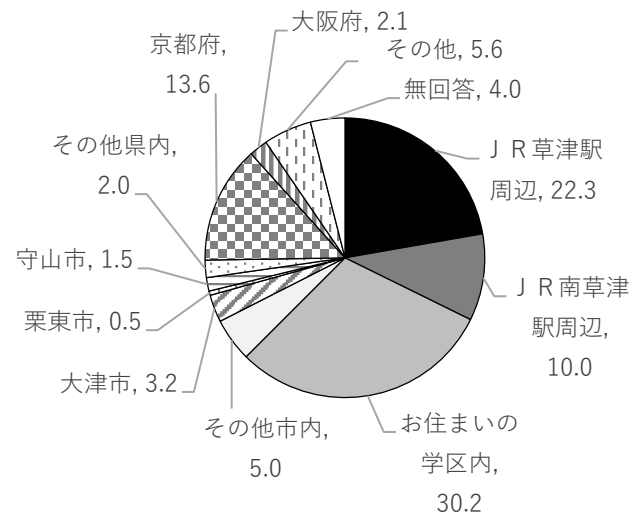
		回答数	割合
1	J R草津駅周辺	210	20.3
2	J R南草津駅周辺	229	22.1
3	お住まいの学区内	324	31.2
4	その他市内	52	5.0
5	大津市	69	6.7
6	栗東市	49	4.7
7	守山市	29	2.8
8	その他県内	6	0.6
9	京都府	12	1.2
10	大阪府	3	0.3
11	その他	19	1.8
	無回答	35	3.4
	計	1,037	100.0



問3-1-4. 余暇を過ごす場所

余暇を過ごす場所については、1位「お住まいの学区内」が30.2%、2位「J R草津駅周辺」が22.3%、3位「京都府」が13.6%となっています。

		回答数	割合
1	J R草津駅周辺	231	22.3
2	J R南草津駅周辺	104	10.0
3	お住まいの学区内	313	30.2
4	その他市内	52	5.0
5	大津市	33	3.2
6	栗東市	5	0.5
7	守山市	16	1.5
8	その他県内	21	2.0
9	京都府	141	13.6
10	大阪府	22	2.1
11	その他	58	5.6
	無回答	41	4.0
	計	1,037	100.0



4. 重点的に進めるべきまちづくりの分野について

問4-1 草津市が重点的に進めるべきと思われる、まちづくりの分野についてお答えください。
 (特に重要だと思うもの2つに○)

草津市が重点的に進めるべきまちづくりの分野については、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」が最も多く318票（回答者の30.7%）、次いで「公共交通機関の充実」及び「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」が282票（同27.2%）、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」が276票（同26.6%）、「安全な交通環境の形成」が230票（同22.2%）となっています。

		回答数	割合
1	J R草津駅周辺の中心市街地の活性化	112	10.8
2	地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり	318	30.7
3	良好な住環境を備えた住宅地の形成	87	8.4
4	安全な交通環境の形成	230	22.2
5	公共交通機関の充実	282	27.2
6	自然環境の保全や活用による環境まちづくり	116	11.2
7	歴史文化を活かした景観まちづくり	42	4.1
8	防犯に配慮した安全・安心のまちづくり	276	26.6
9	広域幹線道路網の整備などにより交流の機会を育むまちづくり	65	6.3
10	生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成	282	27.2
11	最先端技術や将来性を有する新産業の振興	62	6.0
12	本市に定着している既存産業の維持・発展	24	2.3
13	郊外部における地域振興	35	3.4
14	協働のまりづくり	24	2.3
15	その他	32	3.1
	無回答	24	2.3
	計	2,011	



※割合は回答者数1,037人に対する割合。

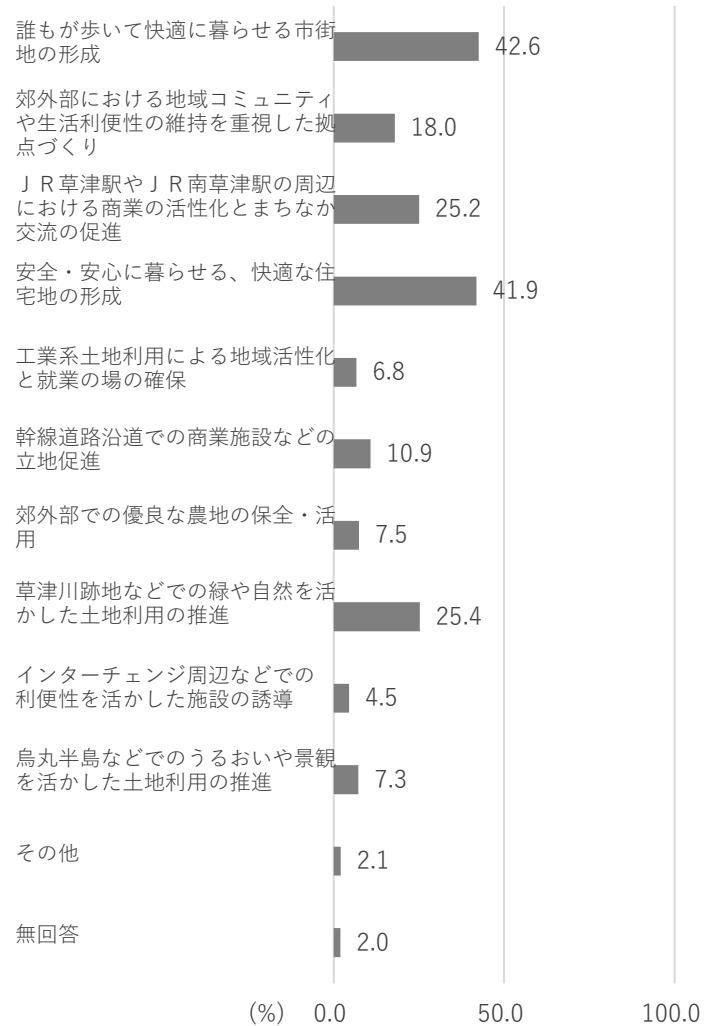
5. 土地利用の方針について

問5-1 草津市の土地利用において特に重要と思われる取り組みをお答えください。

(特に重要だと思うもの2つに○)

草津市の土地利用において特に重要と思われる取り組みについては、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」が最も多く442票（回答者の42.6%）、次いで「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」が435票（同41.9%）、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」が263票（同25.4%）、「JR草津駅やJR南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」が261票（同25.2%）となっています。

		回答数	割合
1	誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成	442	42.6
2	郊外部における地域コミュニティや生活利便性の維持を重視した拠点づくり	187	18.0
3	JR草津駅やJR南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進	261	25.2
4	安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成	435	41.9
5	工業系土地利用による地域活性化と就業の場の確保	70	6.8
6	幹線道路沿道での商業施設などの立地促進	113	10.9
7	郊外部での優良な農地の保全・活用	78	7.5
8	草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進	263	25.4
9	インターチェンジ周辺などでの利便性を活かした施設の誘導	47	4.5
10	烏丸半島などでのうるおいや景観を活かした土地利用の推進	76	7.3
11	その他	22	2.1
	無回答	21	2.0
	計	2,015	



※割合は回答者数1,037人に対する割合。

6. 都市計画に関する各分野の今後の方針について

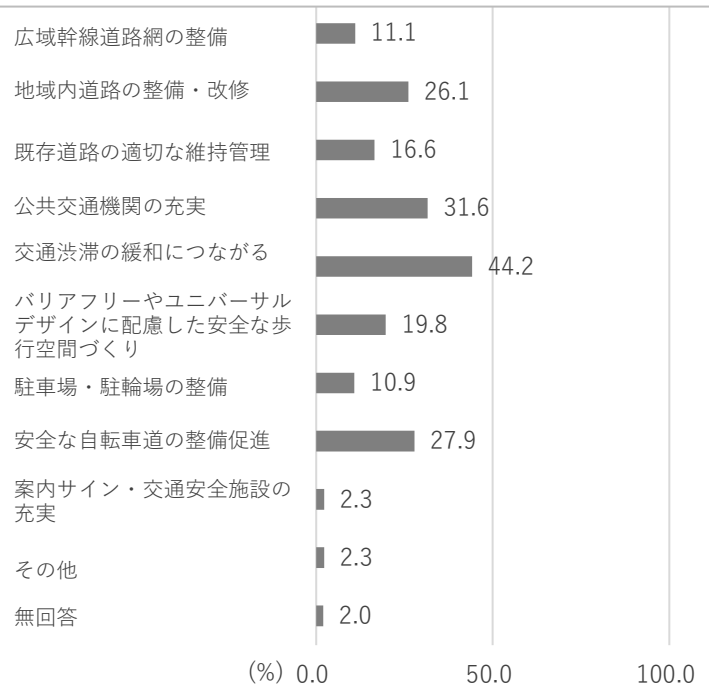
問6-1 「道路・交通環境」に関して重要と思われる施策をお答えください。

(特に重要だと思うもの2つに○)

「道路・交通環境」に関して重要と思われる施策については、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」が最も多く458票(回答者の44.2%)、次いで「公共交通機関の充実」が328票(同31.6%)、「安全な自転車道の整備促進」が289票(同27.9%)、「地域内道路の整備・改修」が271票(同26.1%)となっています。

		回答数	割合
1	広域幹線道路網の整備	115	11.1
2	地域内道路の整備・改修	271	26.1
3	既存道路の適切な維持管理	172	16.6
4	公共交通機関の充実	328	31.6
5	交通渋滞の緩和につながる道路の整備	458	44.2
6	バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間づくり	205	19.8
7	駐車場・駐輪場の整備	113	10.9
8	安全な自転車道の整備促進	289	27.9
9	案内サイン・交通安全施設の充実	24	2.3
10	その他	24	2.3
	無回答	21	2.0
	計	2,020	

※割合は回答者数1,037人に対する割合。



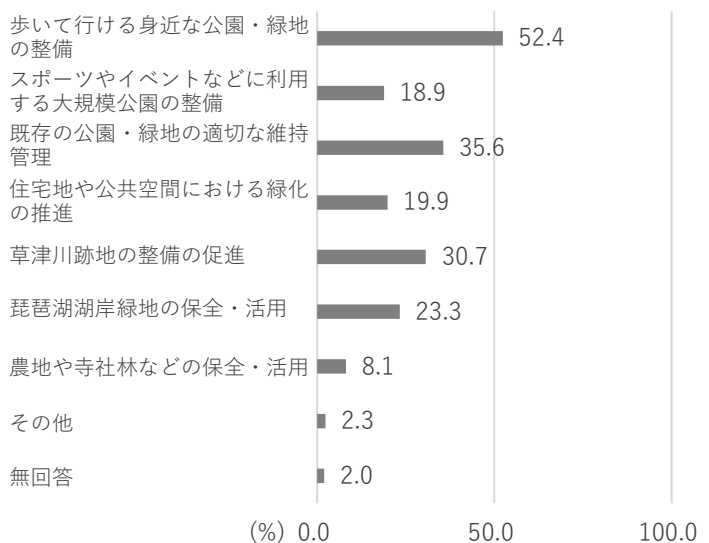
問6-2 「公園・緑地」に関して重要と思われる施策をお答えください。

(特に重要だと思うもの2つに○)

「公園・緑地」に関して重要と思われる施策については、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」が最も多く543票(回答者の52.4%)、次いで「既存の公園・緑地の適切な維持管理」が369票(同35.6%)、「草津川跡地の整備の促進」が318票(同30.7%)、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」が242票(同23.3%)となっています。

		回答数	割合
1	歩いて行ける身近な公園・緑地の整備	543	52.4
2	スポーツやイベントなどに利用する大規模公園の整備	196	18.9
3	既存の公園・緑地の適切な維持管理	369	35.6
4	住宅地や公共空間における緑化の推進	206	19.9
5	草津川跡地の整備の促進	318	30.7
6	琵琶湖湖岸緑地の保全・活用	242	23.3
7	農地や寺社林などの保全・活用	84	8.1
8	その他	24	2.3
	無回答	21	2.0
	計	2,003	

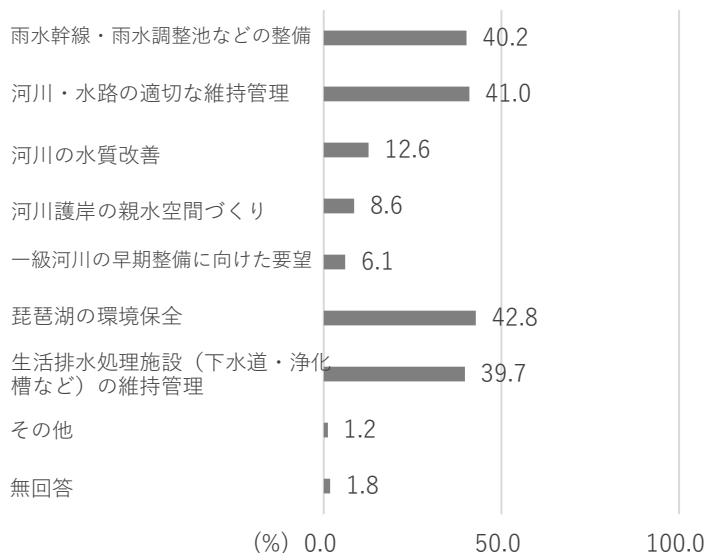
※割合は回答者数1,037人に対する割合。



問6-3 「河川・下水道」に関して重要と思われる施策をお答えください。
 (特に重要だと思うもの2つに○)

「河川・下水道」に関して重要と思われる施策については、「琵琶湖の環境保全」が最も多く444票（回答者の42.8%）、次いで「河川・水路の適切な維持管理」が425票（同41.0%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」が417票（同40.2%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」が412票（同39.7%）となっています。

		回答数	割合
1	雨水幹線・雨水調整池などの整備	417	40.2
2	河川・水路の適切な維持管理	425	41.0
3	河川の水質改善	131	12.6
4	河川護岸の親水空間づくり	89	8.6
5	一級河川の早期整備に向けた要望	63	6.1
6	琵琶湖の環境保全	444	42.8
7	生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理	412	39.7
8	その他	12	1.2
	無回答	19	1.8
	計	2,012	

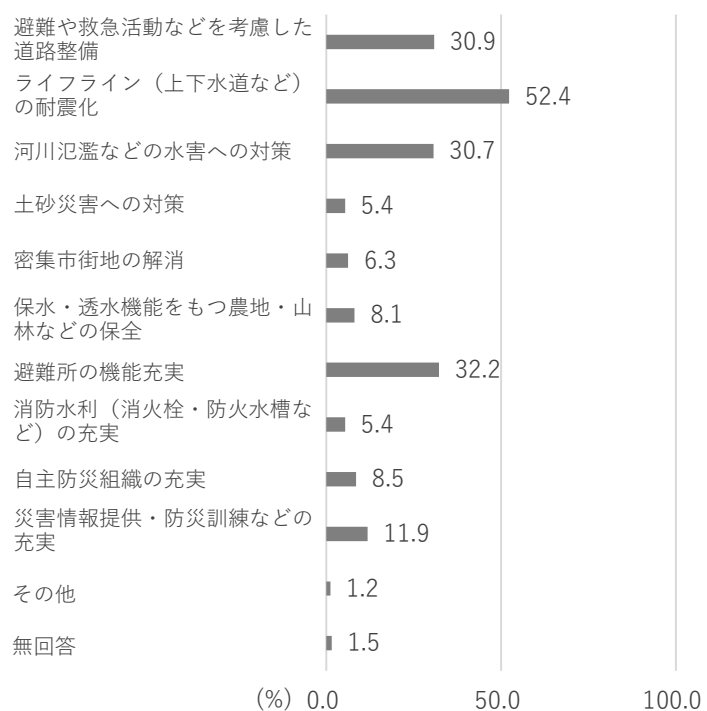


※割合は回答者数1,037人に対する割合。

問6-4 「防災」に関して重要と思われる施策をお答えください。（特に重要だと思うもの2つに○）

「防災」に関して重要と思われる施策については、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」が最も多く543票（回答者の52.4%）、次いで「避難所の機能充実」が334票（同32.2%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」が320票（同30.9%）、「河川氾濫などの水害への対策」が318票（同30.7%）となっています。

		回答数	割合
1	避難や救急活動などを考慮した道路整備	320	30.9
2	ライフライン（上下水道など）の耐震化	543	52.4
3	河川氾濫などの水害への対策	318	30.7
4	土砂災害への対策	56	5.4
5	密集市街地の解消	65	6.3
6	保水・透水機能をもつ農地・山林などの保全	84	8.1
7	避難所の機能充実	334	32.2
8	消防水利（消火栓・防火水槽など）の充実	56	5.4
9	自主防災組織の充実	88	8.5
10	災害情報提供・防災訓練などの充実	123	11.9
11	その他	12	1.2
	無回答	16	1.5
	計	2,015	

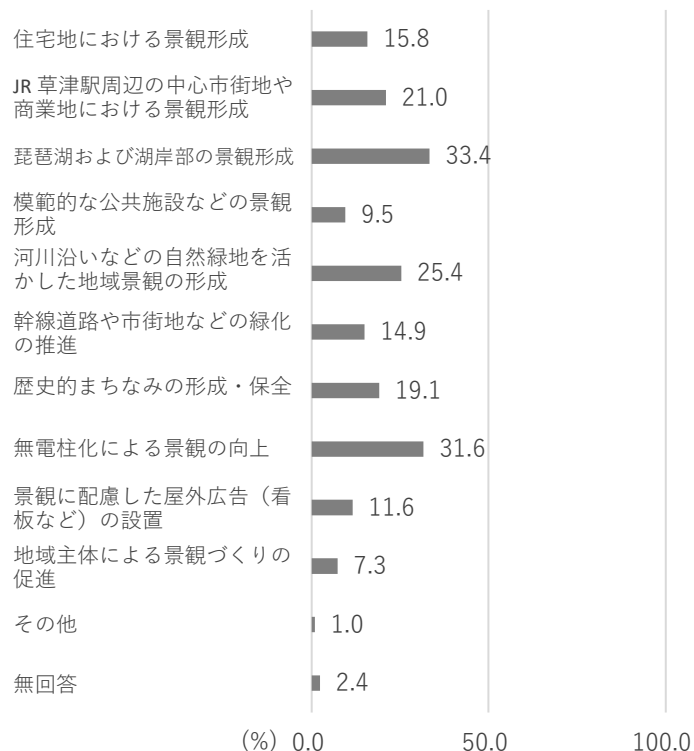


※割合は回答者数1,037人に対する割合。

問6-5 「景観」に関して重要と思われる施策をお答えください。（特に重要だと思うもの2つに○）

「景観」に関して重要と思われる施策については、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」が最も多く346票（回答者の33.4%）、次いで「無電柱化による景観の向上」が328票（同31.6%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」が263票（同25.4%）、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」が218票（同21.0%）となっています。

		回答数	割合
1	住宅地における景観形成	164	15.8
2	JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成	218	21.0
3	琵琶湖および湖岸部の景観形成	346	33.4
4	模範的な公共施設などの景観形成	99	9.5
5	河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成	263	25.4
6	幹線道路や市街地などの緑化の推進	155	14.9
7	歴史的まちなみの形成・保全	198	19.1
8	無電柱化による景観の向上	328	31.6
9	景観に配慮した屋外広告物（看板など）の設置	120	11.6
10	地域主体による景観づくりの促進	76	7.3
11	その他	10	1.0
	無回答	25	2.4
	計	2,002	



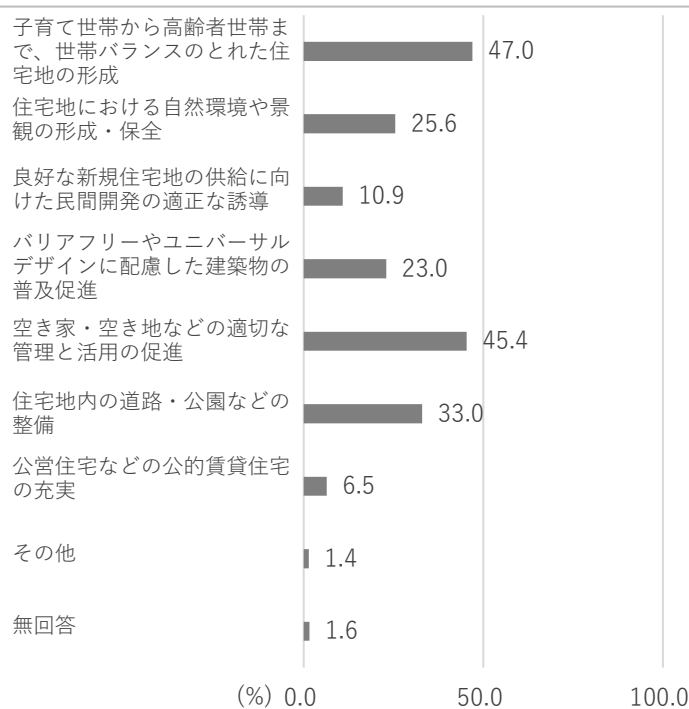
※割合は回答者数1,037人に対する割合。

問6-6 「住宅・住環境」に関して重要と思われる施策をお答えください。

(特に重要だと思うもの2つに○)

「住宅・住環境」に関して重要と思われる施策については、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」が最も多く487票（回答者の47.0%）、次いで「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」が471票（同45.4%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」が342票（同33.0%）、「住宅地における自然環境や景観の形成・保全」が265票（同25.6%）、「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した建築物の普及促進」が239票（同23.0%）となっています。

		回答数	割合
1	子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成	487	47.0
2	住宅地における自然環境や景観の形成・保全	265	25.6
3	良好な新規住宅地の供給に向けた民間開発の適正な誘導	113	10.9
4	バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した建築物の普及促進	239	23.0
5	空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進	471	45.4
6	住宅地内の道路・公園などの整備	342	33.0
7	公営住宅などの公的賃貸住宅の充実	67	6.5
8	その他	15	1.4
	無回答	17	1.6
	計	2,016	



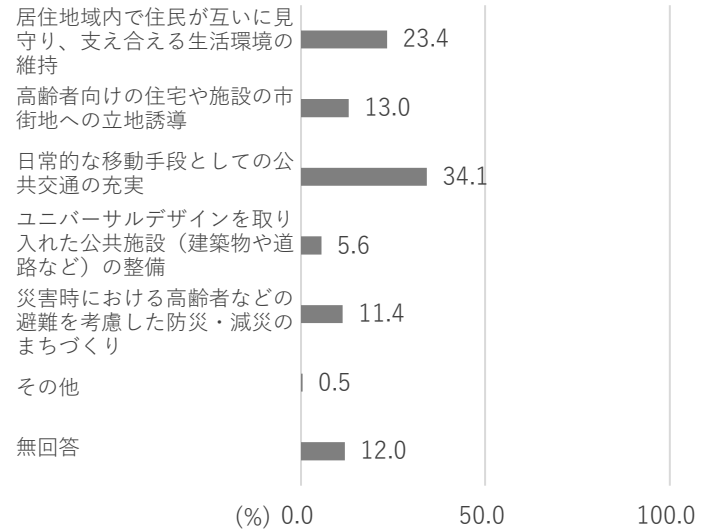
※割合は回答者数1,037人に対する割合。

7. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

問7-1 超高齢社会に対応したまちづくりを推進していくために、重要と思われることをお答えください。
(1つに○)

超高齢社会に対応したまちづくりを推進していくために重要と思われることについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」が最も多く354票（回答者の34.1%）、次いで「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」が243票（同23.4%）となっています。

		回答数	割合
1	居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持	243	23.4
2	高齢者向けの住宅や施設の市街地への立地誘導	135	13.0
3	日常的な移動手段としての公共交通の充実	354	34.1
4	ユニバーサルデザインを取り入れた公共施設（建築物や道路など）の整備	58	5.6
5	災害時における高齢者などの避難を考慮した防災・減災のまちづくり	118	11.4
6	その他	5	0.5
	無回答	124	12.0
	計	1,037	100.0

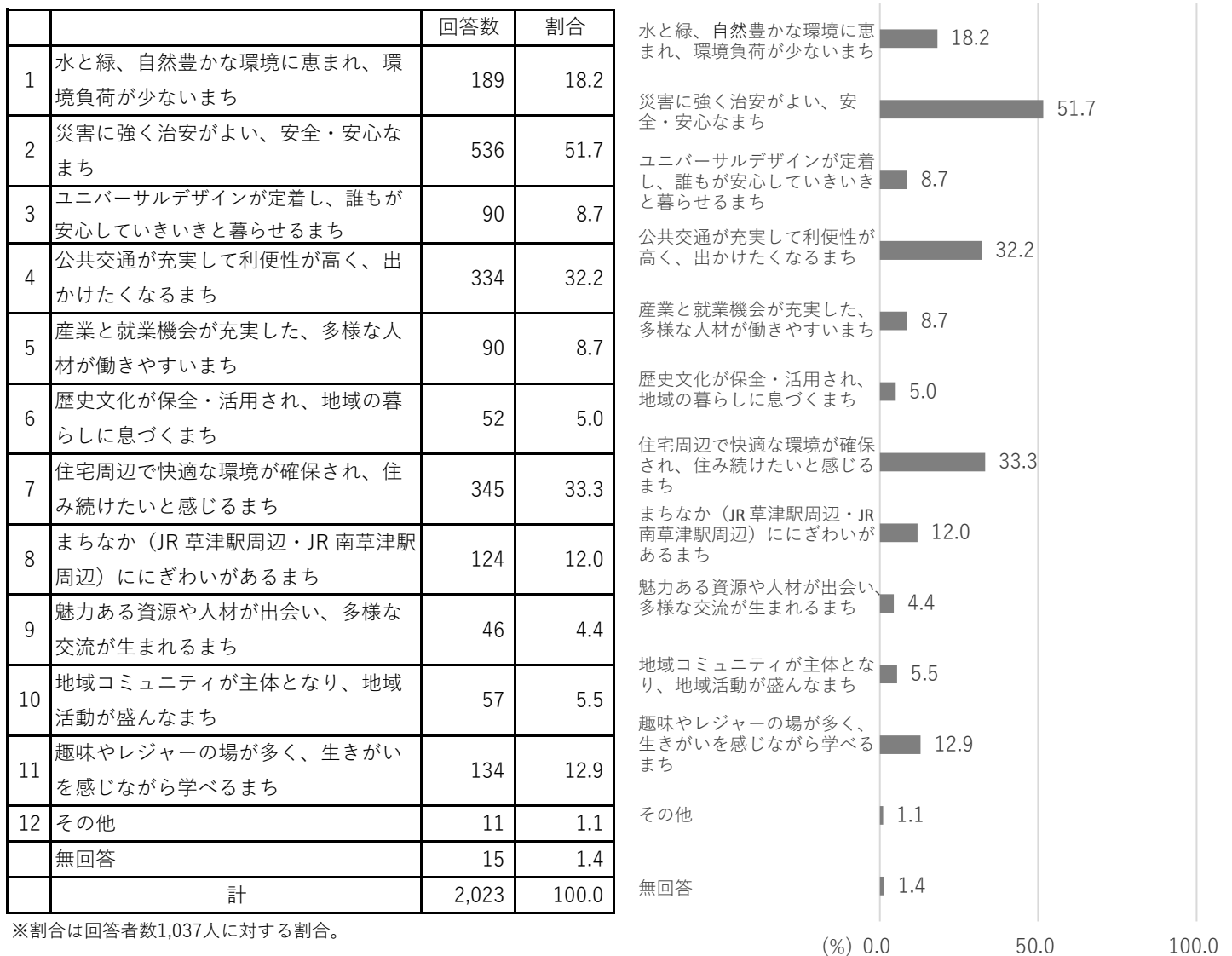


8. まちの将来像について

問8-1 草津市がめざすべきまちの将来像について、お考えに近いものはどれですか。

(考えに近いもの2つに○)

草津市がめざすべきまちの将来像については、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」が最も多く536票（回答者の51.7%）、次いで「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」が345票（同33.3%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」が334票（同32.2%）となっています。



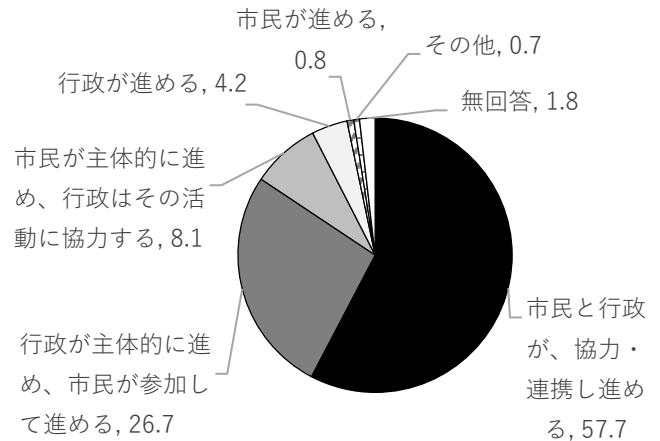
※割合は回答者数1,037人に対する割合。

9. 協働のまちづくりについて

問9-1 まちづくりの進め方について、ご自身のお考えに最も近いものをお答えください。（1つに○）

まちづくりの進め方については、「市民と行政が、協力・連携し進める」が最も多く598票（回答者の57.7%）、次いで「行政が主体的に進め、市民が参加して進める」が277票（同26.7%）となっています。

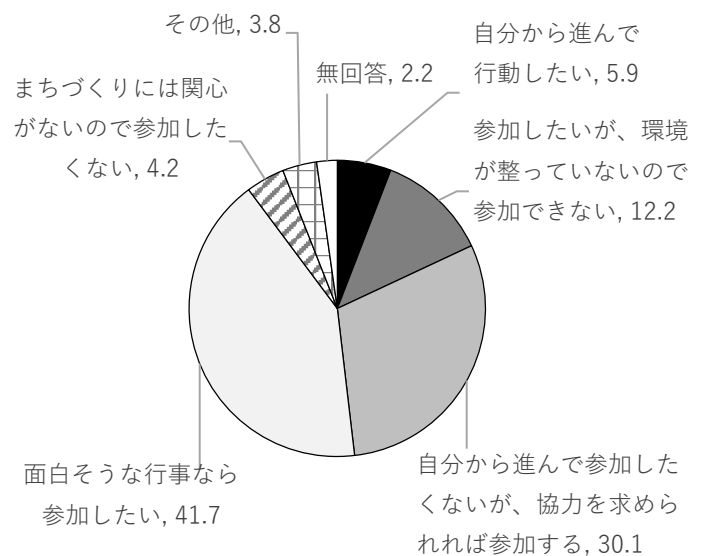
		回答数	割合
1	市民と行政が、協力・連携し進める	598	57.7
2	行政が主体的に進め、市民が参加して進める	277	26.7
3	市民が主体的に進め、行政はその活動に協力する	84	8.1
4	行政が進める	44	4.2
5	市民が進める	8	0.8
6	その他	7	0.7
	無回答	19	1.8
	計	1,037	100.0



問9-2 まちづくりへの参加について、ご自身のお考えに最も近いものをお答えください。（1つに○）

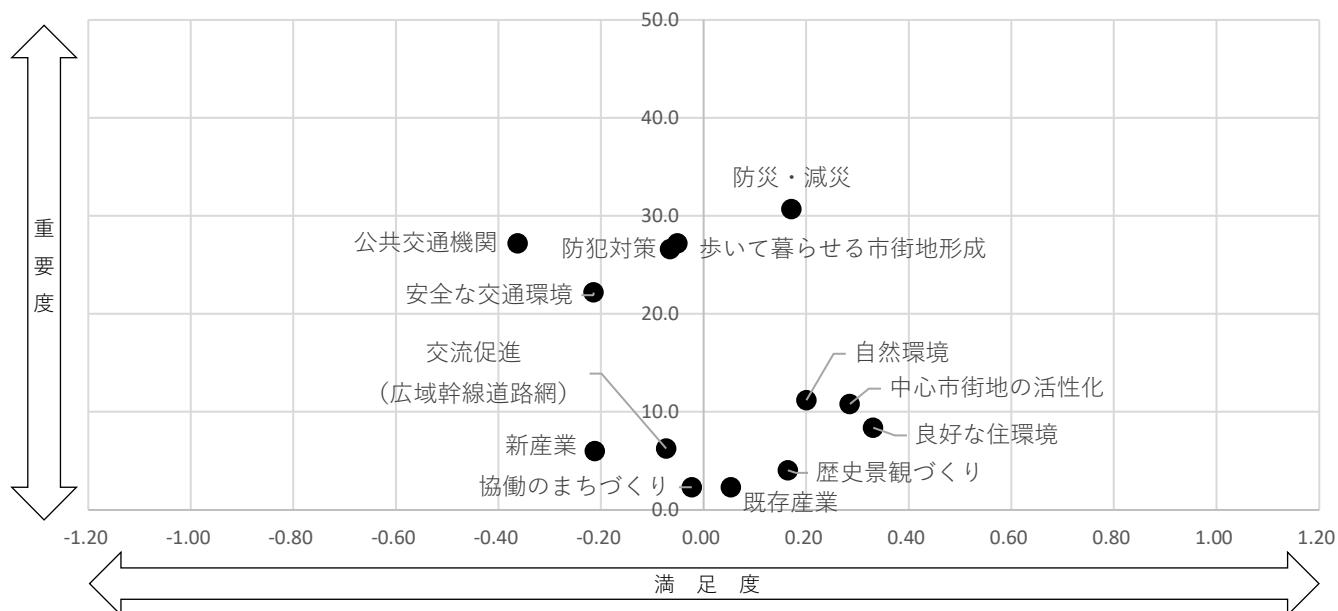
まちづくりの参加については、「面白そうな行事なら参加したい」が最も多く432票（回答者の41.7%）、次いで「自分から進んで参加したくないが、協力を求められれば参加する」が312票（同30.1%）となっています。

		回答数	割合
1	自分から進んで行動したい	61	5.9
2	参加したいが、環境が整っていないので参加できない	126	12.2
3	自分から進んで参加したくないが、協力を求められれば参加する	312	30.1
4	面白そうな行事なら参加したい	432	41.7
5	まちづくりには関心がないので参加したくない	44	4.2
6	その他	39	3.8
	無回答	23	2.2
	計	1,037	100.0



【満足度・重要度別整理】

各分野の不満度と重要度を比較すると、「公共交通機関」、「防犯対策」、「歩いて暮らせる市街地形成」、「安全な交通環境」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。



※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均
重要度は回答者数1,037人において、その分野を回答した割合（一人2つまで回答）

【年代別集計結果の概要】

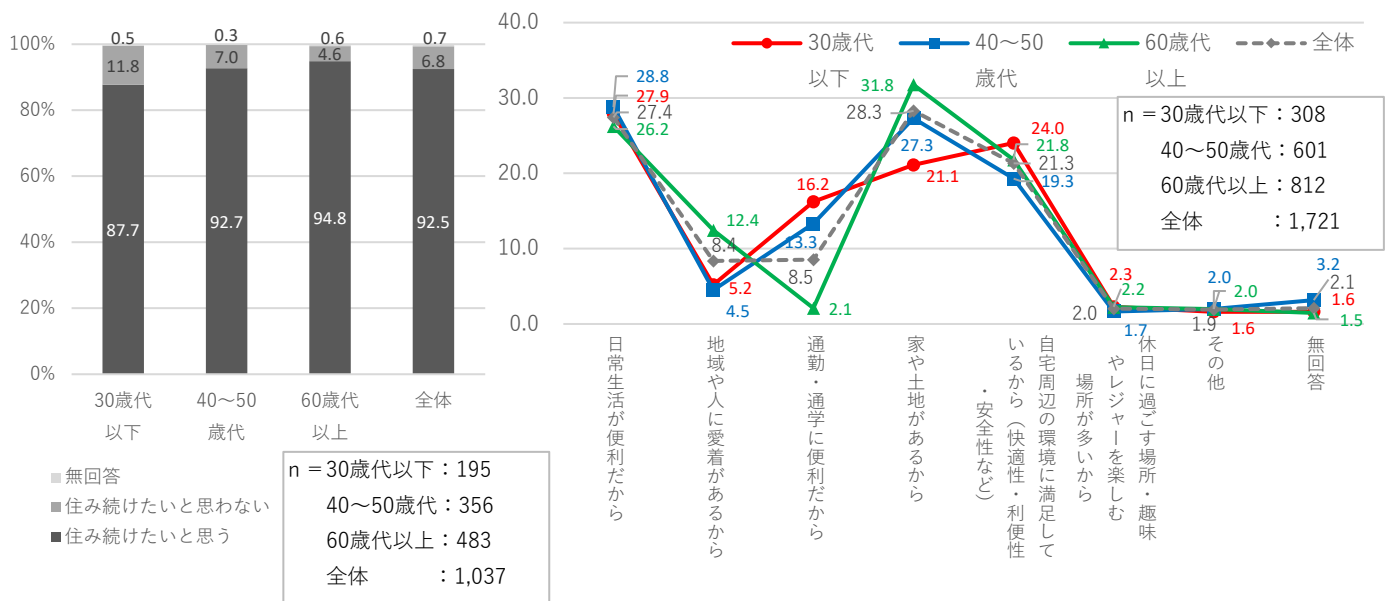
30歳代以下	配布数：501	回答数：195	回収率：38.9
40～50歳代	配布数：1,084	回答数：356	回収率：32.8
60歳代以上	配布数：1,415	回答数：483	回収率：34.1
全体	配布数：3,000	回答数：1,037	回収率：34.6

※全体には年齢無回答者含む

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

居住継続意向については、各年代とも90%前後の割合が「住み続けたいと思う」と回答していますが、年齢が上がるにつれてその割合が上がっています。

住み続けたい理由については、30歳代以下及び40～50歳代が「日常生活が便利だから」の回答が最も多く、60歳代以上は「家や土地があるから」の回答が最も多くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

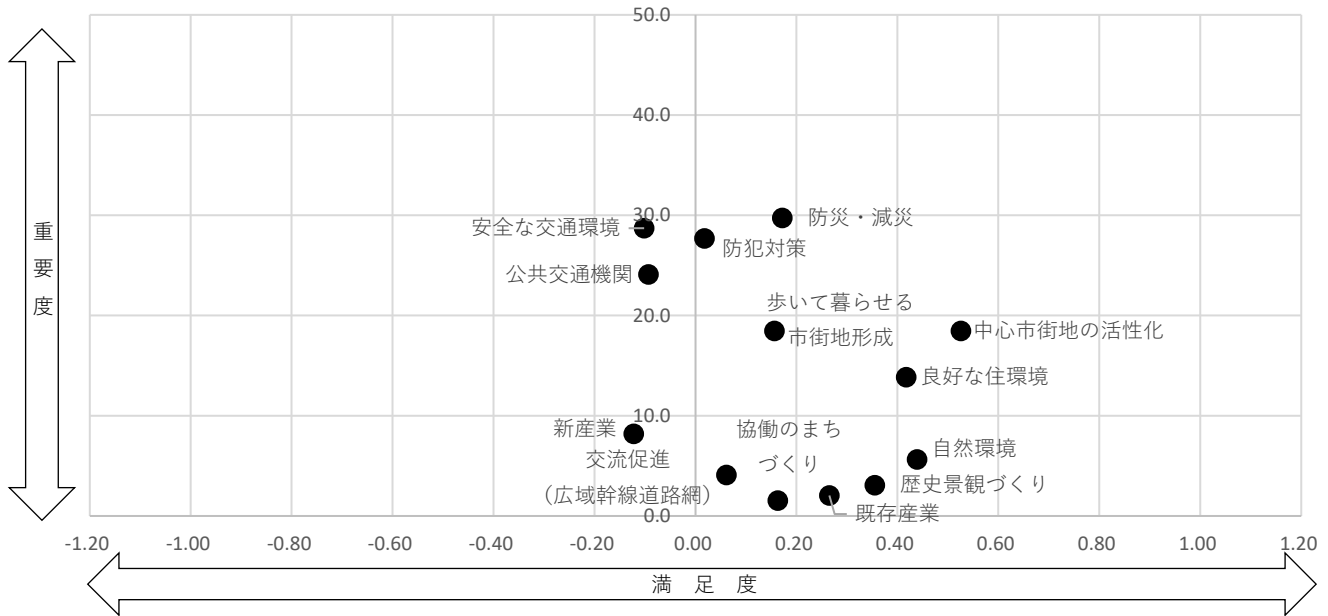
2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

各分野の不満度と重要度を比較すると、30歳代以下については、「安全な交通環境」及び「公共交通機関」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

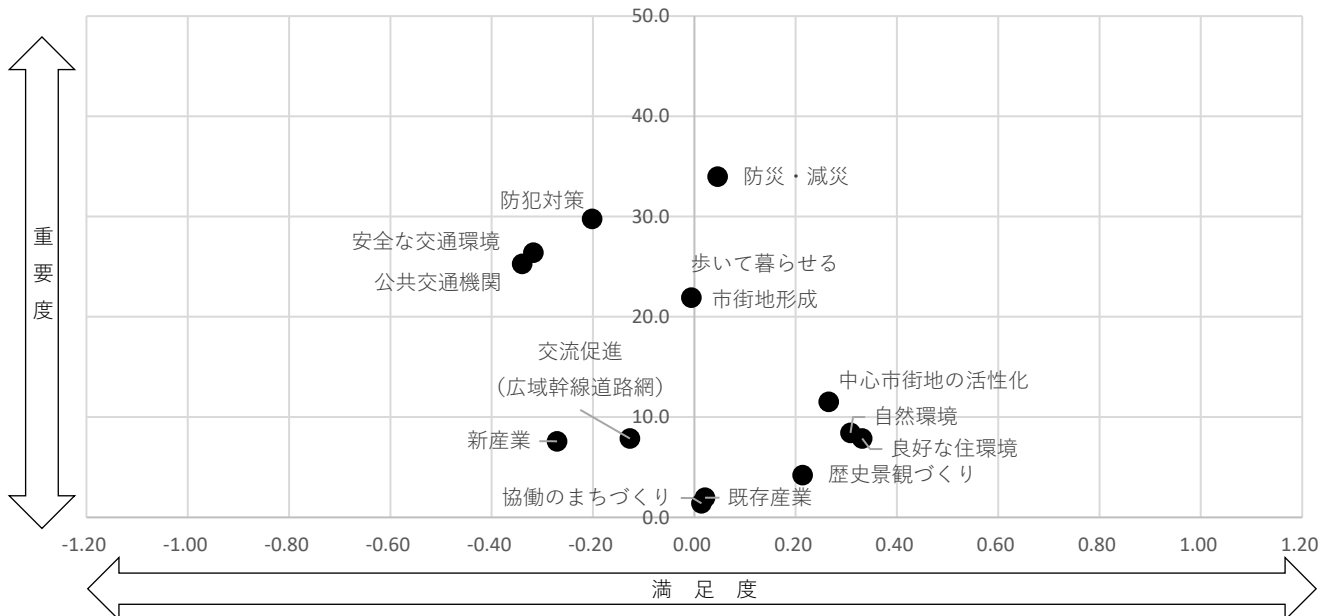
40～50歳代については、「防犯対策」、「安全な交通環境」及び「公共交通機関」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

60歳代以上については、「歩いて暮らせる市街地形成」及び「公共交通機関」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

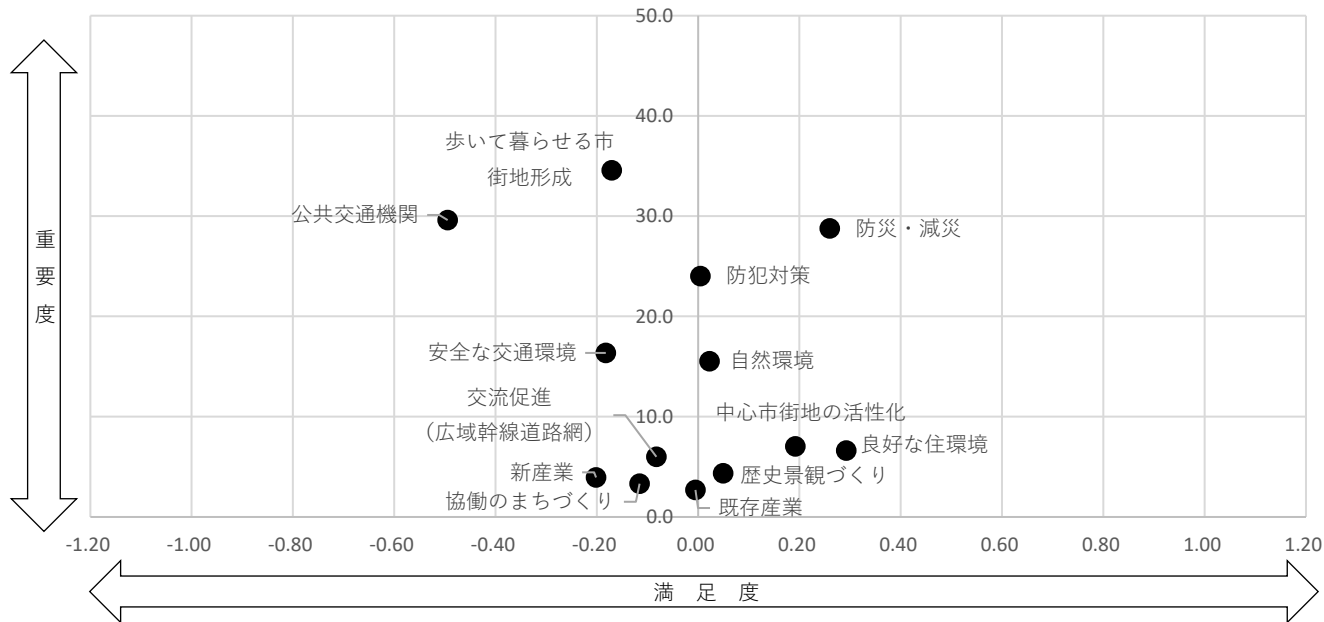
【30歳代以下】



【40～50歳代】



【60歳代以上】

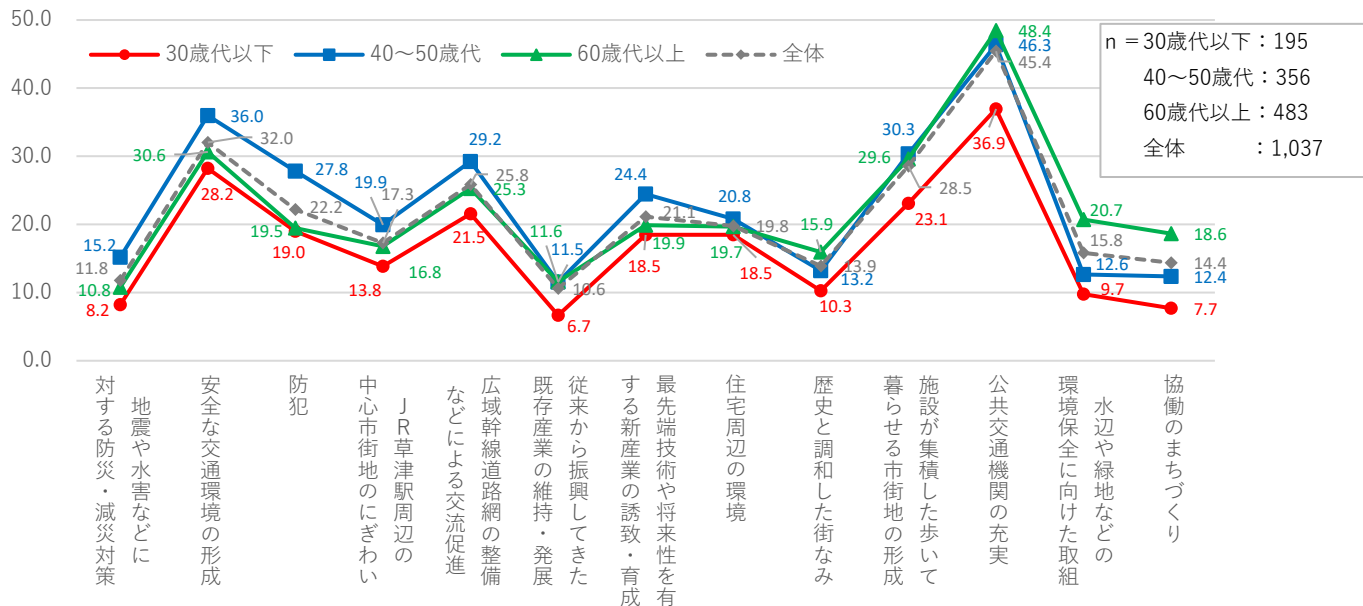


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満足度

分野別の不満足度は、各年代とも「公共交通機関の充実」が最も高く、次いで「安全な交通環境の形成」、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」(27.1%)となっています。

市全体の回答と比較すると、40～50歳代では「防犯」が5.6%高くなっています。



※不満足度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

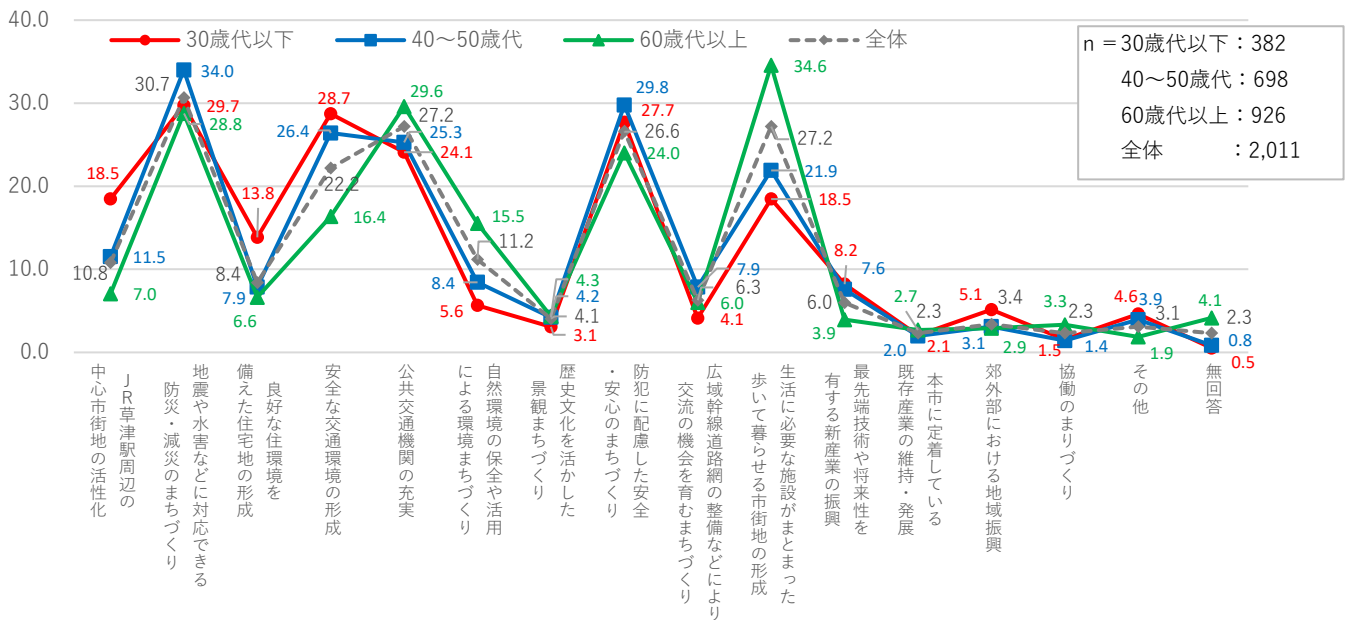
重点的に進めるべきだと思うまちづくりの分野は、30歳代以下では「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(29.8%)、「安全な交通環境の形成」(28.7%)、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(27.7%)の回答が多くなっています。

40～50歳代では「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(34.0%)、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(29.8%)、「安全な交通環境の形成」(26.4%)の回答が多くなっています。

60歳代以上では「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」(34.6%)、「公共交通機関の充実」(29.6%)、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(28.8%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、30歳代以下では「JR草津駅周辺の中心市街地の活性化」が7.7%、「良好な住環境を備えた住宅地の形成」が5.4%、「安全な交通環境の形成」が6.5%高くなっています。

60歳代以上では「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」が7.4%高くなっています。



※ 2つまで回答

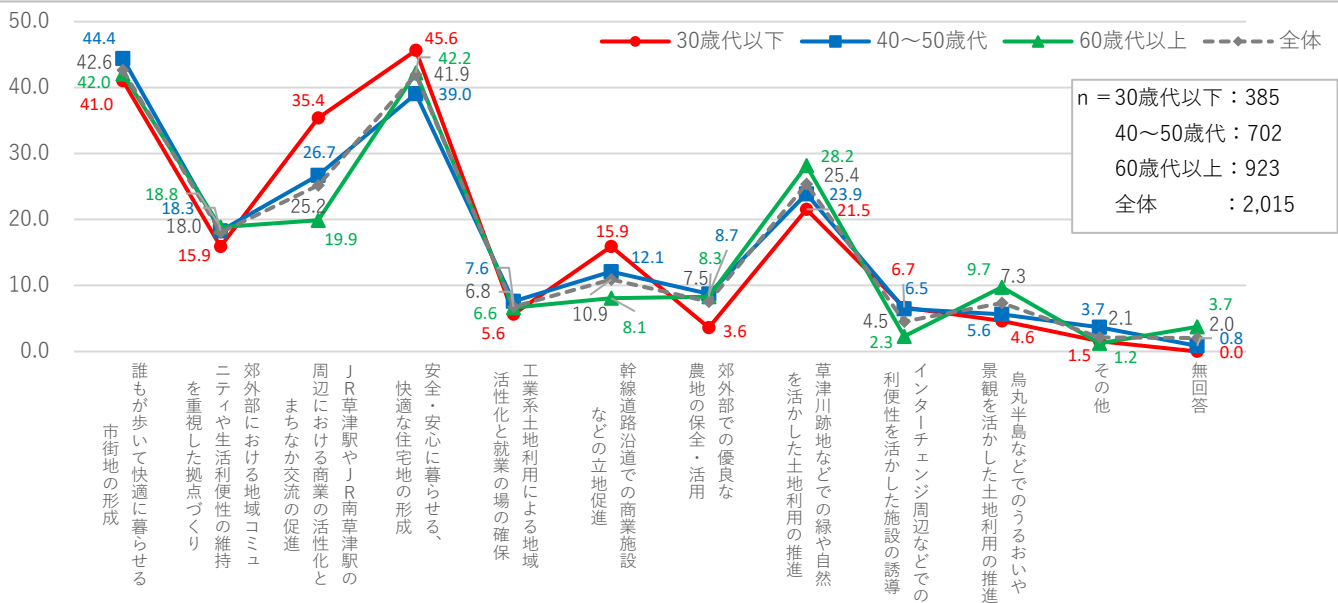
3. 土地利用の方針

土地利用において重要と思われる取り組みは、30歳代以下では「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(45.6%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(41.0%)、「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」(35.4%)の回答が多くなっています。

40~50歳代では「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(44.4%)、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(39.0%)、「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」(26.7%)の回答が多くなっています。

60歳代以下では「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(42.2%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(42.0%)、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」(28.2%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、30歳代以下では「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」が10.2%、「幹線道路沿道での商業施設などの立地促進」が5.0%高くなっています。

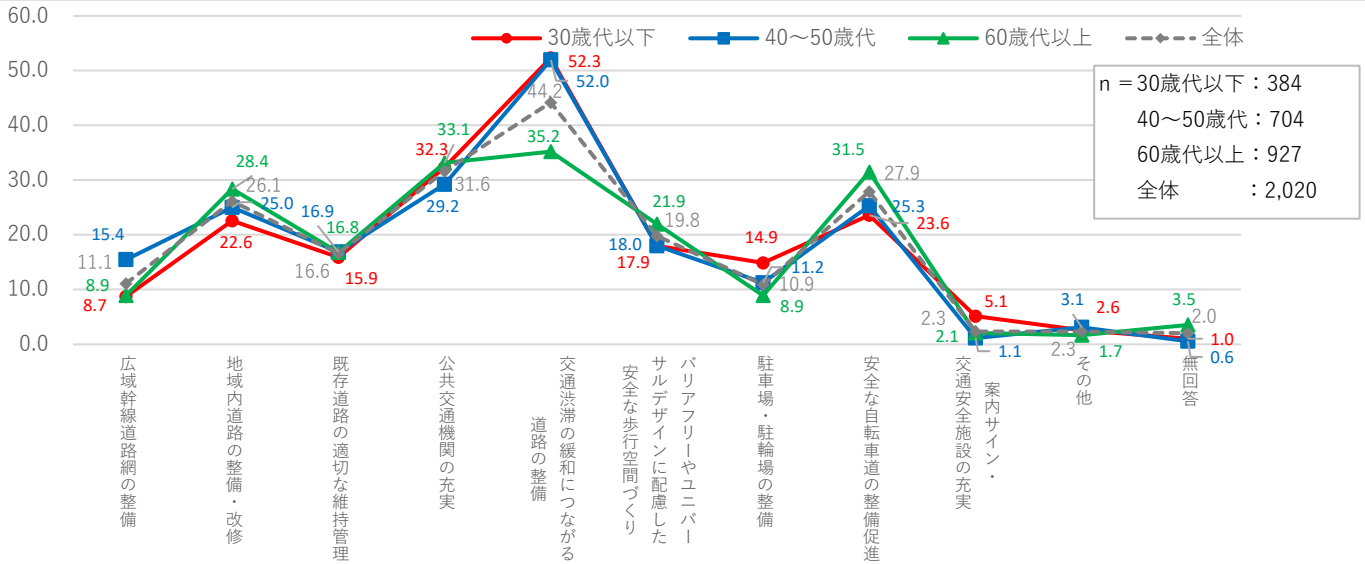


※2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、各年代とも最も多いのは「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」、次いで「公共交通機関の充実」、「安全な自転車道の整備促進」、「地域内道路の整備・改修」となっています。

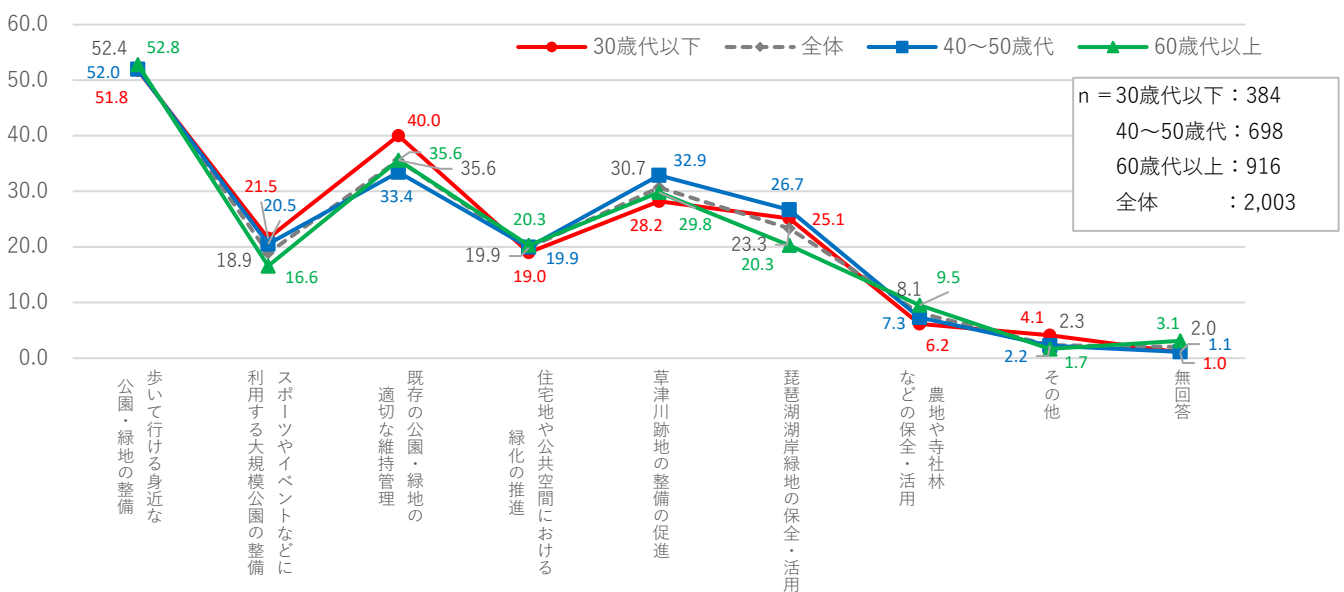
市全体の回答と比較すると、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」が30歳代以下では8.1%、40～50歳代では7.8%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

公園・緑地に関して重要と思われる施策は、各年代とも最も多いのは「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」、次いで「既存の公園・緑地の適切な維持管理」、「草津川跡地の整備の促進」となっています。



※ 2つまで回答

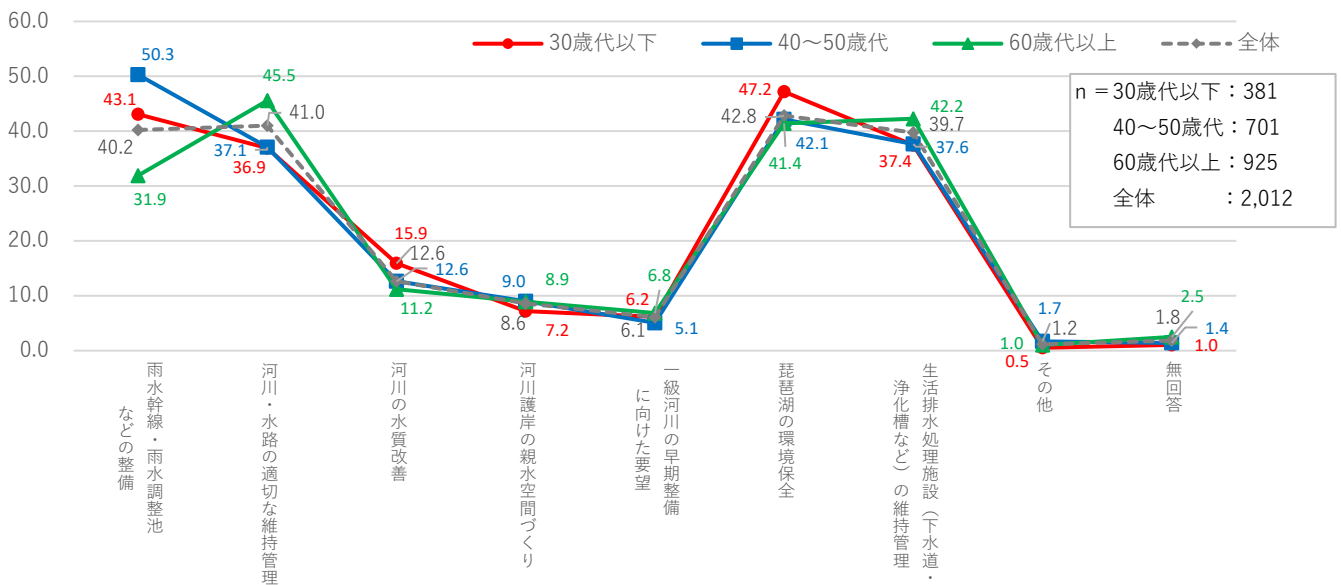
4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

河川・下水道に関して重要と思われる施策は、30歳代以下では「琵琶湖の環境保全」（47.2%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（43.1%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（37.4%）の回答が多くなっています。

40～50歳代では「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（50.3%）、「琵琶湖の環境保全」（42.1%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（37.6%）の回答が多くなっています。

60歳代以上では「河川・水路の適切な維持管理」（45.5%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（42.2%）、「琵琶湖の環境保全」（41.4%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、40～50歳代で「雨水幹線・雨水調整池などの整備」が10.1%高くなっています。



※ 2つまで回答

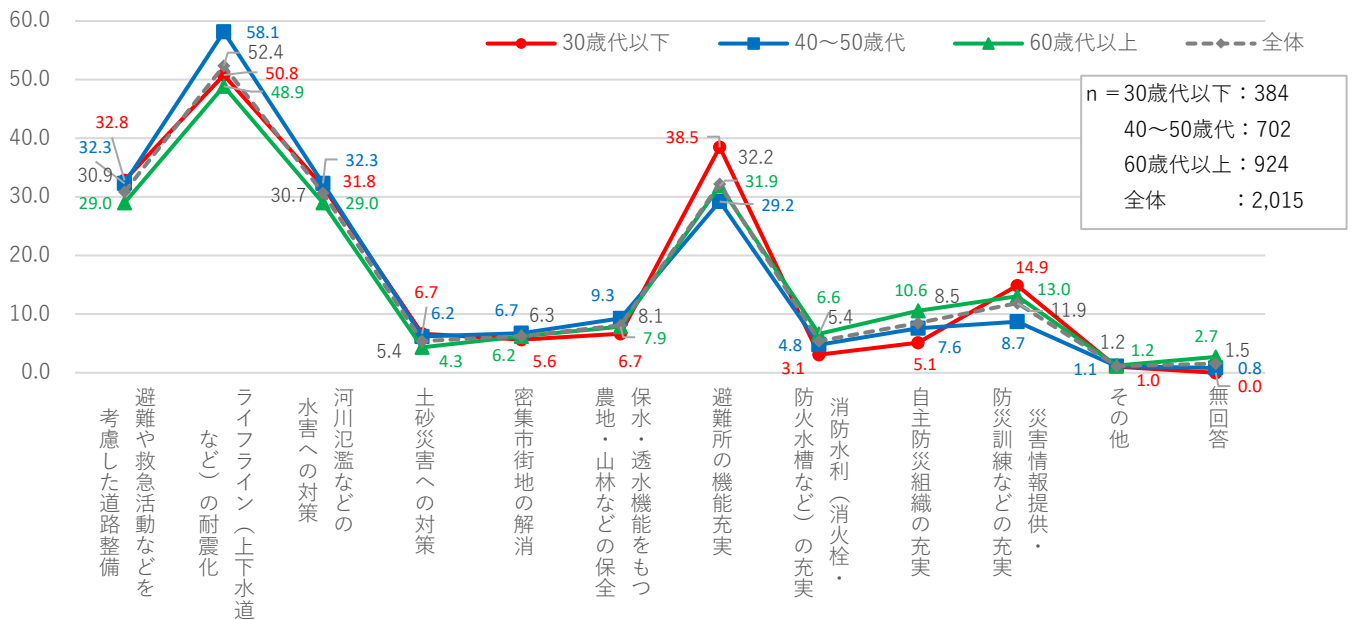
4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

防災に関して重要と思われる施策は、30歳代以下では「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（50.8%）、「避難所の機能充実」（38.5%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（32.8%）、「河川氾濫などの水害への対策」（31.8%）の回答が多くなっています。

40～50歳代では「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（58.1%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」及び「河川氾濫などの水害への対策」（32.3%）、「避難所の機能充実」（29.2%）の回答が多くなっています。

60歳代以上では「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（48.9%）、「避難所の機能充実」（31.9%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」及び「河川氾濫などの水害への対策」（29.0%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、40～50歳代では「ライフライン（上下水道など）の耐震化」が5.7%高くなっています。



※ 2つまで回答

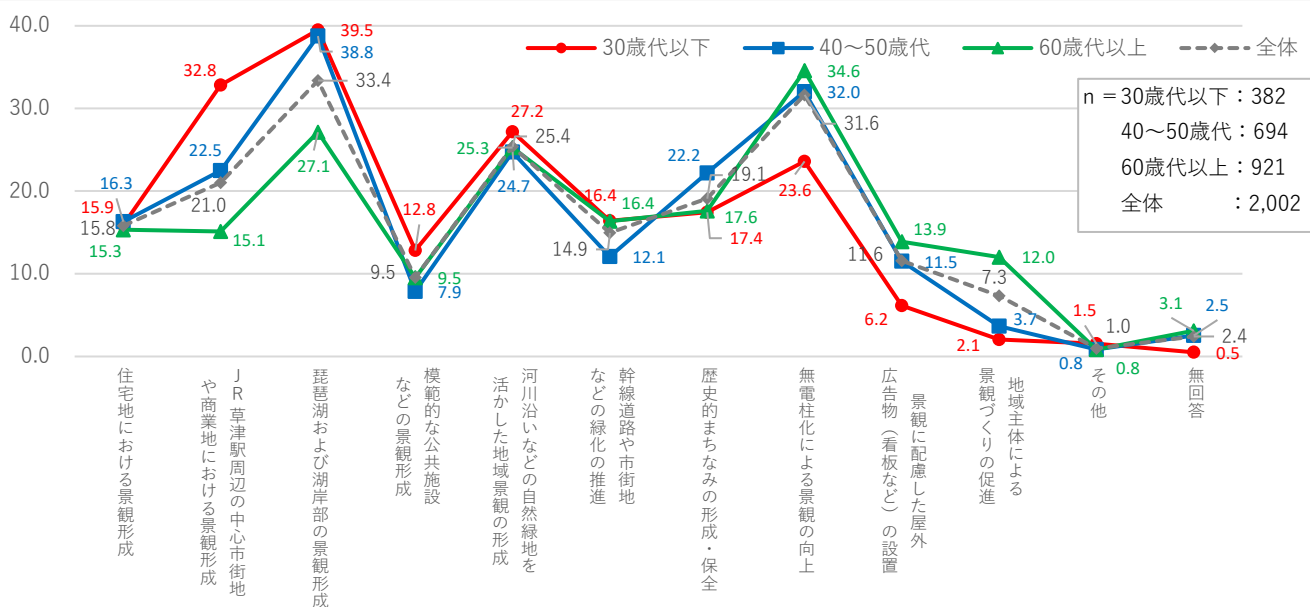
4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

景観に関して重要と思われる施策は、30歳代以下では「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（39.5%）、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」（32.8%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（27.2%）の回答が多くなっています。

40～50歳代では「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（38.8%）、「無電柱化による景観の向上」（32.0%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（24.7%）の回答が多くなっています。

60歳代以上では「無電柱化による景観の向上」（34.6%）、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（27.1%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（25.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、30歳以下では「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」が10.3%、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」が6.1%、40～50歳代では「琵琶湖および湖岸部の景観形成」が5.4%高くなっています。



※ 2つまで回答

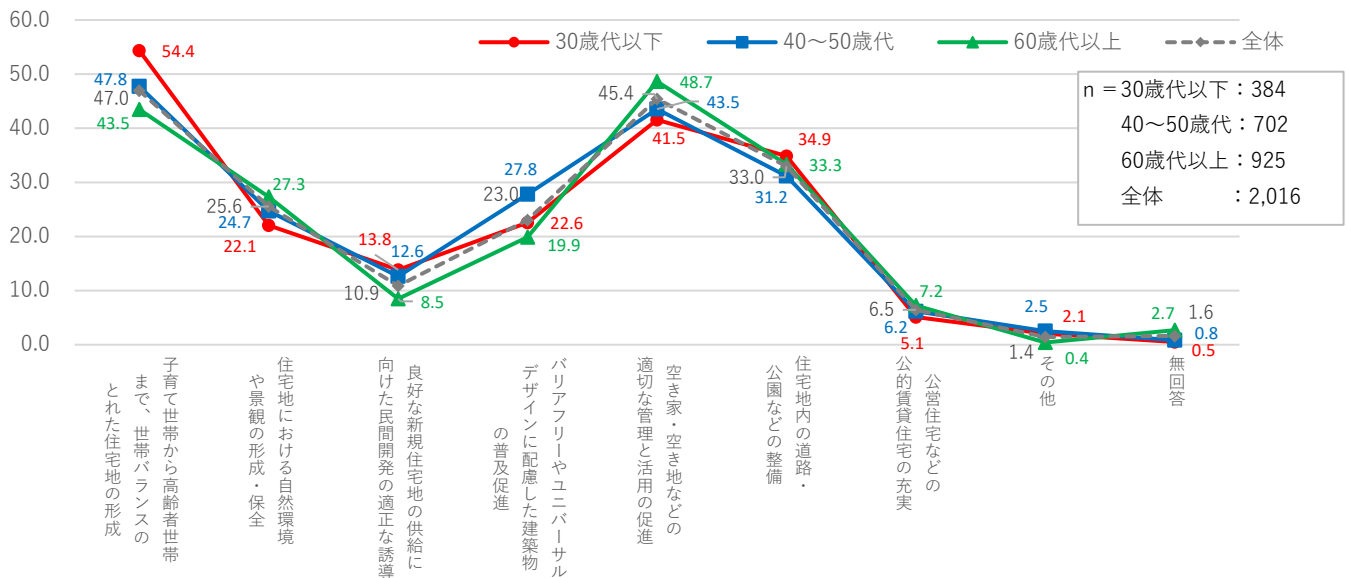
4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、30歳代以下では「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（54.4%）、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（41.5%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（34.9%）の回答が多くなっています。

40～50歳代では「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（47.8%）、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（43.5%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（31.2%）の回答が多くなっています。

60歳代以上では「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（48.7%）、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（43.5%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（33.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、30歳代以下では「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」が7.4%高くなっています。

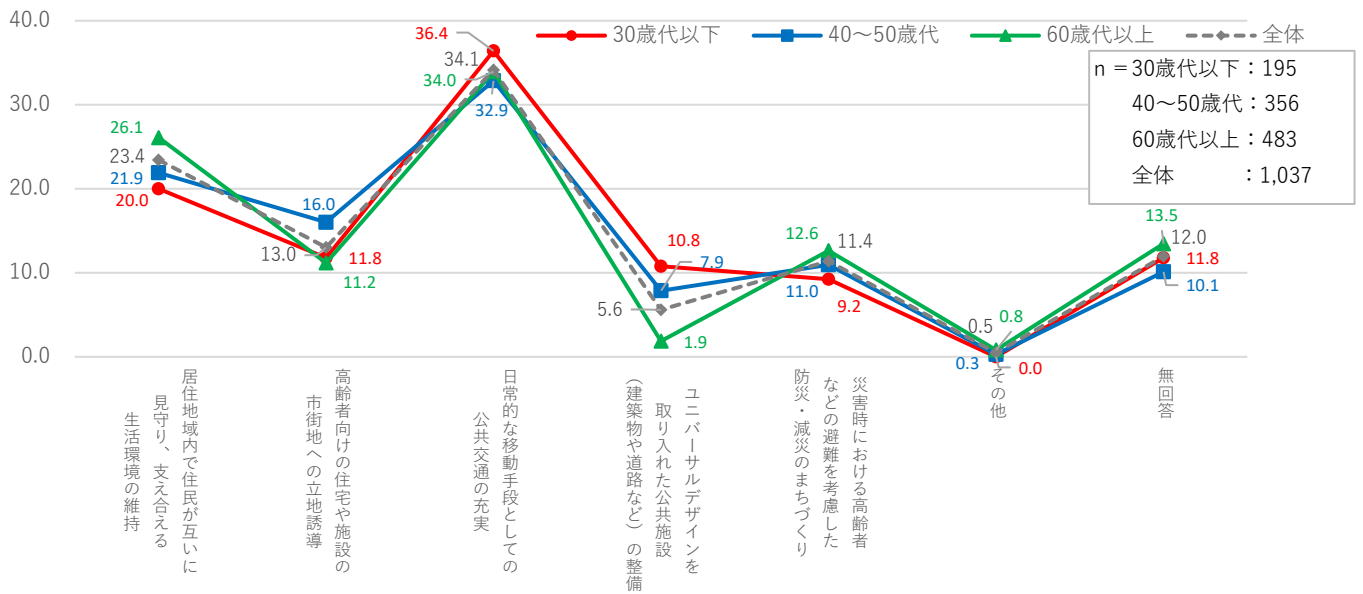


※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

超高齢社会に対応したまちづくりについては、各年代とも「日常的な移動手段としての公共交通の充実」が最も多く、次いで「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」となっています。

市全体の回答と比較すると、30歳代以下では「ユニバーサルデザインを取り入れた公共施設（建築物や道路など）の整備」が5.2%高くなっています。

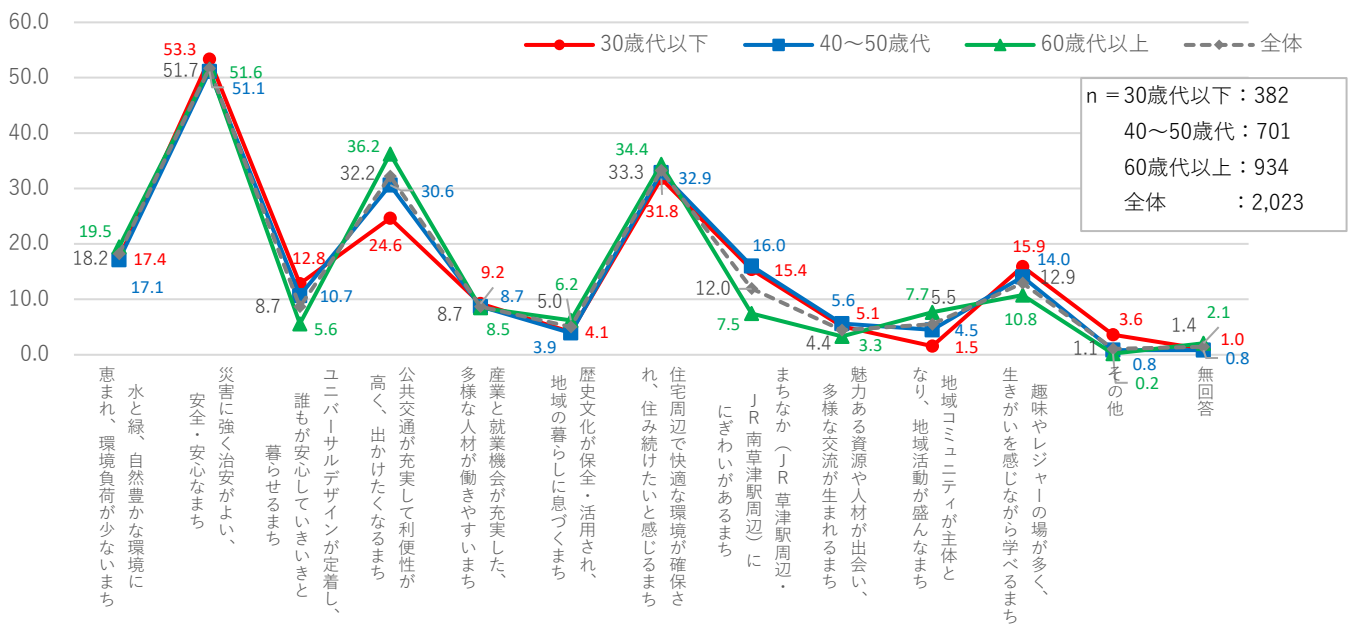


6. 草津市がめざすべきまちの将来像

草津市がめざすまちの将来像は、30歳代以下では「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（53.3%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（31.8%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（24.6%）の回答が多くなっています。

40～50歳代では「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（51.1%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（32.9%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（30.6%）の回答が多くなっています。

60歳代以上では「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（51.6%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（36.2%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（34.4%）の回答が多くなっています。



※2つまで回答

【満足度・重要度別整理】

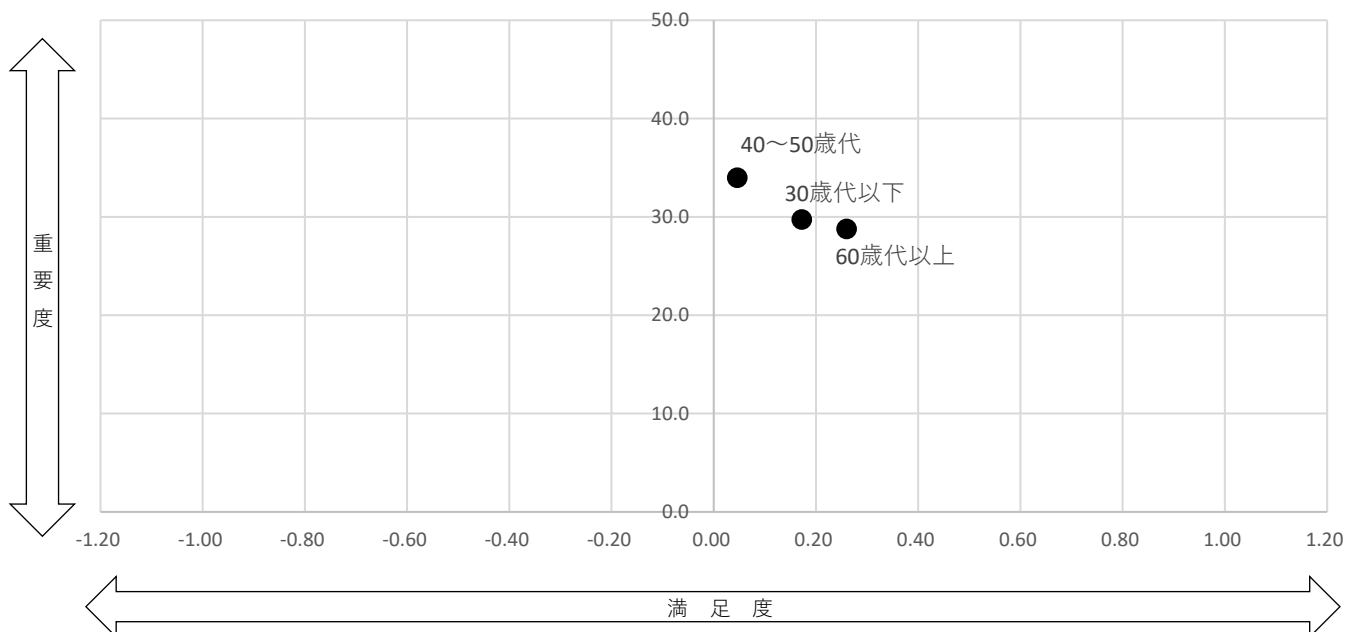
各年代の満足度・重要度の評価は以下の通りです。

- ：満足度低い（0.00未満）、重要度高い（20.0以上）
- △：満足度高い（0.00以上）、重要度高い（20.0以上）
- ：満足度低い（0.00未満）、重要度低い（20.0未満）

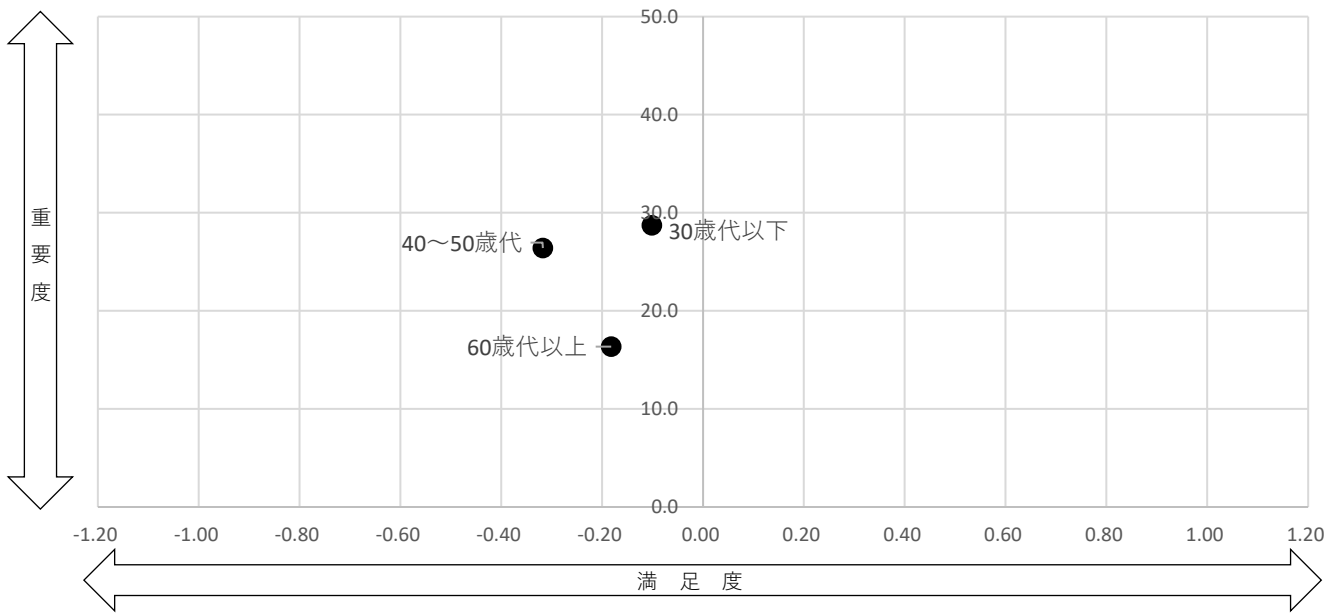
	30歳代以下	40～50歳代	60歳代以上	全体
防災・減災	△	△	△	△
安全な交通環境	●	●	□	●
防犯対策	△	●	△	●
中心市街地の活性化				
交流促進（広域幹線道路網）		□	□	□
既存産業			□	
新産業	□	□	□	□
良好な住環境				
歴史景観づくり				
歩いて暮らせる市街地形成		●	●	●
公共交通機関	●	●	●	●
自然環境				
協働のまちづくり			□	□

※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均
重要度は回答者数1,037人において、その分野を回答した割合（一人2つまで回答）

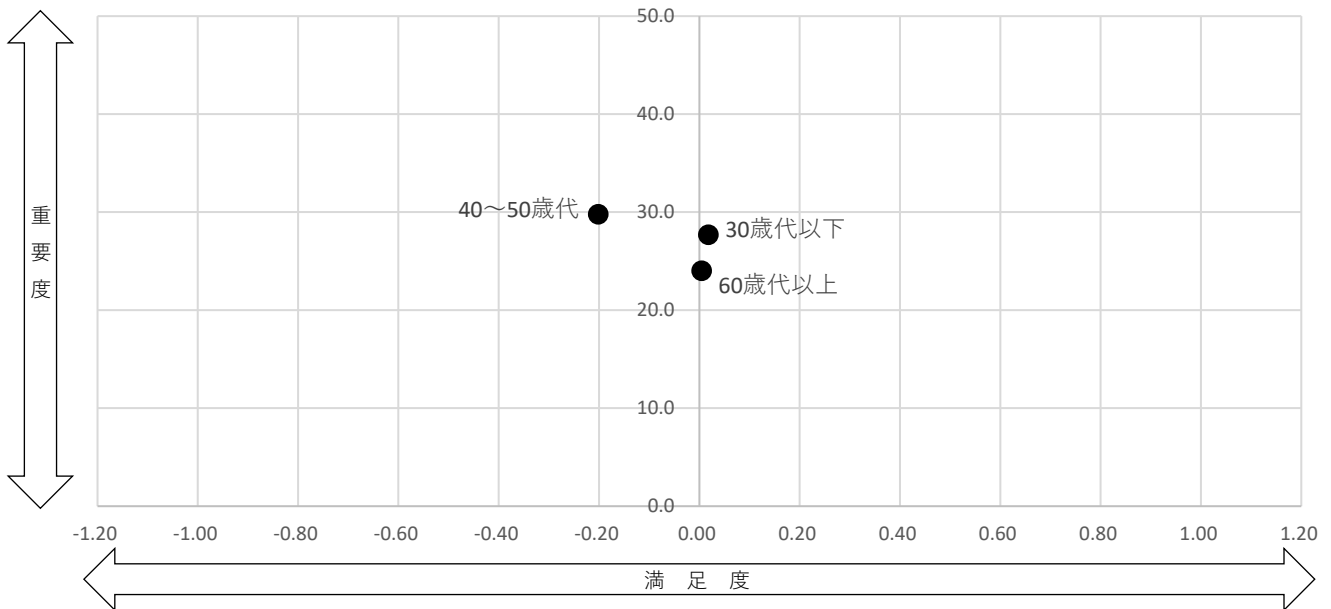
防災・減災



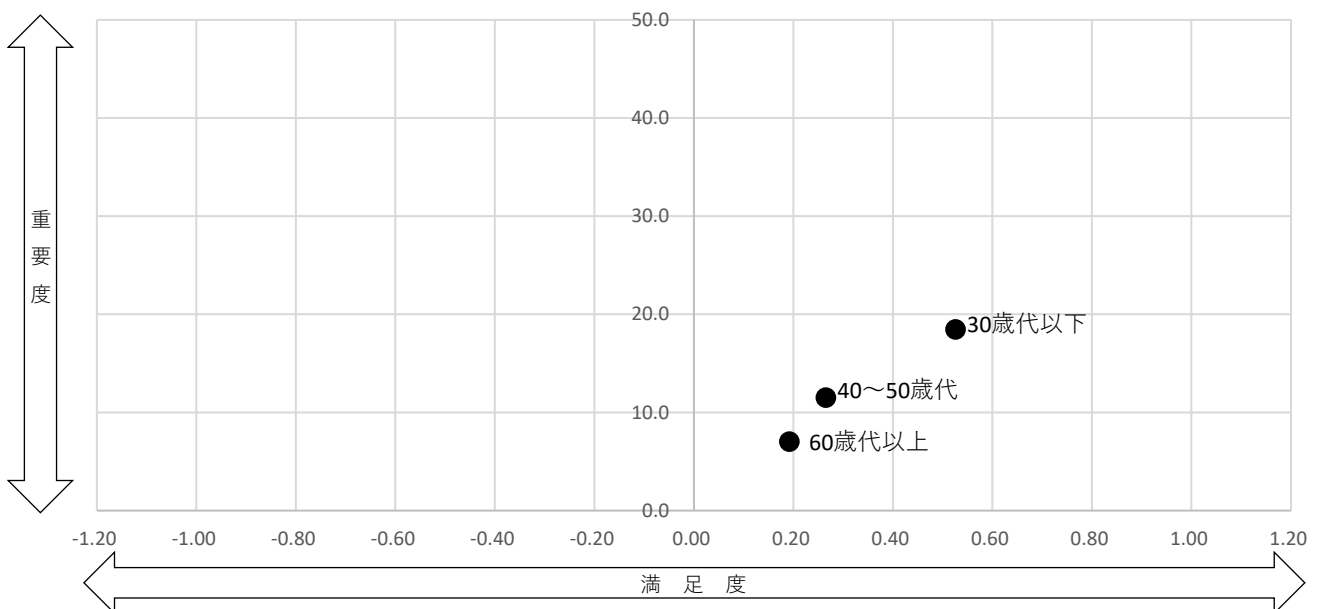
安全な交通環境



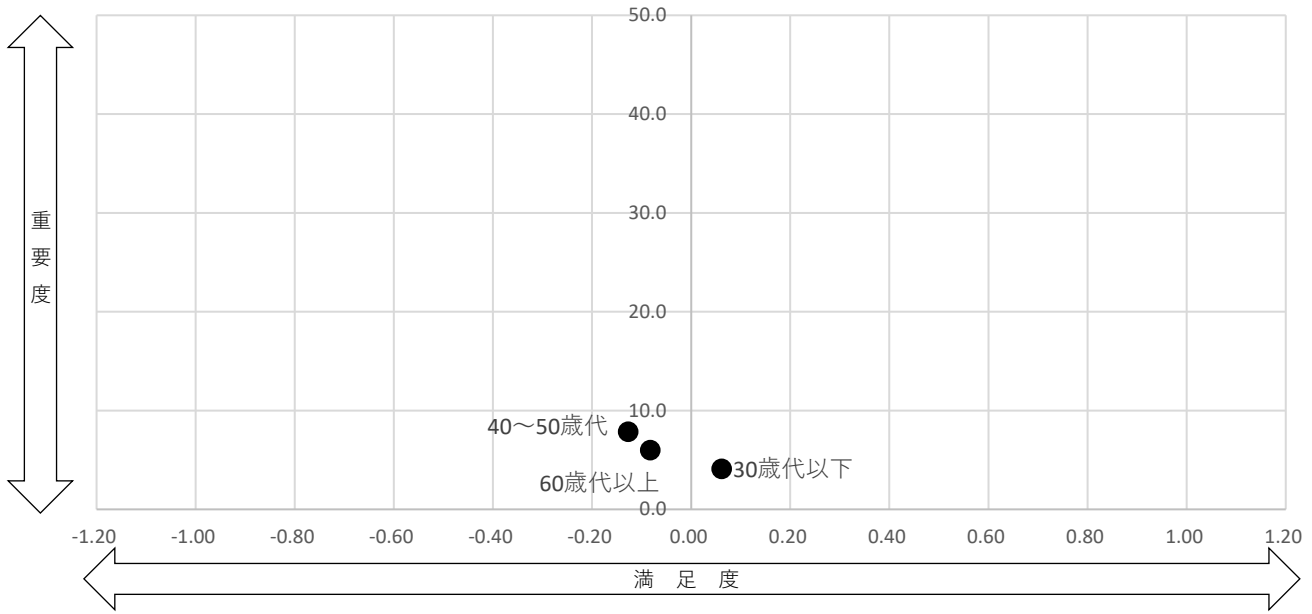
防犯対策



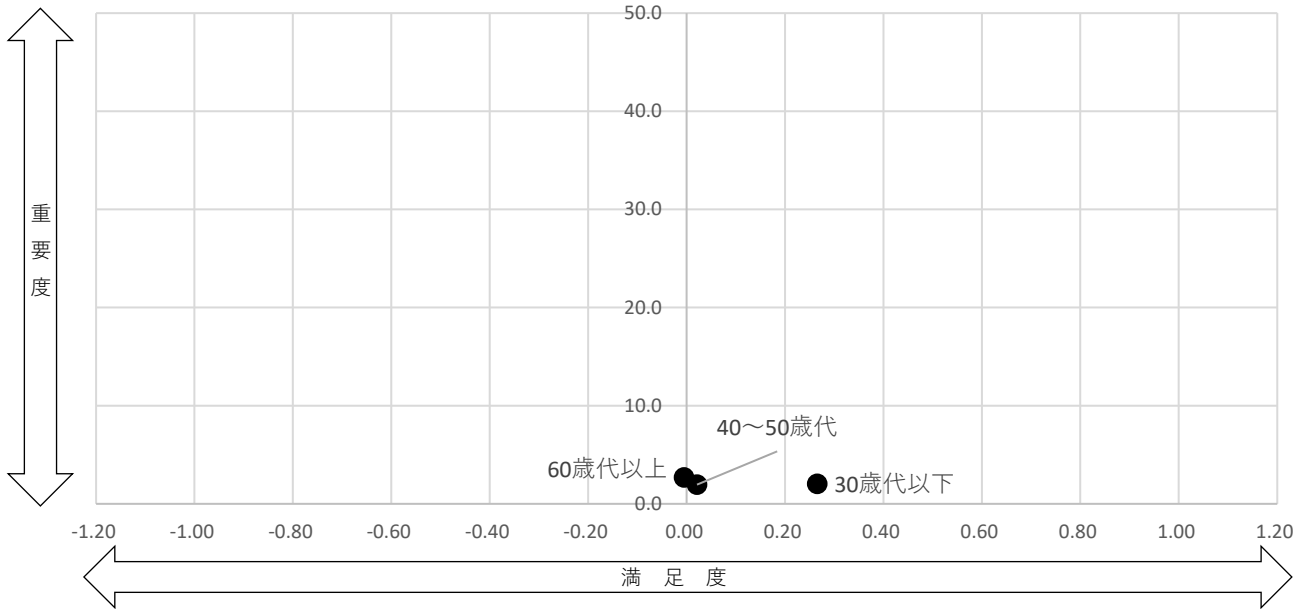
中心市街地の活性化



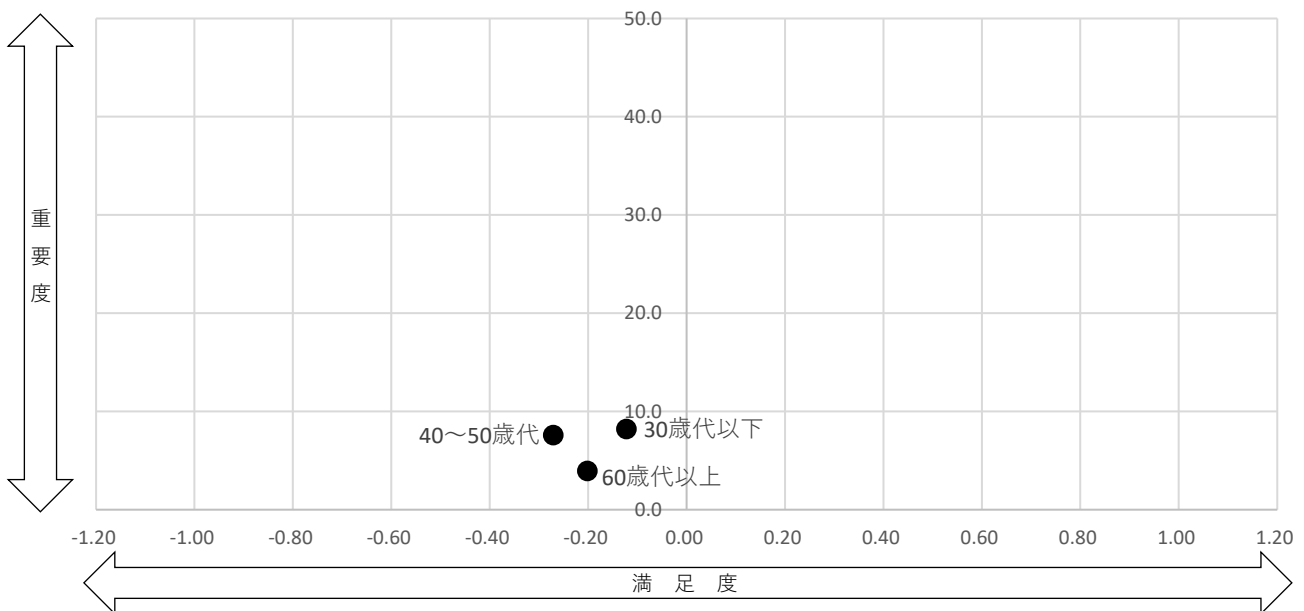
交流促進（広域幹線道路網）



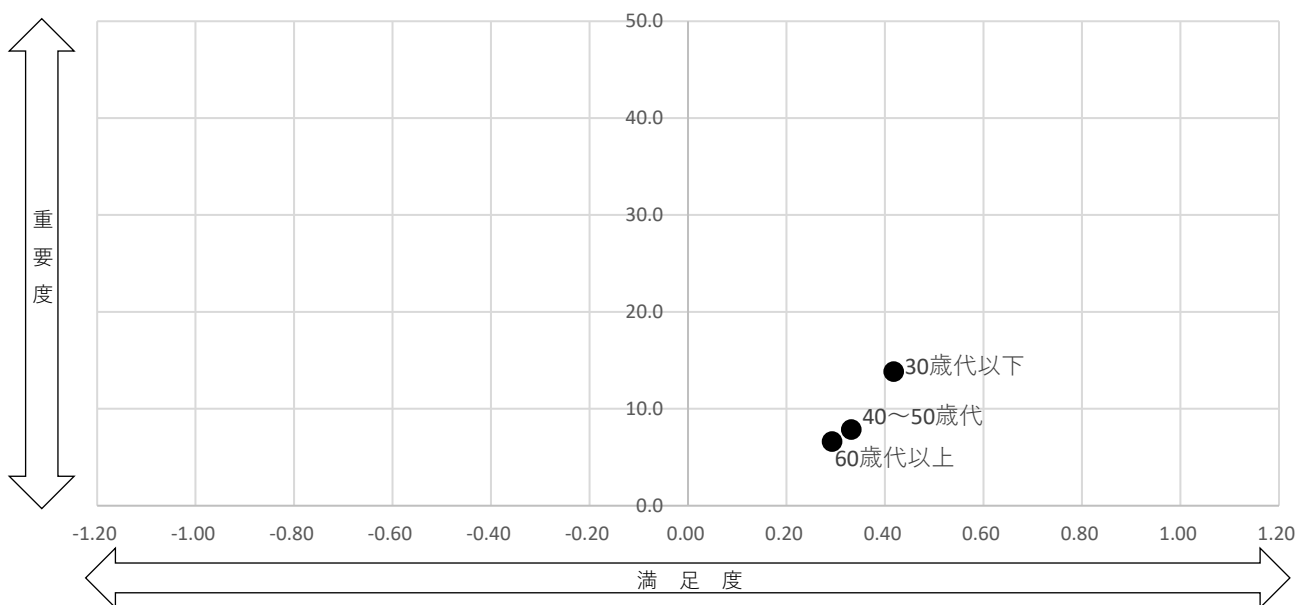
既存産業



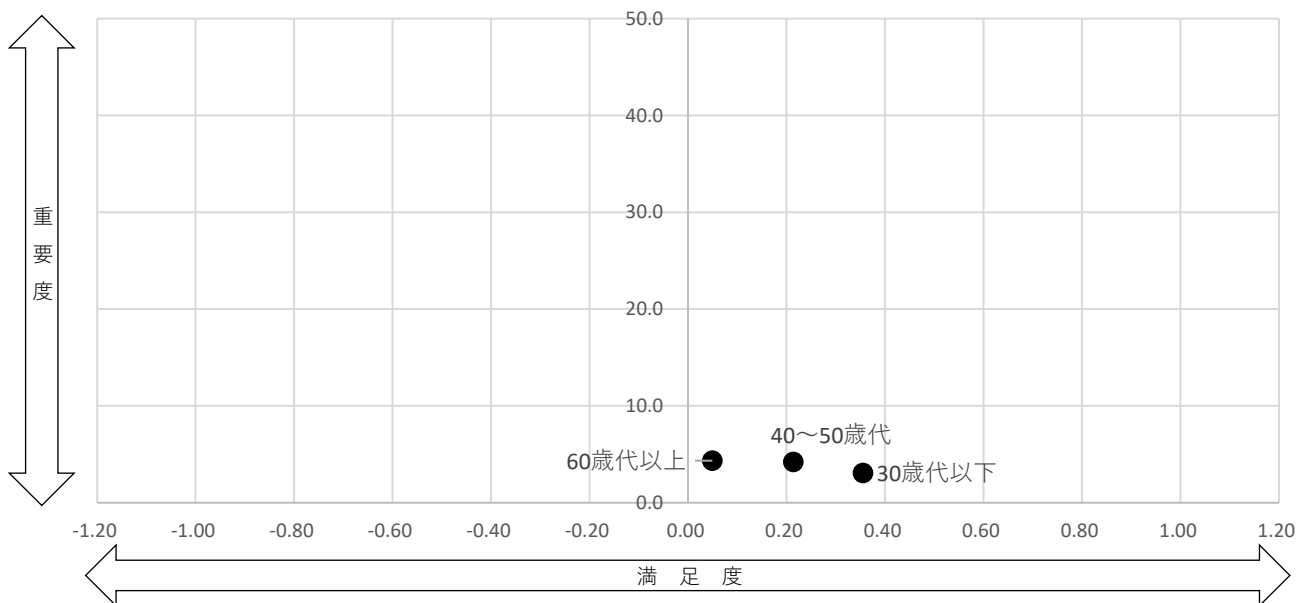
新産業



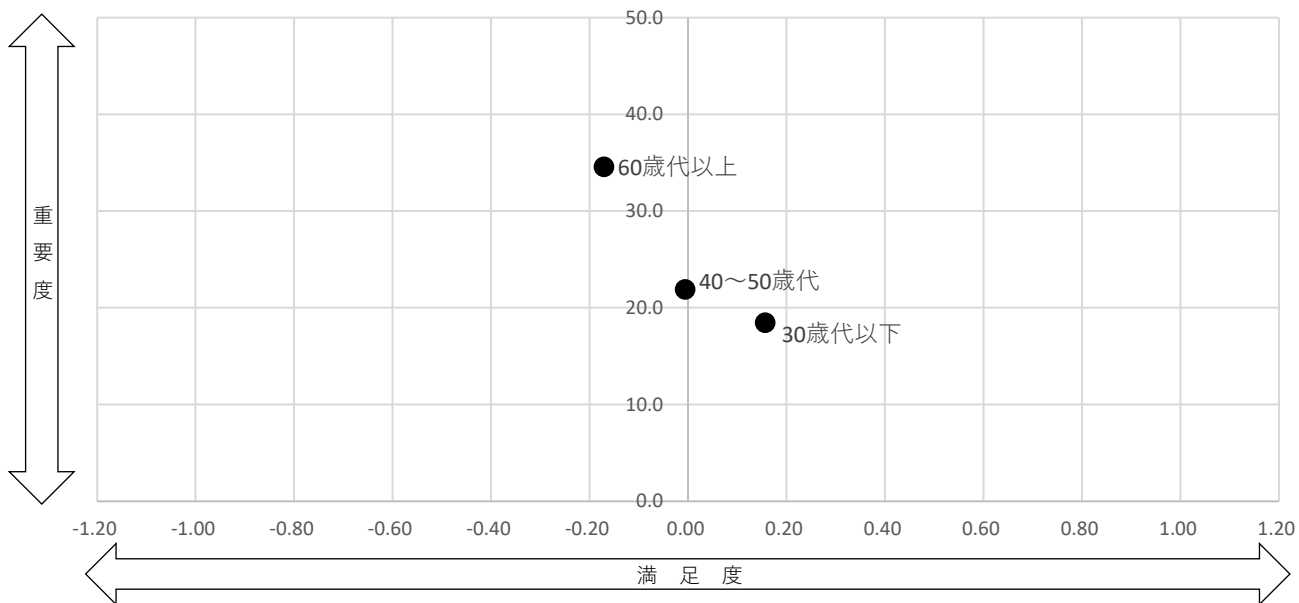
良好な住環境



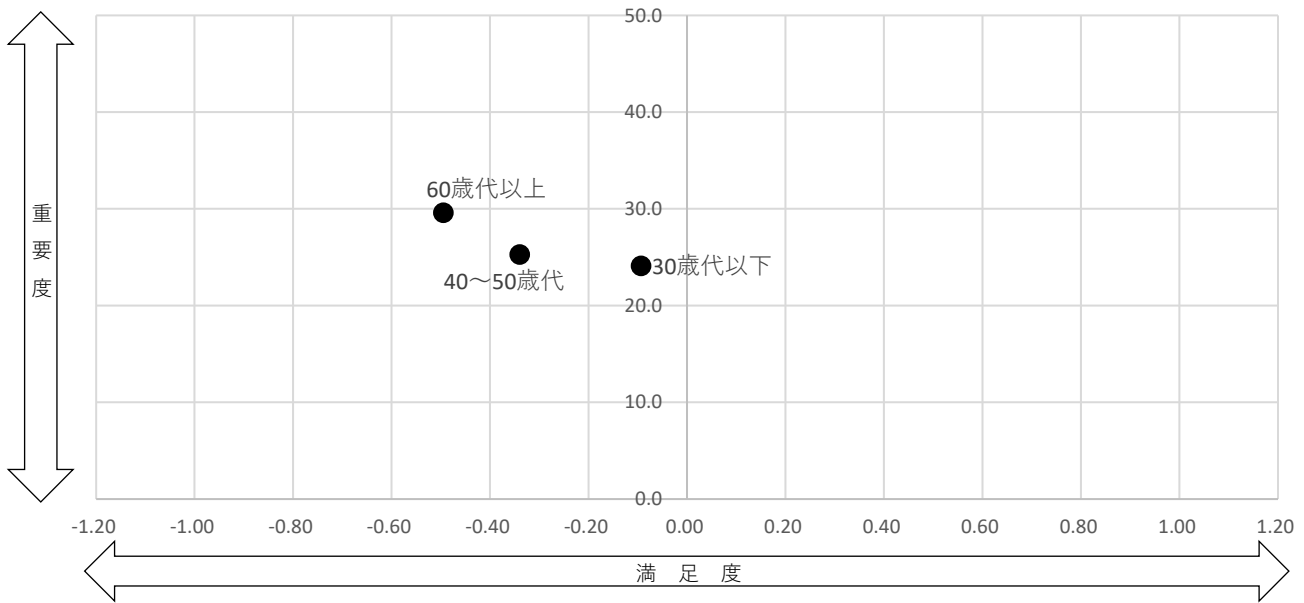
歴史景観づくり



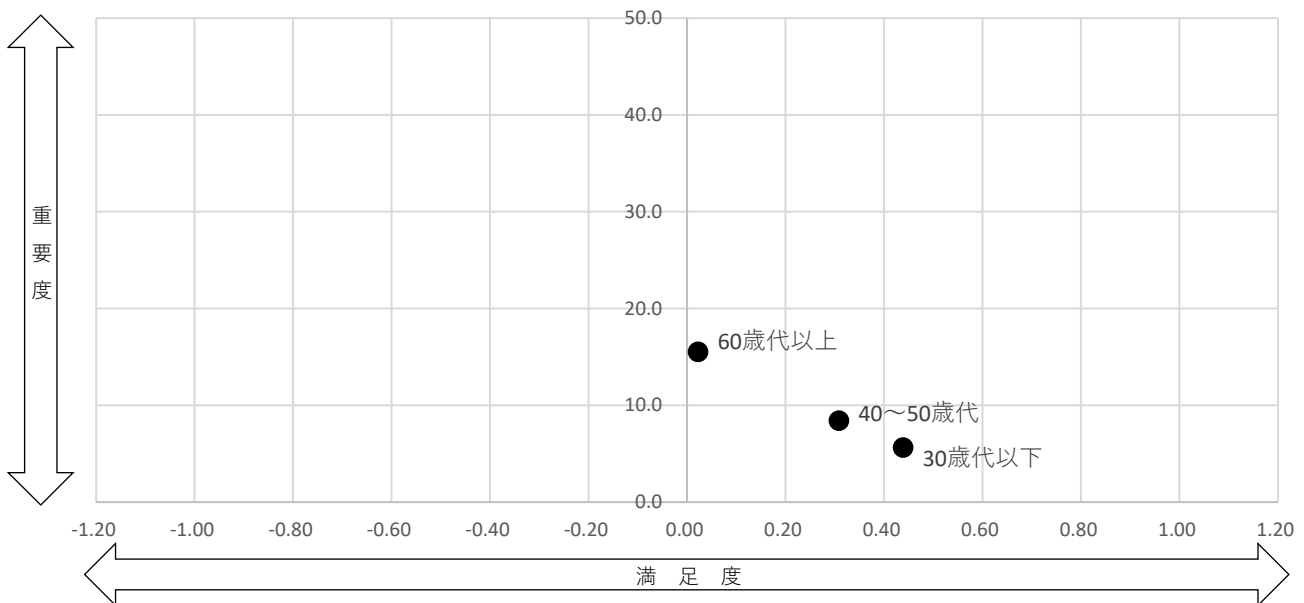
歩いて暮らせる市街地形成



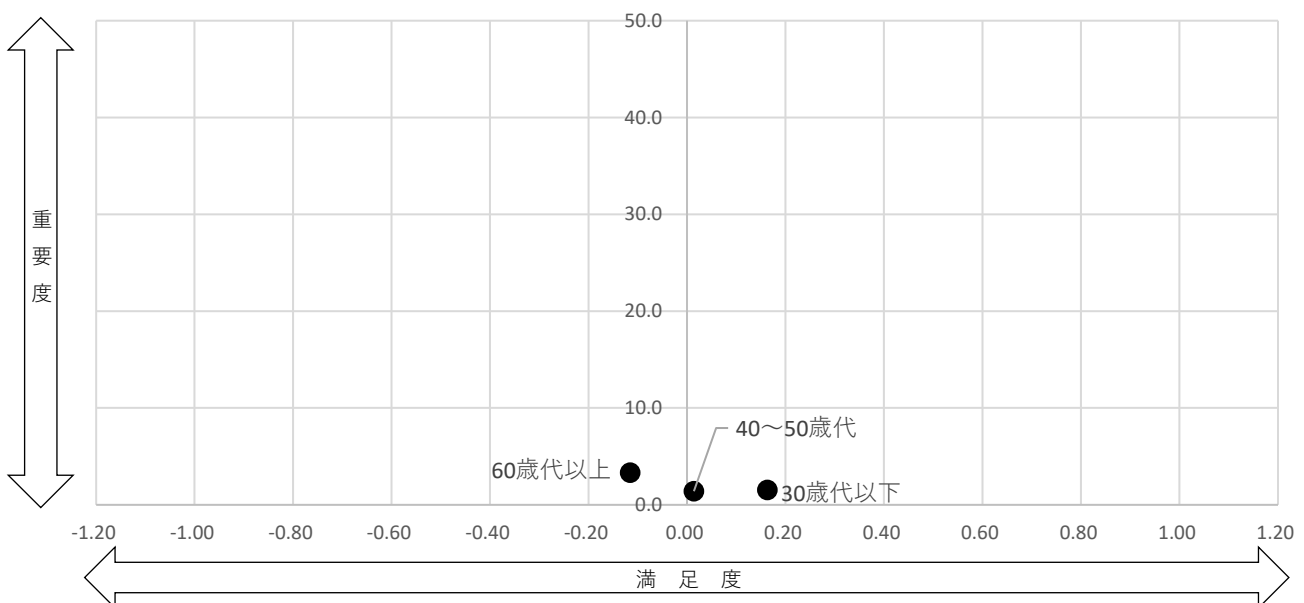
公共交通機関



自然環境



協働のまちづくり



【学区別集計結果の概要 志津学区】

配布数：291

回答数：96

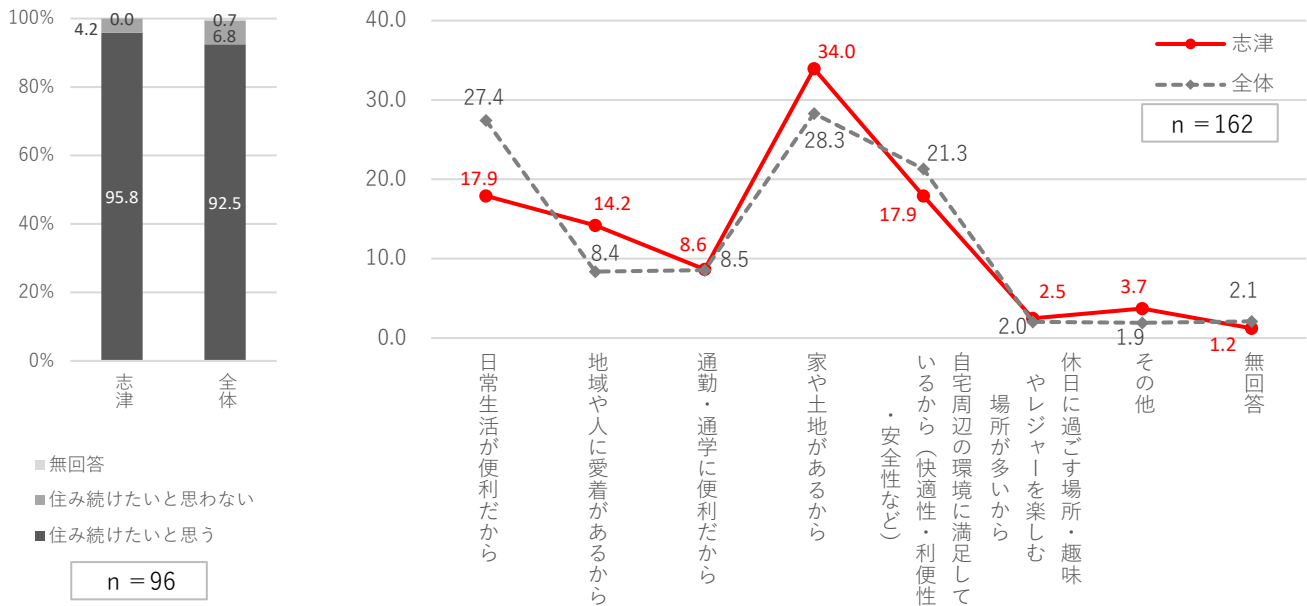
回収率：33.0

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

志津学区の居住継続意向については、92.0%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より0.5%低くなっています。

住み続けたい理由については、「家や土地があるから」（34.0%）の回答が多くなっています。

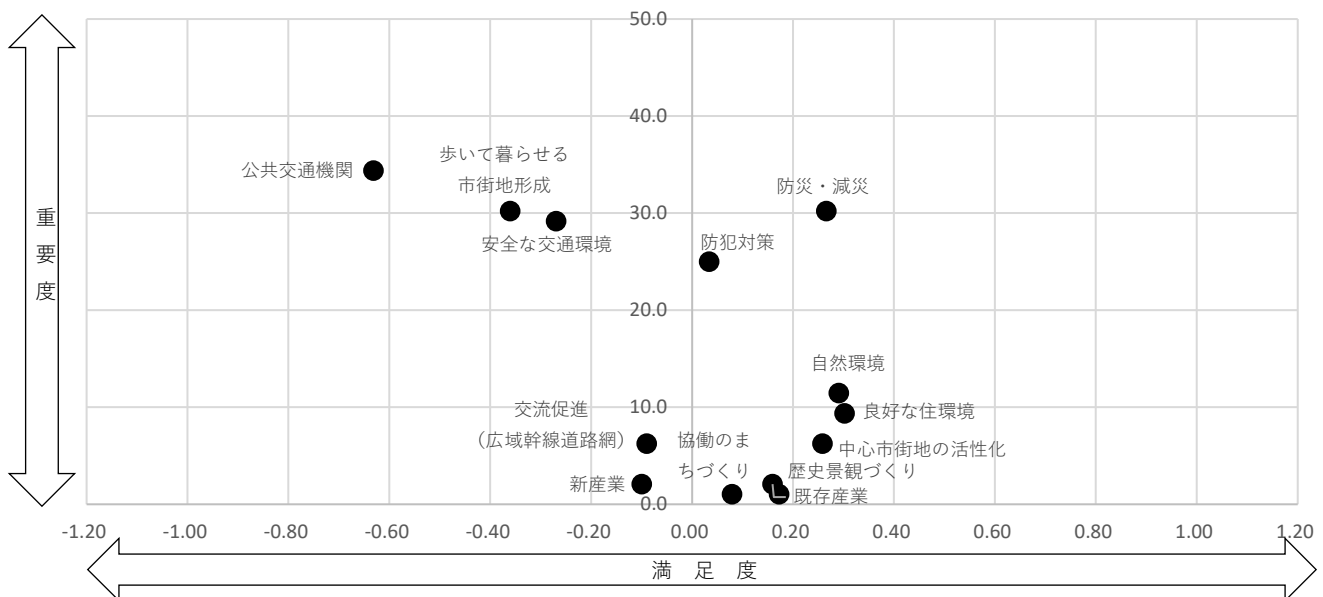
市全体の回答と比較すると、「地域や人に愛着があるから」が5.8%、「家や土地があるから」が5.7%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

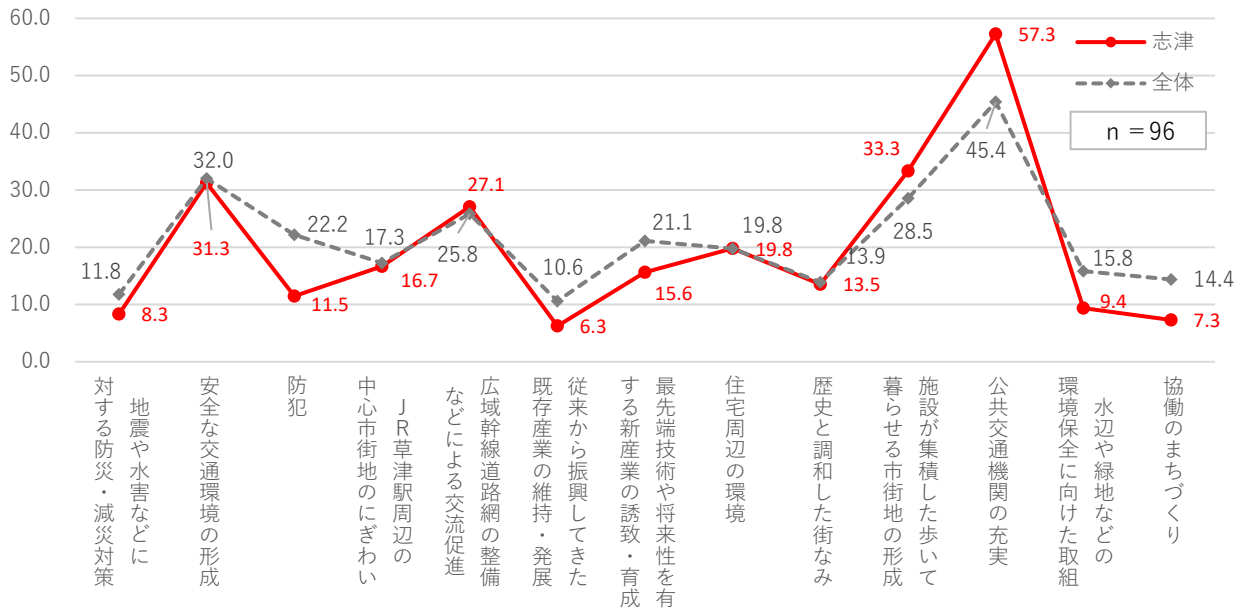
志津学区の各分野の不満度と重要度を比較すると、「公共交通機関」、「歩いて暮らせる市街地形成」、「安全な交通環境」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。



※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

志津学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」(57.3%)、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」(33.3%)、「安全な交通環境の形成」(31.3%)が高くなっています。
市全体の回答と比較すると、「公共交通機関の充実」が11.9%高くなっています。

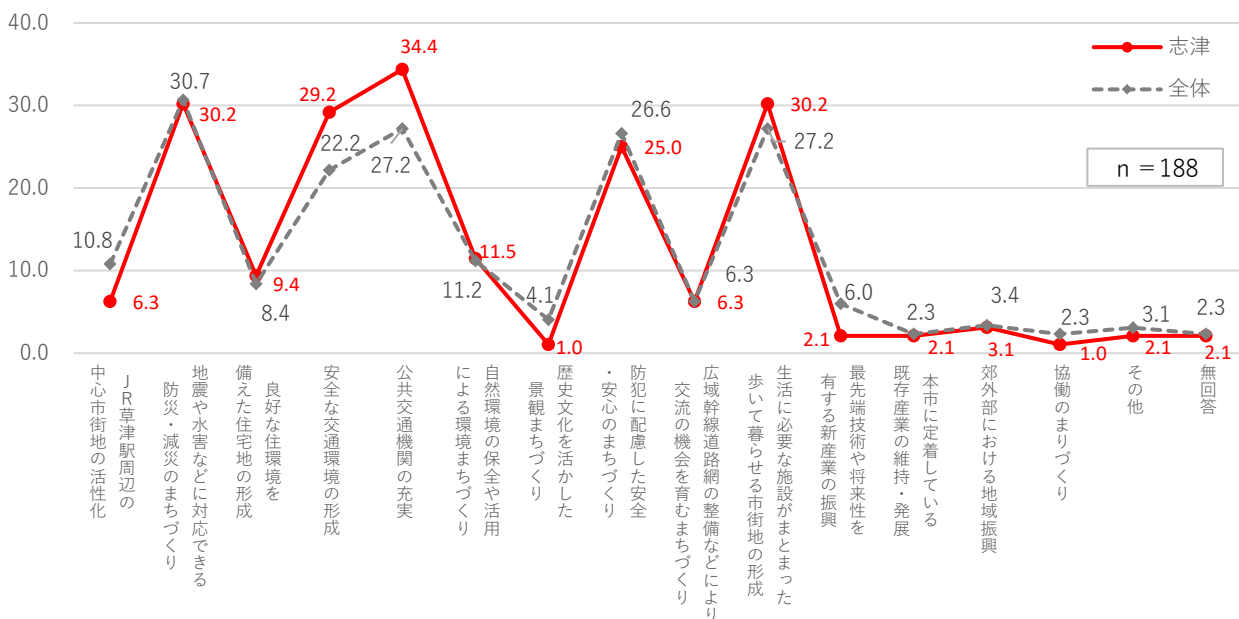


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

志津学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「公共交通機関の充実」(34.4%)、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」及び「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」(30.2%)、「安全な交通環境の形成」(29.2%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「安全な交通環境の形成」が7.0%、「公共交通機関の充実」が7.2%高くなっています。

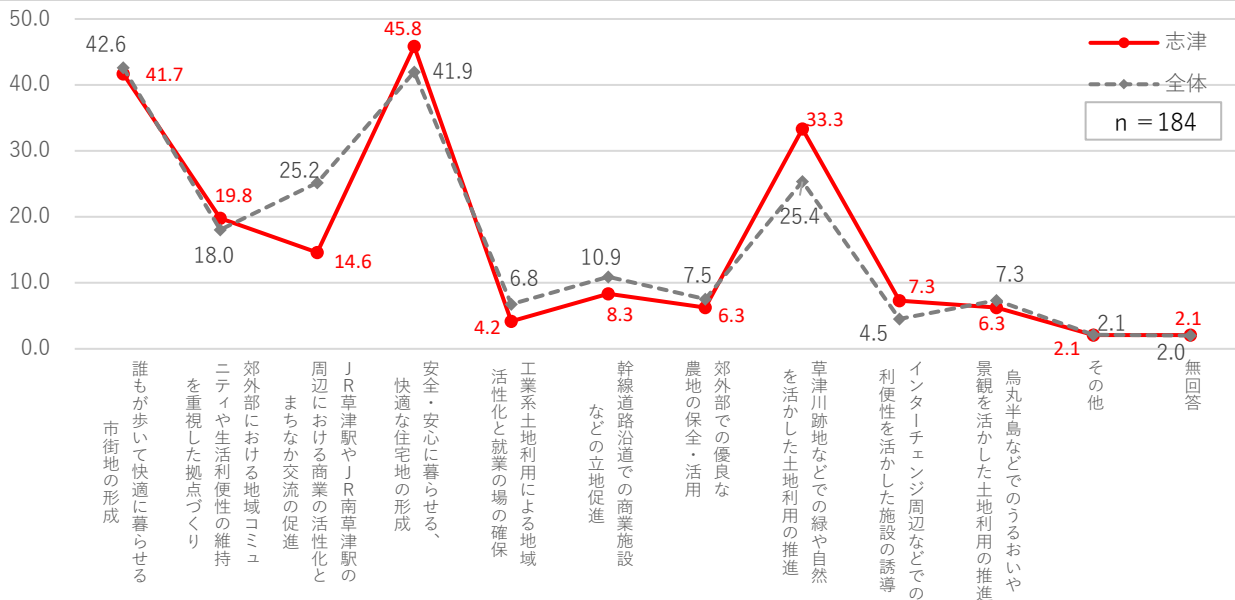


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

志津学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(45.8%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(41.7%)、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」(33.3%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」が7.9%高くなっています。

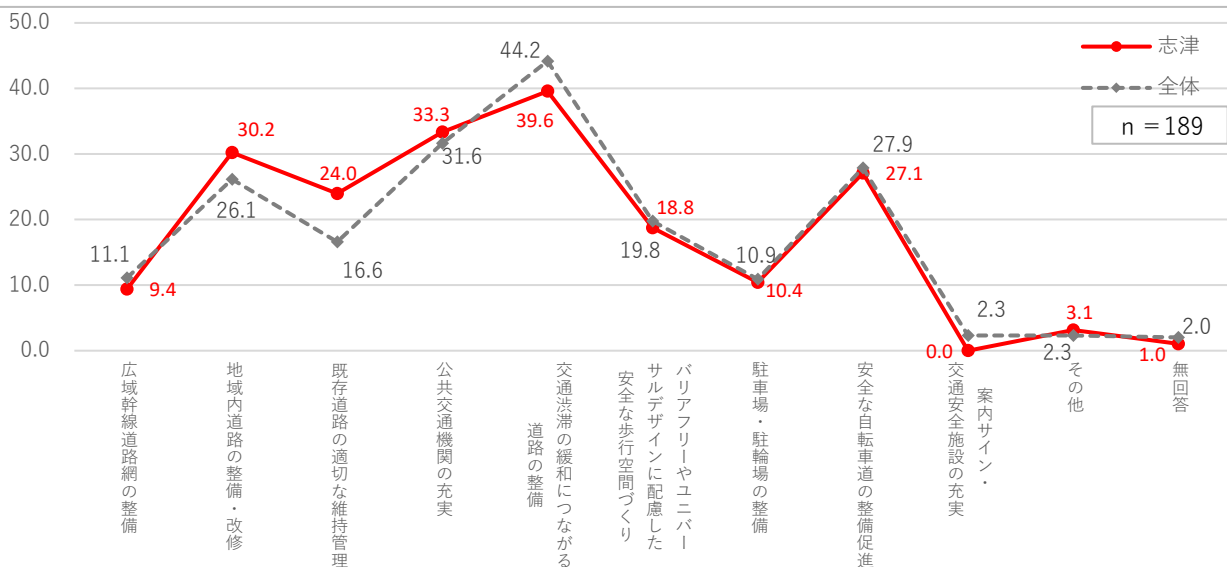


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針 (道路・交通環境)

志津学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(39.6%)、「公共交通機関の充実」(33.3%)、「地域内道路の整備・改修」(30.2%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「既存道路の適切な維持管理」が7.4%高くなっています。

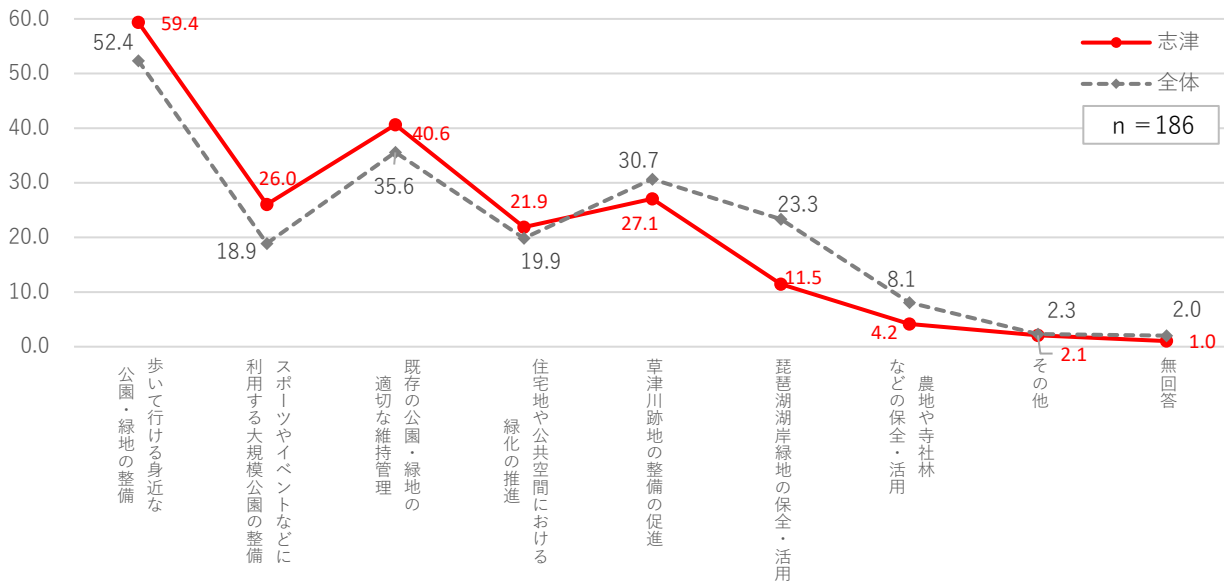


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

志津学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（59.4%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（40.6%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」が7.0%、「スポーツやイベントなどに利用する大規模公園の整備」が7.1%、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」が5.0%高くなっています。

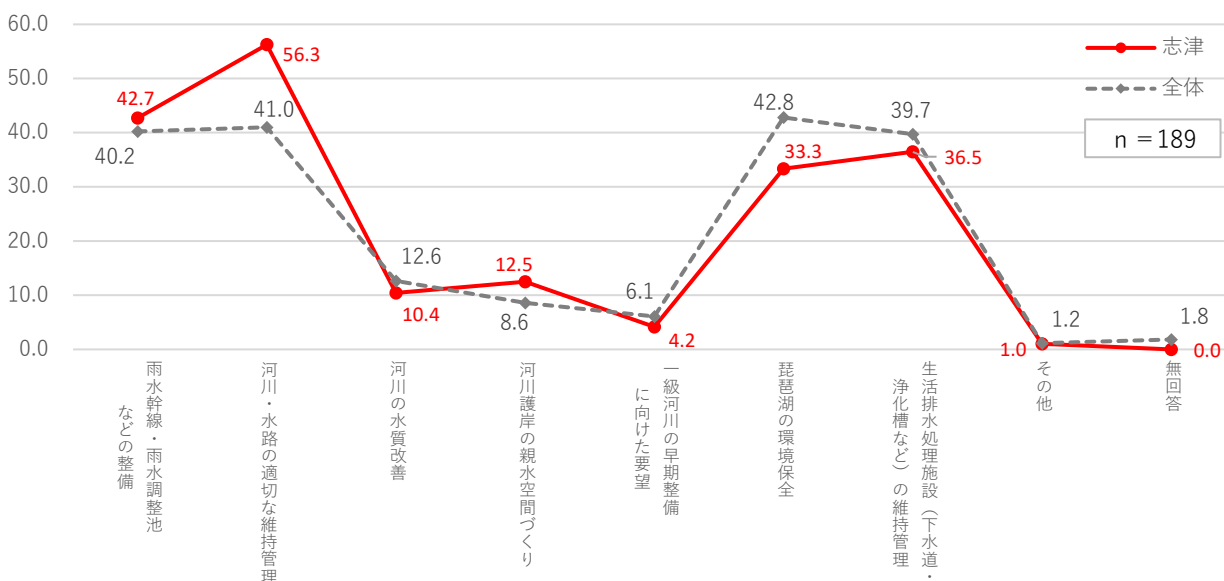


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

志津学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「河川・水路の適切な維持管理」（56.3%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（42.7%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（36.5%）、「琵琶湖の環境保全」（33.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「河川・水路の適切な維持管理」が15.3%高くなっています。

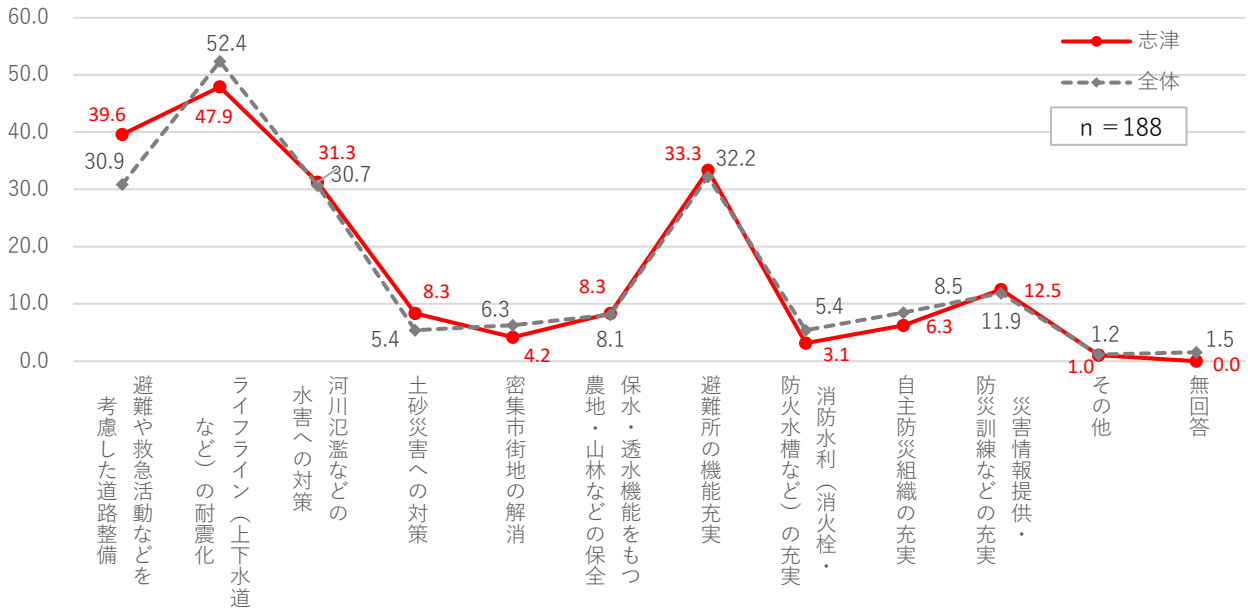


※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

志津学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（47.9%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（39.6%）、「避難所の機能充実」（33.3%）、「河川氾濫などの水害への対策」（31.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」が8.7%高くなっています。

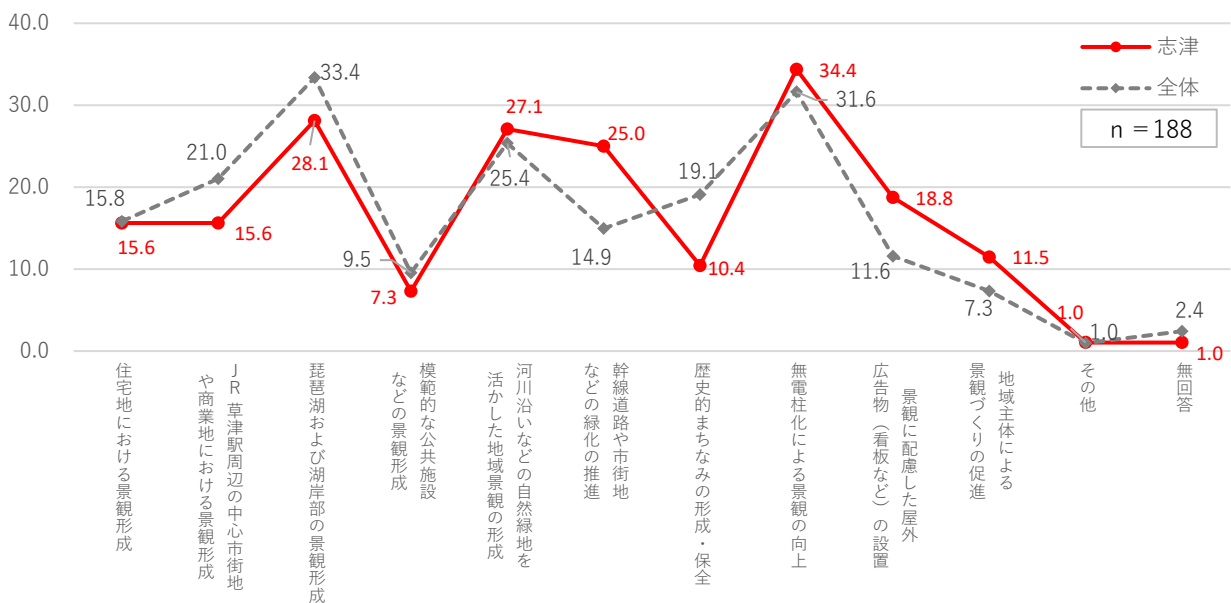


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

志津学区の景観に関して重要と思われる施策は、「無電柱化による景観の向上」（34.4%）、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（28.1%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（27.1%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「幹線道路や市街地などの緑化の推進」が10.1%、「景観に配慮した屋外広告物（看板など）の設置」が7.2%高くなっています。

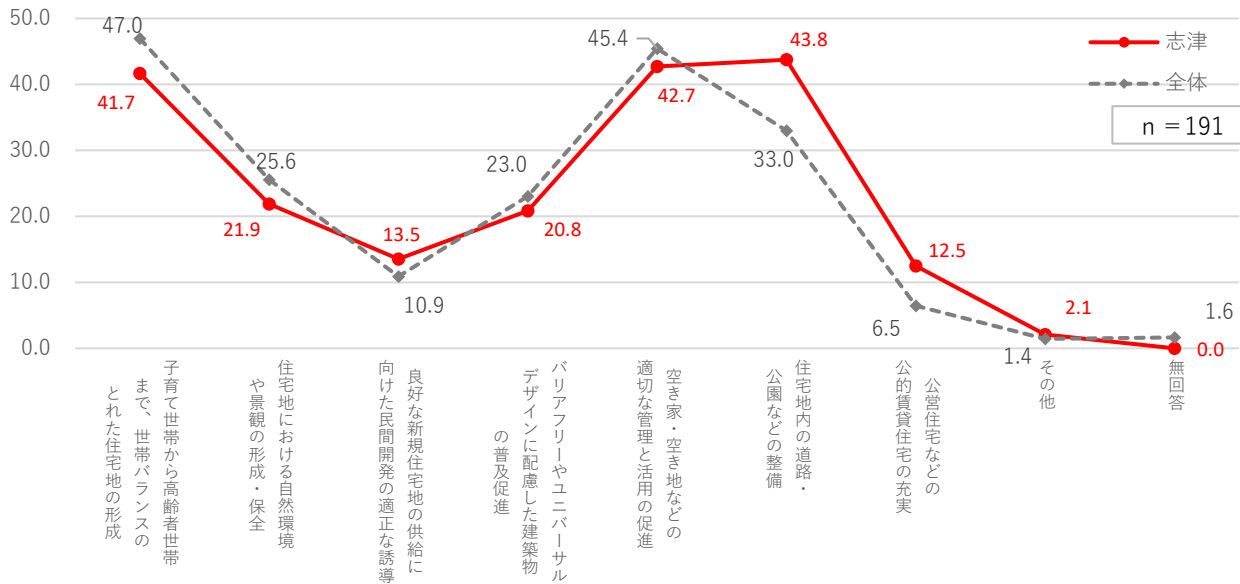


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

志津学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「住宅地内の道路・公園などの整備」（43.8%）、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（42.7%）、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（41.7%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「住宅地内の道路・公園などの整備」が10.8%、「公営住宅などの公的賃貸住宅の充実」が6.0%高くなっています。

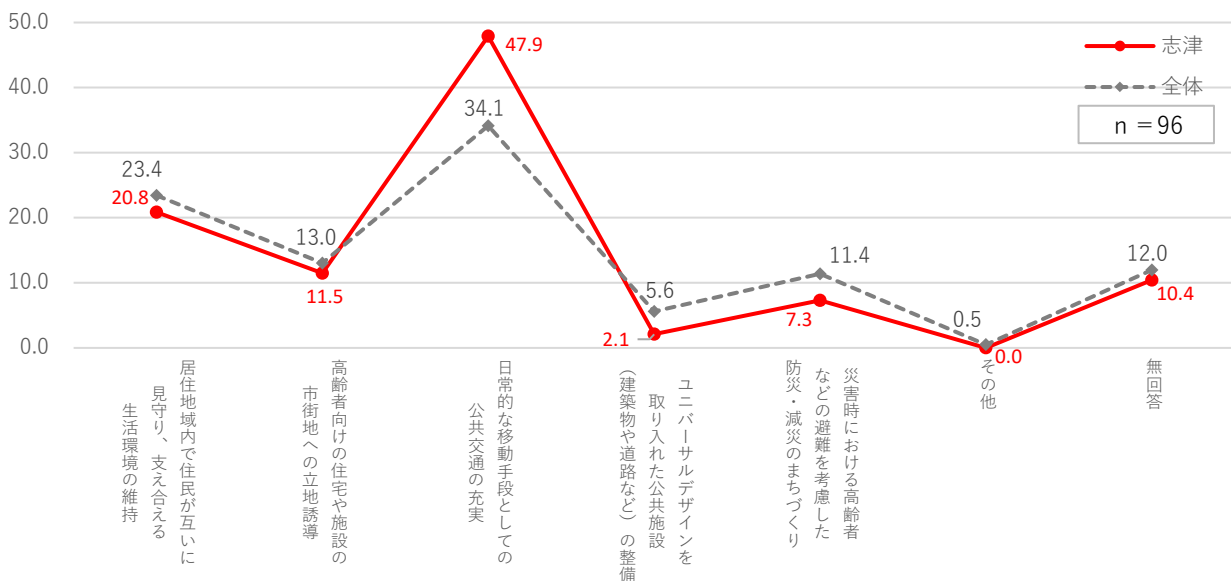


※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

志津学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（47.9%）、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（20.8%）の回答が多くなっています。

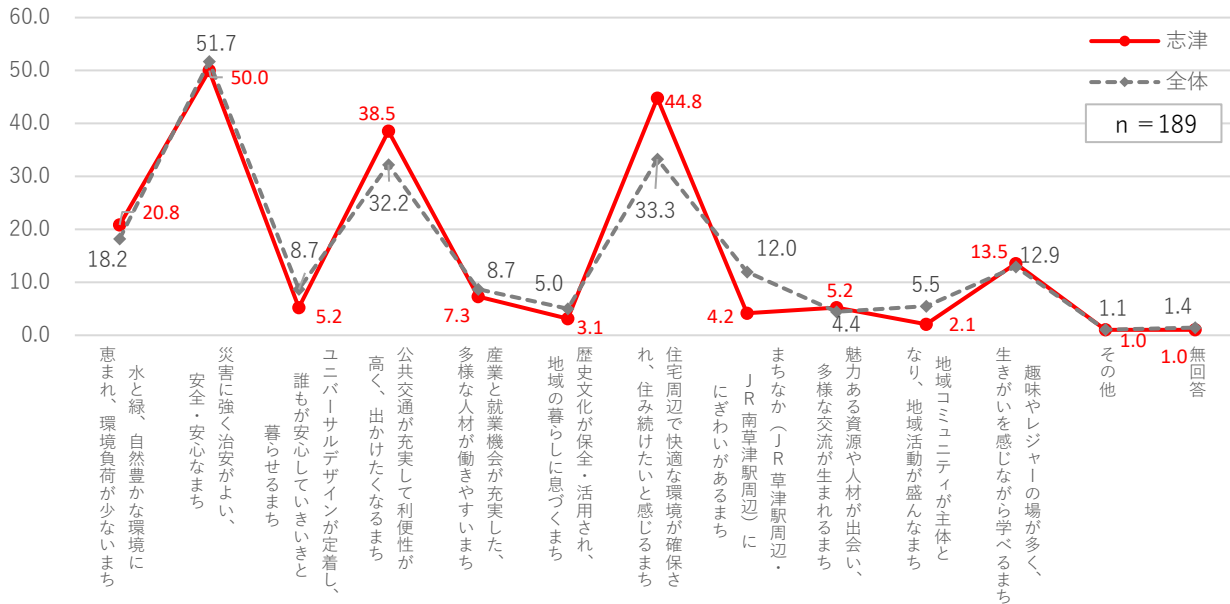
市全体の回答と比較すると、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」が13.8%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

志津学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（50.0%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（44.8%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（38.5%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」が6.3%、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」が11.5%高くなっています。



※ 2つまで回答

【学区別集計結果の概要 志津南学区】

配布数：129

回答数：48

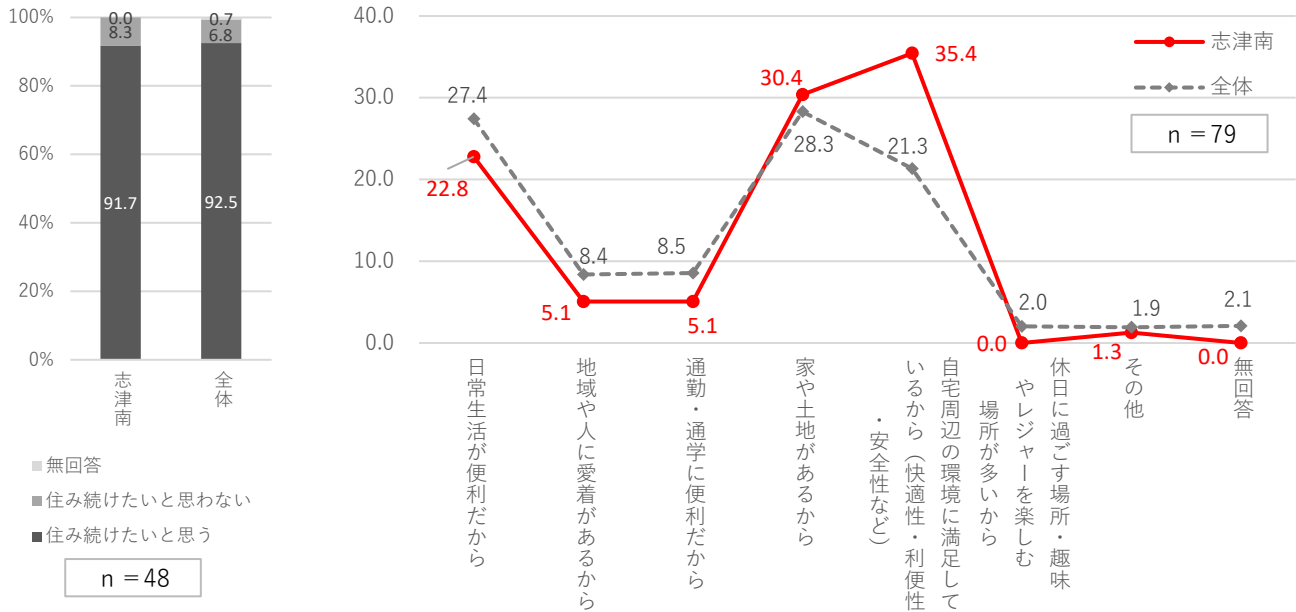
回収率：37.2

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

志津南学区の居住継続意向については、91.7%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より0.8%低くなっています。

住み続けたい理由については、「自宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）」（35.4%）、「家や土地があるから」（30.4%）の回答が多くなっています。

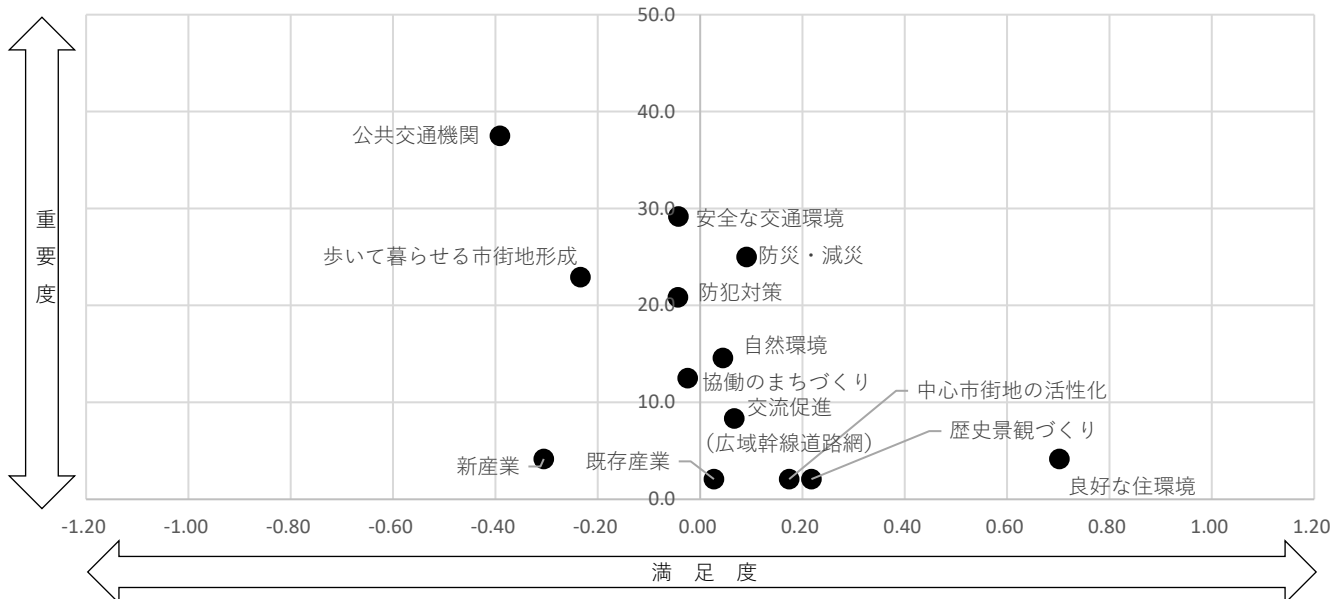
市全体の回答と比較すると、「自宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）」が14.1%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

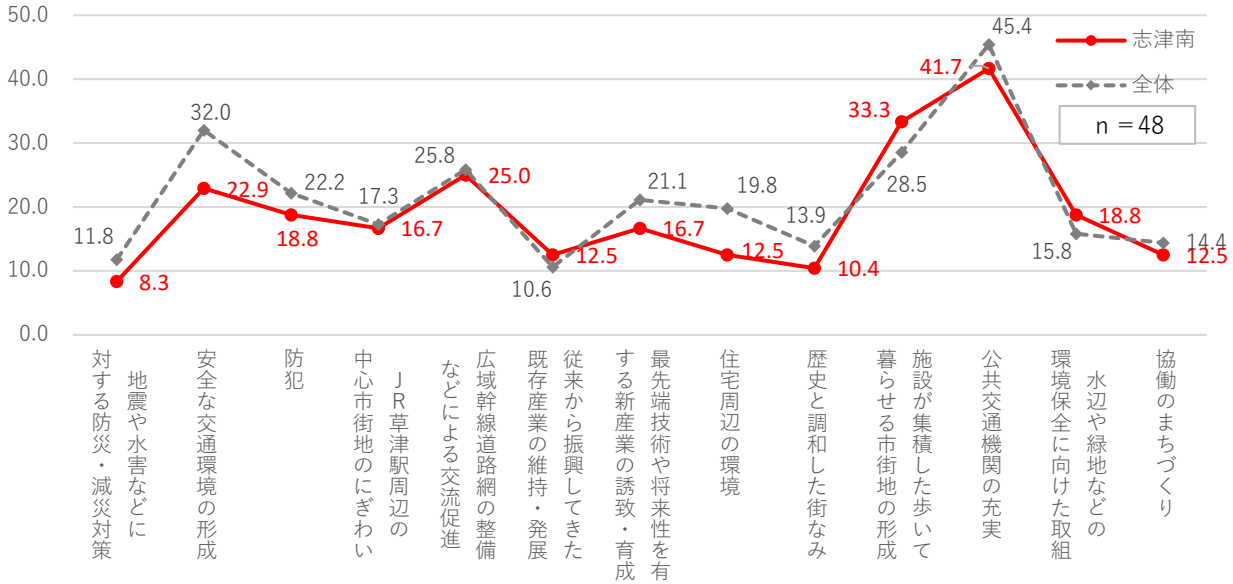
志津南学区の各分野の不満度と重要度を比較すると、「公共交通機関」、「歩いて暮らせる市街地形成」、「安全な交通環境」、「防犯対策」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。



※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

志津南学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」(41.7%)、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」(33.3%)、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」(25.0%)が高くなっています。

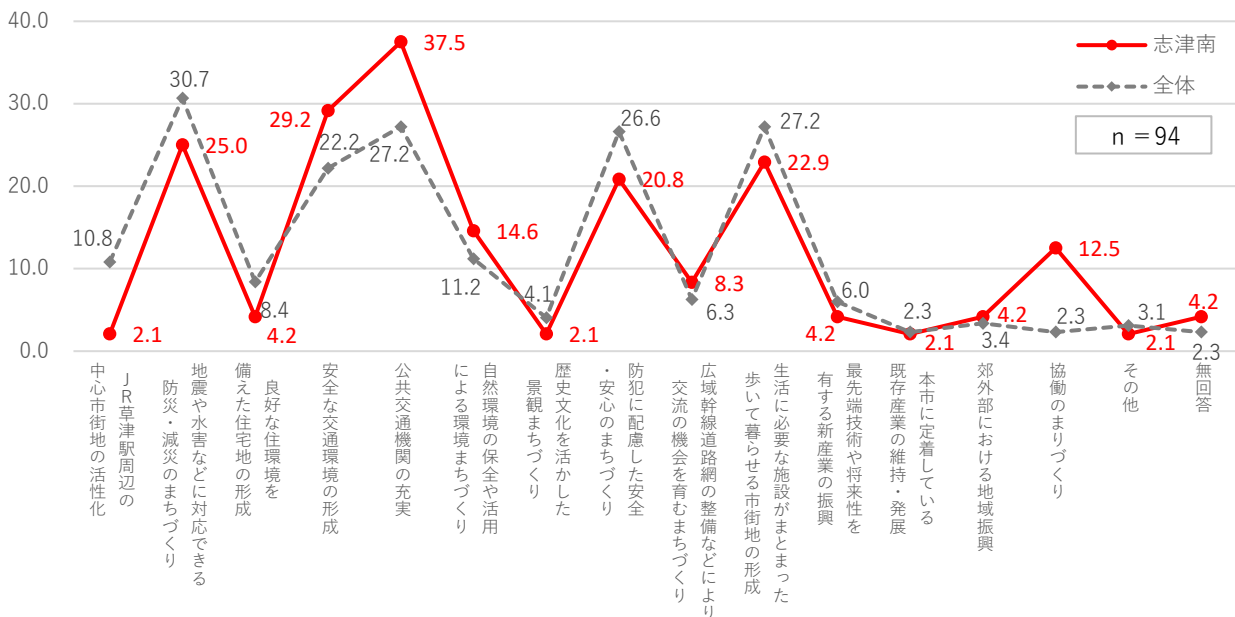


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

志津南学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「公共交通機関の充実」(37.5%)、「安全な交通環境の形成」(29.2%)、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(25.0%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「安全な交通環境の形成」が7.0%、「公共交通機関の充実」が10.3%、「協働のまちづくり」が10.2%高くなっています。

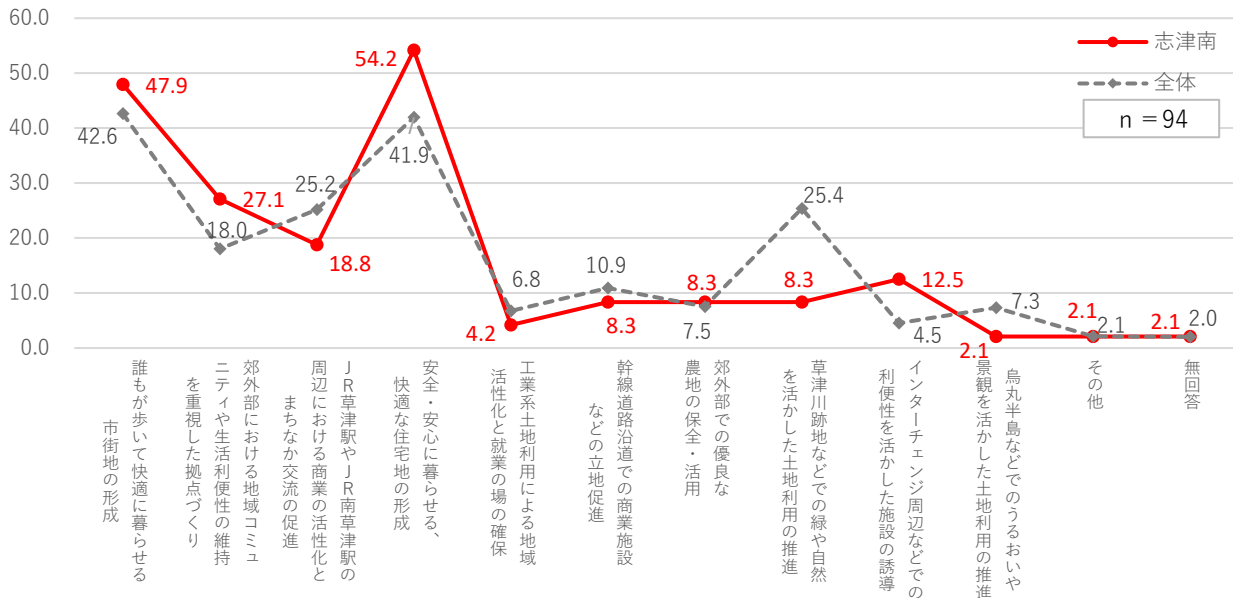


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

志津南学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(54.2%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(47.9%)、「郊外部における地域コミュニティや生活利便性の維持を重視した拠点づくり」(27.1%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」が5.3%、「郊外部における地域コミュニティや生活利便性の維持を重視した拠点づくり」が9.1%、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」が12.3%、「インターチェンジ周辺などでの利便性を活かした施設の誘導」が8.0%高くなっています。

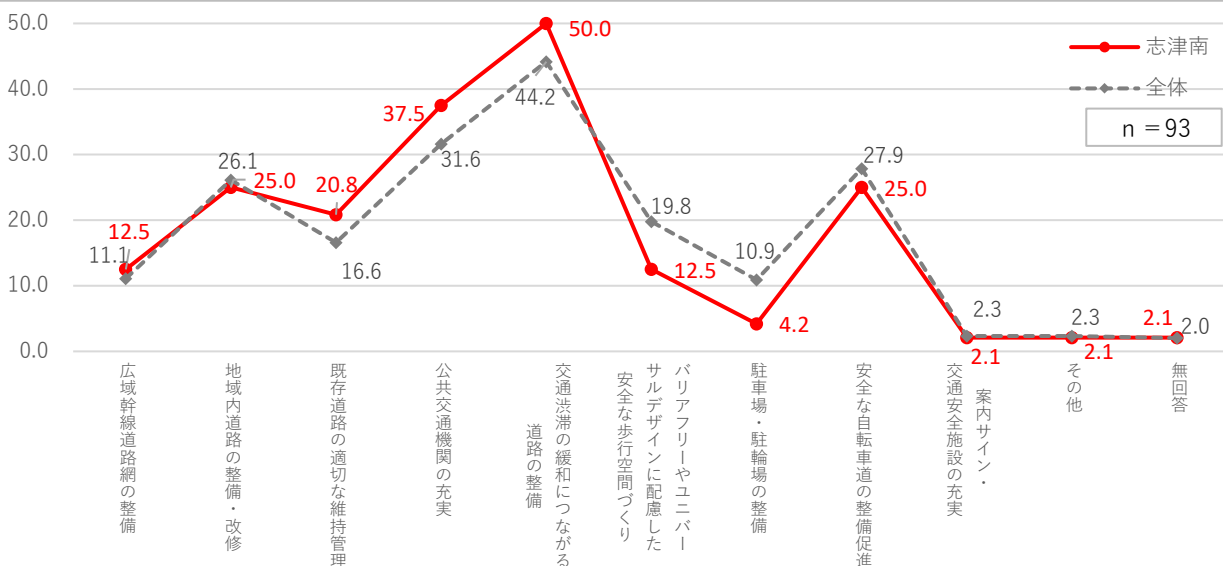


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

志津南学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(50.0%)、「公共交通機関の充実」(37.5%)、「地域内道路の整備・改修」及び「安全な自転車道の整備促進」(25.0%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通機関の充実」が5.9%、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」が5.8%高くなっています。

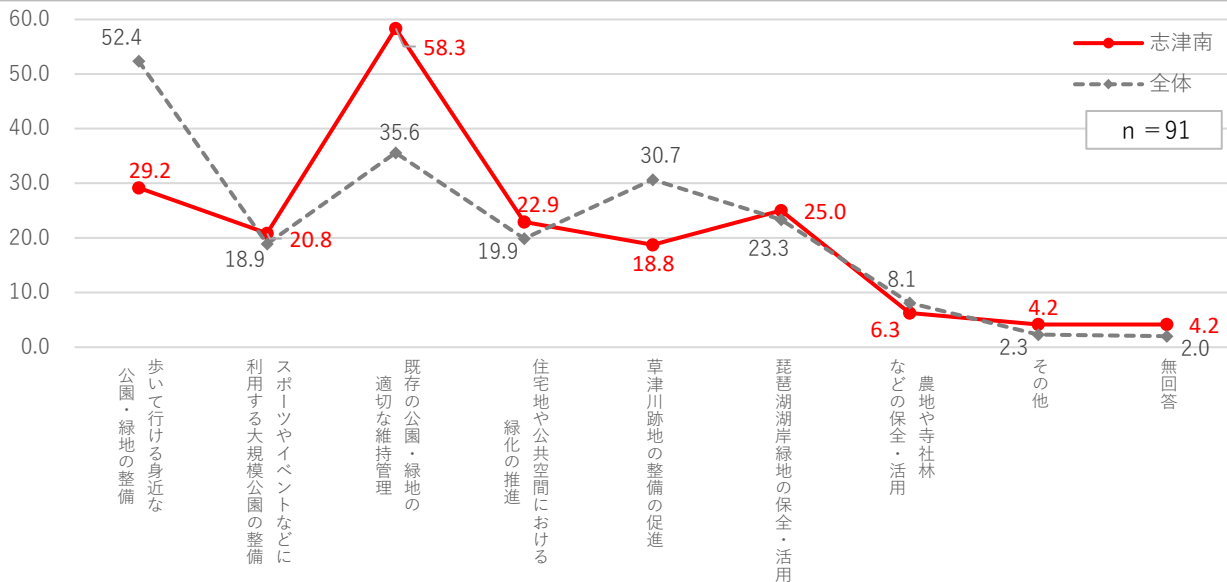


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

志津南学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（58.3%）、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（29.2%）、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」（25.0%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」が22.7%高くなっています。

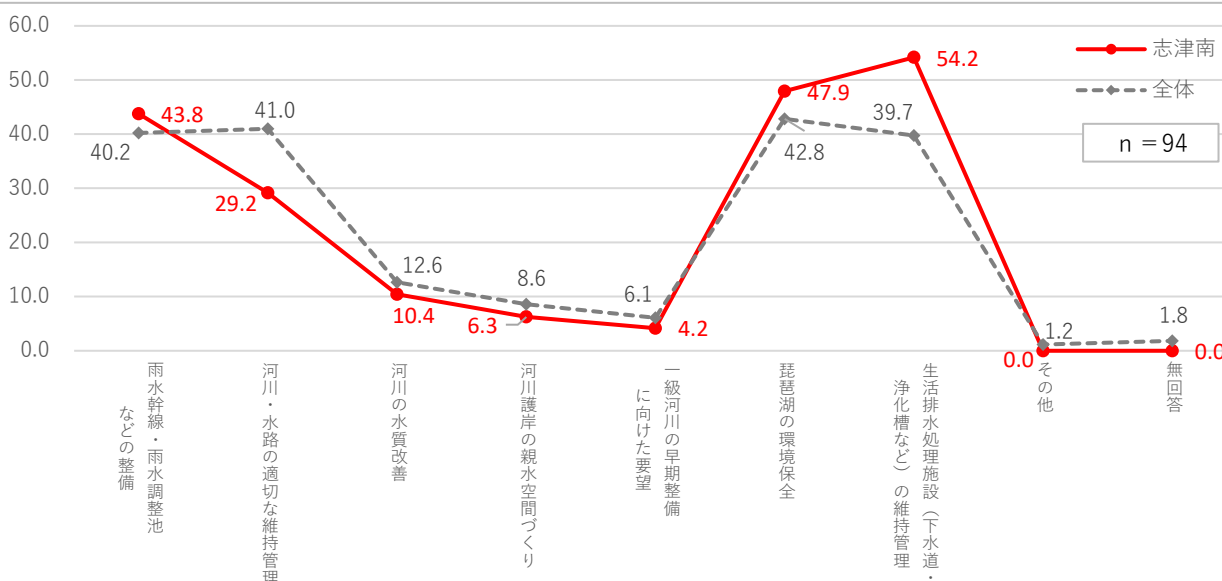


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

志津南学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（54.2%）、「琵琶湖の環境保全」（47.9%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（43.8%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「琵琶湖の環境保全」が5.1%、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」が14.5%高くなっています。

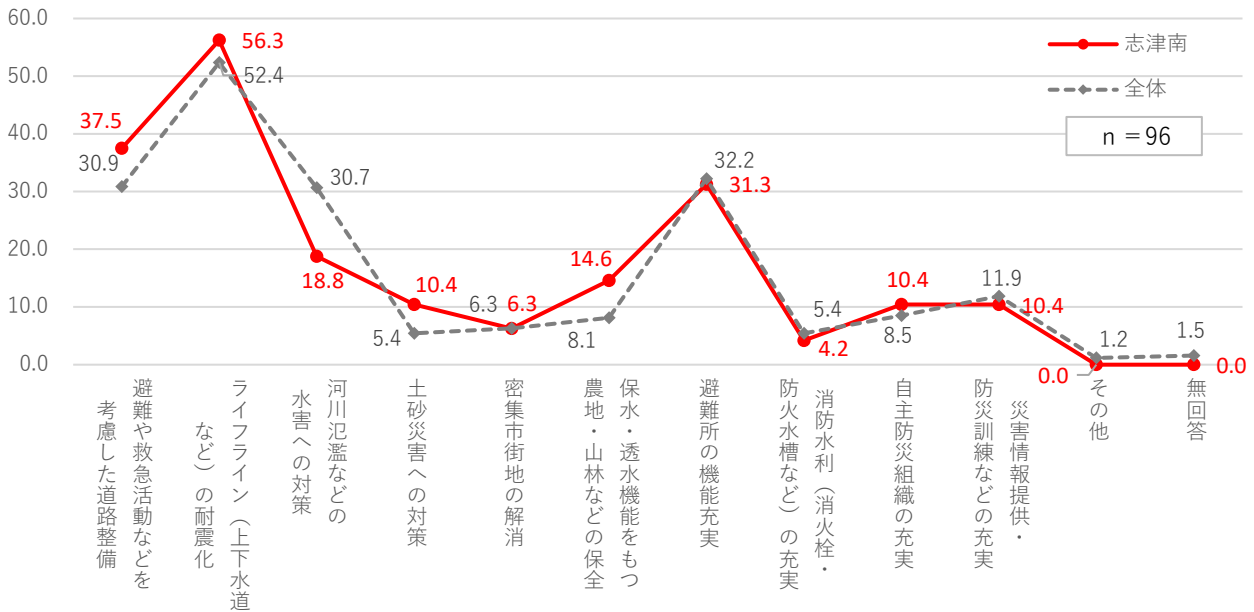


※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

志津南学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（56.3%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（37.5%）、「避難所の機能充実」（31.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」が6.6%、「土砂災害への対策」が5.0%、「保水・透水機能をもつ農地・山林などの保全」が6.5%高くなっています。

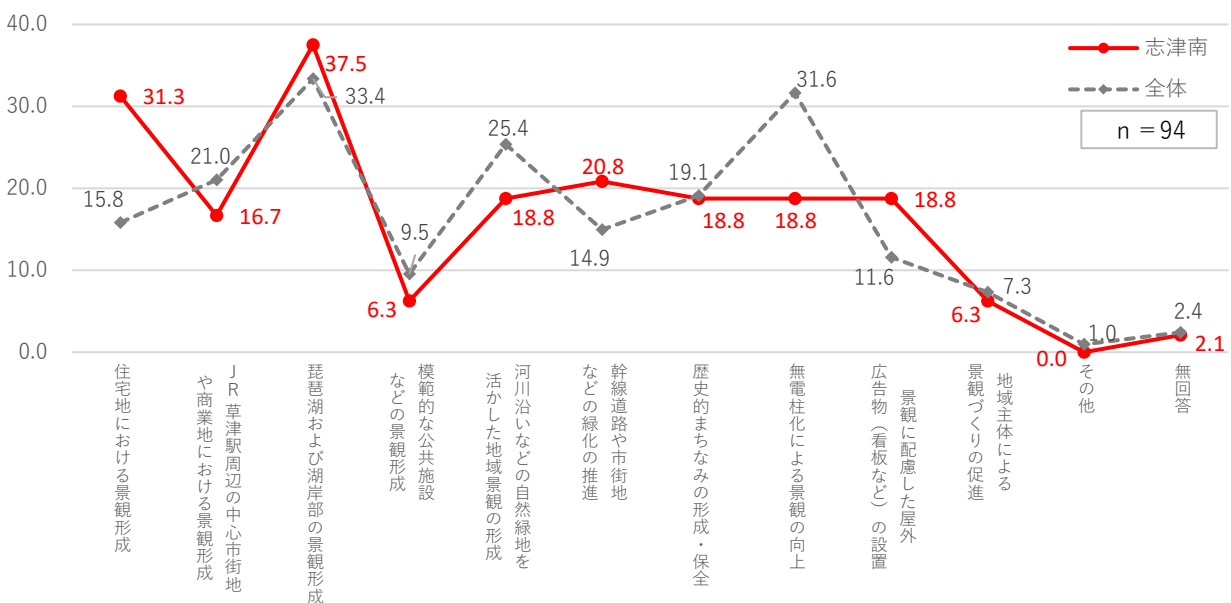


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

志津南学区の景観に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（37.5%）、「住宅地における景観形成」（31.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「住宅地における景観形成」が15.5%、「幹線道路や市街地などの緑化の推進」が5.9%、「景観に配慮した屋外広告物（看板など）の設置」が7.2%高くなっています。

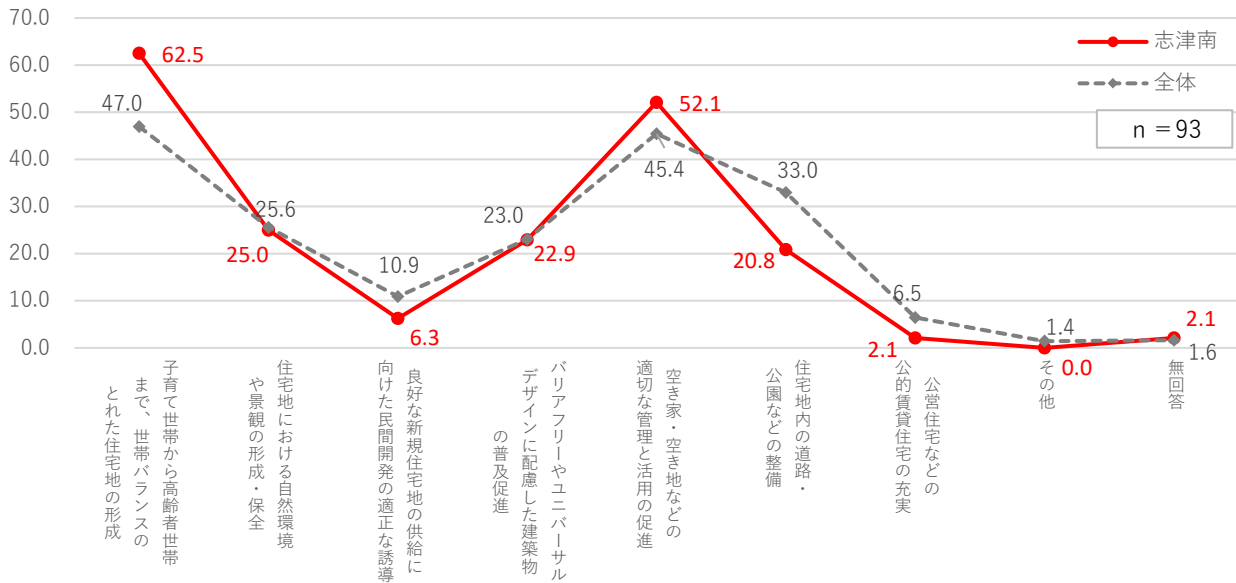


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

志津南学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（62.5%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」が15.5%、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」が6.7%高くなっています。

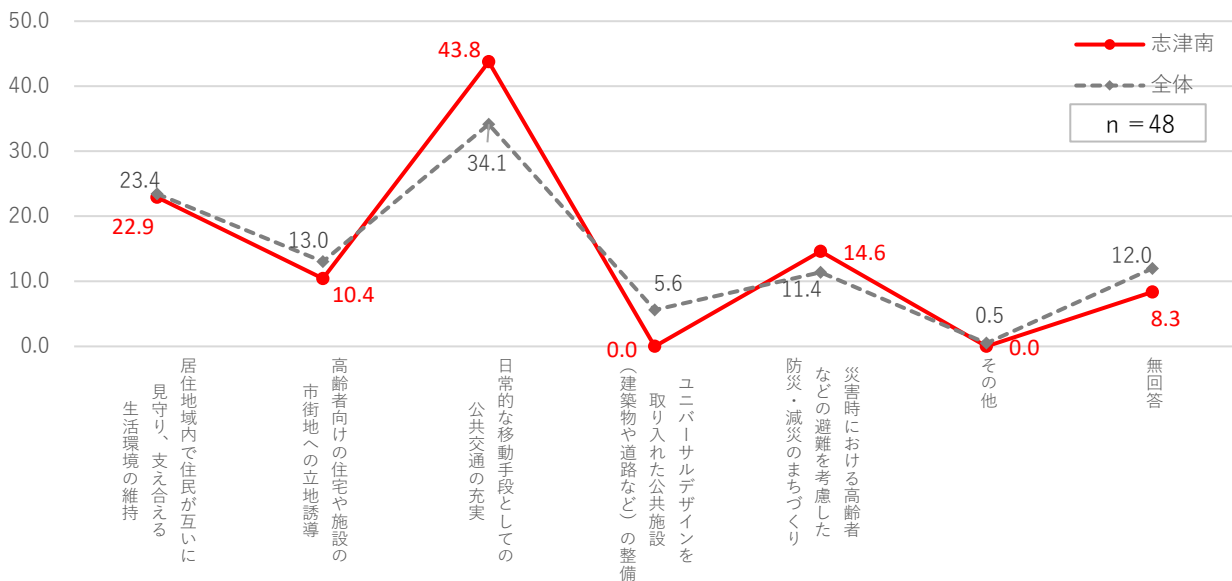


※2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

志津南学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（43.8%）、「居住地域内で住民が互に見守り、支え合える生活環境の維持」（22.9%）の回答が多くなっています。

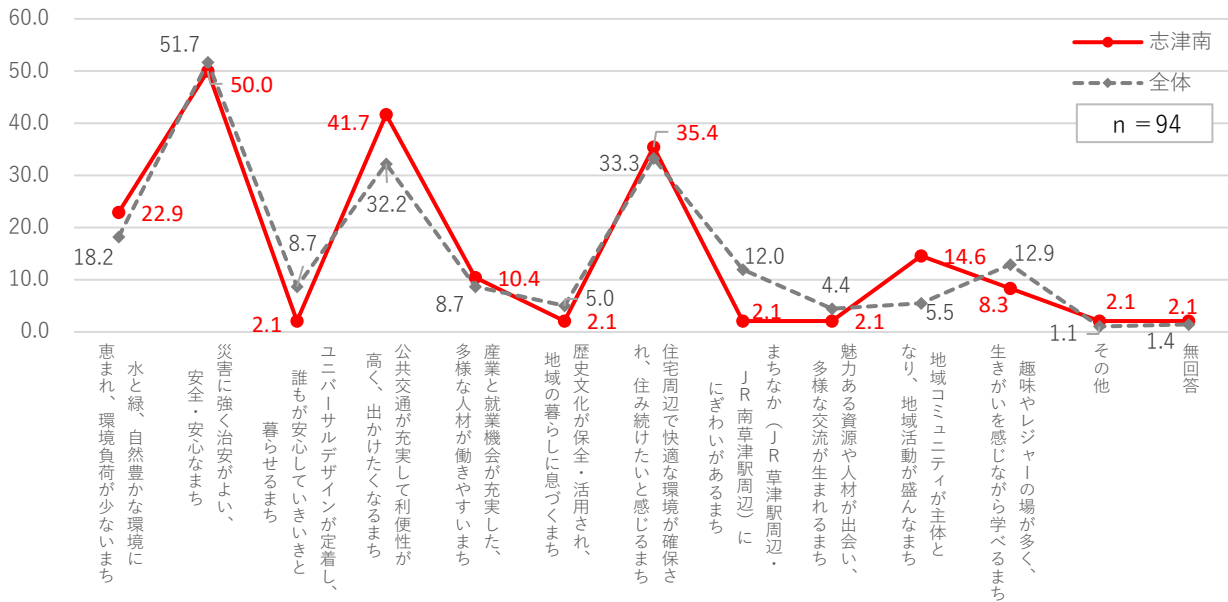
市全体の回答と比較すると、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」が9.7%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

志津南学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」(50.0%)、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」(41.7%)、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」(35.4%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」が9.5%、「地域コミュニティが主体となり、地域活動が盛んなまち」が9.1%高くなっています。



※ 2つまで回答

【学区別集計結果の概要 草津学区】

配布数：257

回答数：118

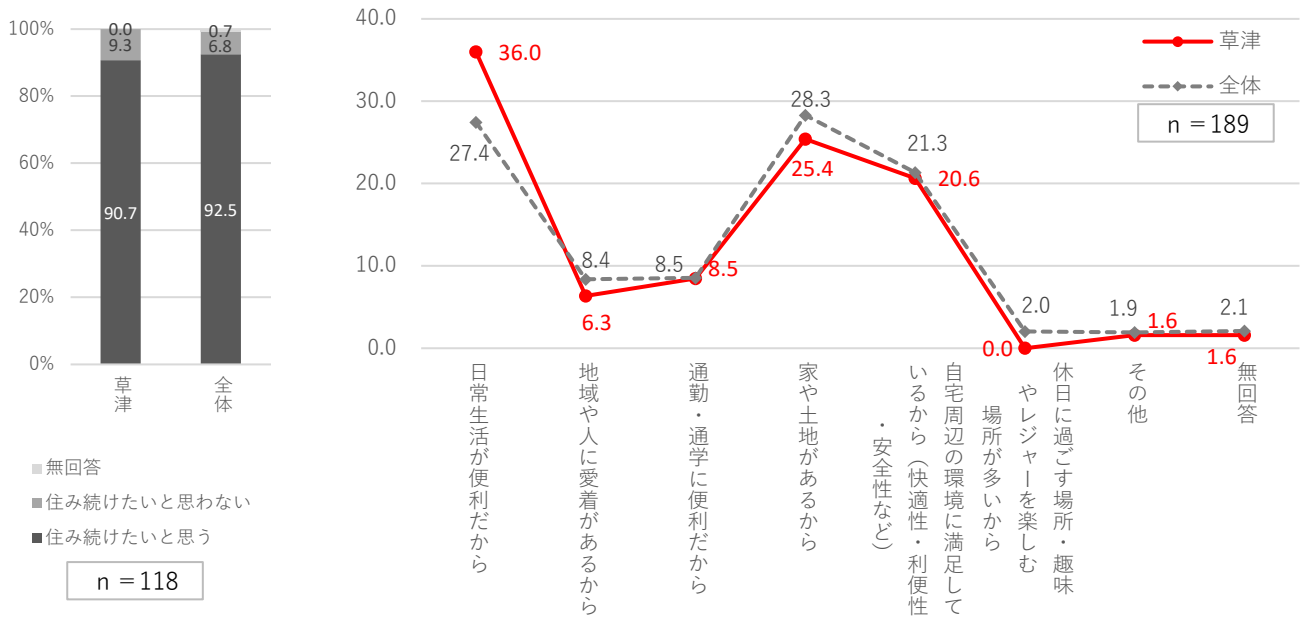
回収率：45.9

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

草津学区の居住継続意向については、90.7%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より1.8%低くなっています。

住み続けたい理由については、「日常生活が便利だから」（36.0%）、「家や土地があるから」（25.4%）の回答が多くなっています。

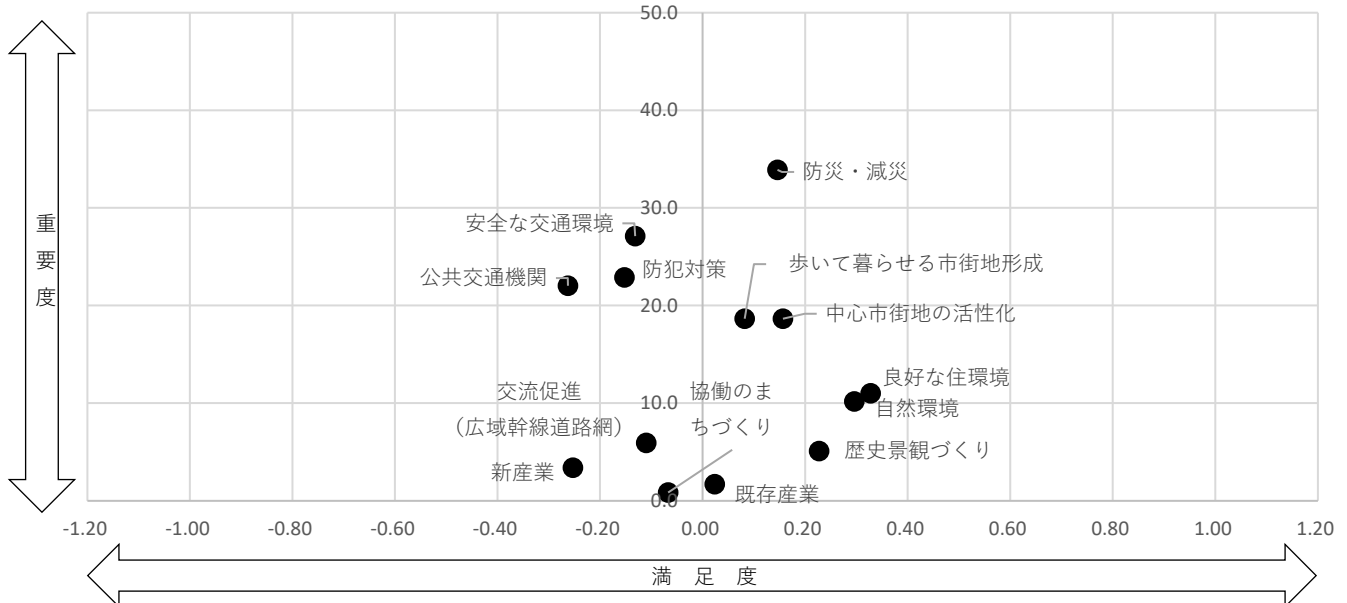
市全体の回答と比較すると、「日常生活が便利だから」が8.6%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-2. 草津市における各分野の満足度と重要度

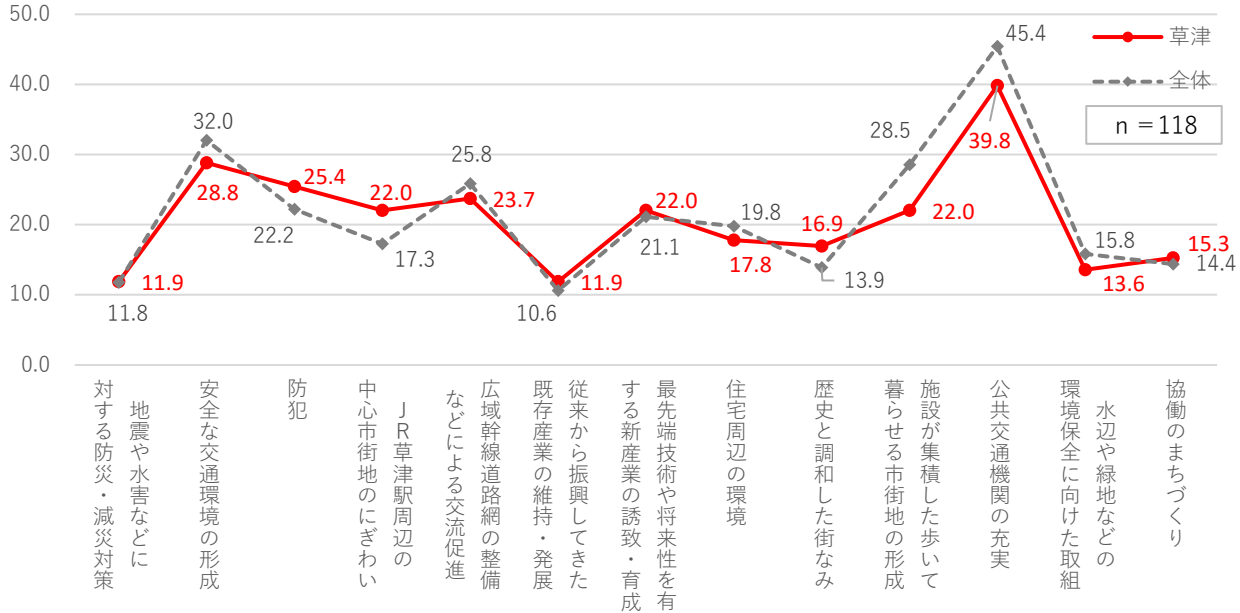
草津学区の各分野の不満足度と重要度を比較すると、「安全な交通環境」、「公共交通機関」及び「防犯対策」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。



※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-3. 草津市における各分野の不満度

草津学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」（39.8%）、「安全な交通環境の形成」（28.8%）、「防犯」（25.4%）が高くなっています。

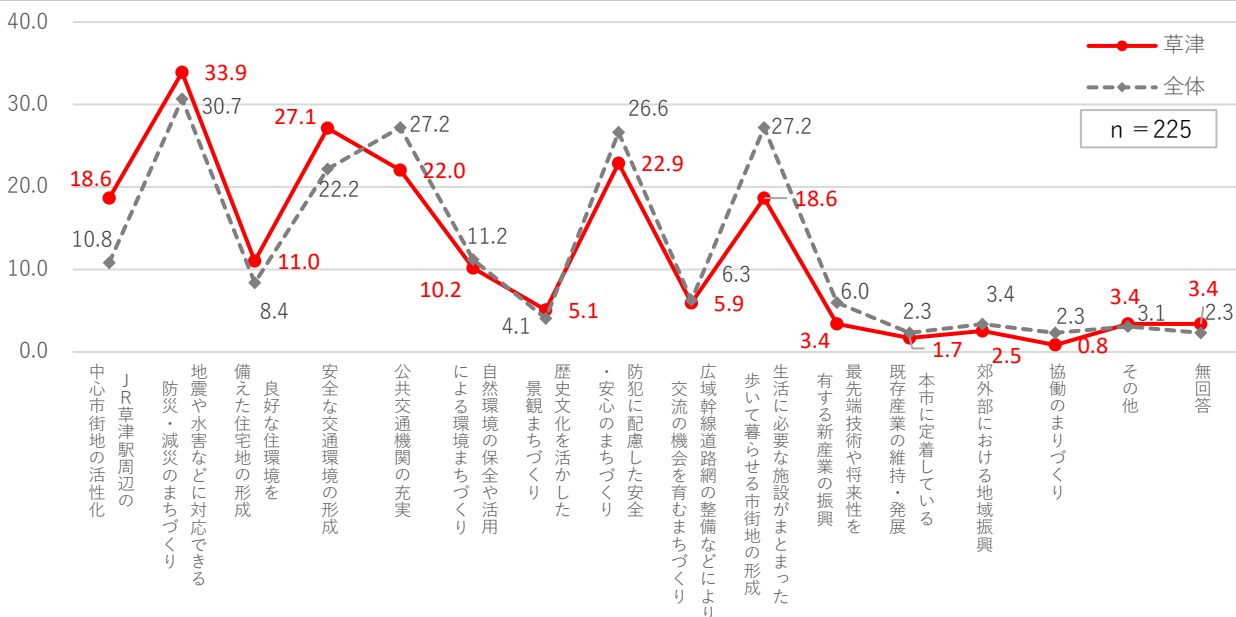


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

草津学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」（33.9%）、「安全な交通環境の形成」（27.1%）、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」（22.9%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「JR草津駅周辺の中心市街地の活性化」が7.8%高くなっています。

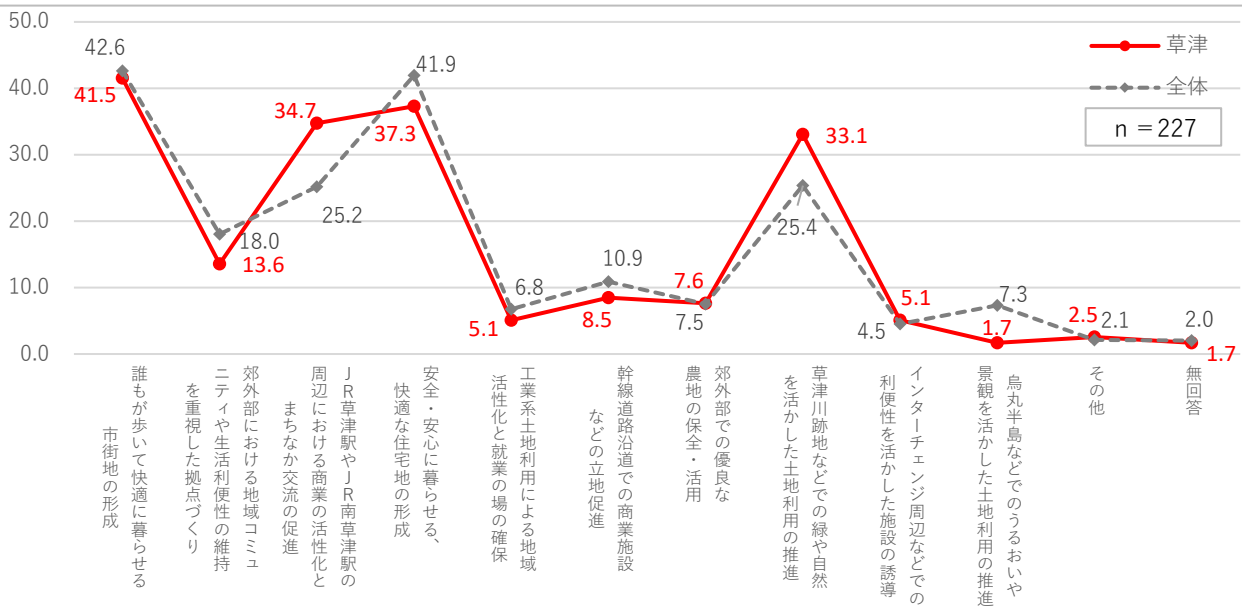


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

草津学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(41.5%)、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(37.3%)、「JR草津駅やJR南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」(34.7%)、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」(33.1%)の回答が多くなっています。

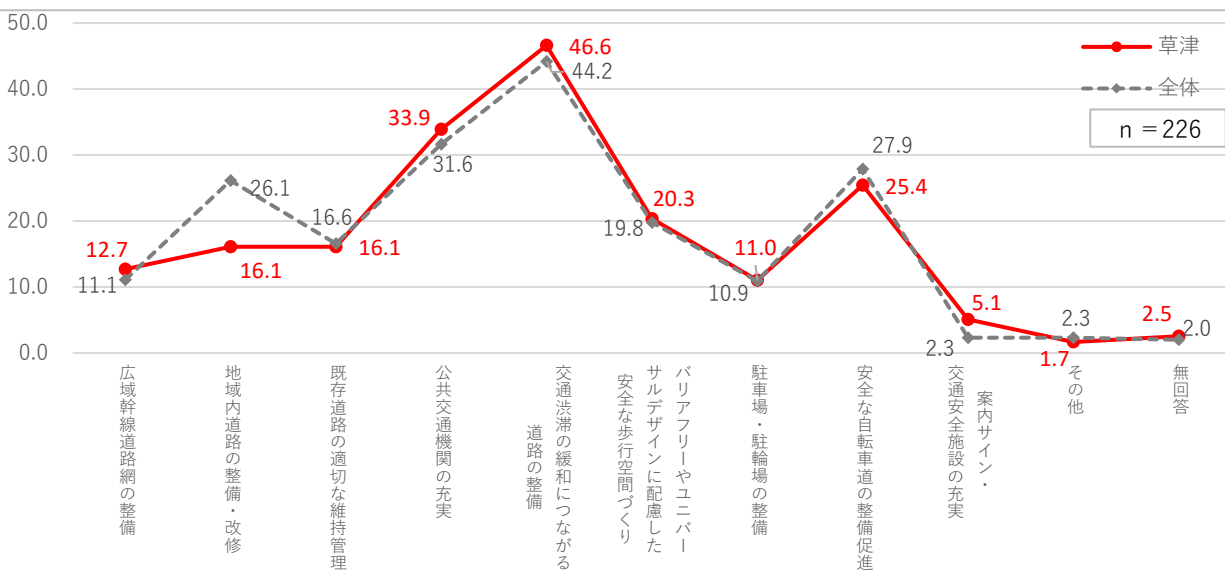
市全体の回答と比較すると、「JR草津駅やJR南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」が9.5%、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」が7.7%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

草津学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(46.6%)、「公共交通機関の充実」(33.9%)、「安全な自転車道の整備促進」(25.4%)の回答が多くなっています。

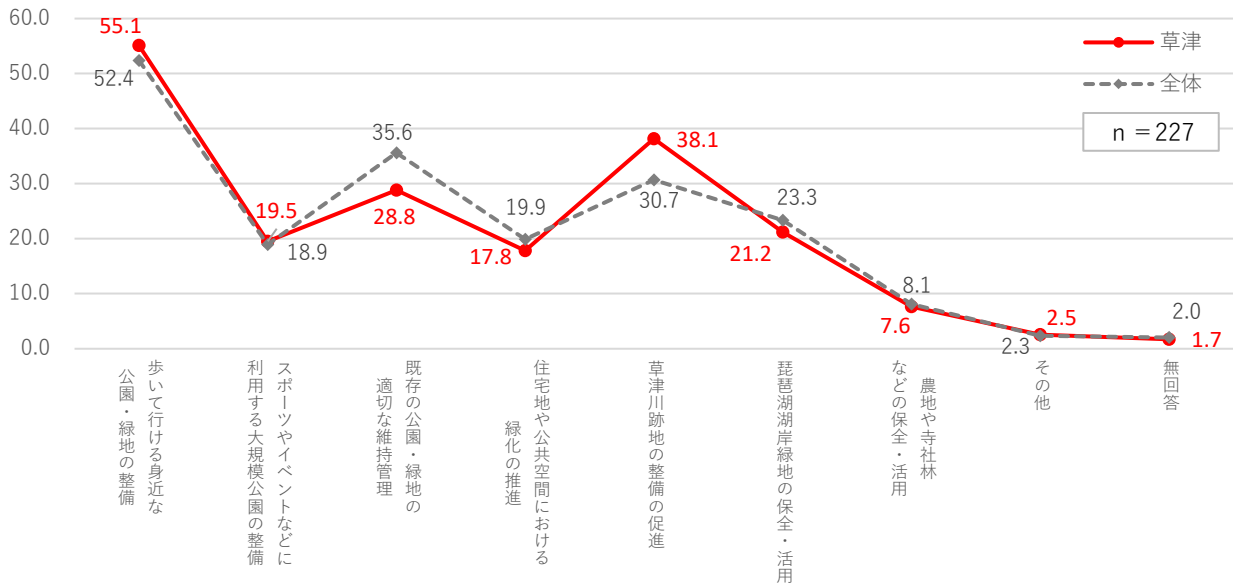


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

草津学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（55.1%）、「草津川跡地の整備の促進」（38.1%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（28.8%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「草津川跡地の整備の促進」が7.4%高くなっています。

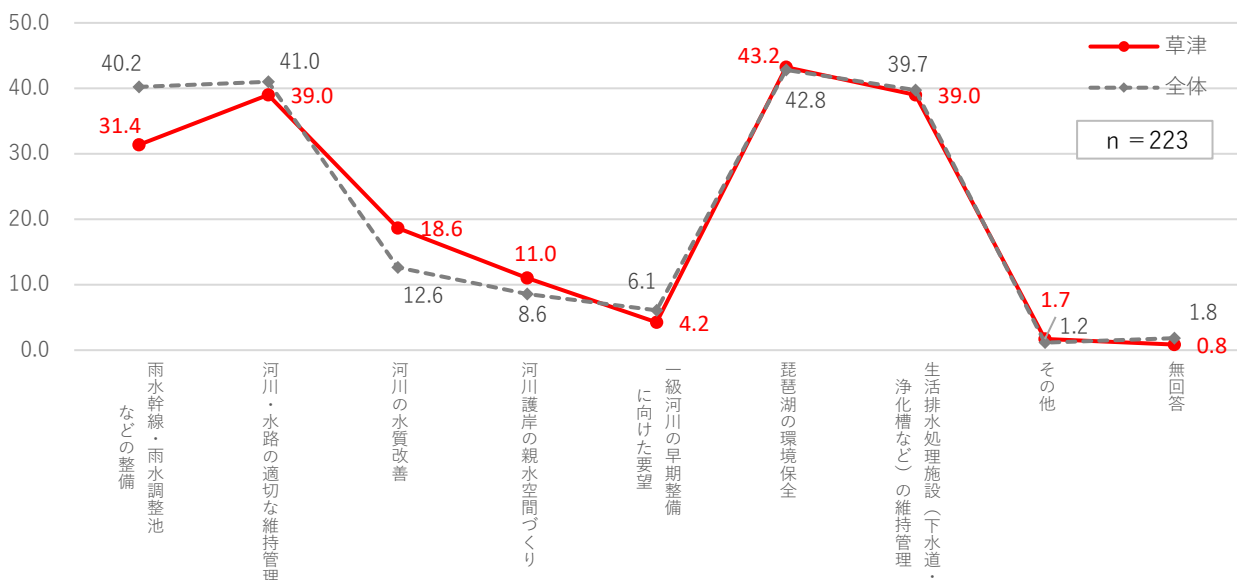


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

草津学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖の環境保全」（43.2%）、「河川・水路の適切な維持管理」及び「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（39.0%）の回答が多くなっています。

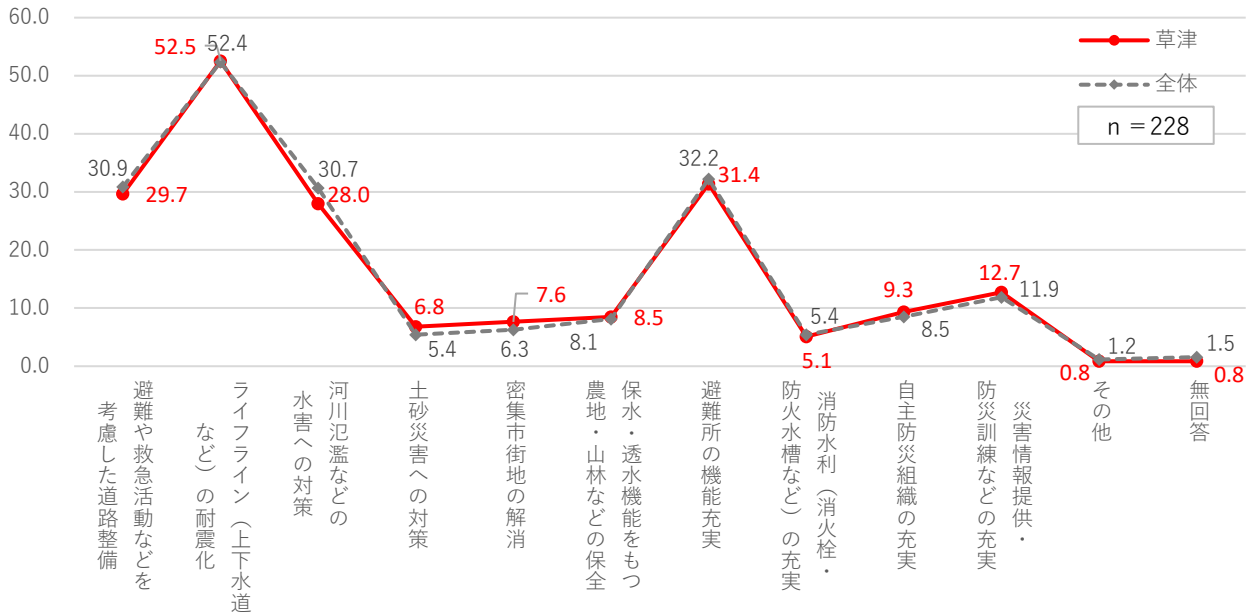
市全体の回答と比較すると、「河川の水質改善」が6.0%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

草津学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（52.5%）、「避難所の機能充実」（31.4%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（29.7%）、「河川氾濫などの水害への対策」（28.0%）の回答が多くなっています。

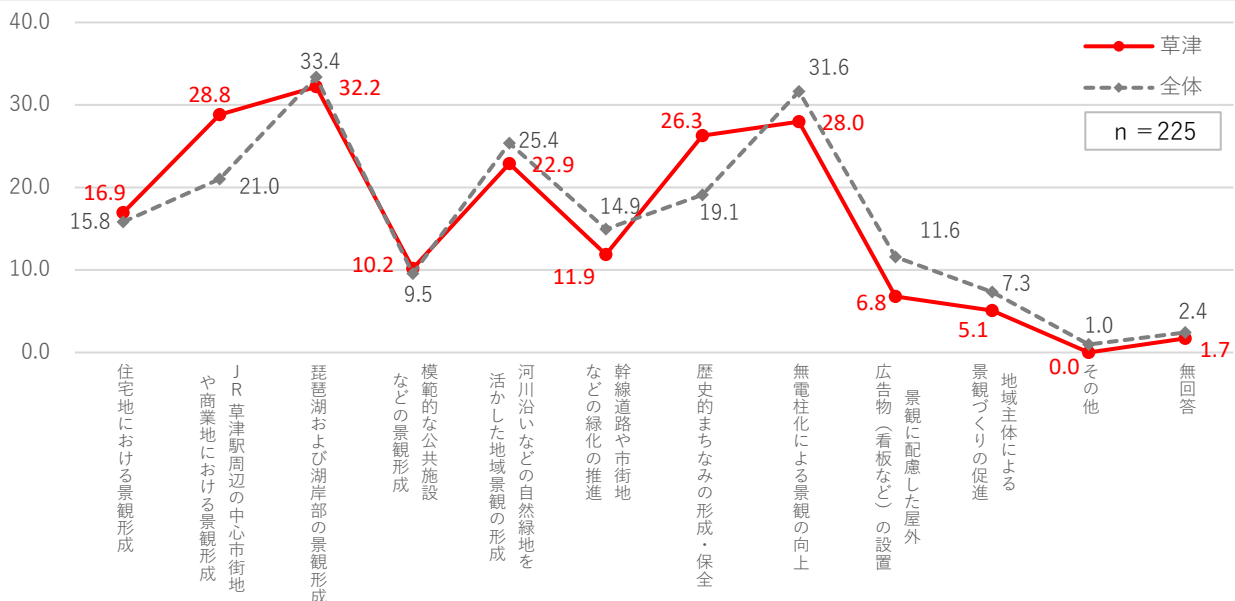


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

草津学区の景観に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（32.2%）、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」（28.8%）、「無電柱化による景観の向上」（28.0%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」が7.8%、「歴史的まちなみの形成・保全」が7.2%高くなっています。

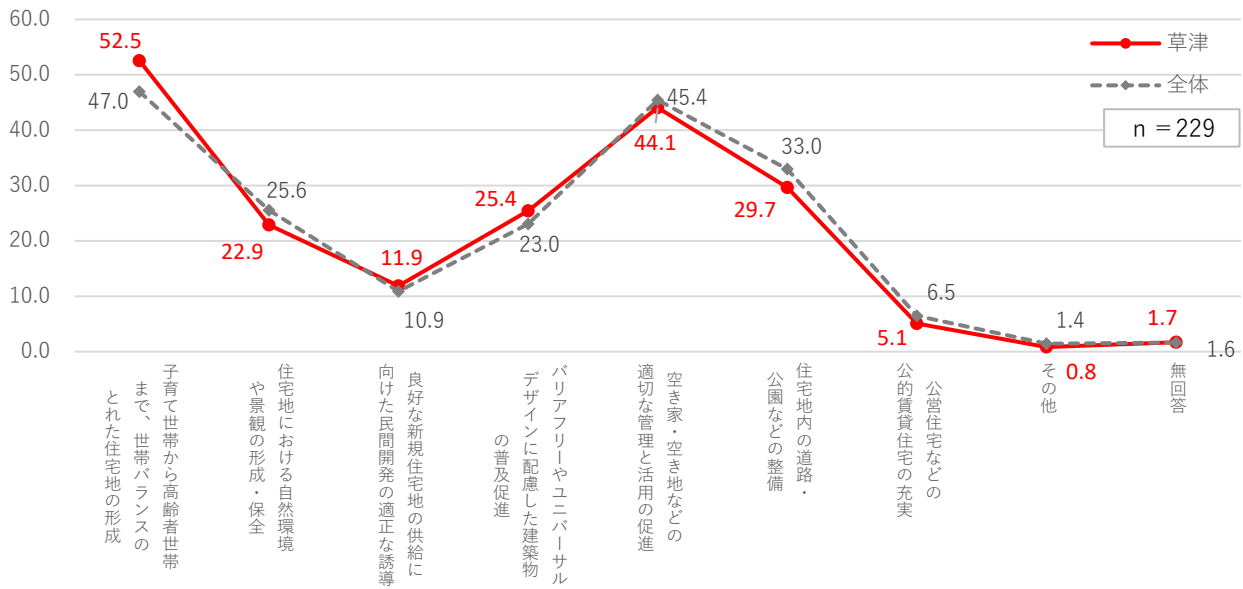


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

草津学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（52.5%）、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（44.1%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（29.7%）の回答が多くなっています。

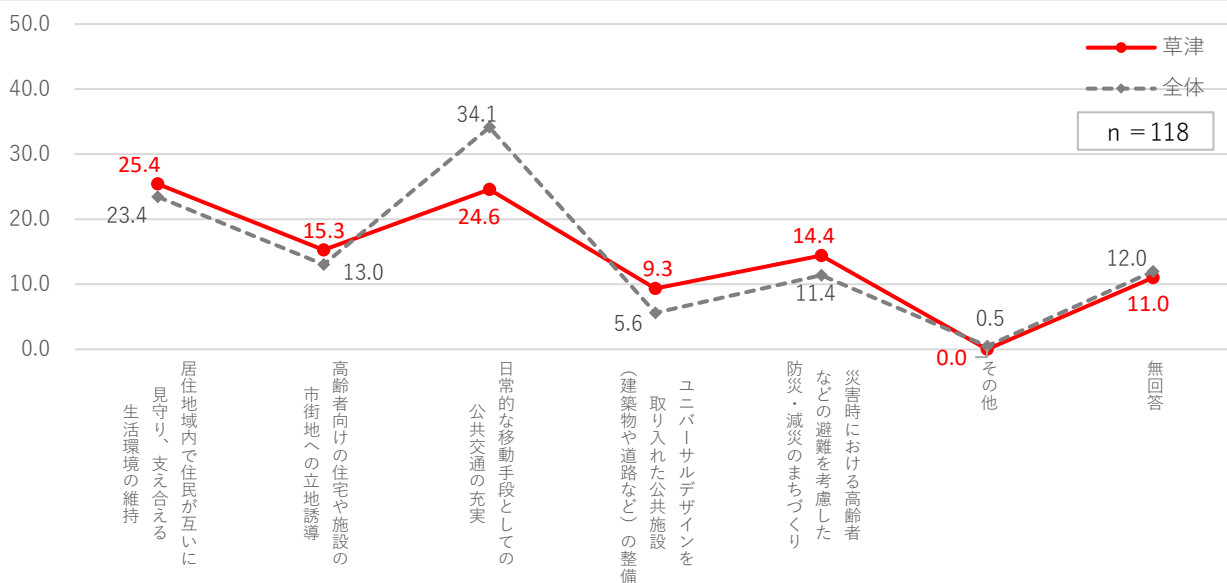
市全体の回答と比較すると、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」が5.5%高くなっています。



※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

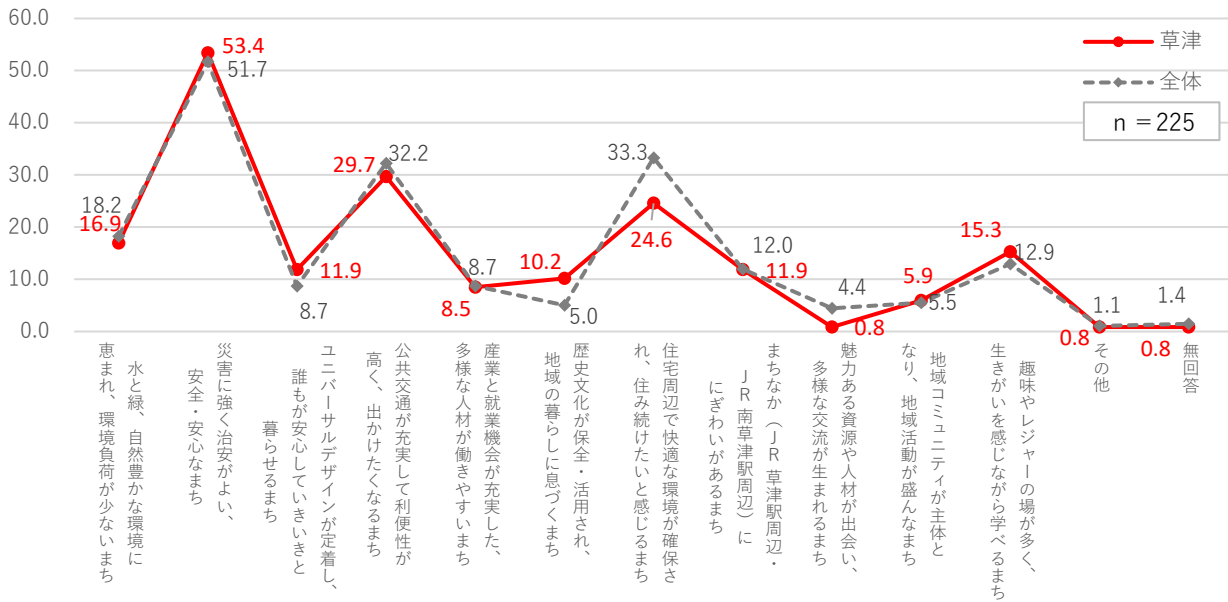
草津学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（25.4%）、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（24.6%）の回答が多くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

草津学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（53.4%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（29.7%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（24.6%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「歴史文化が保全・活用され、地域の暮らしに息づくまち」が5.2%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 大路区】

配布数：259

回答数：103

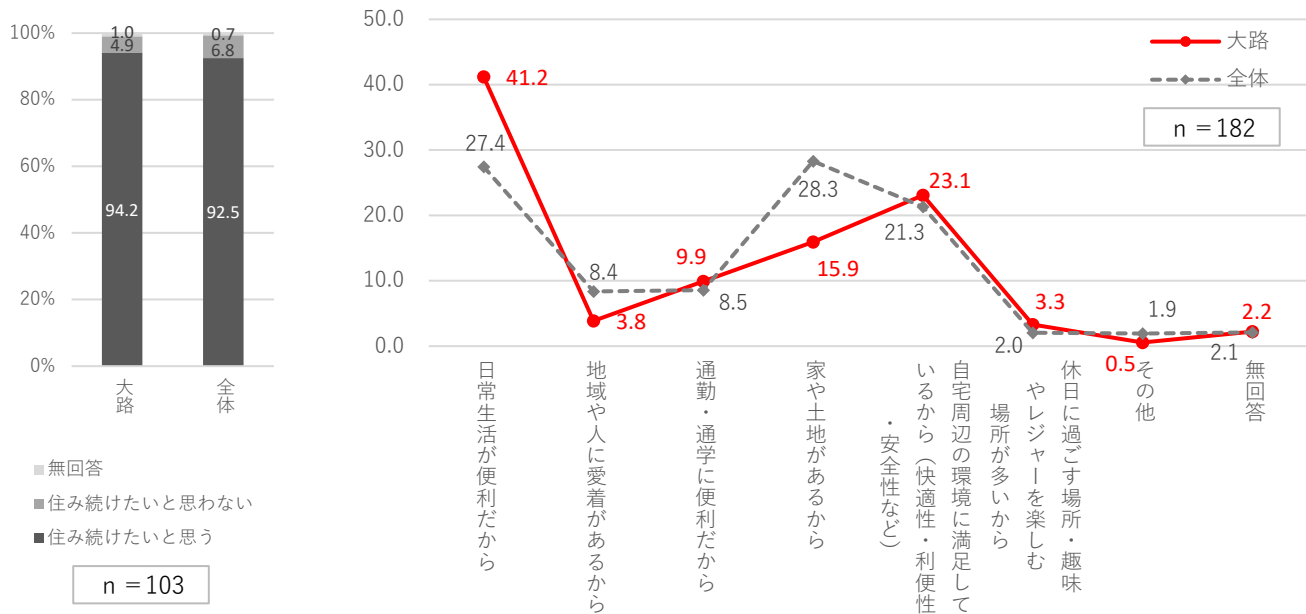
回収率：39.8

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

大路区の居住継続意向については、94.2%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より1.7%高くなっています。

住み続けたい理由については、「日常生活が便利だから」（41.2%）、「自宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）」（23.1%）の回答が多くなっています。

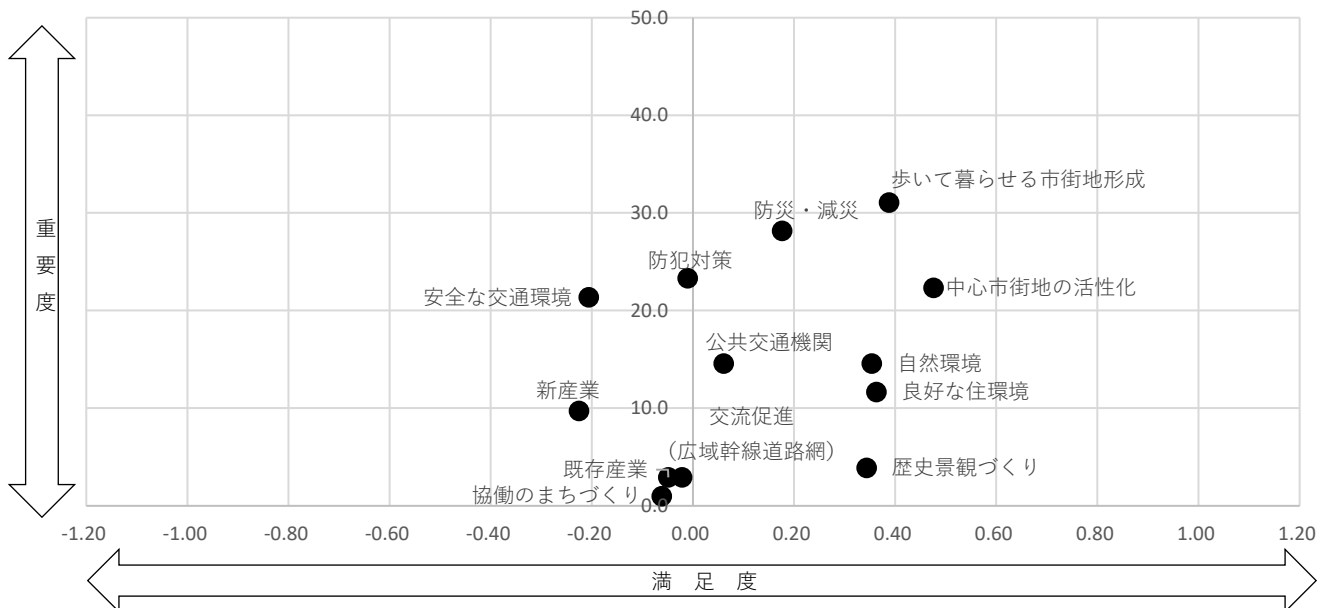
市全体の回答と比較すると、「日常生活が便利だから」が13.8%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

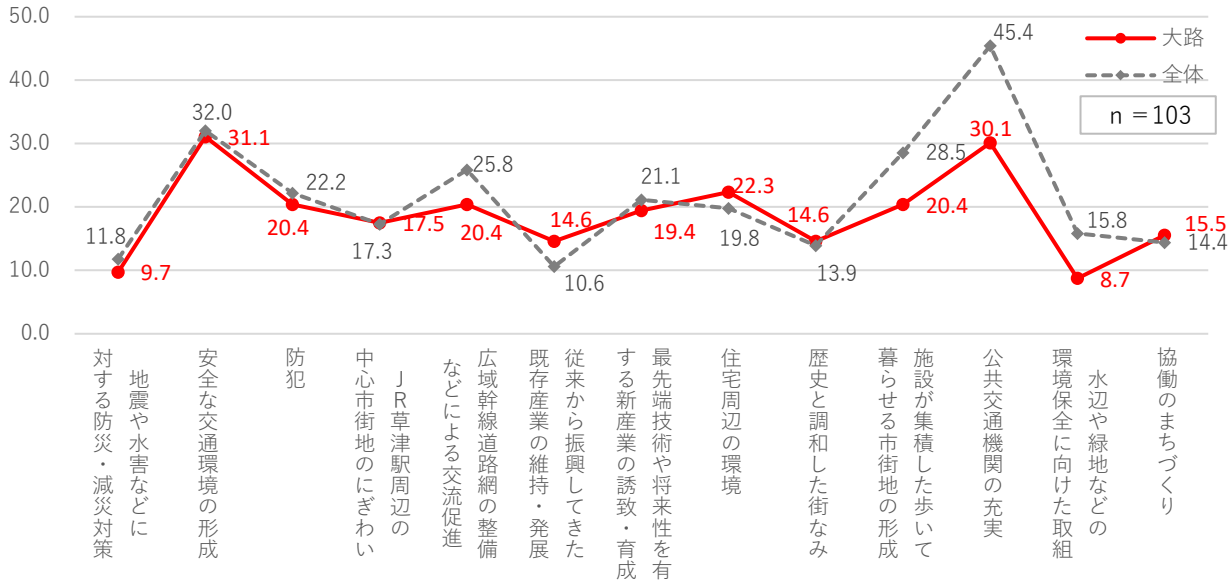
大路区の各分野の不満足度と重要度を比較すると、「安全な交通環境」及び「防犯対策」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。



※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満足度

大路区の方野別の不満足度は、「安全な交通環境の形成」(31.1%)、「公共交通機関の充実」(30.1%)、「住宅周辺の環境」(22.3%)、「防犯」が高くなっています。

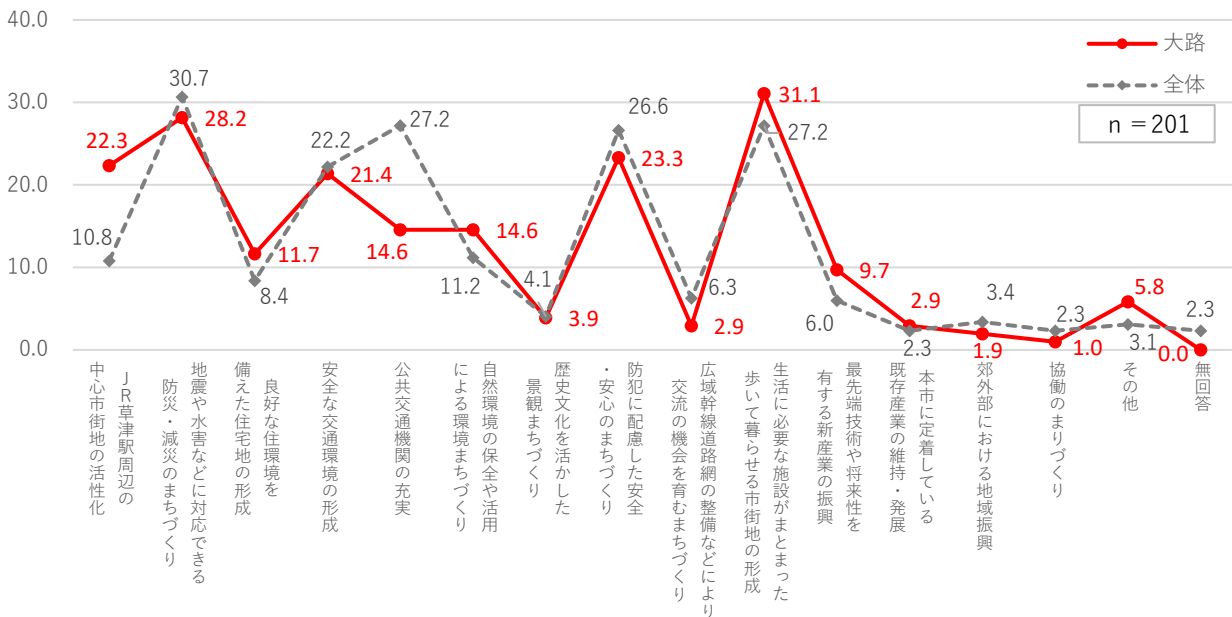


※不満足度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

大路区重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」(31.1%)、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(28.2%)、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(23.3%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「JR草津駅周辺の中心市街地の活性化」が11.5%高くなっています。

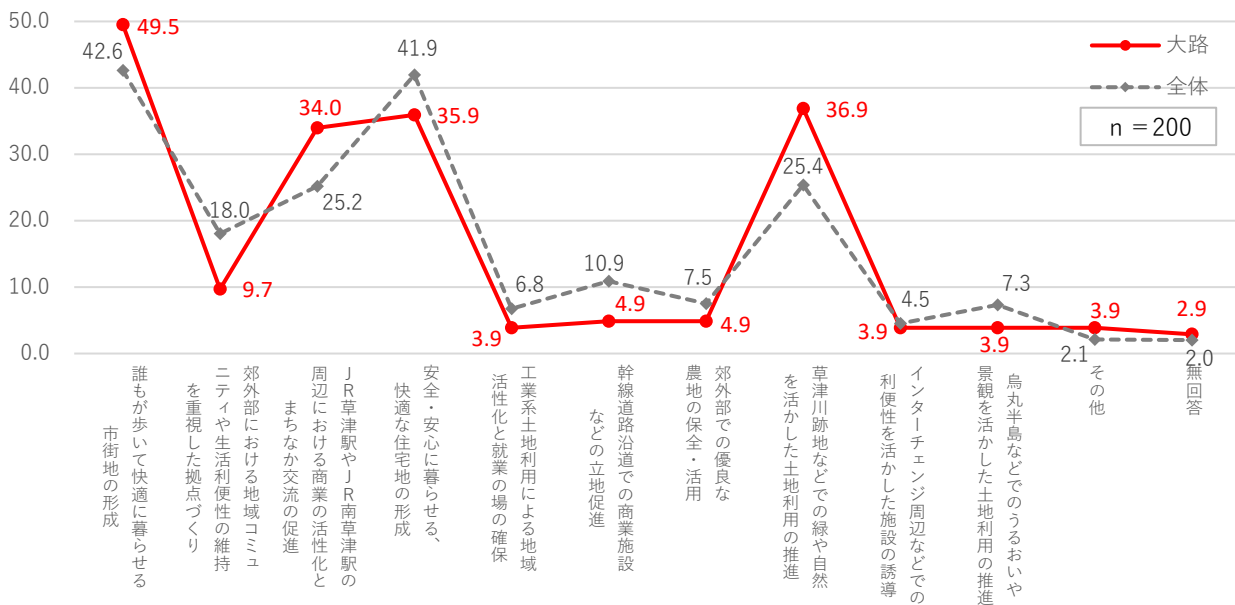


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

大路区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(49.5%)、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」(36.9%)、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(35.9%)、「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」(34.0%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」が6.9%、「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」が8.8%、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」が11.5%高くなっています。

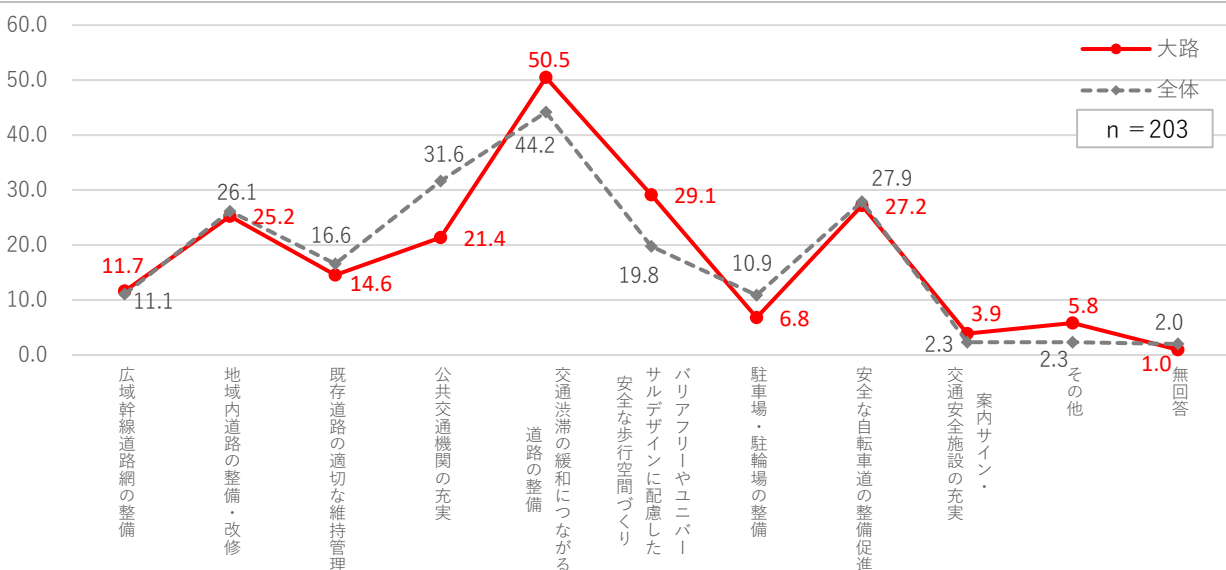


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針 (道路・交通環境)

大路区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(50.5%)、「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間づくり」(29.1%)、「安全な自転車道の整備促進」(27.2%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」が6.3%、「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間づくり」が9.3%高くなっています。

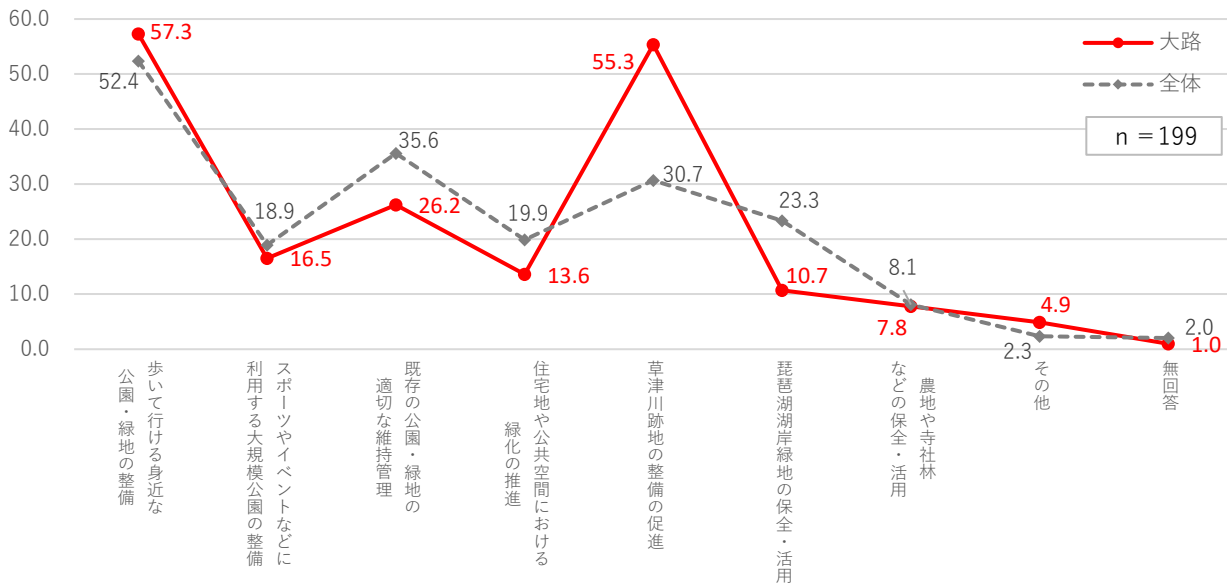


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

大路区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（57.3%）、「草津川跡地の整備の促進」（55.3%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（26.2%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「草津川跡地の整備の促進」が24.6%高くなっています。

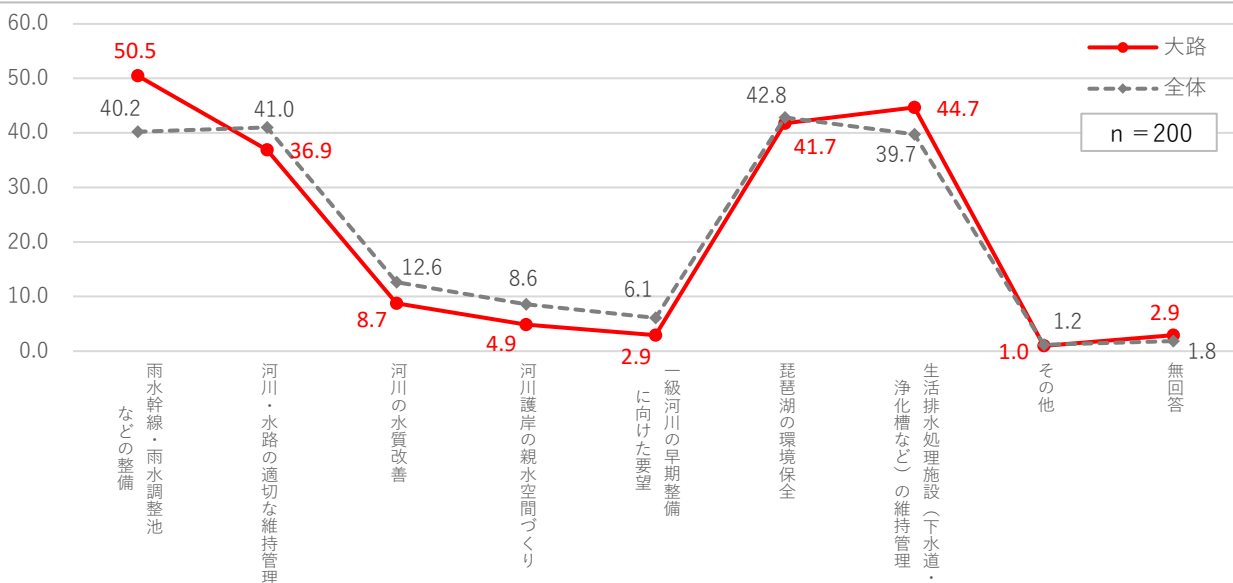


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

大路区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（50.5%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（44.7%）、「琵琶湖の環境保全」（41.7%）、「河川・水路の適切な維持管理」（36.9%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」が10.3%、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」が5.0%高くなっています。

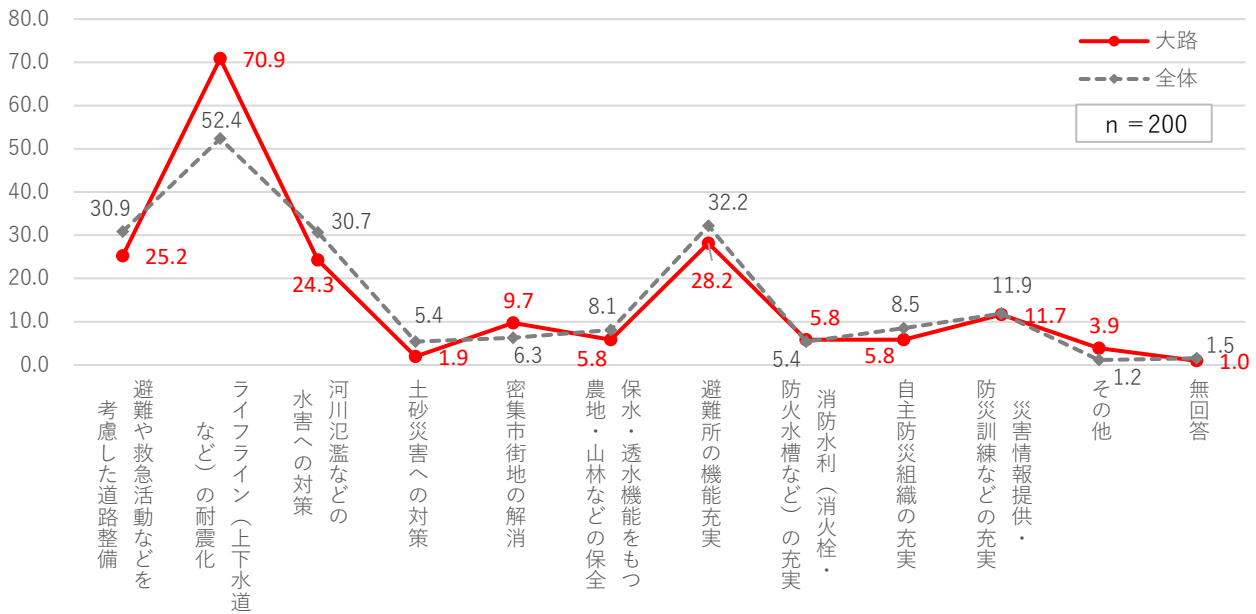


※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

大路区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（70.9%）、「避難所の機能充実」（28.2%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（25.2%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」が18.5%高くなっています。

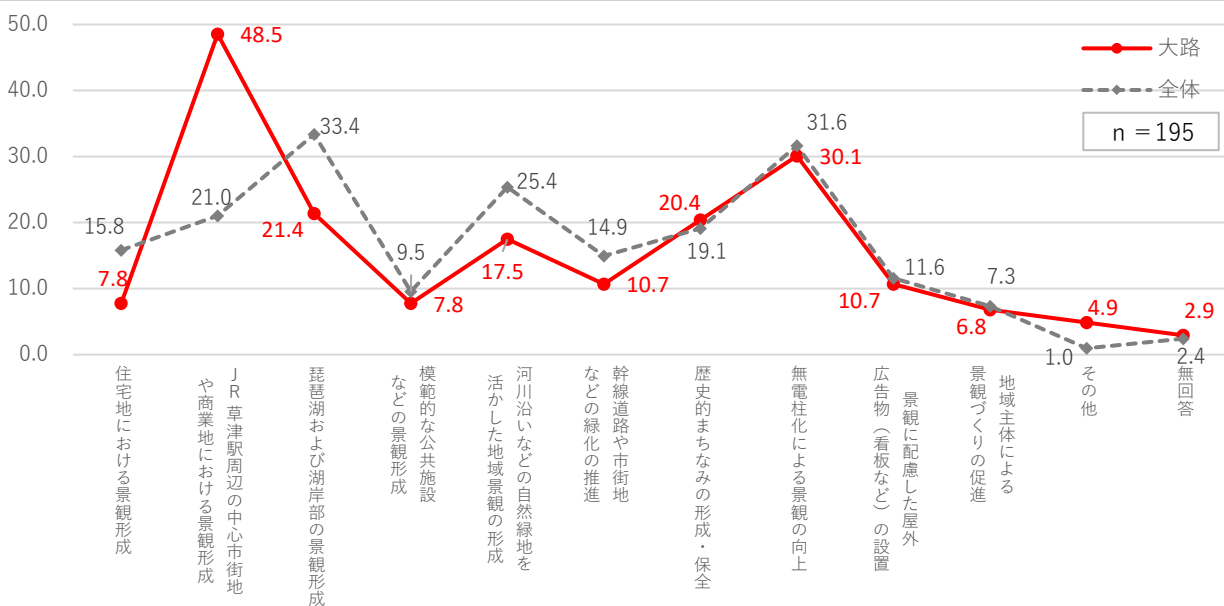


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

大路区の景観に関して重要と思われる施策は、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」（48.5%）、「無電柱化による景観の向上」（30.1%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」が27.5%高くなっています。

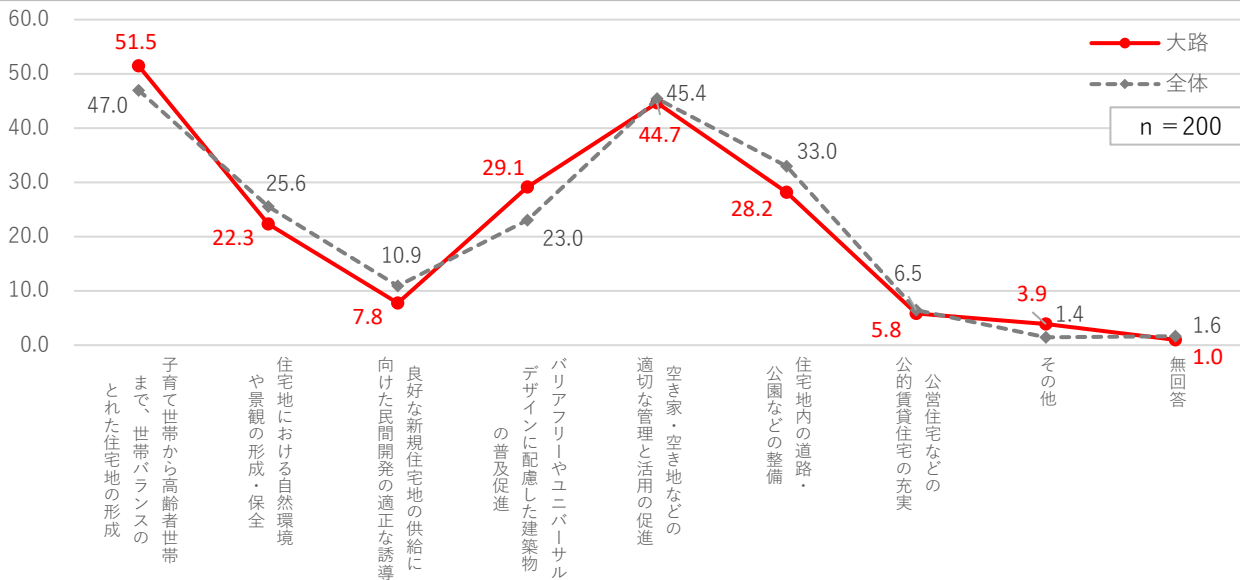


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

大路区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（51.5%）、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（44.7%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した建築物の普及促進」が6.1%高くなっています。

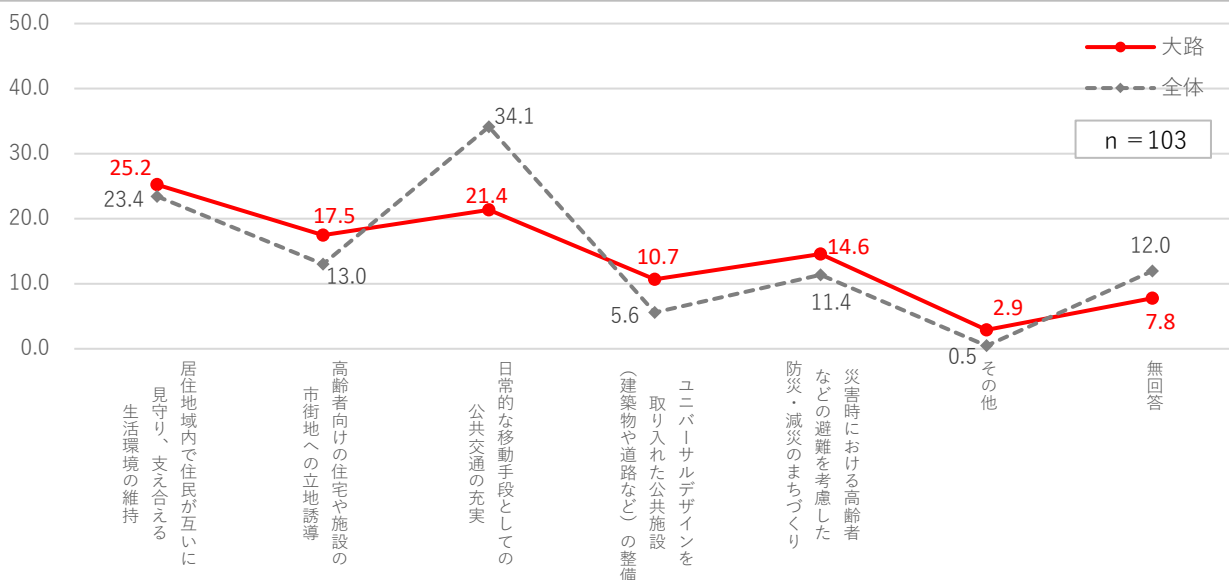


※2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

大路区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（25.2%）、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（21.4%）の回答が多くなっています。

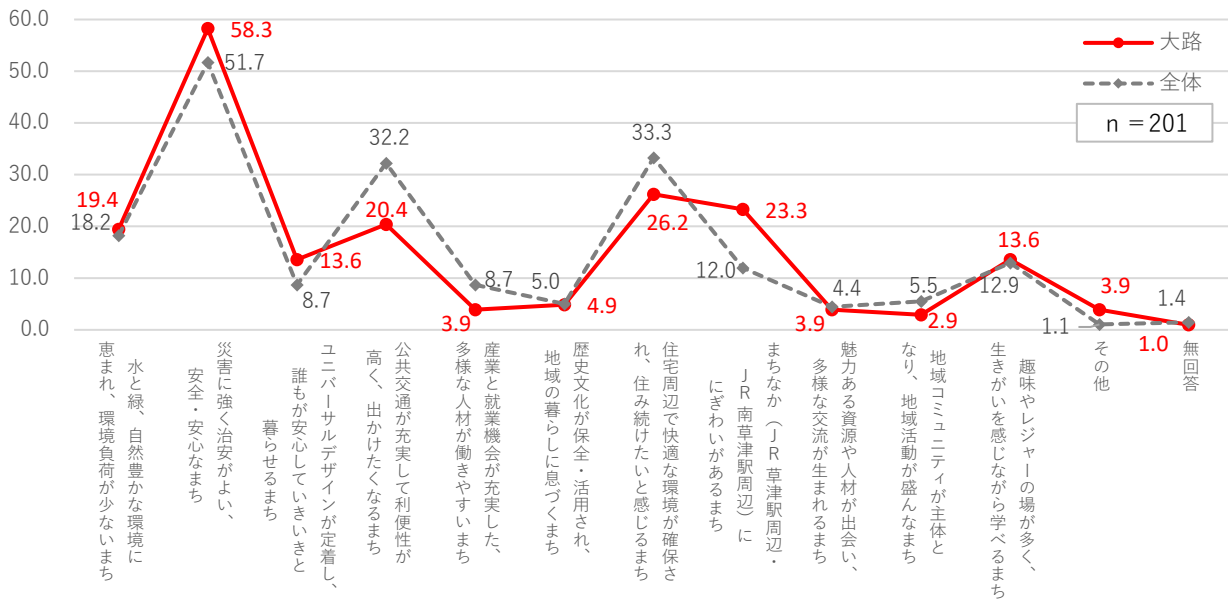
市全体の回答と比較すると、「ユニバーサルデザインを取り入れた公共施設（建築物や道路など）の整備」が5.1%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

大路区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（58.3%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（26.2%）、「まちなか（JR草津駅周辺・JR南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち」（23.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」が6.6%、「まちなか（JR草津駅周辺・JR南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち」が11.3%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 渋川学区】

配布数：213

回答数：69

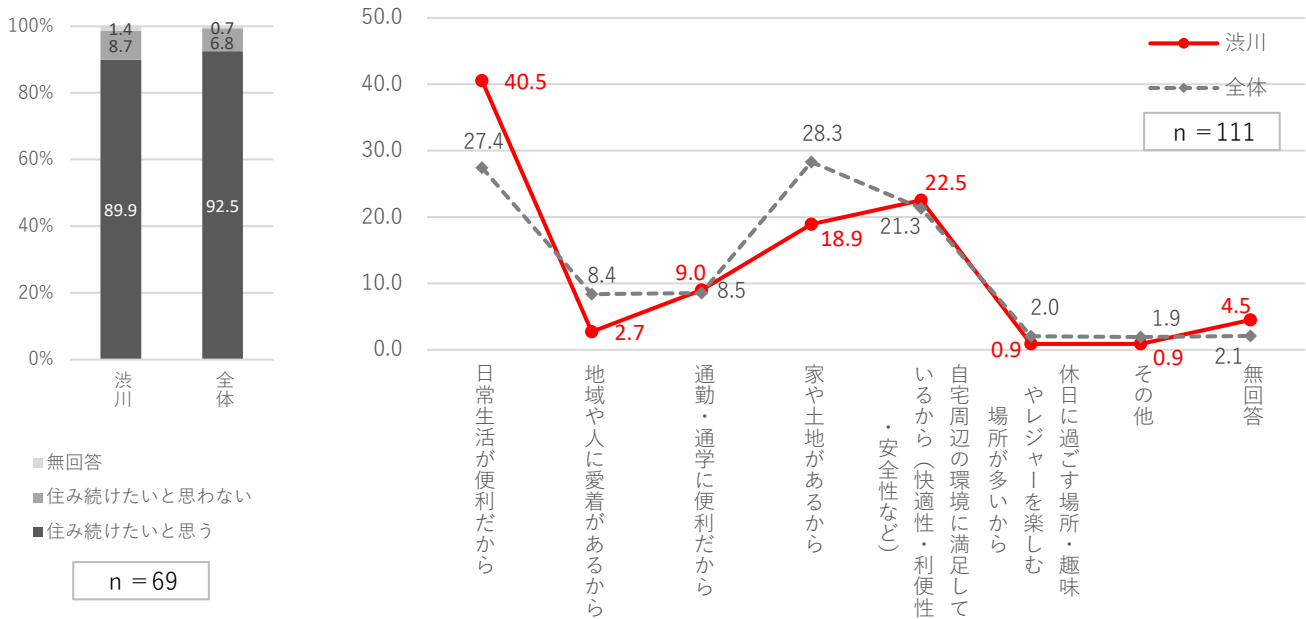
回収率：32.4

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

渋川学区の居住継続意向については、89.9%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より2.6%低くなっています。

住み続けたい理由については、「日常生活が便利だから」（40.5%）、「自宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）」（22.5%）の回答が多くなっています。

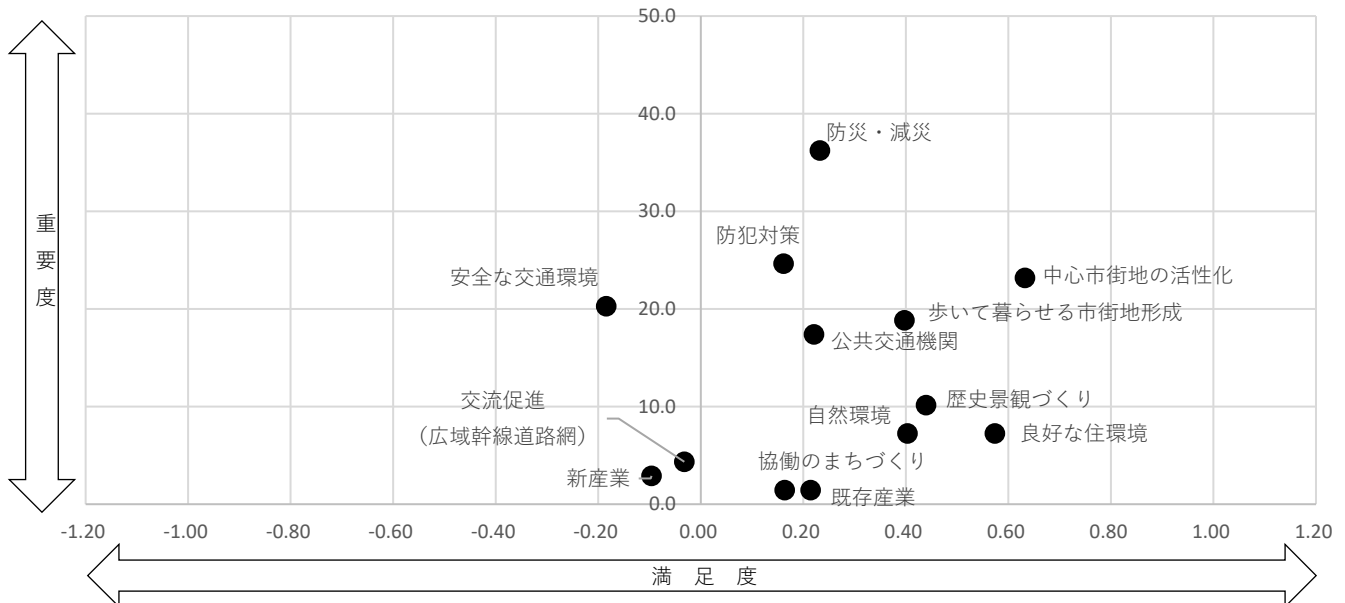
市全体の回答と比較すると、「日常生活が便利だから」が13.1%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

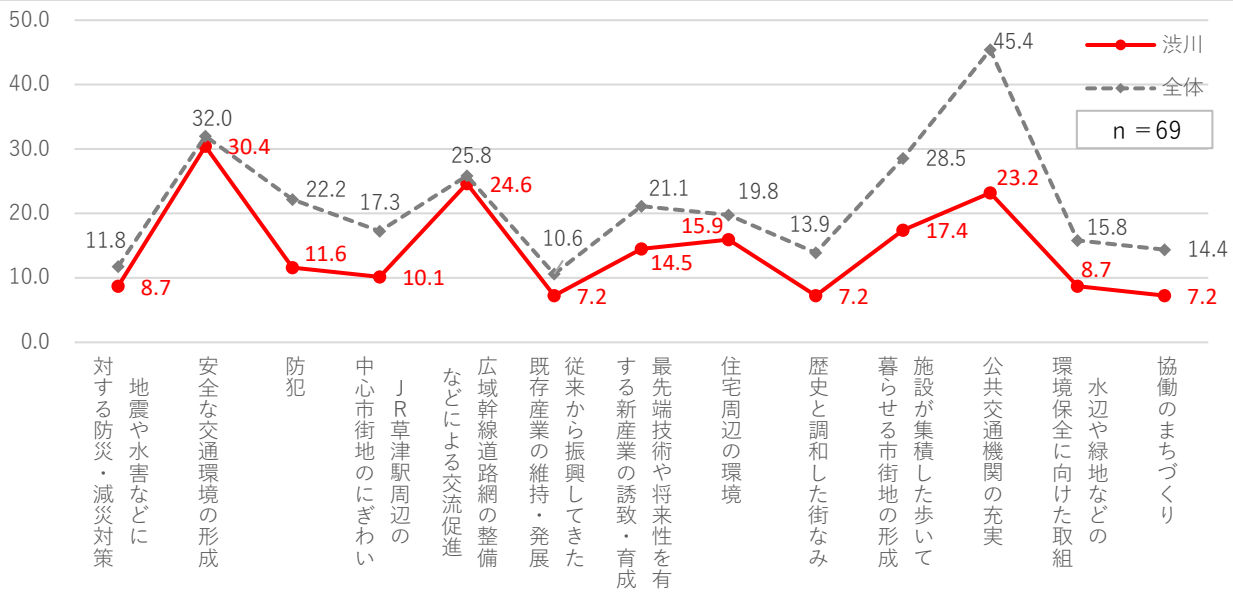
渋川学区の各分野の不満足度と重要度を比較すると、「安全な交通環境」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。



※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

渋川学区の分野別の不満度は、「安全な交通環境の形成」(30.4%)、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」(24.6%)、「公共交通機関の充実」(23.2%)が高くなっています。

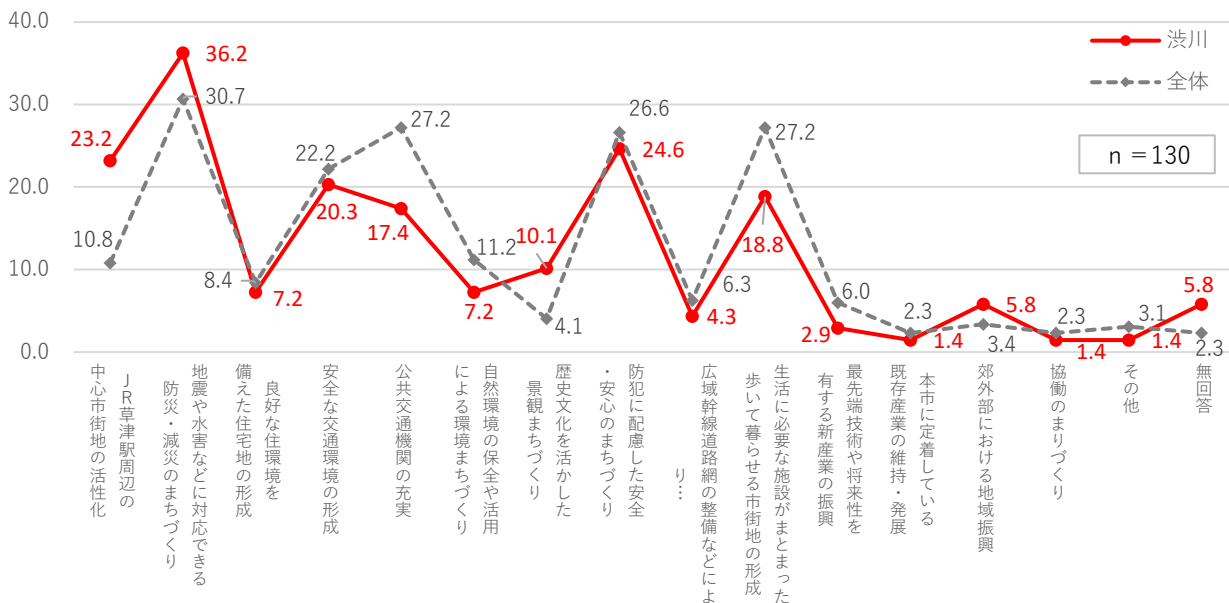


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

渋川学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(36.2%)、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(24.6%)、「JR草津駅周辺の中心市街地の活性化」(23.2%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「JR草津駅周辺の中心市街地の活性化」が12.4%、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」が5.5%、「歴史文化を活かした景観まちづくり」が6.0%高くなっています。

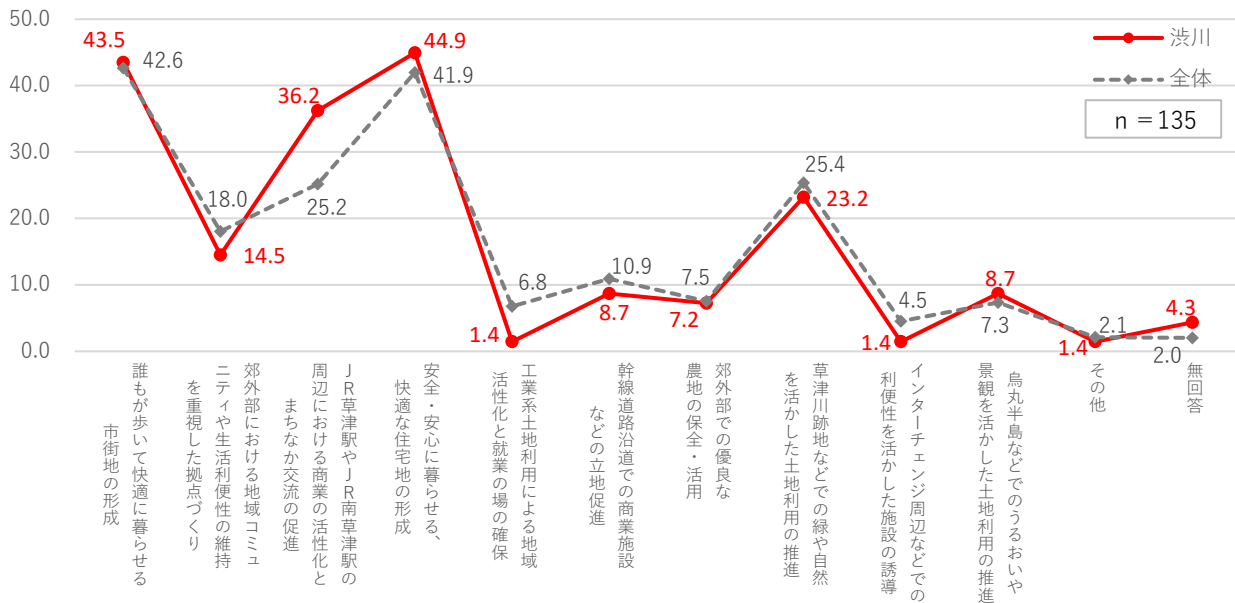


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

渋川学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(44.9%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(43.5%)、「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」(36.2%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」が11.0%高くなっています。

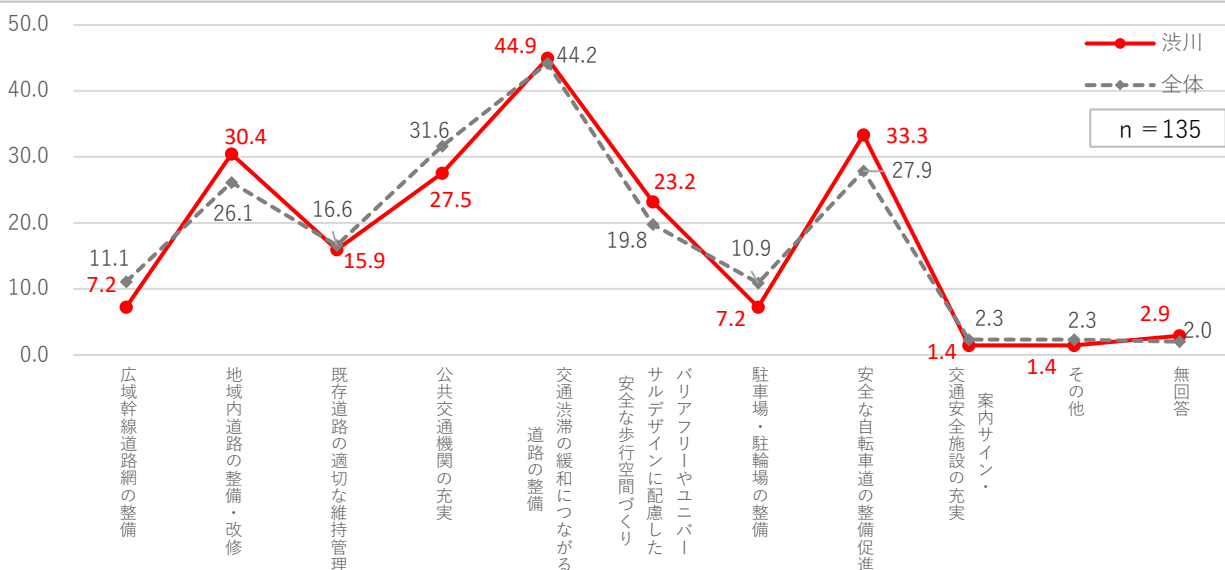


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針 (道路・交通環境)

渋川学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(44.9%)、「安全な自転車道の整備促進」(33.3%)、「地域内道路の整備・改修」(30.4%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「安全な自転車道の整備促進」が5.4%高くなっています。

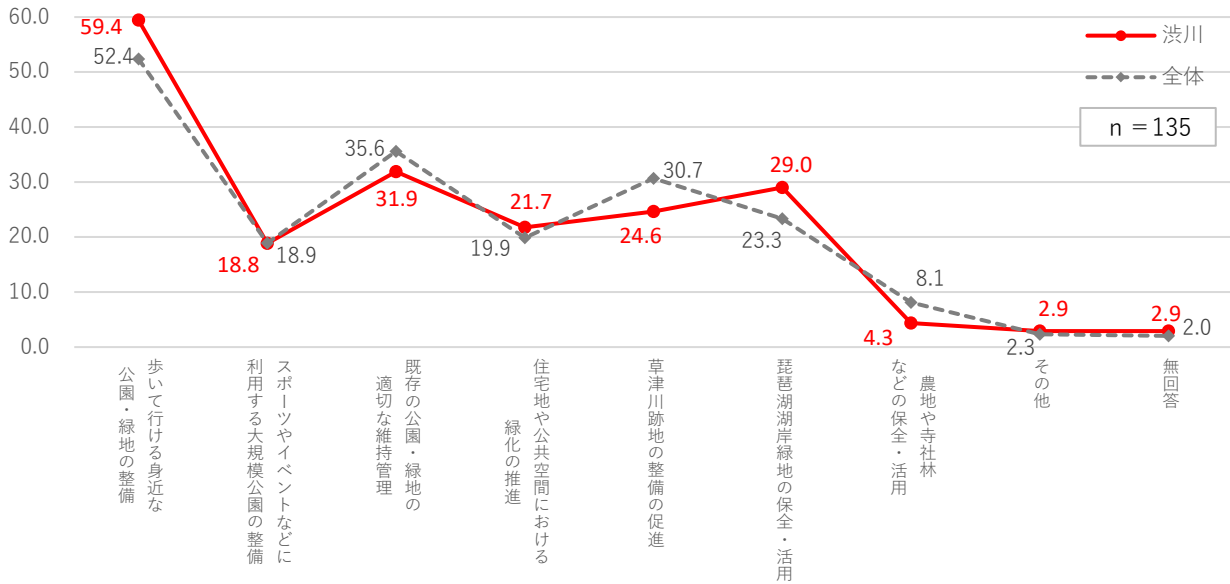


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

渋川学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（59.4%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（31.9%）、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」（29.0%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」が7.0%、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」が5.7%高くなっています。

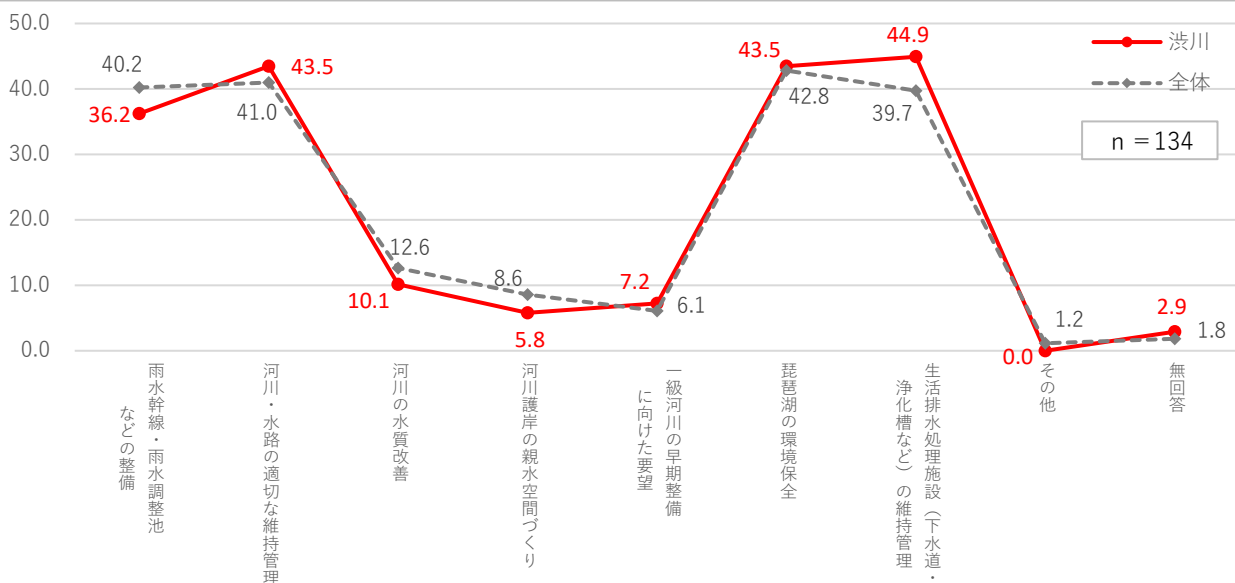


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

渋川学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（44.9%）、「河川・水路の適切な維持管理」及び「琵琶湖の環境保全」（43.5%）の回答が多くなっています。

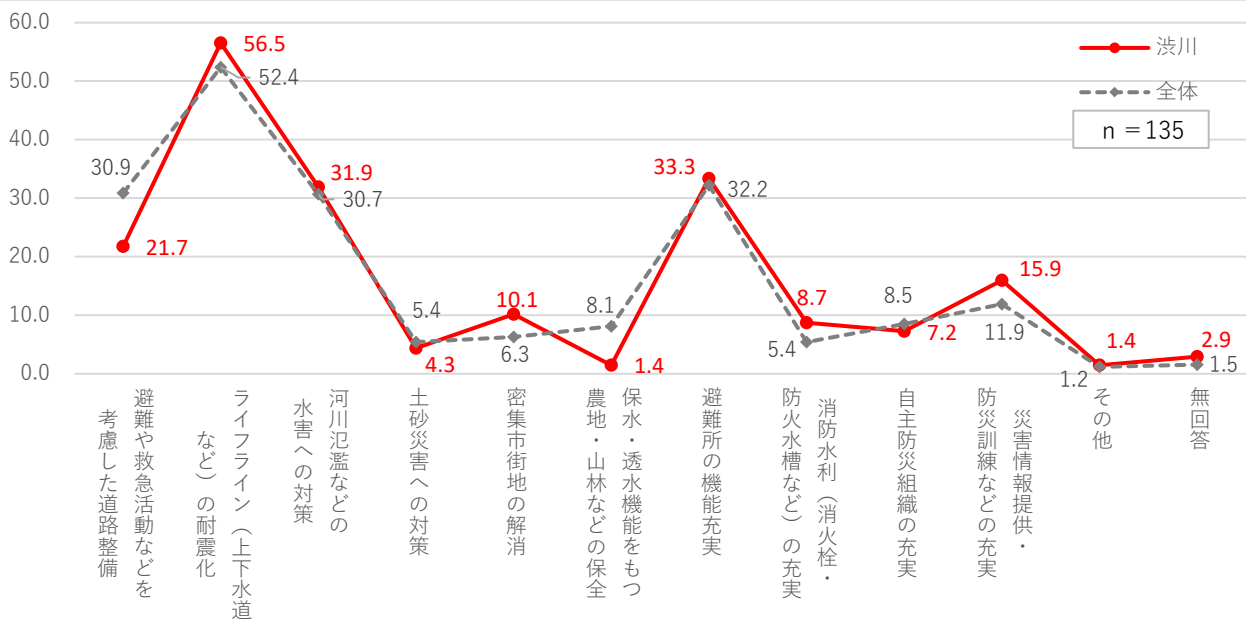
市全体の回答と比較すると、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」が5.2%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

渋川学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（56.5%）、「避難所の機能充実」（33.3%）、「河川氾濫などの水害への対策」（31.9%）の回答が多くなっています。

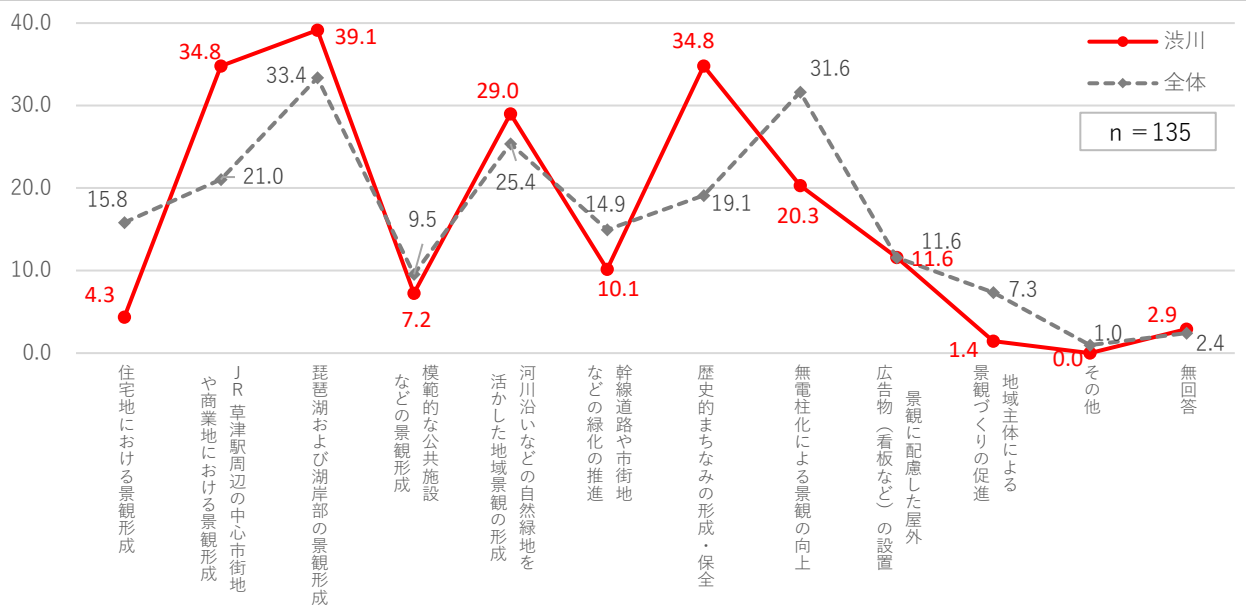


※ 2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

渋川学区の景観に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（39.1%）、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」及び「歴史的まちなみの形成・保全」（34.8%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」が13.8%、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」が5.7%、「歴史的まちなみの形成・保全」が15.7%高くなっています。

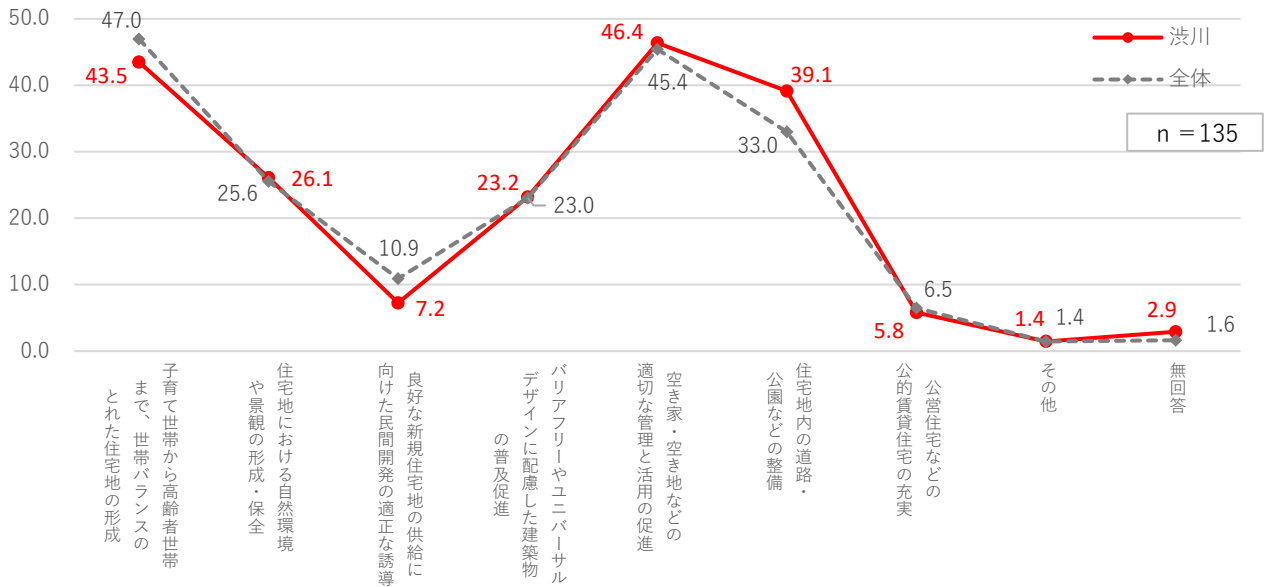


※ 2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

渋川学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（46.4%）、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（43.5%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（39.1%）の回答が多くなっています。

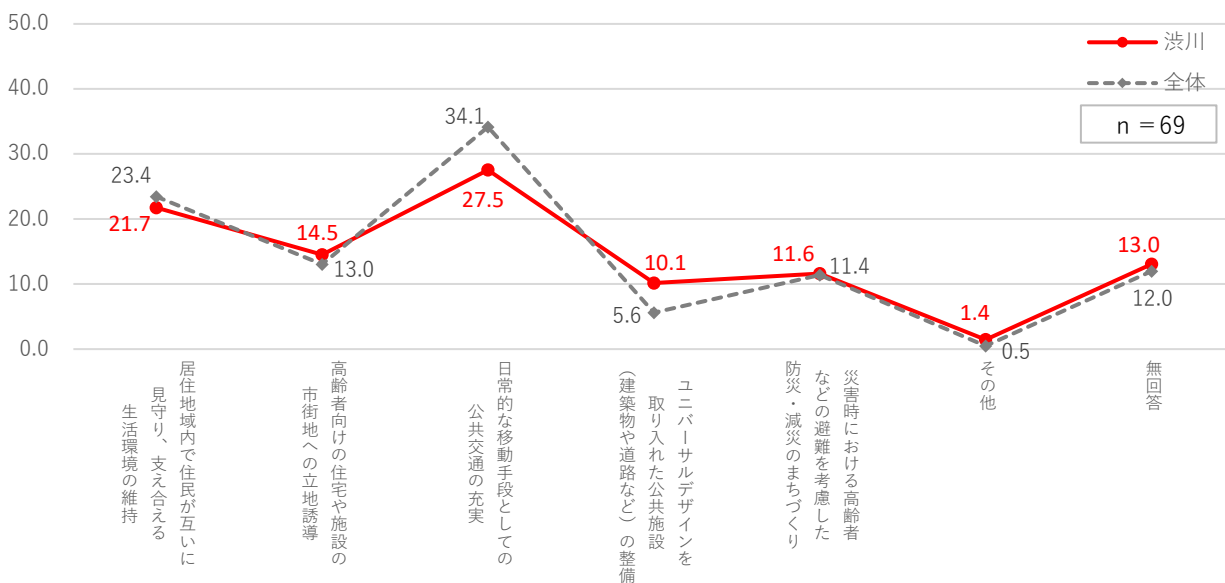
市全体の回答と比較すると、「住宅地内の道路・公園などの整備」が6.1%高くなっています。



※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

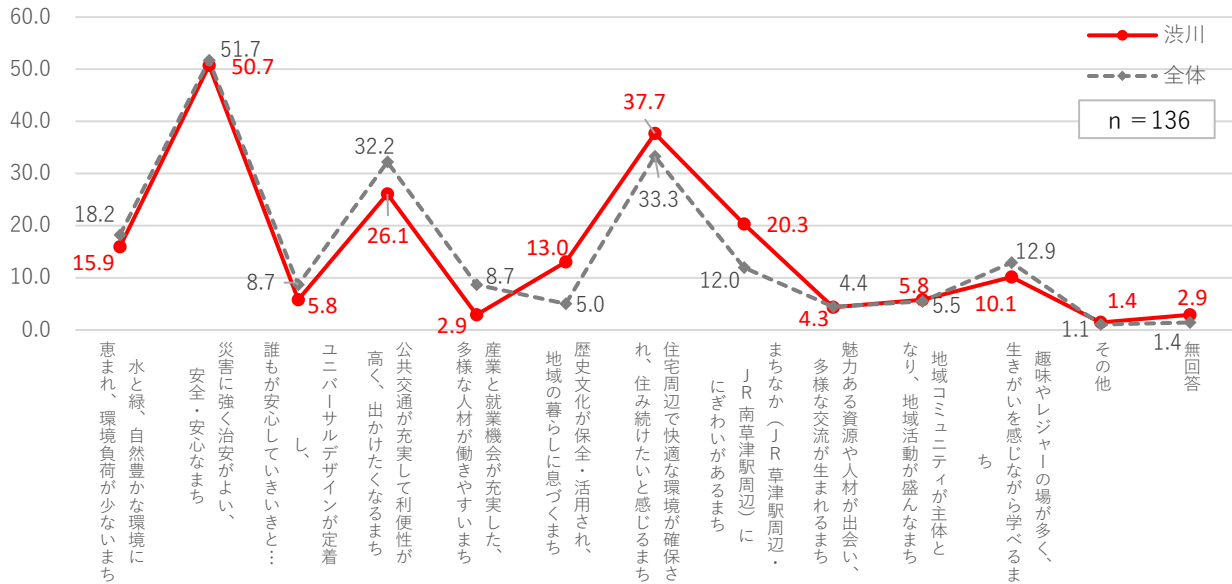
渋川学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（27.5%）、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（21.7%）の回答が多くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

渋川学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（50.7%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（37.7%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（26.1%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「歴史文化が保全・活用され、地域の暮らしに息づくまち」が8.0%、「まちなか（JR 草津駅周辺・JR 南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち」が8.3%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 矢倉学区】

配布数：221

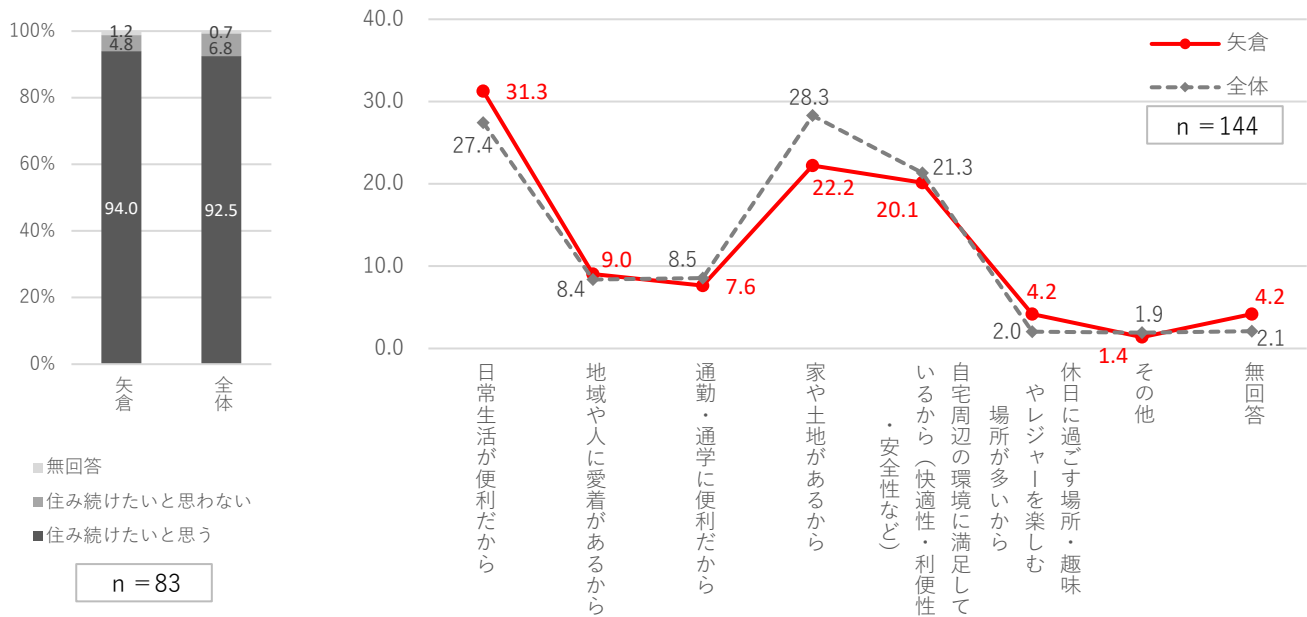
回答数：83

回収率：37.6

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

矢倉学区の居住継続意向については、94.0%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より1.5%高くなっています。

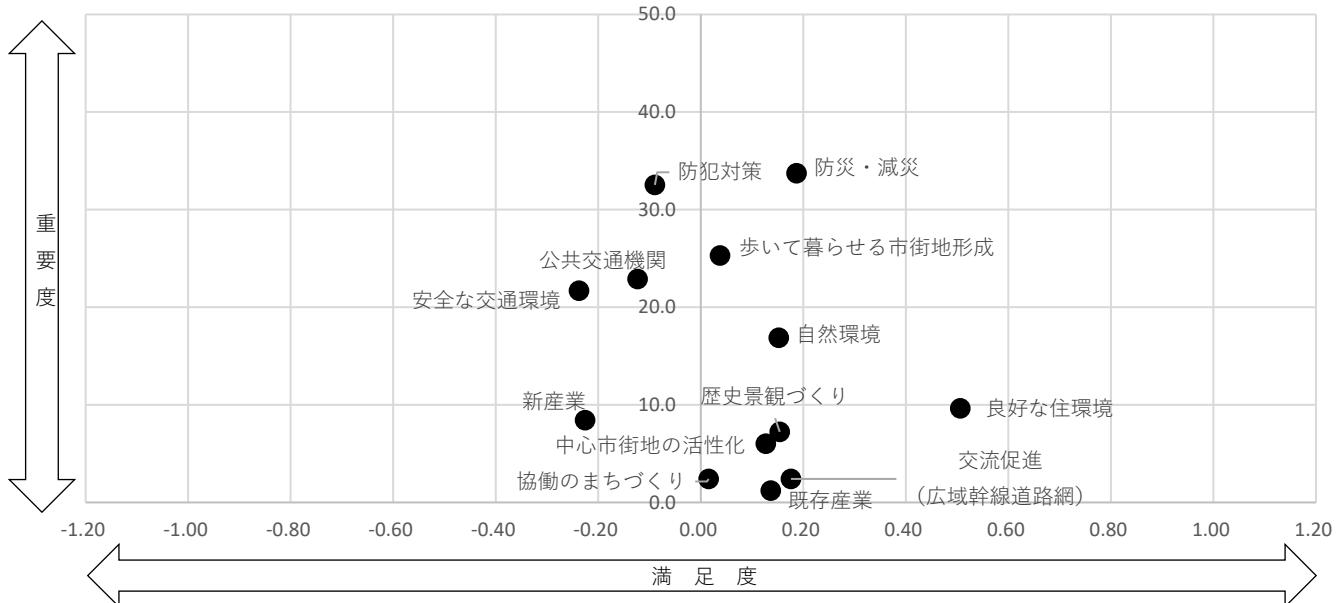
住み続けたい理由については、「日常生活が便利だから」（31.3%）、「家や土地があるから」（22.2%）、「自宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）」（20.1%）の回答が多くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

矢倉学区の各分野の不満足度と重要度を比較すると、「防犯対策」、「公共交通機関」及び「安全な交通環境」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

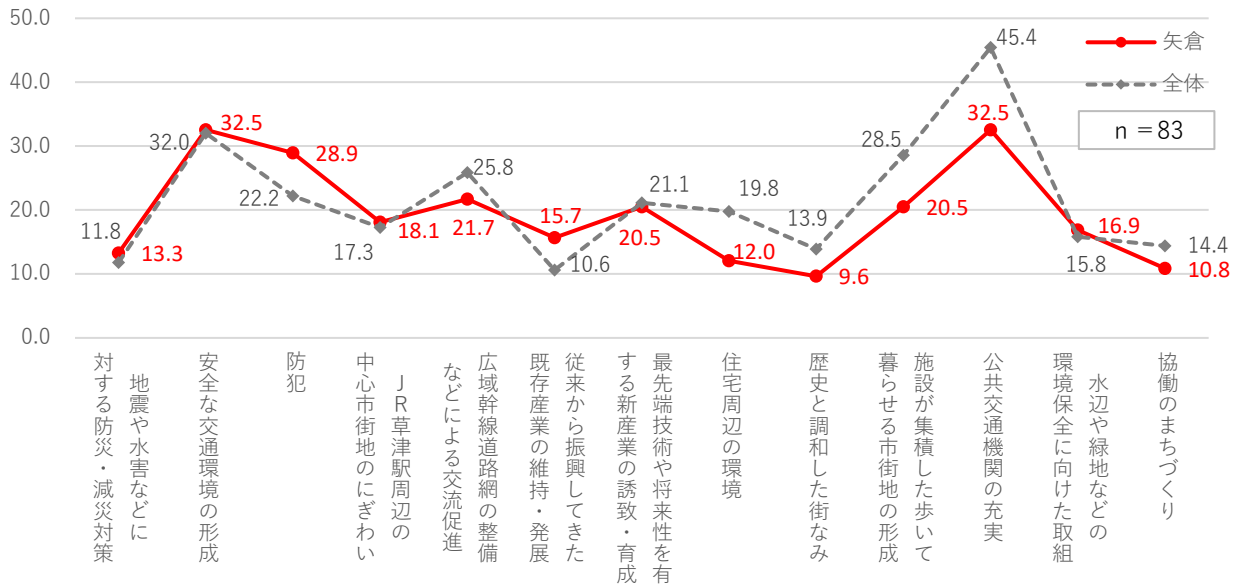


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

矢倉学区の分野別の不満度は、「安全な交通環境の形成」及び「公共交通機関の充実」（32.5%）、「防犯」（28.9%）、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」（21.7%）が高くなっています。

市全体の回答と比較すると、「防犯」が6.7%、「従来から進行してきた既存産業の維持・発展」が5.1%高くなっています。

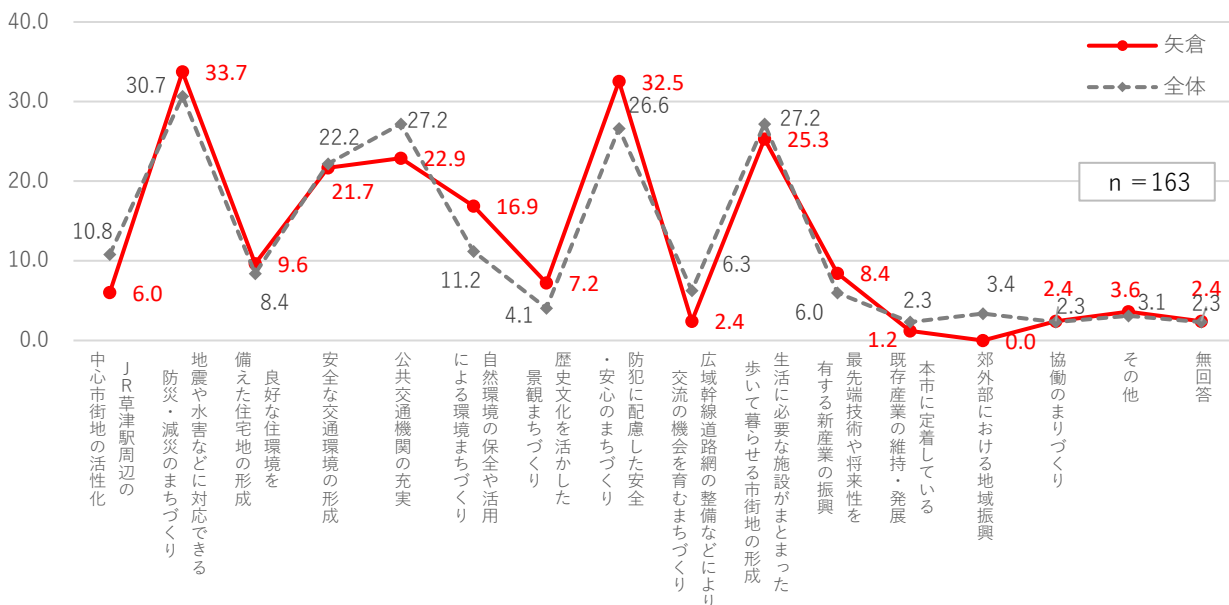


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

矢倉学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」（33.7%）、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」（32.5%）、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」（25.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「自然環境の保全や活用による環境まちづくり」が5.7%、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」が5.9%高くなっています。

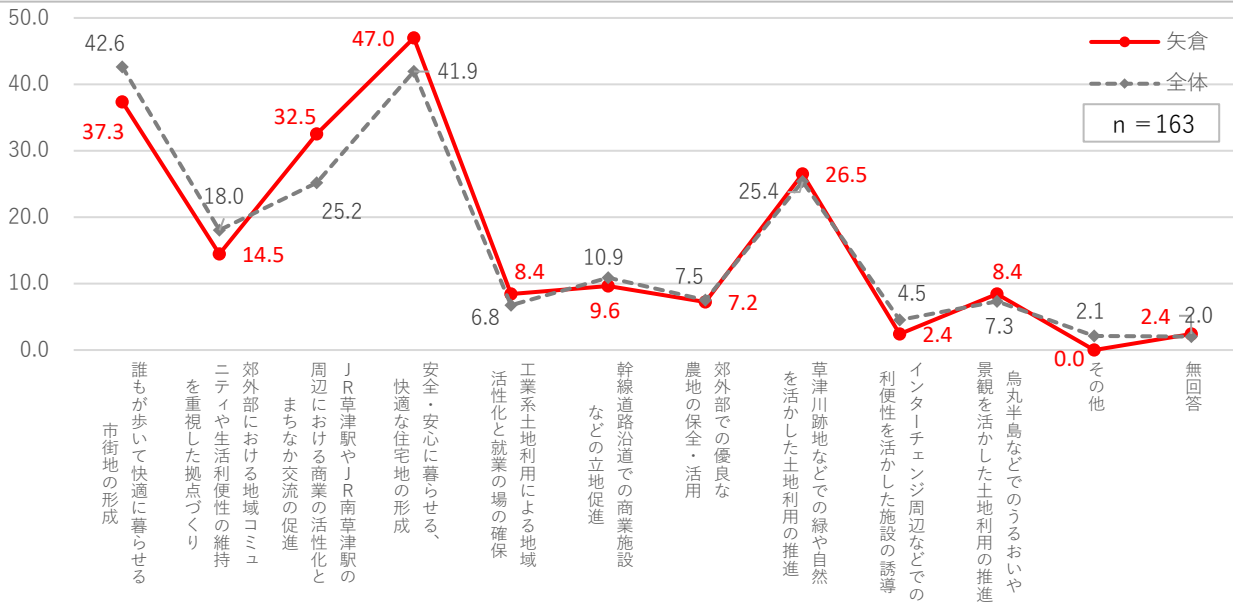


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

矢倉学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(47.0%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(37.3%)、「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」(32.5%)の回答が多くなっています。

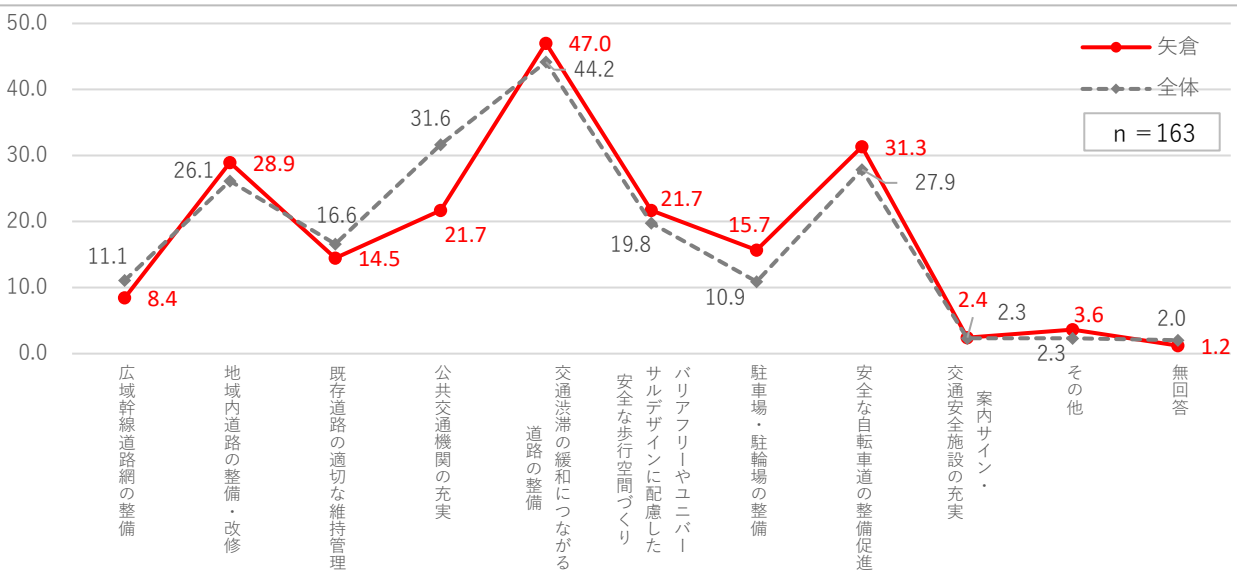
市全体の回答と比較すると、「J R草津駅やJ R南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」が7.3%、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」が5.1%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針 (道路・交通環境)

矢倉学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(47.0%)、「安全な自転車道の整備促進」(31.3%)、「地域内道路の整備・改修」(28.9%)の回答が多くなっています。

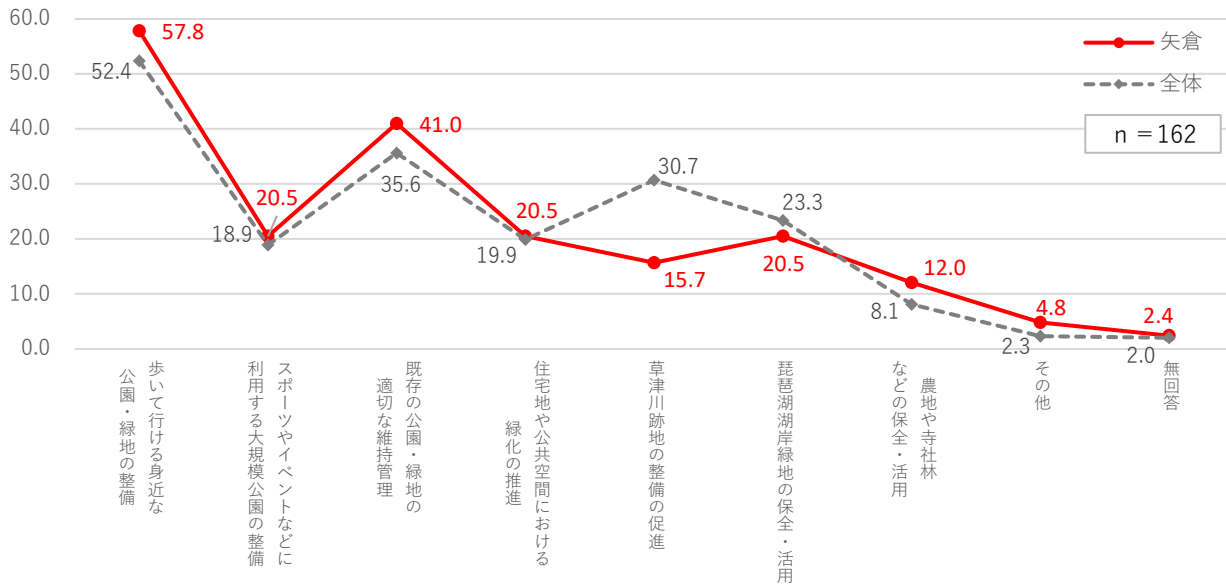


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

矢倉学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（57.8%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（41.0%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」及び「既存の公園・緑地の適切な維持管理」が5.4%高くなっています。

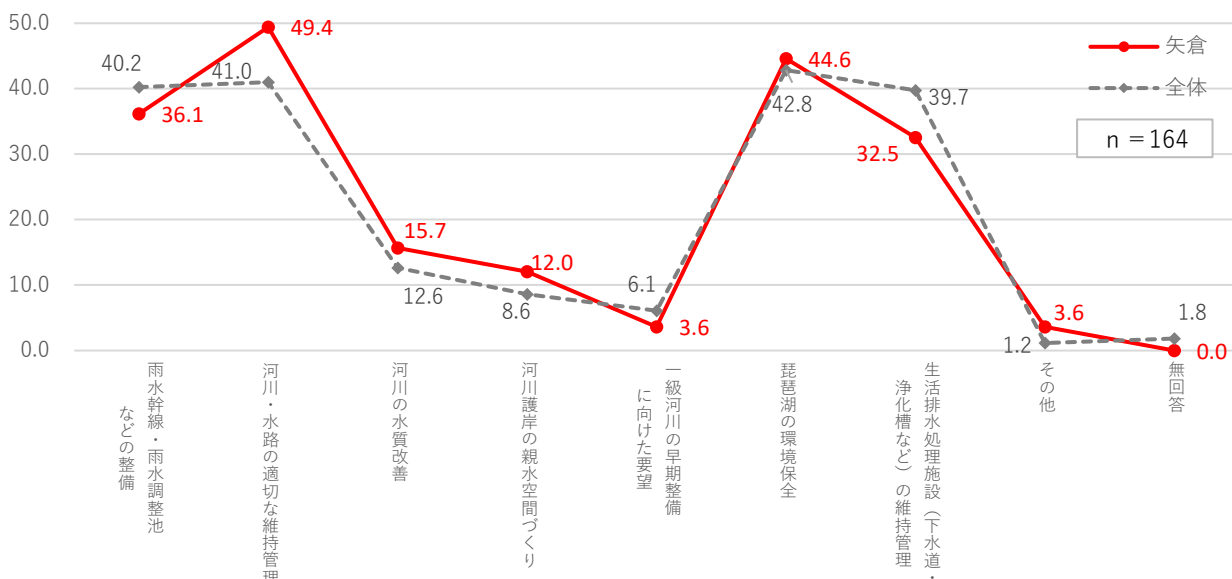


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

矢倉学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「河川・水路の適切な維持管理」（49.4%）、「琵琶湖の環境保全」（44.6%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（36.1%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「河川・水路の適切な維持管理」が8.4%高くなっています。

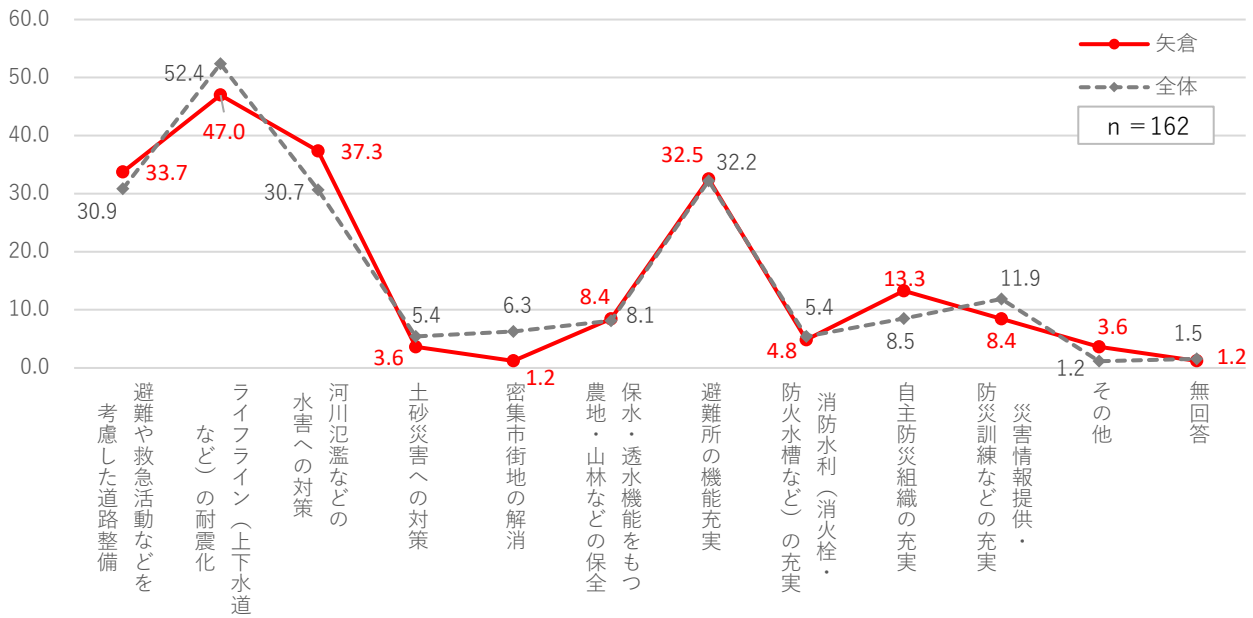


※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

矢倉学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（47.0%）、「河川氾濫などの水害への対策」（37.3%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（33.7%）、「避難所の機能充実」（32.5%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「河川氾濫などの水害への対策」が6.6%高くなっています。

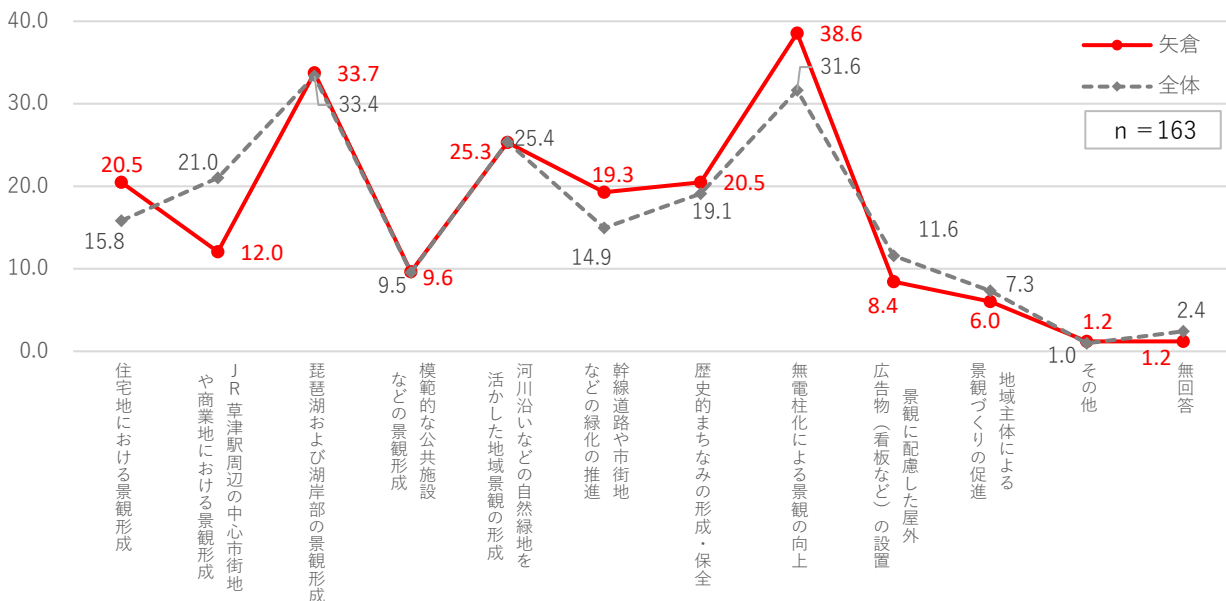


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

矢倉学区の景観に関して重要と思われる施策は、「無電柱化による景観の向上」（38.6%）、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（33.7%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（25.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「無電柱化による景観の向上」が7.0%高くなっています。

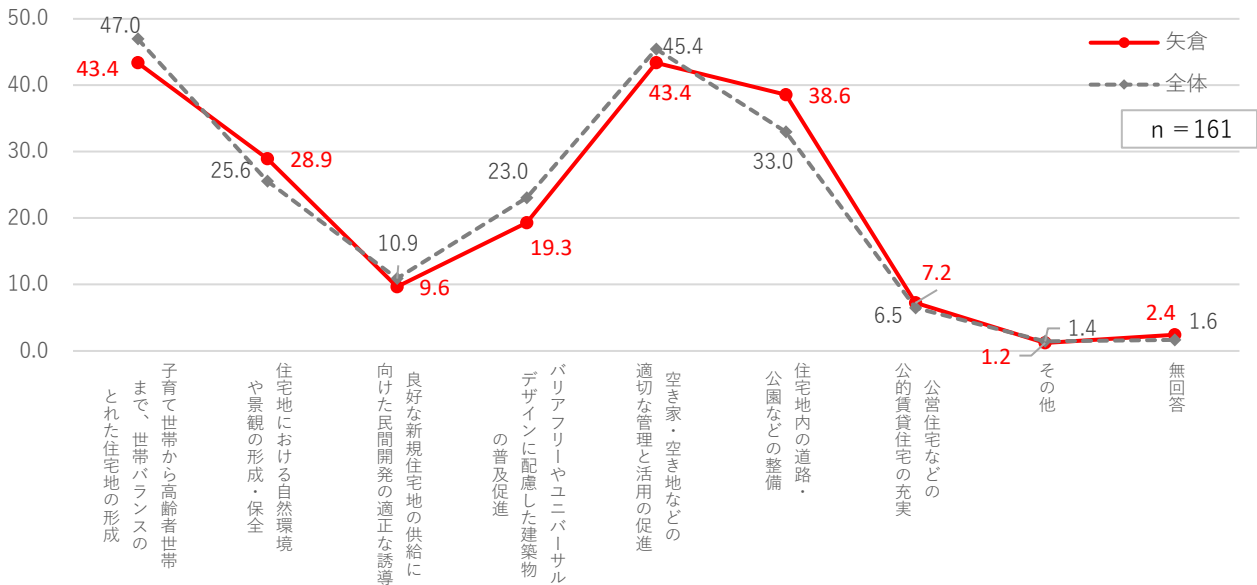


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

矢倉学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」及び「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（43.4%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（38.6%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「住宅地内の道路・公園などの整備」が5.6%高くなっています。

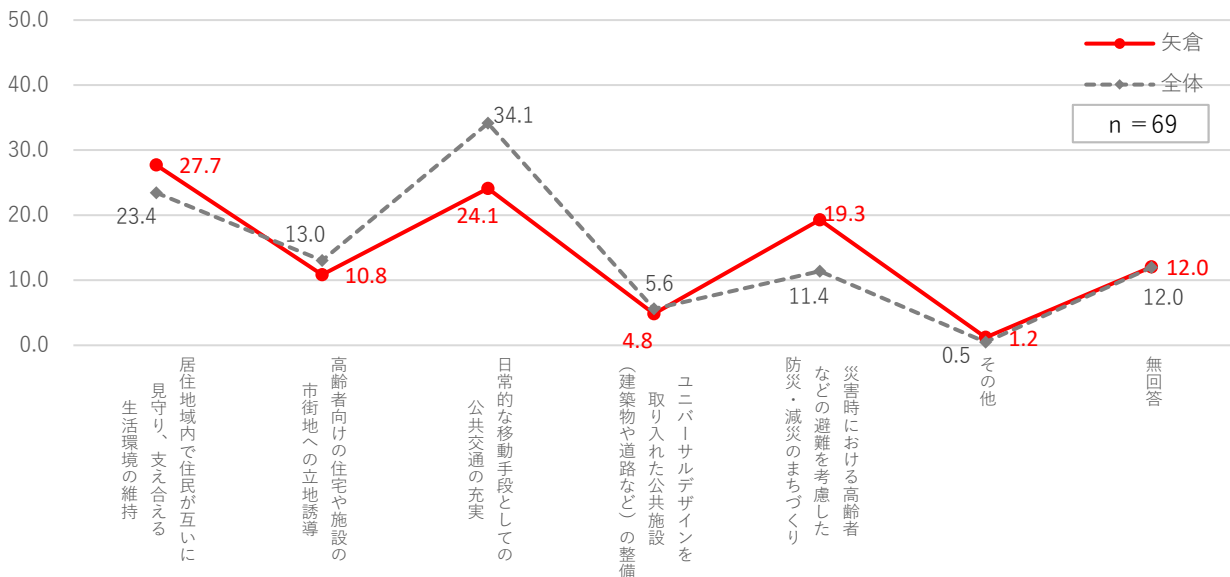


※2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

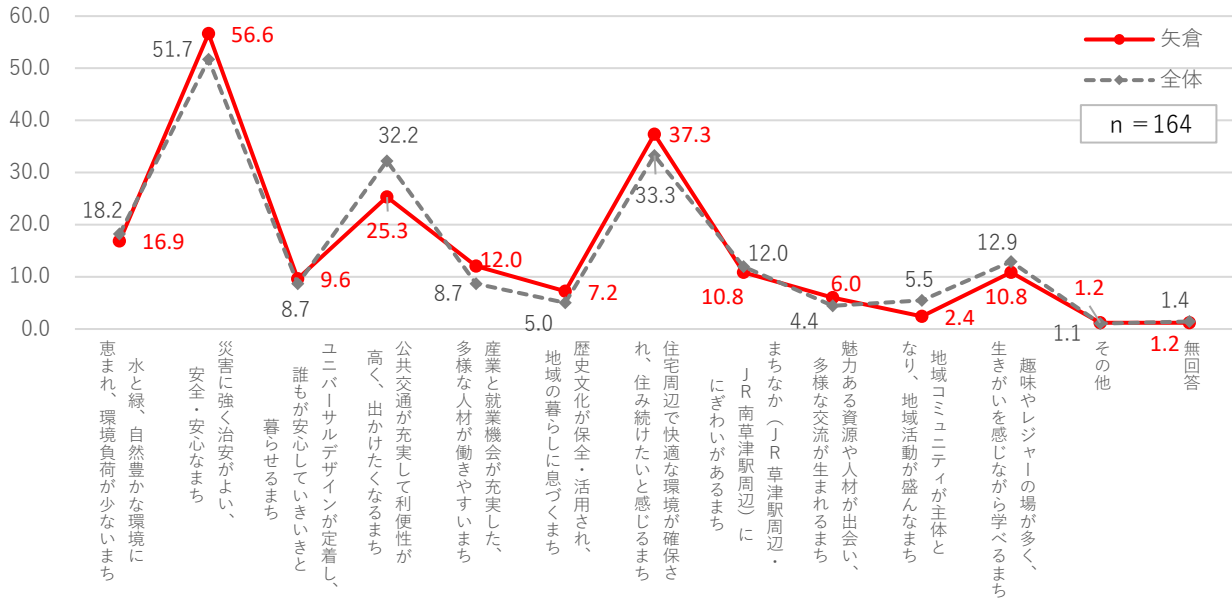
矢倉学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（27.7%）、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（24.1%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「災害時における高齢者などの避難を考慮した防災・減災のまちづくり」が7.9%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

矢倉学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（56.6%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（37.3%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（25.3%）の回答が多くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 老上学区】

配布数：206

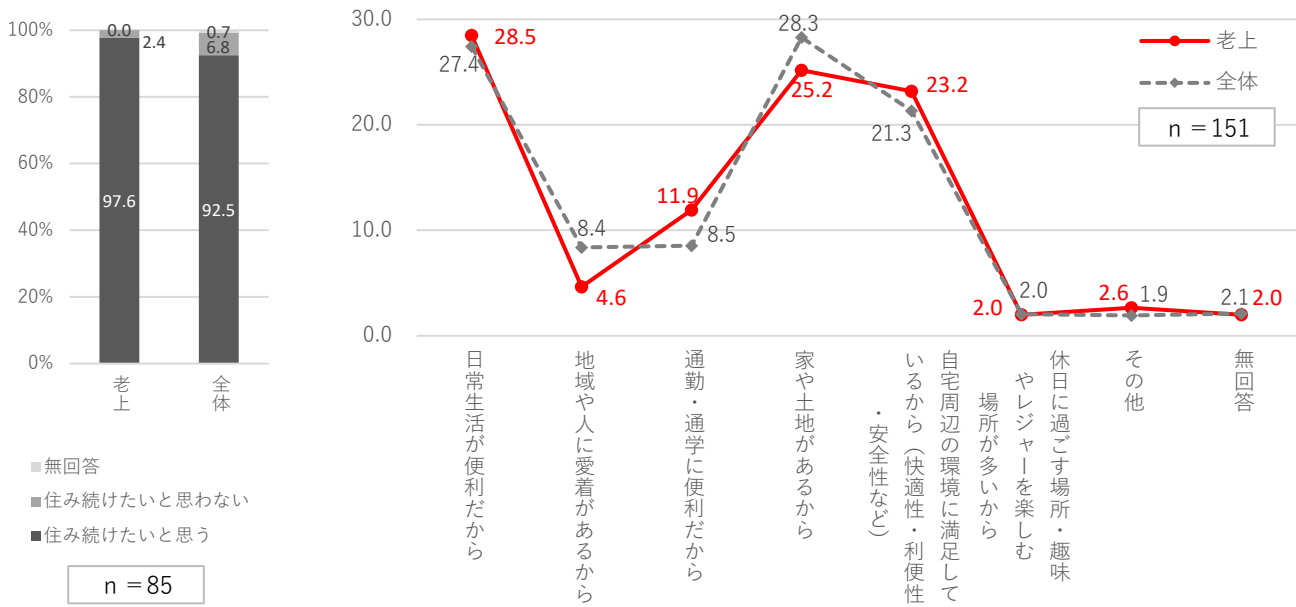
回答数：85

回収率：41.3

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

老上学区の居住継続意向については、97.6%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より5.1%高くなっています。

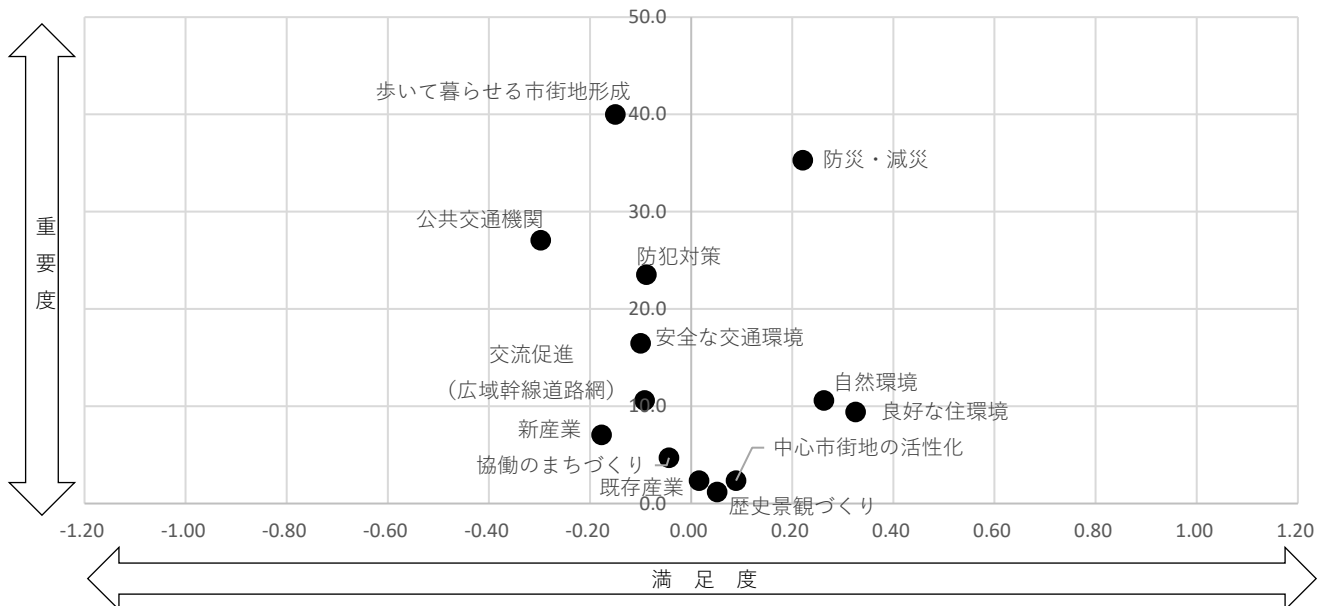
住み続けたい理由については、「日常生活が便利だから」（28.5%）、「家や土地があるから」（25.2%）、「自宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）」（23.2%）の回答が多くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

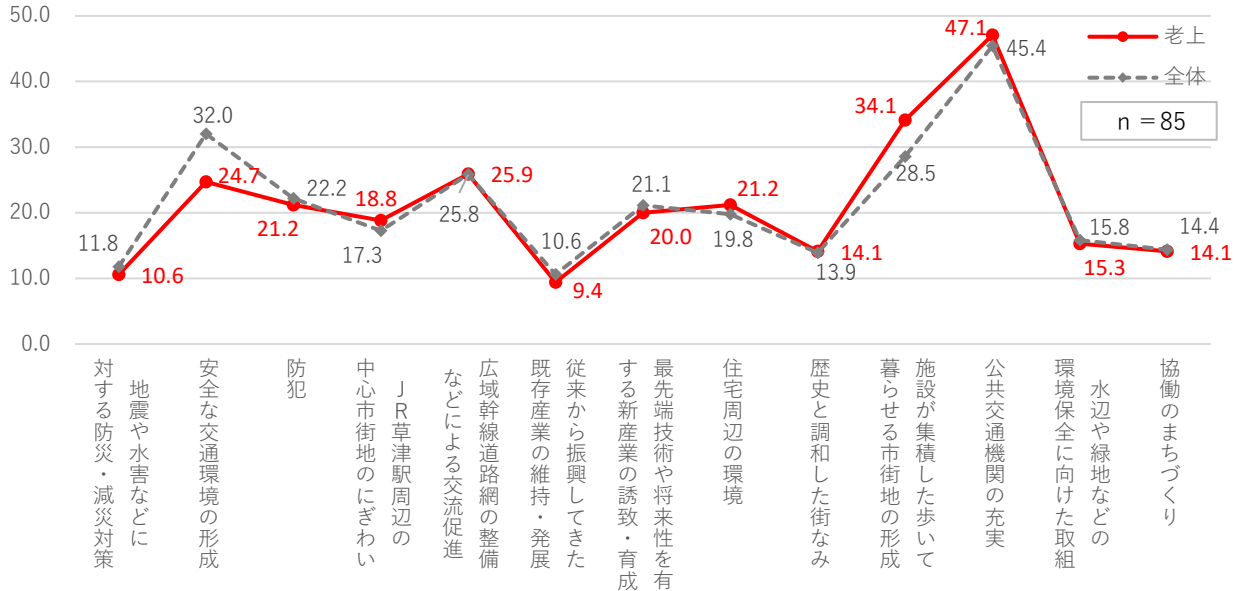
老上学区の各分野の不満度と重要度を比較すると、「歩いて暮らせる市街地形成」、「公共交通機関」及び「防犯対策」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。



※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

老上学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」（47.1%）、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」（34.1%）、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」（25.9%）が高くなっています。市全体の回答と比較すると、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」が5.6%高くなっています。

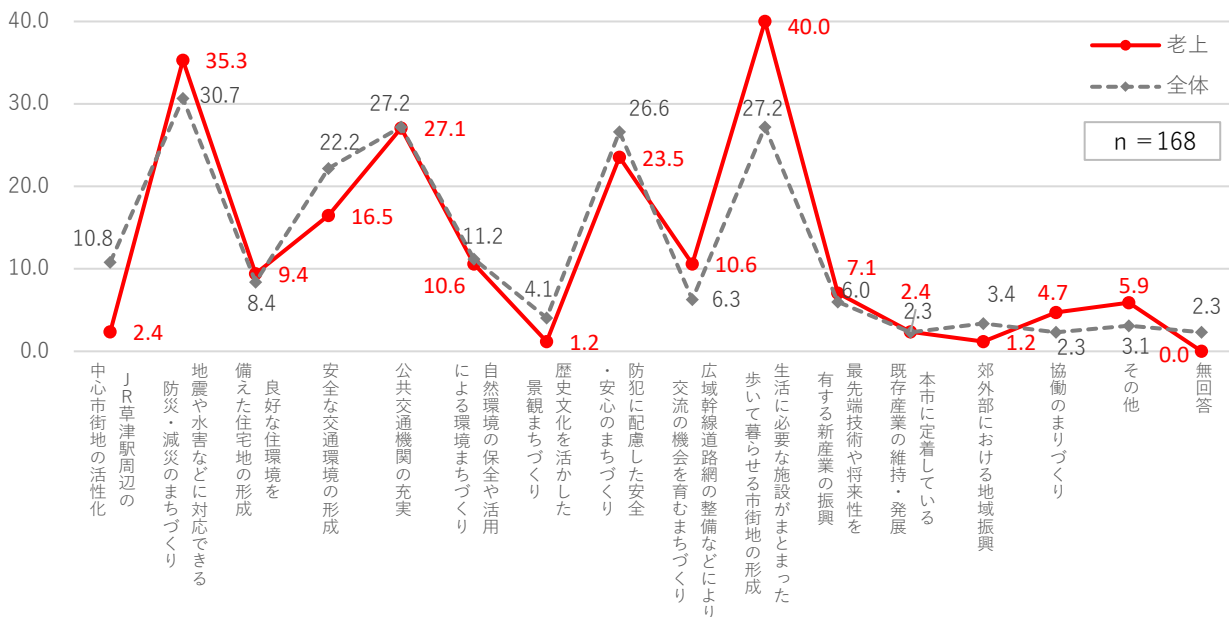


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

老上学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」（40.0%）、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」（35.3%）、「公共交通機関の充実」（27.1%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」が12.8%高くなっています。

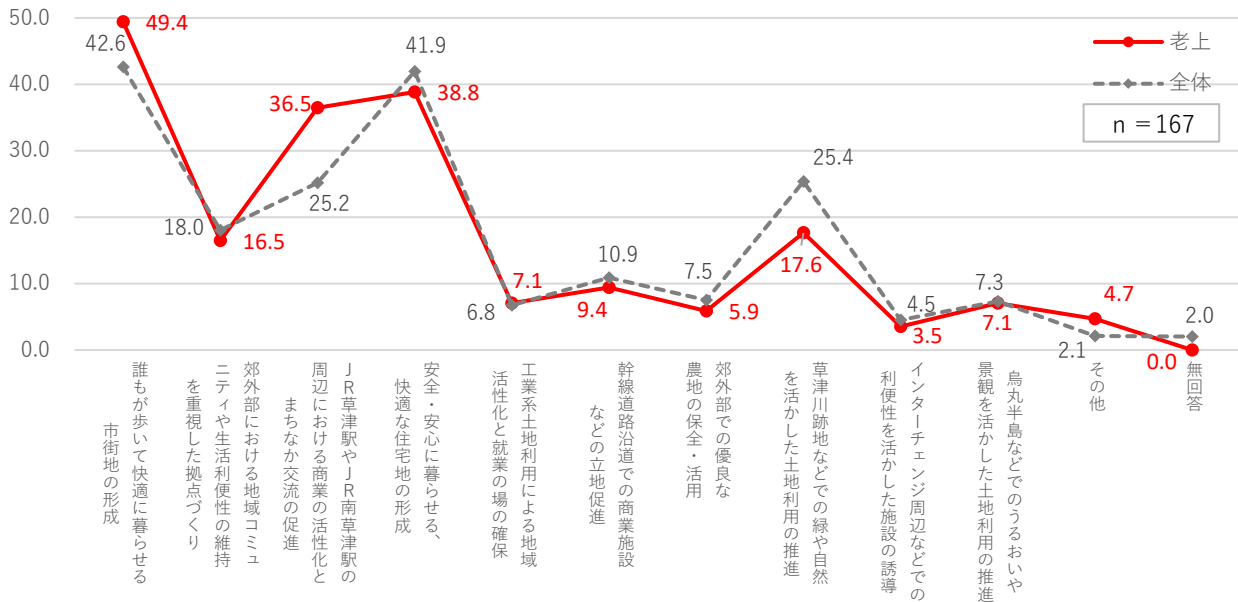


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

老上学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(49.4%)、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(38.8%)、「JR草津駅やJR南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」(36.5%)の回答が多くなっています。

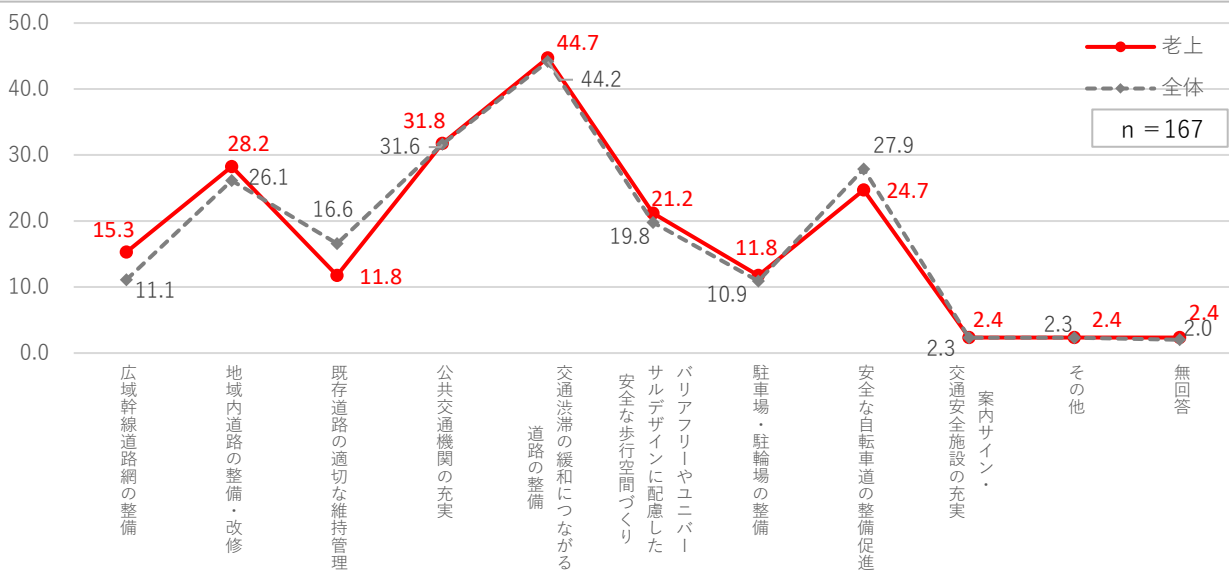
市全体の回答と比較すると、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」が6.8%、「JR草津駅やJR南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」が11.3%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針 (道路・交通環境)

老上学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(44.7%)、「公共交通機関の充実」(31.8%)、「地域内道路の整備・改修」(28.2%)の回答が多くなっています。

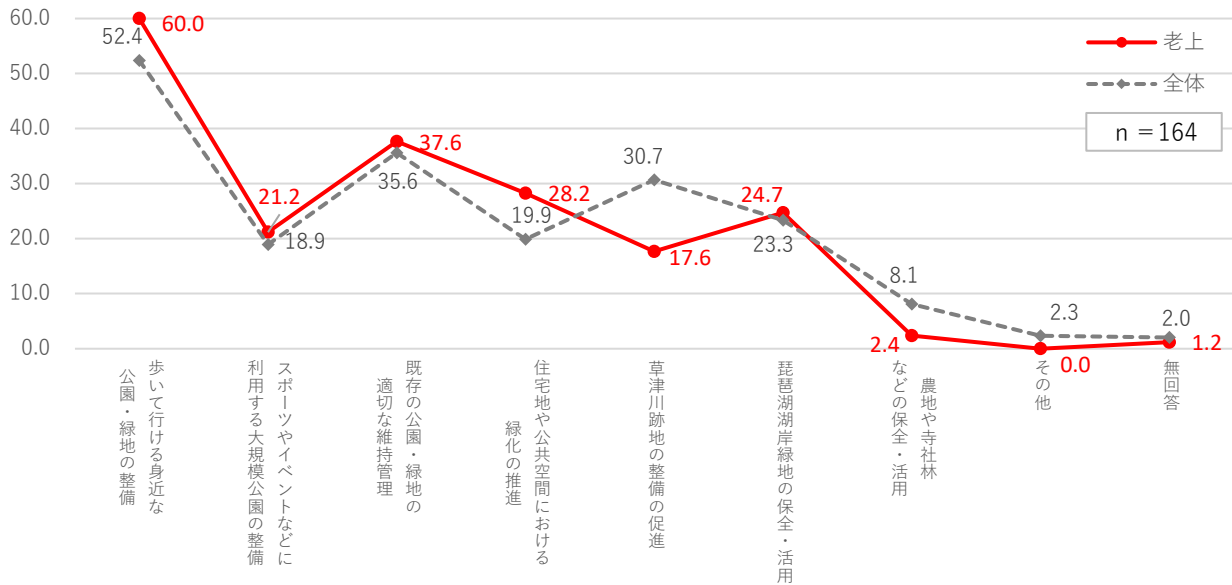


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

老上学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（60.0%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（37.6%）、「住宅地や公共空間における緑化の推進」（28.2%）の回答が多くなっています。

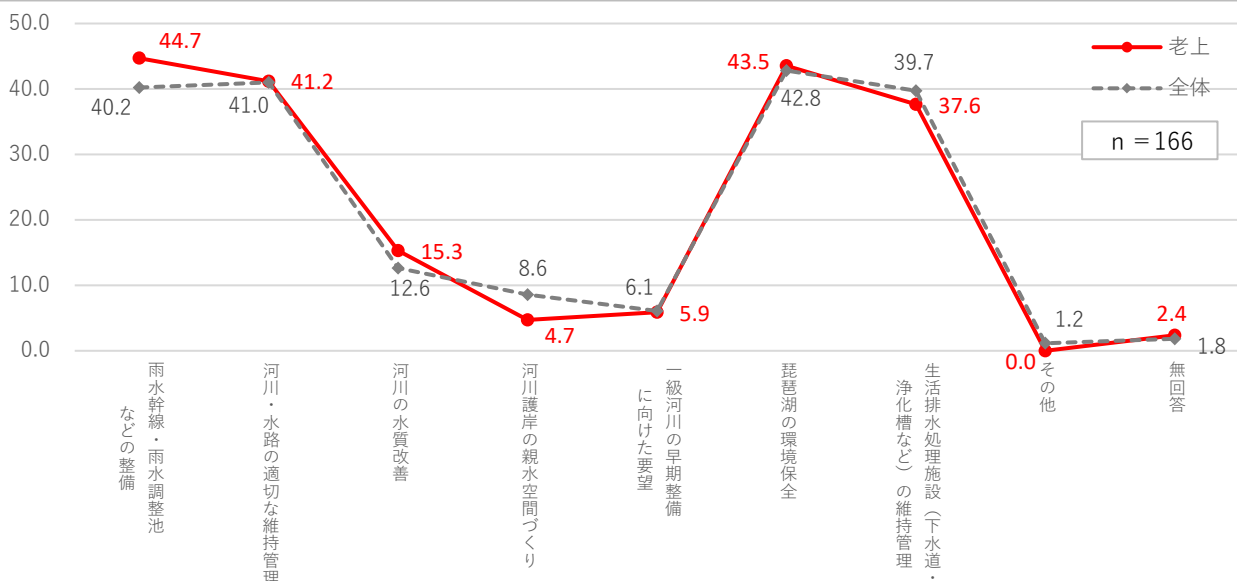
市全体の回答と比較すると、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」が7.6%、「住宅地や公共空間における緑化の推進」が8.3%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

老上学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（44.7%）、「琵琶湖の環境保全」（43.5%）、「河川・水路の適切な維持管理」（41.2%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（37.6%）の回答が多くなっています。

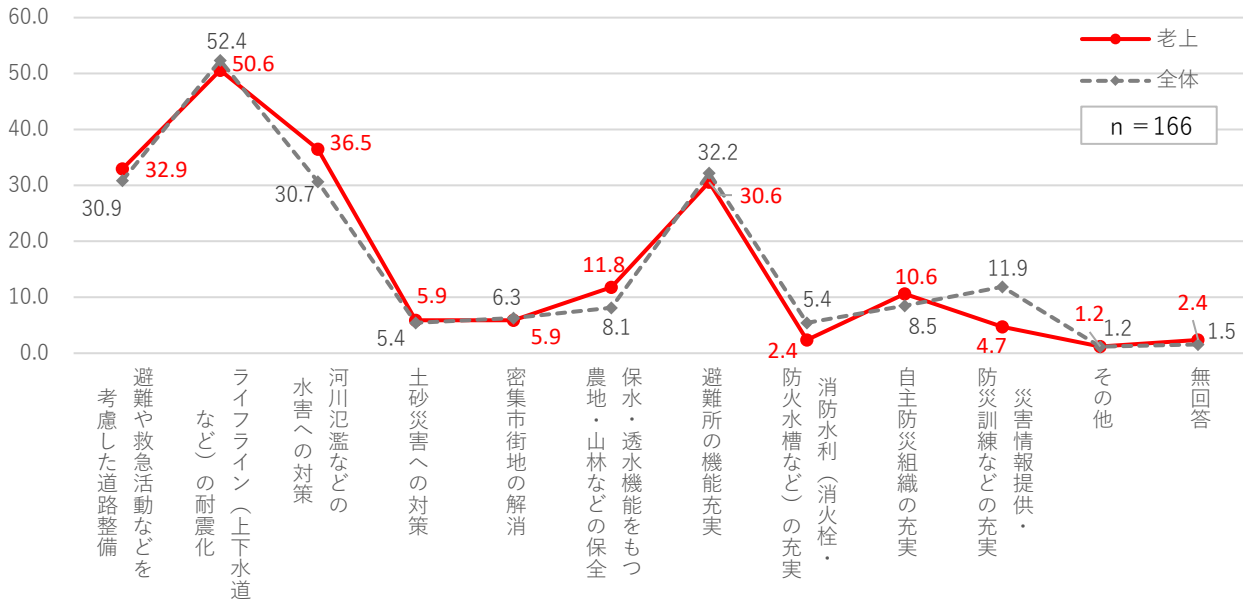


※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

老上学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（50.6%）、「河川氾濫などの水害への対策」（36.5%）及び「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（32.9%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「河川氾濫などの水害への対策」が5.8%高くなっています。

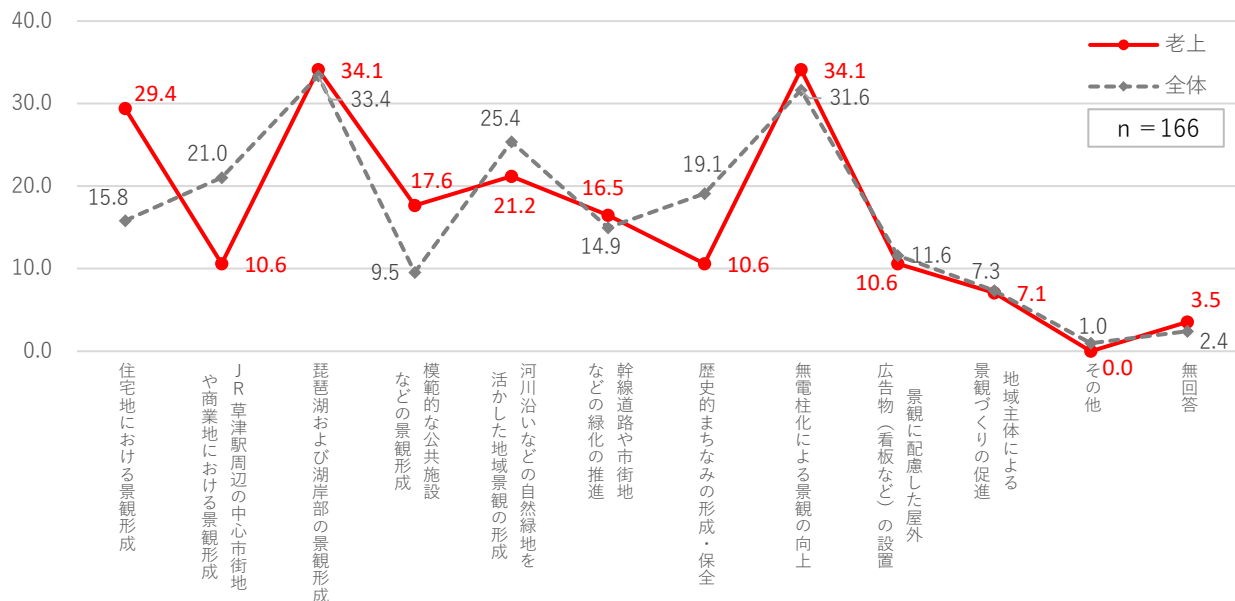


※ 2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

老上学区の景観に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」及び「無電柱化による景観の向上」（34.1%）、「住宅地における景観形成」（29.4%）の回答が多くなっています。

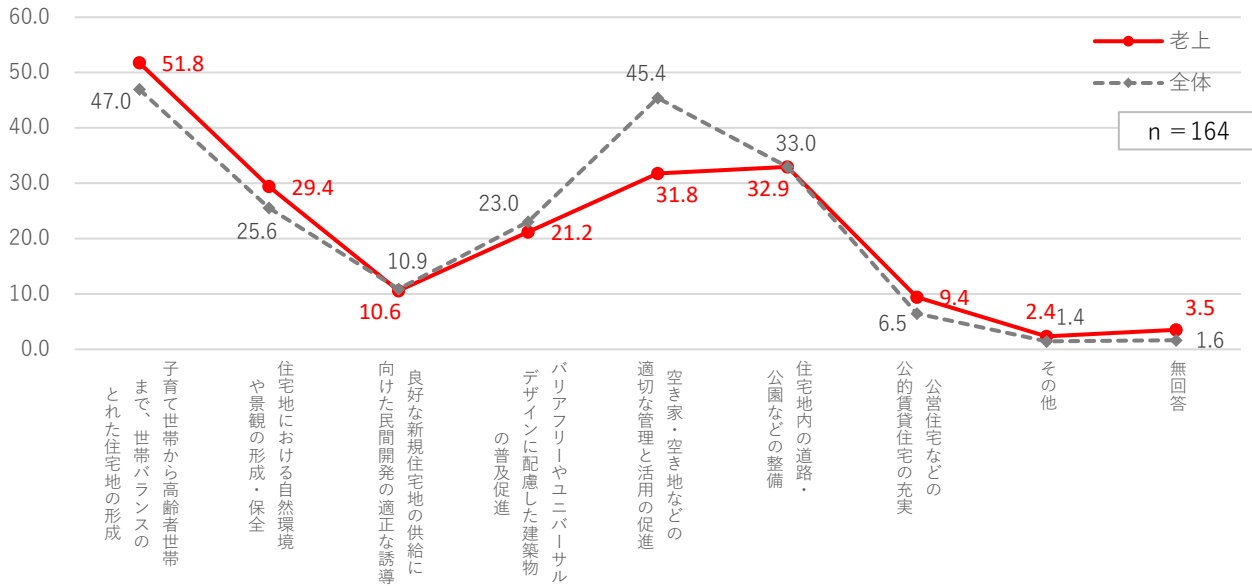
市全体の回答と比較すると、「住宅地における景観形成」が13.6%、「模範的な公共施設などの景観形成」が8.1%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

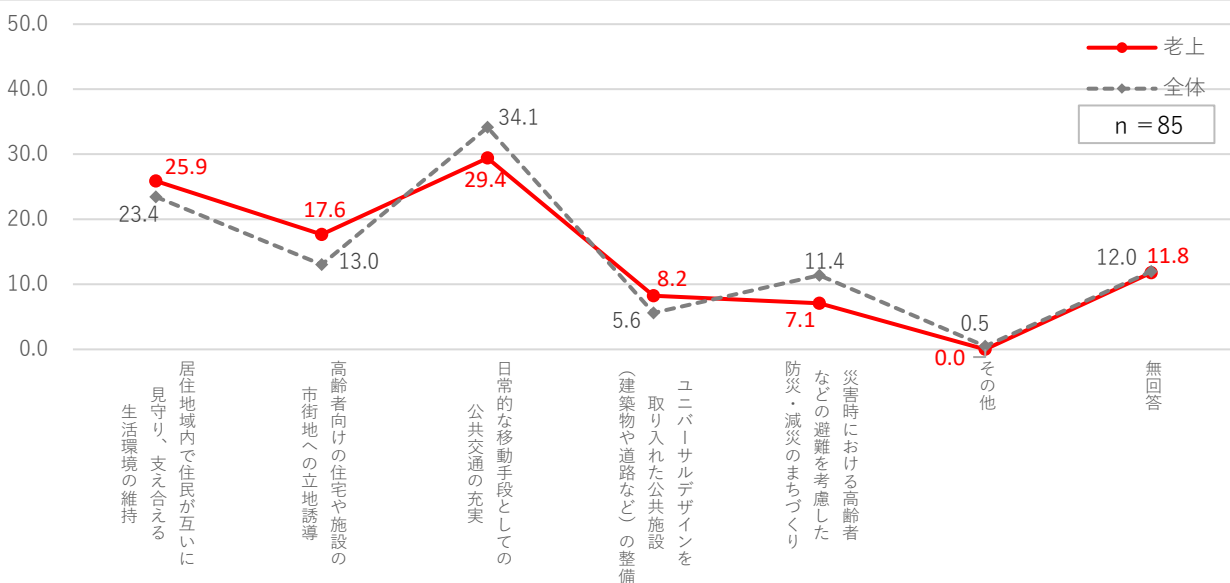
老上学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（51.8%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（32.9%）、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（31.8%）の回答が多くなっています。



※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

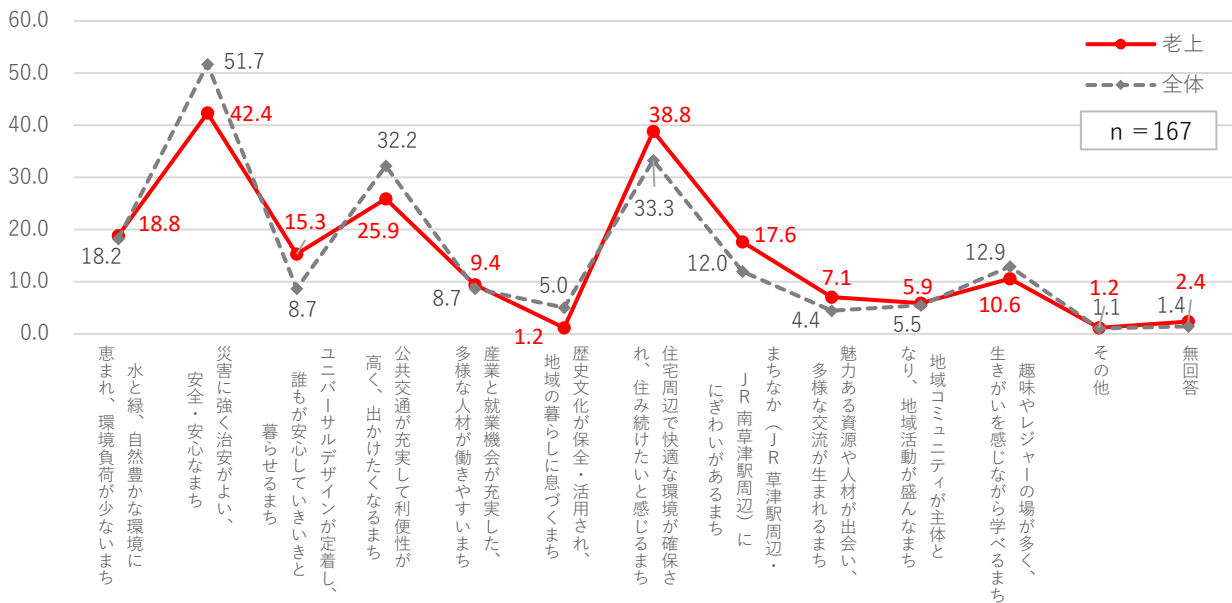
老上学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（29.4%）、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（25.9%）の回答が多くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

老上学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（42.4%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（38.8%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（25.9%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「ユニバーサルデザインが定着し、誰もが安心していきいきと暮らせるまち」が6.6%、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」が5.5%、「まちなか（JR 草津駅周辺・JR 南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち」が5.6%高くなっています。



※ 2つまで回答

【学区別集計結果の概要 老上西学区】

配布数：181

回答数：39

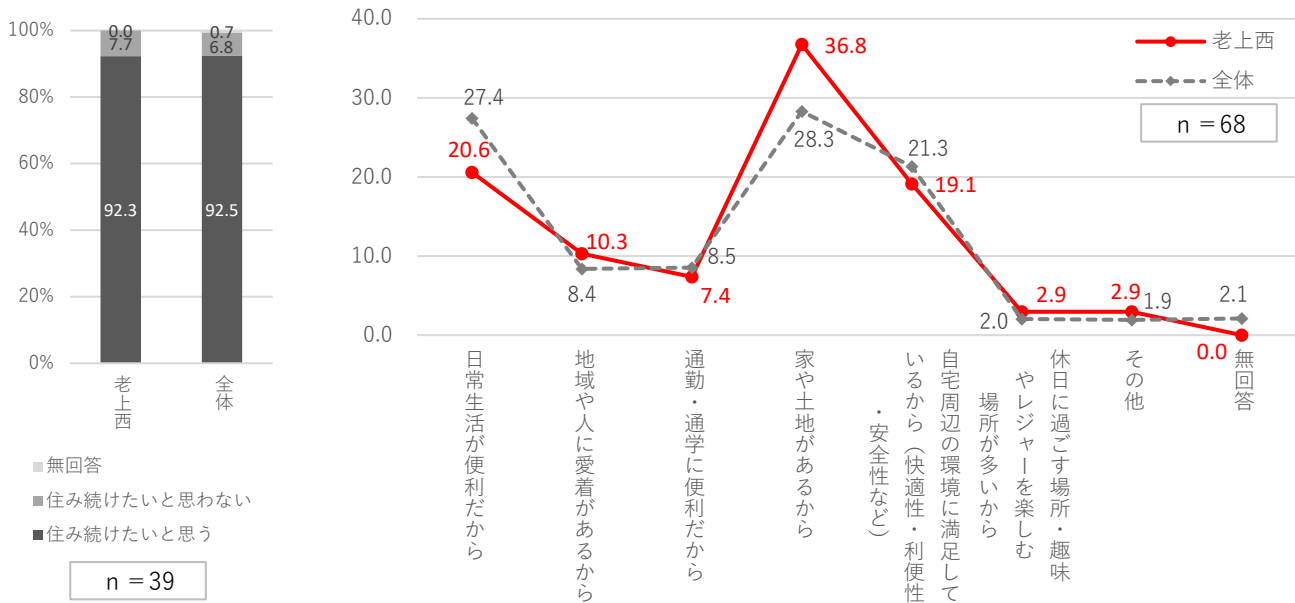
回収率：21.5

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

老上西学区の居住継続意向については、92.3%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より0.2%低くなっています。

住み続けたい理由については、「家や土地があるから」（36.8%）、「日常生活が便利だから」（20.6%）の回答が多くなっています。

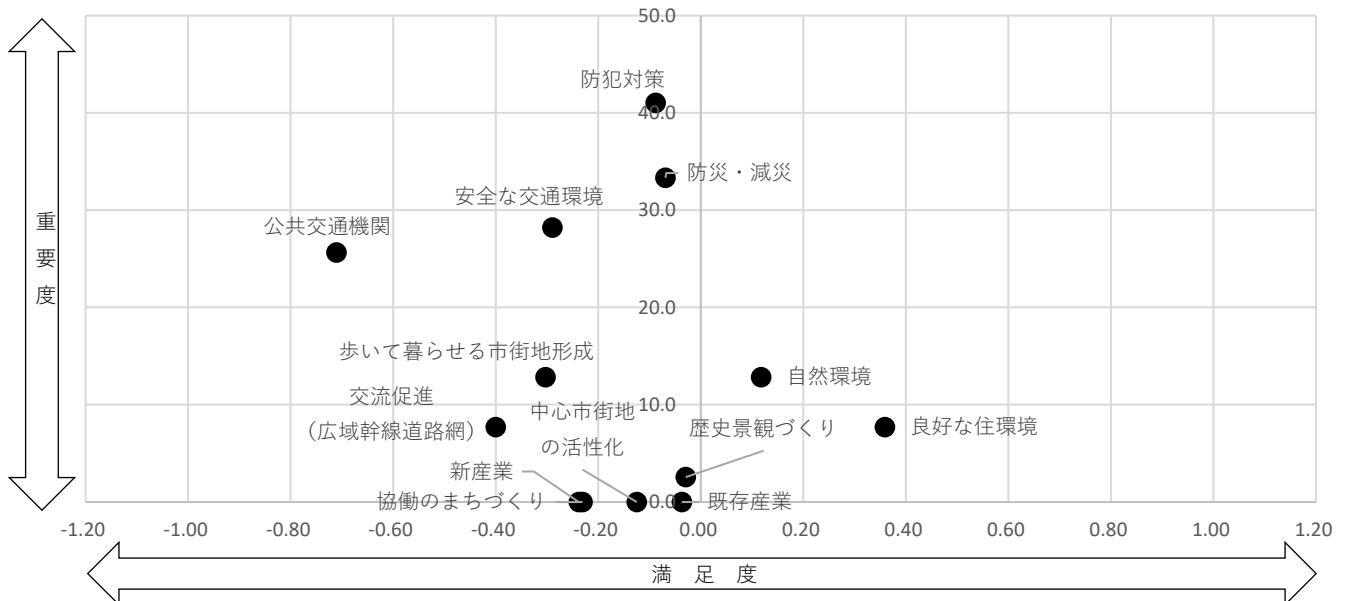
市全体の回答と比較すると、「家や土地があるから」が8.5%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

老上西学区の各分野の不満度と重要度を比較すると、「防犯対策」、「防災・減災」、「安全な交通環境」及び「公共交通機関」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

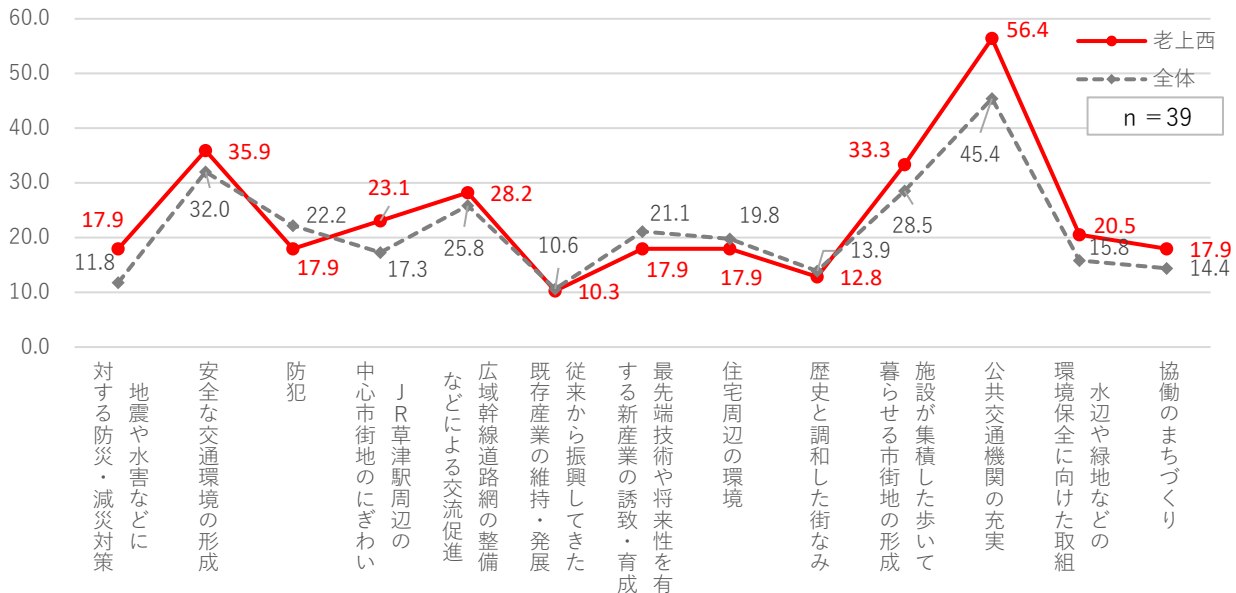


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

老上西学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」(56.4%)、「安全な交通環境の形成」(35.9%)、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」(33.3%)が高くなっています。

市全体の回答と比較すると、「地震や水害などに対する防災・減災対策」が6.1%、「JR草津駅周辺の中心市街地のにぎわい」が5.8%、「公共交通機関の充実」が11.0%高くなっています。

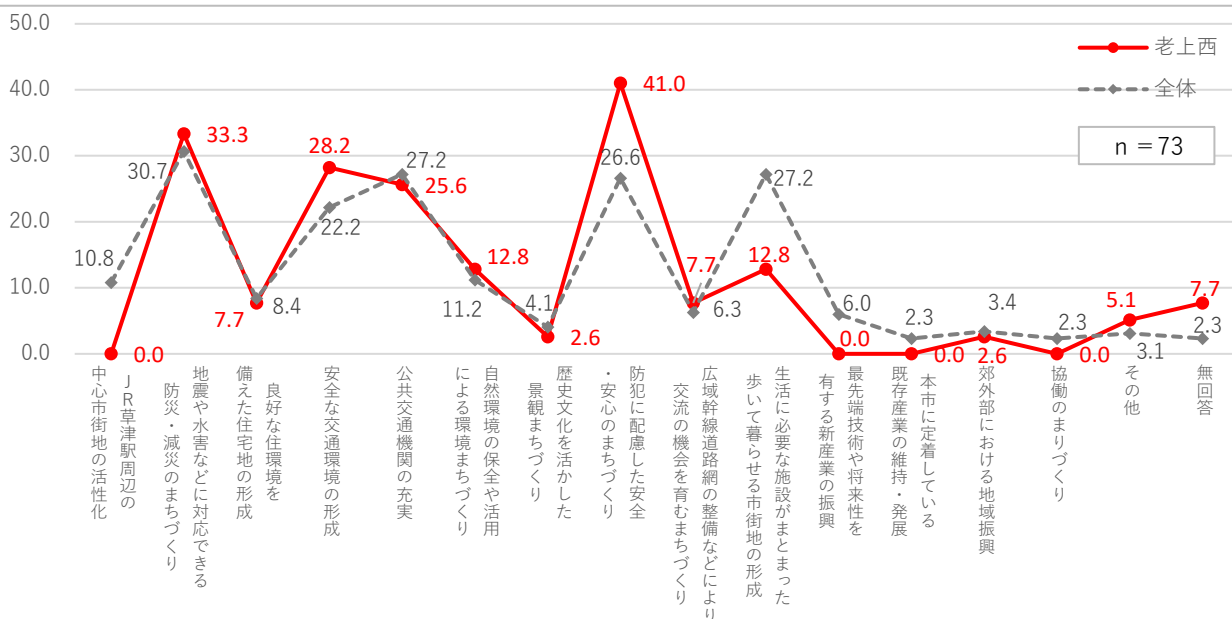


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

老上西学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(41.0%)、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(33.3%)、「安全な交通環境の形成」(28.2%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「安全な交通環境の形成」が6.0%、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」が14.4%高くなっています。

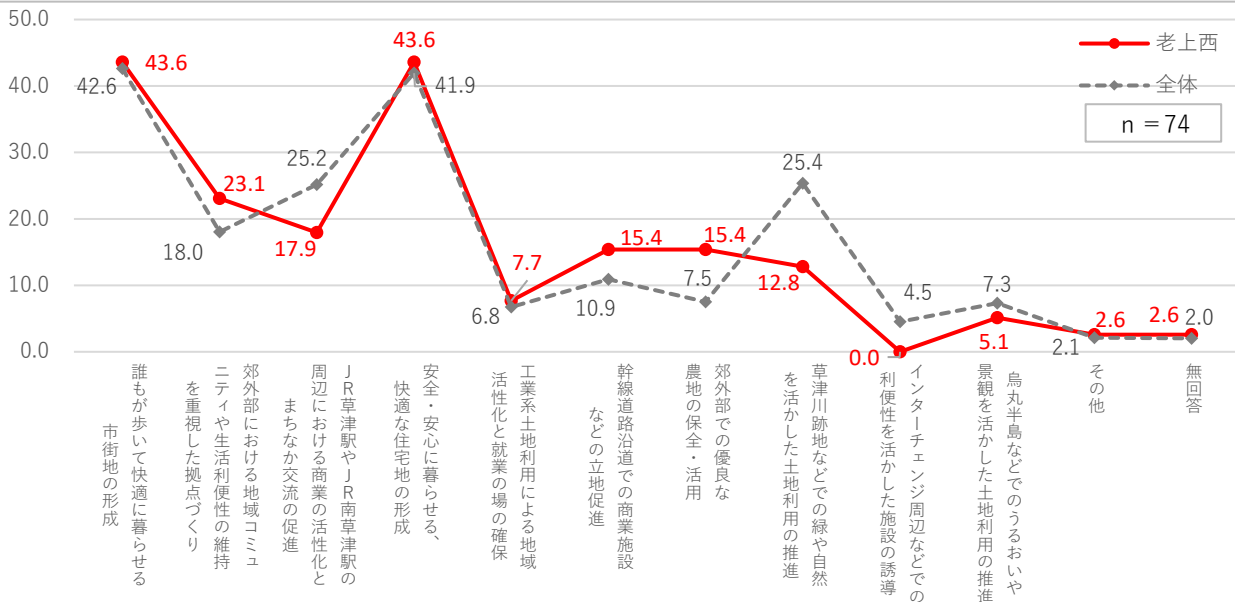


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

老上西学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」及び「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」（43.6%）、「郊外部における地域コミュニティや生活利便性の維持を重視した拠点づくり」（23.1%）の回答が多くなっています。

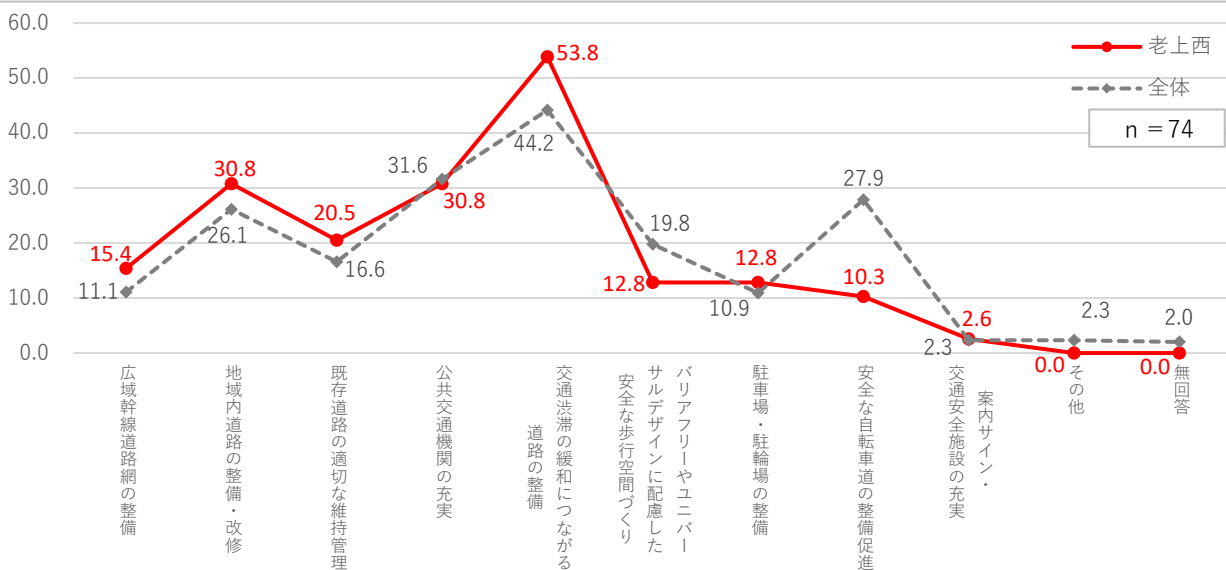
市全体の回答と比較すると、「郊外部における地域コミュニティや生活利便性の維持を重視した拠点づくり」が5.1%、「郊外部での優良な農地の保全・活用」が7.9%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

老上西学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」（53.8%）、「地域内道路の整備・改修」（30.8%）の回答が多くなっています。市全体の回答と比較すると、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」が9.6%高くなっています。

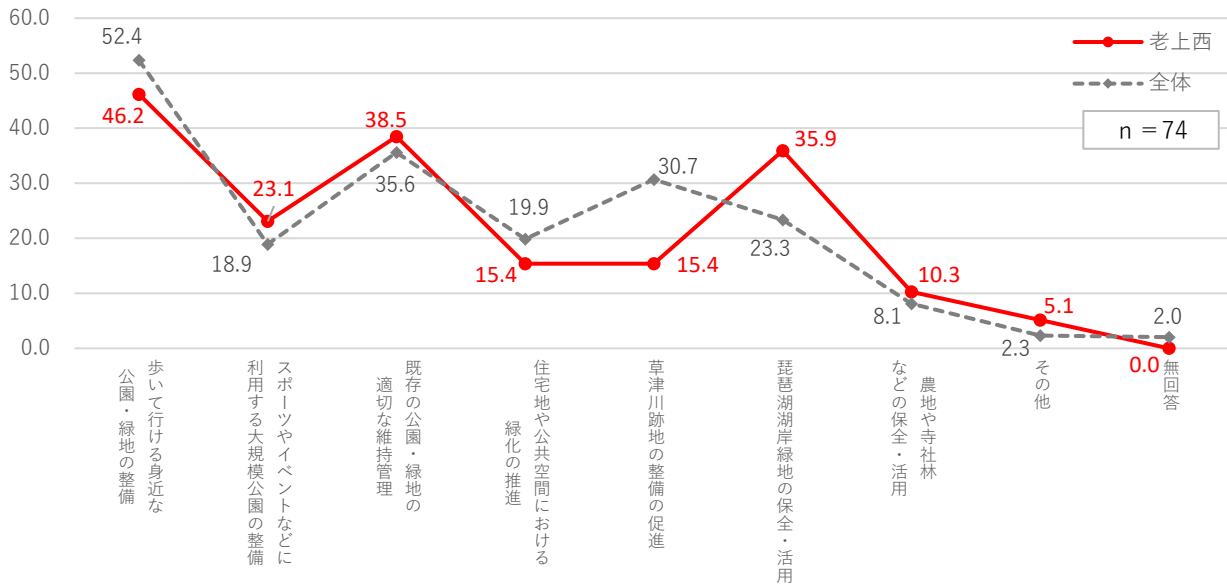


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

老上西学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（46.2%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（38.5%）、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」（35.9%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」が12.6%高くなっています。

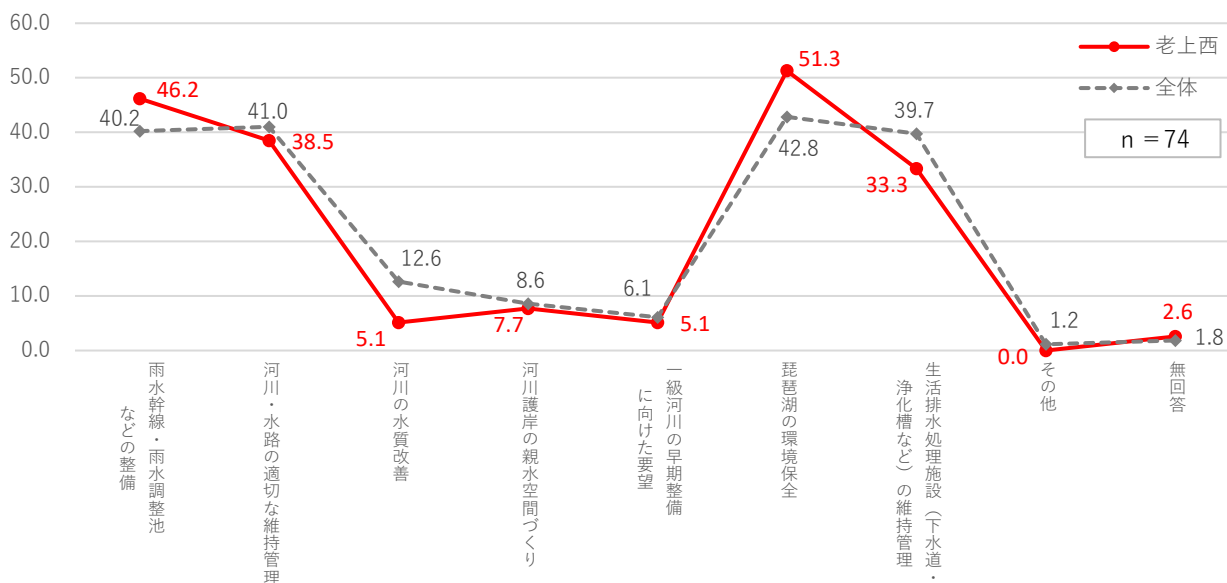


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

老上西学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖の環境保全」（51.3%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（46.2%）、「河川・水路の適切な維持管理」（38.5%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」が6.0%、「琵琶湖の環境保全」が8.5%高くなっています。

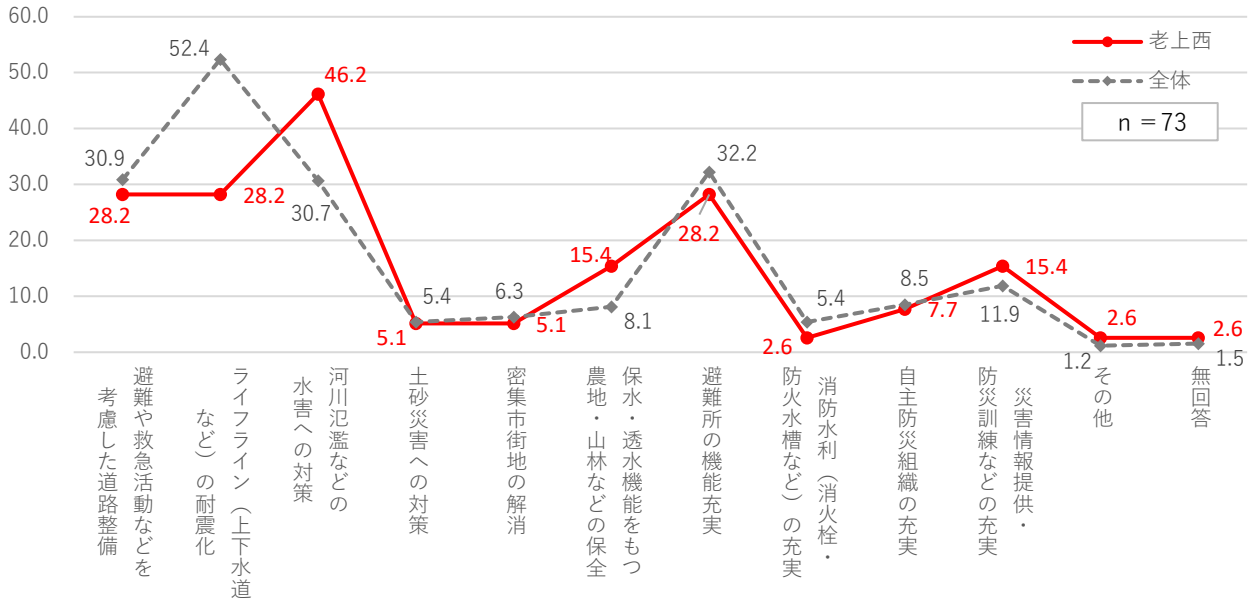


※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

老上西学区の防災に関して重要と思われる施策は、「河川氾濫などの水害への対策」（46.2%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（28.2%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「河川氾濫などの水害への対策」が15.5%、「保水・透水機能をもつ農地・山林などの保全」が7.3%高くなっています。

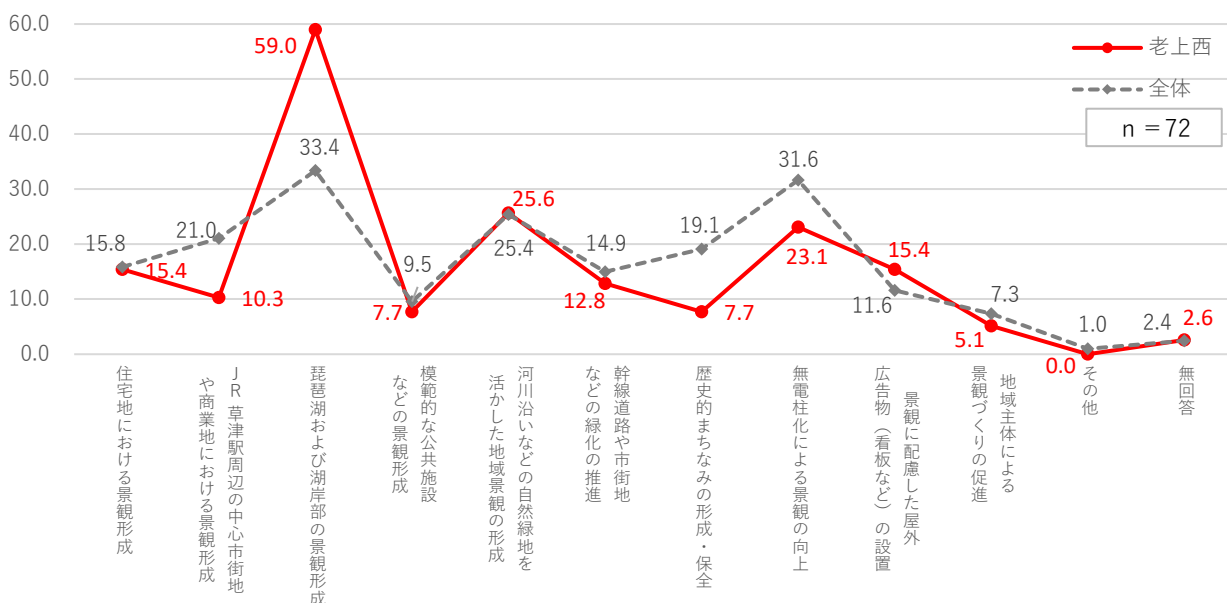


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

老上西学区の景観に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（59.0%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（25.6%）、「無電柱化による景観の向上」（23.1%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」が25.6%高くなっています。

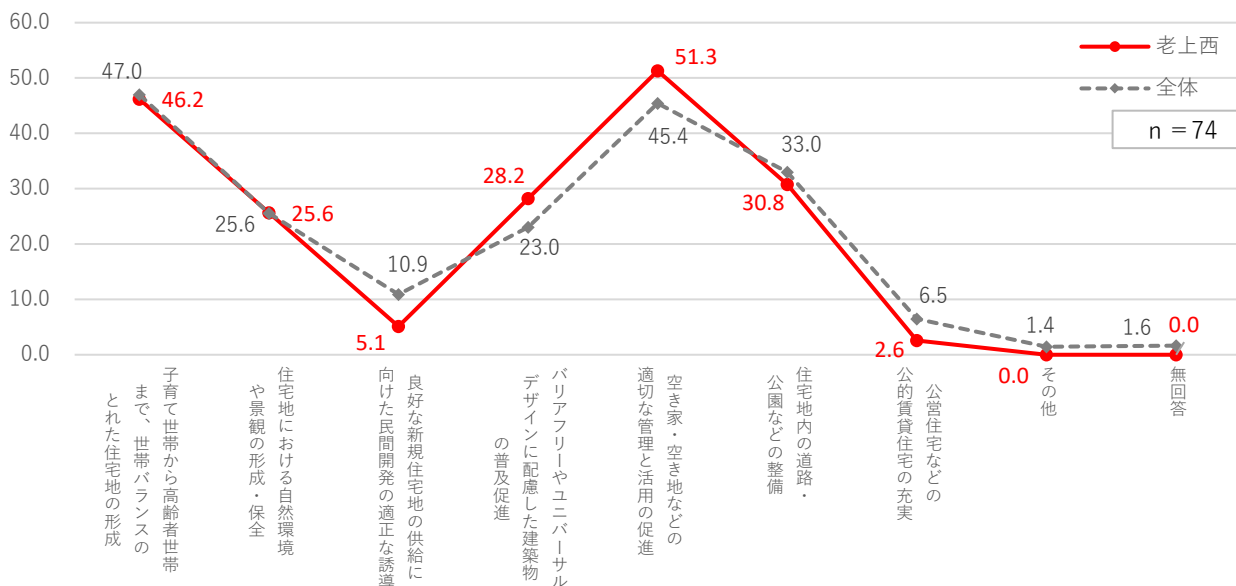


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

老上西学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（51.3%）「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（46.2%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（30.8%）、の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した建築物の普及促進」が5.2%、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」が5.9%高くなっています。

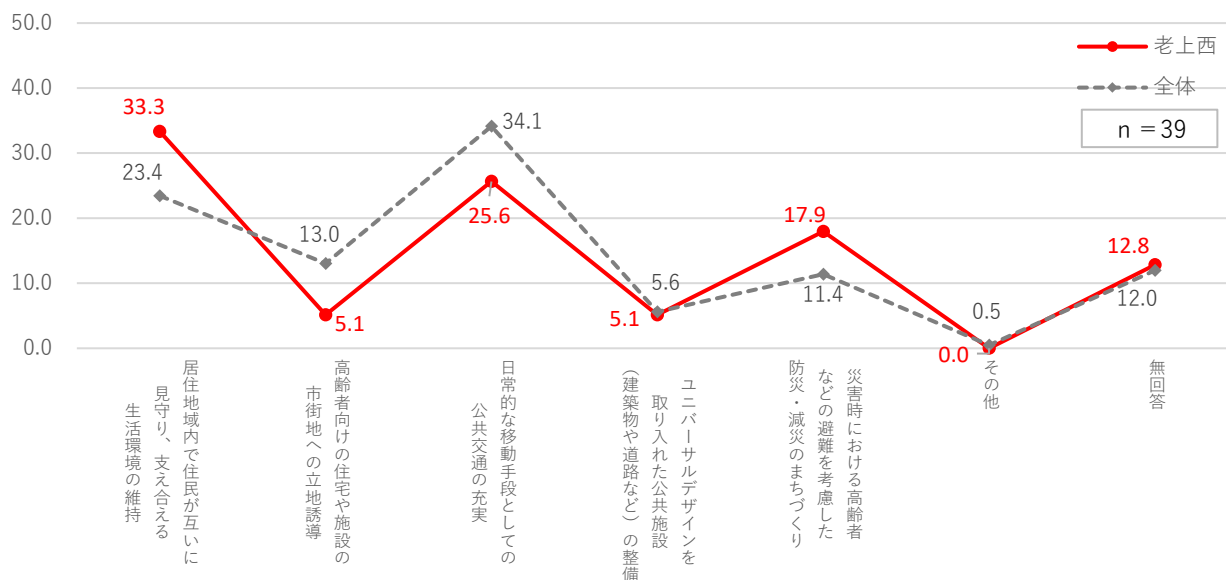


※ 2 つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

老上西学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（33.3%）、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（25.6%）の回答が多くなっています。

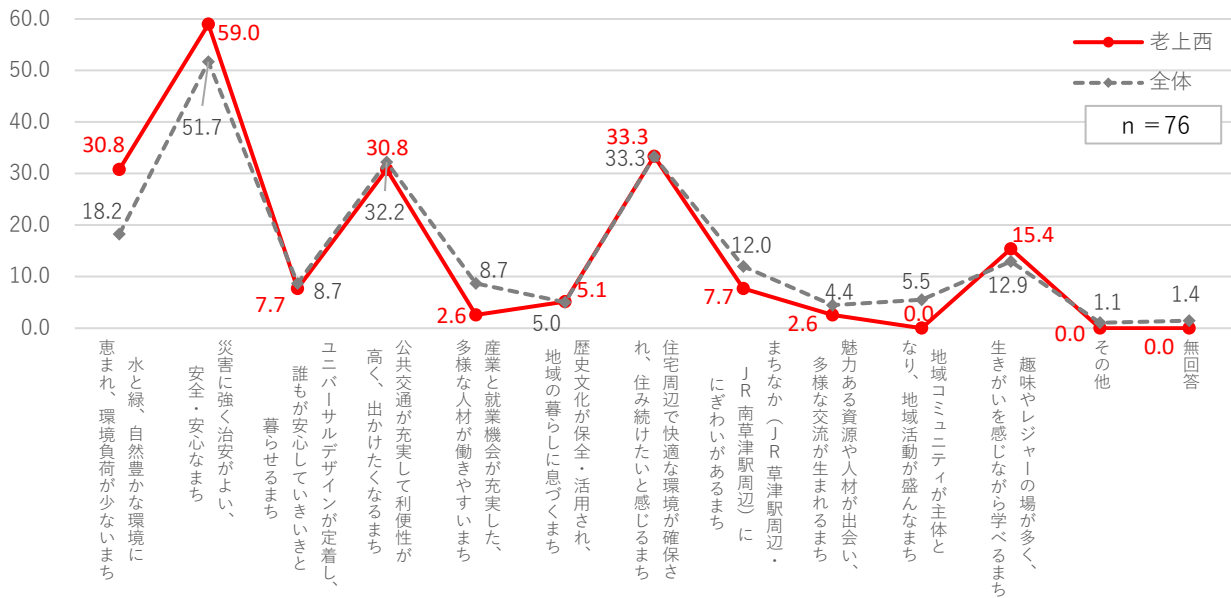
市全体の回答と比較すると、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」が9.9%、「災害時における高齢者などの避難を考慮した防災・減災のまちづくり」が6.5%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

老上西学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」(59.0%)、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」(33.3%)、「水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち」及び「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」(30.8%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち」が12.6%、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」が7.3%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 玉川学区】

配布数：277

回答数：84

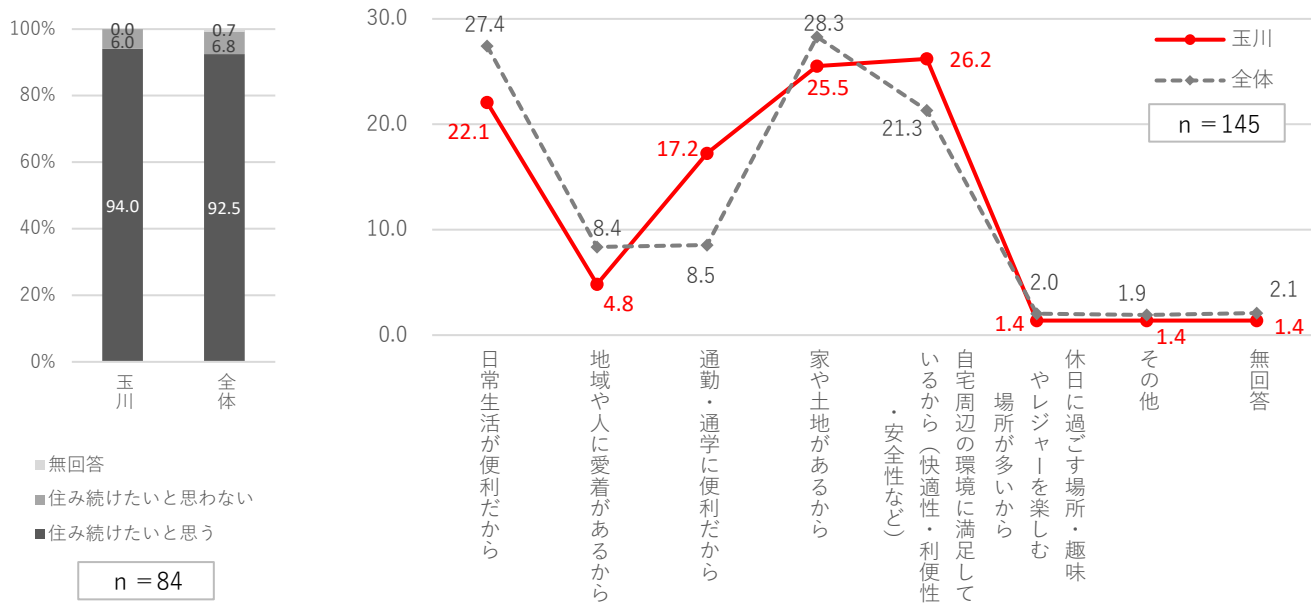
回収率：30.3

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

玉川学区の居住継続意向については、94.0%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より1.5%高くなっています。

住み続けたい理由については、「自宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）（26.2%）」、「家や土地があるから」（25.5%）」の回答が多くなっています。

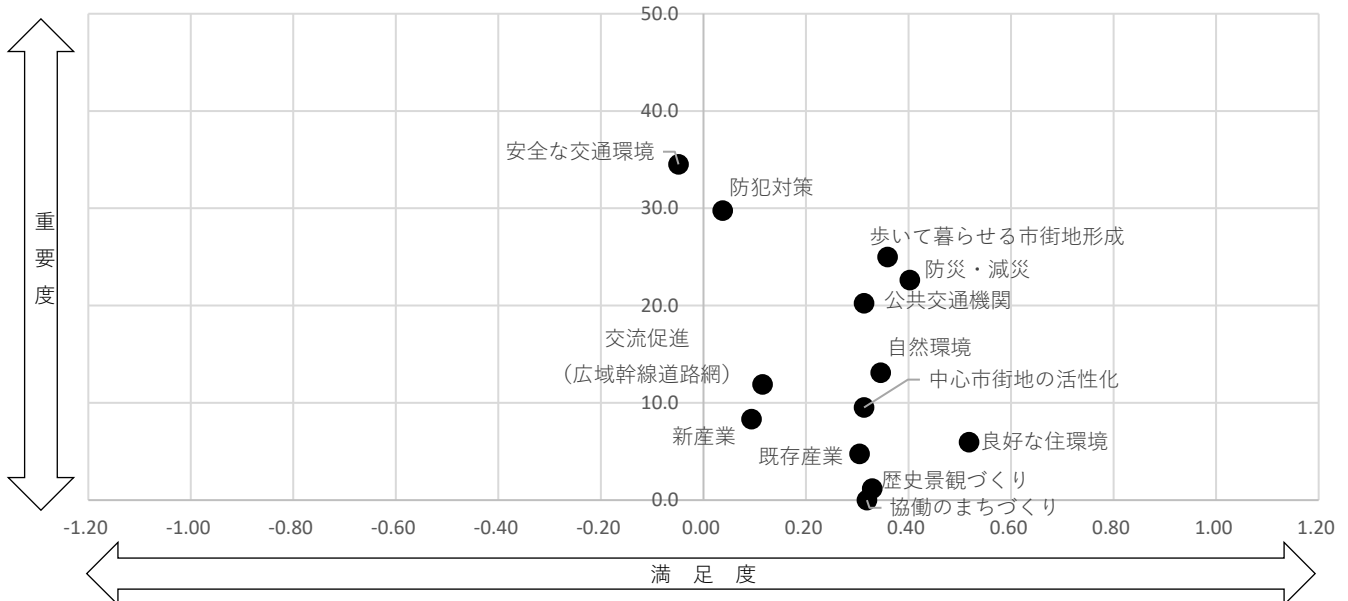
市全体の回答と比較すると、「通勤・通学に便利だから」が8.7%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

玉川学区の各分野の不満度と重要度を比較すると、「安全な交通環境」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

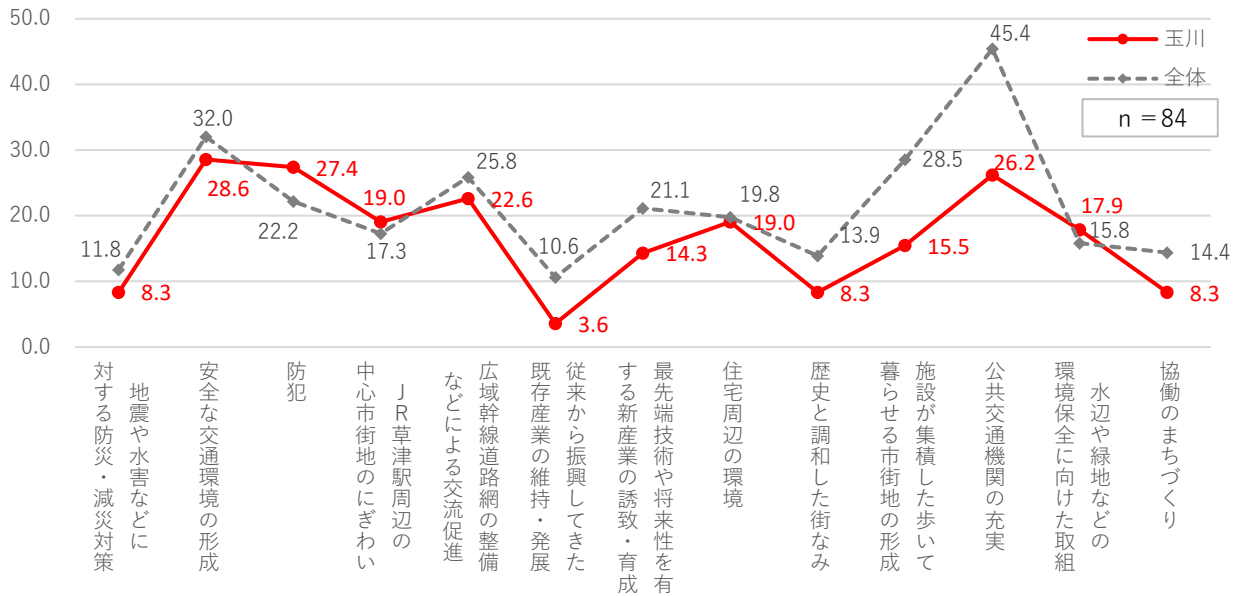


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

玉川学区の分野別の不満度は、「安全な交通環境の形成」(28.6%)、「防犯」(27.4%)、「公共交通機関の充実」(26.2%)が高くなっています。

市全体の回答と比較すると、「防犯」が5.2%高くなっています。

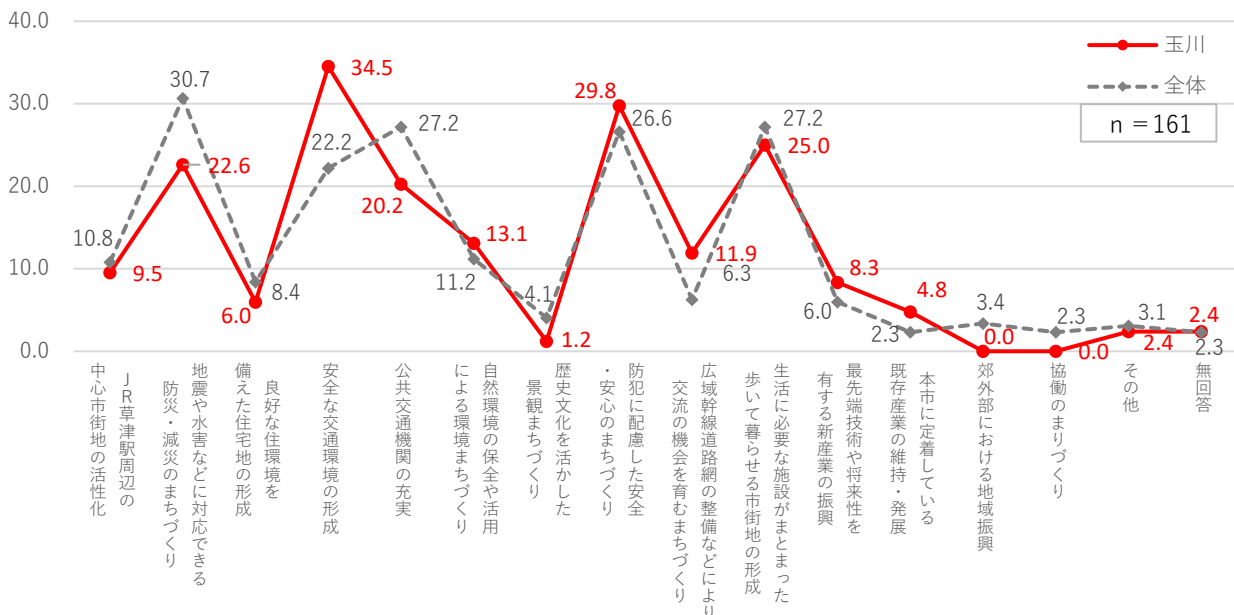


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

玉川学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「安全な交通環境の形成」(34.5%)、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(29.8%)、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」(25.0%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「安全な交通環境の形成」が12.3%、「広域幹線道路網の整備などにより交流の機会を育むまちづくり」が5.6%高くなっています。

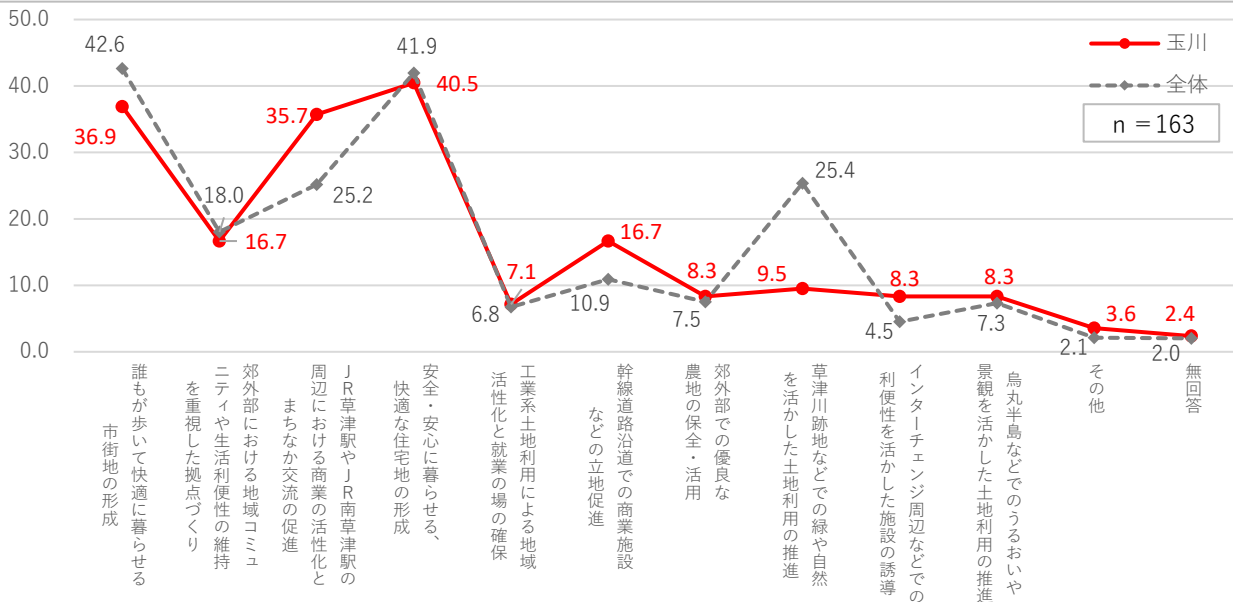


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

玉川学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(40.5%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(36.9%)、「JR草津駅やJR南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」(35.7%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「JR草津駅やJR南草津駅の周辺における商業の活性化とまちなか交流の促進」が10.5%、「幹線道路沿道での商業施設などの立地促進」が5.8%高くなっています。

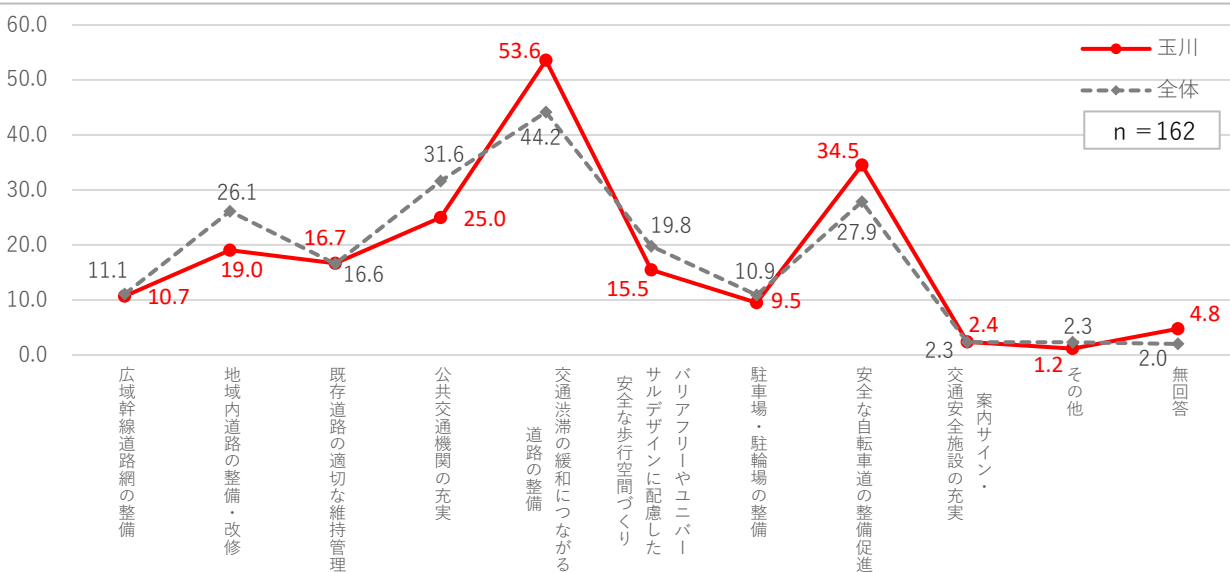


※2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

玉川学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(53.6%)、「安全な自転車道の整備促進」(34.5%)、「公共交通機関の充実」(25.0%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」が9.4%、「安全な自転車道の整備促進」が6.6%高くなっています。

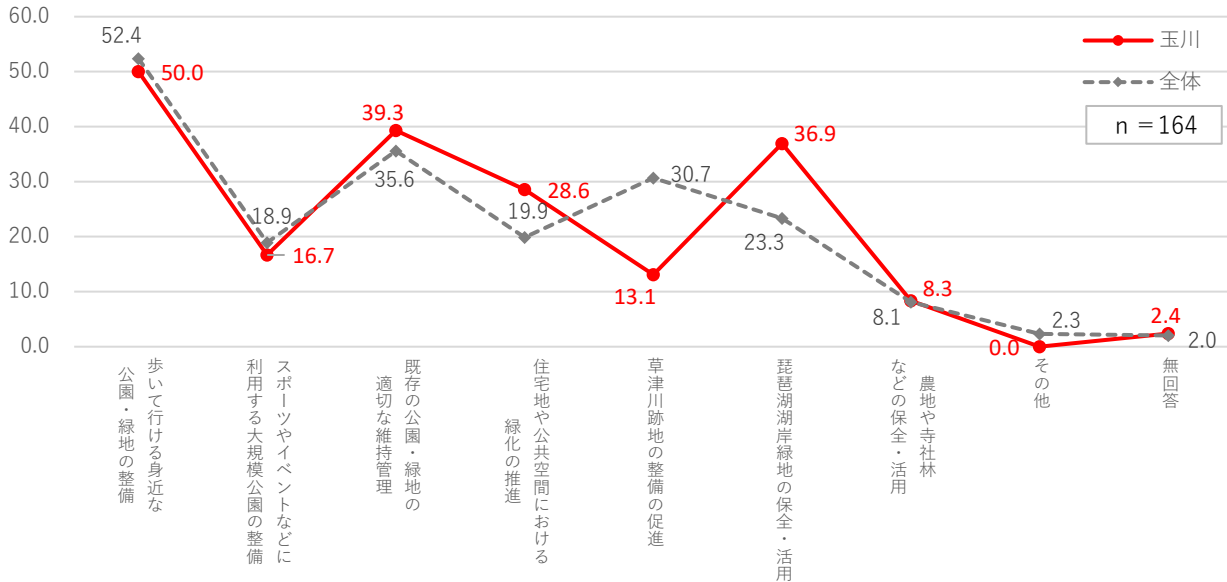


※2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

玉川学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（50.0%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（39.3%）、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」（36.9%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「住宅地や公共空間における緑化の推進」が8.7%、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」が13.6%高くなっています。

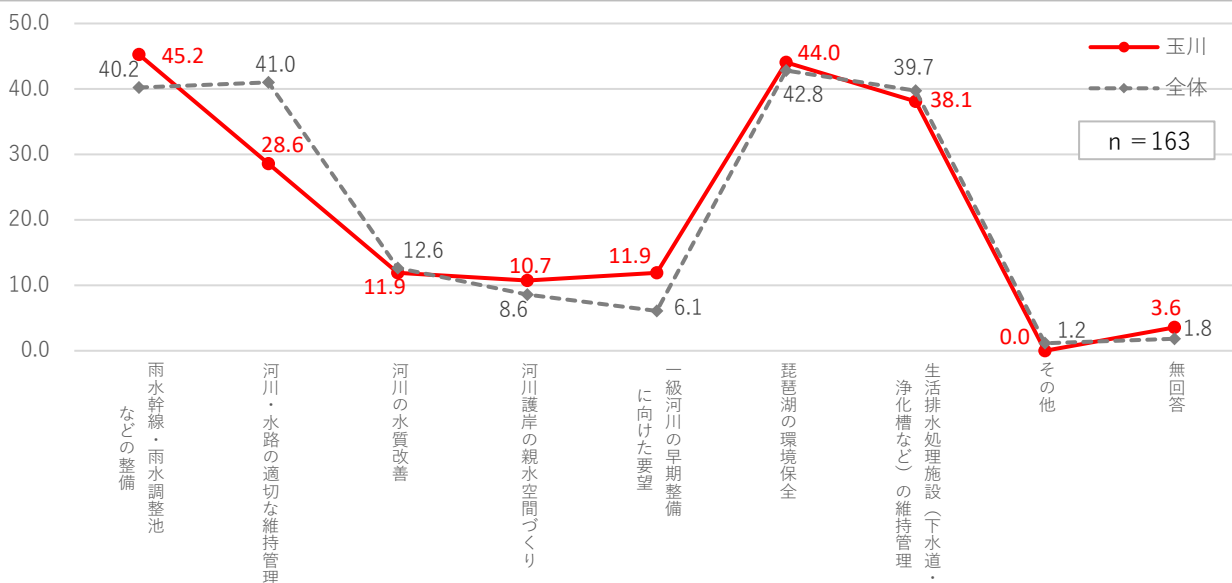


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

玉川学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（45.2%）、「琵琶湖の環境保全」（44.0%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（38.1%）の回答が多くなっています。

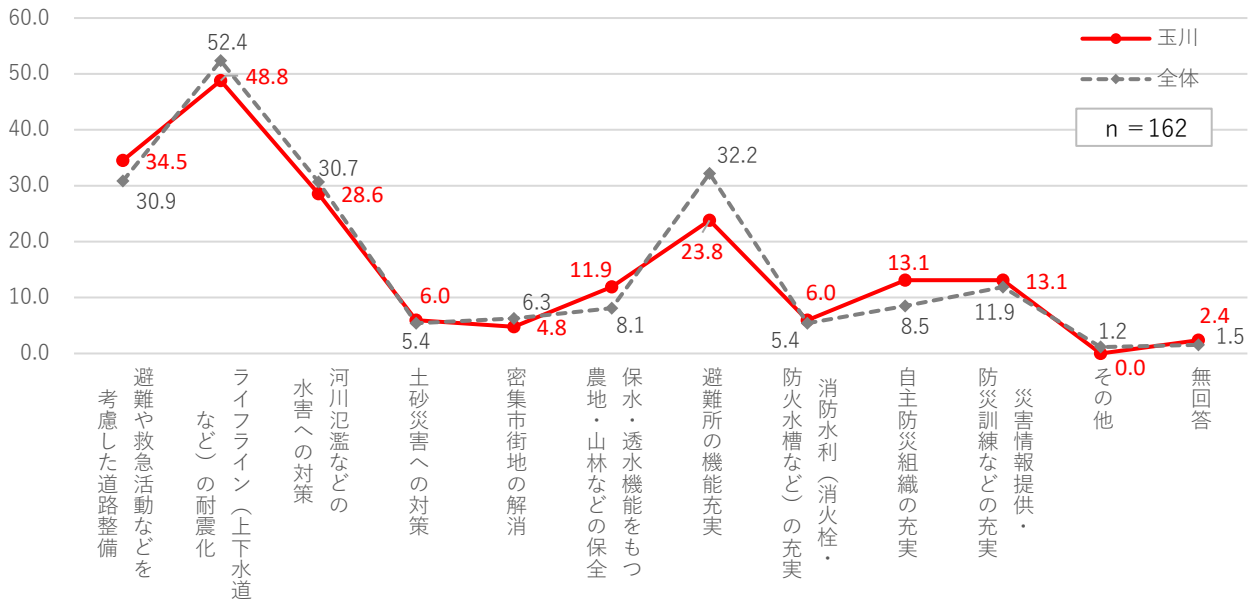
市全体の回答と比較すると、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」が5.0%、「一級河川の早期整備に向けた要望」が5.8%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

玉川学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（48.8%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（34.5%）、「河川氾濫などの水害への対策」（28.6%）の回答が多くなっています。

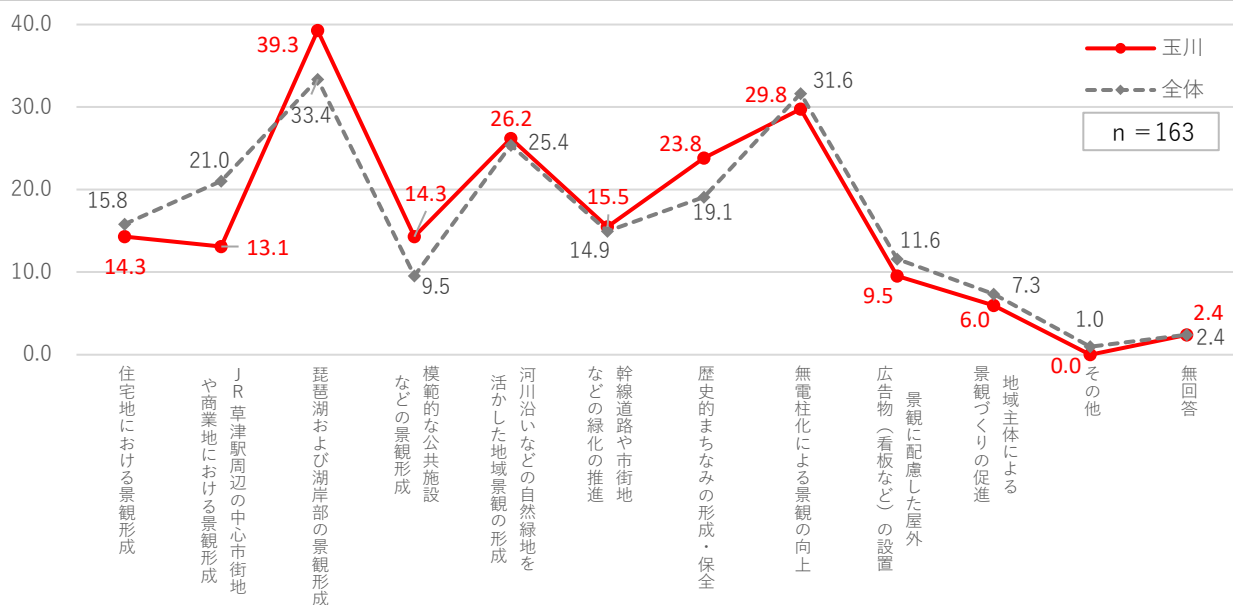


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

玉川学区の景観に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（39.3%）、「無電柱化による景観の向上」（29.8%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（26.2%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」が5.9%高くなっています。

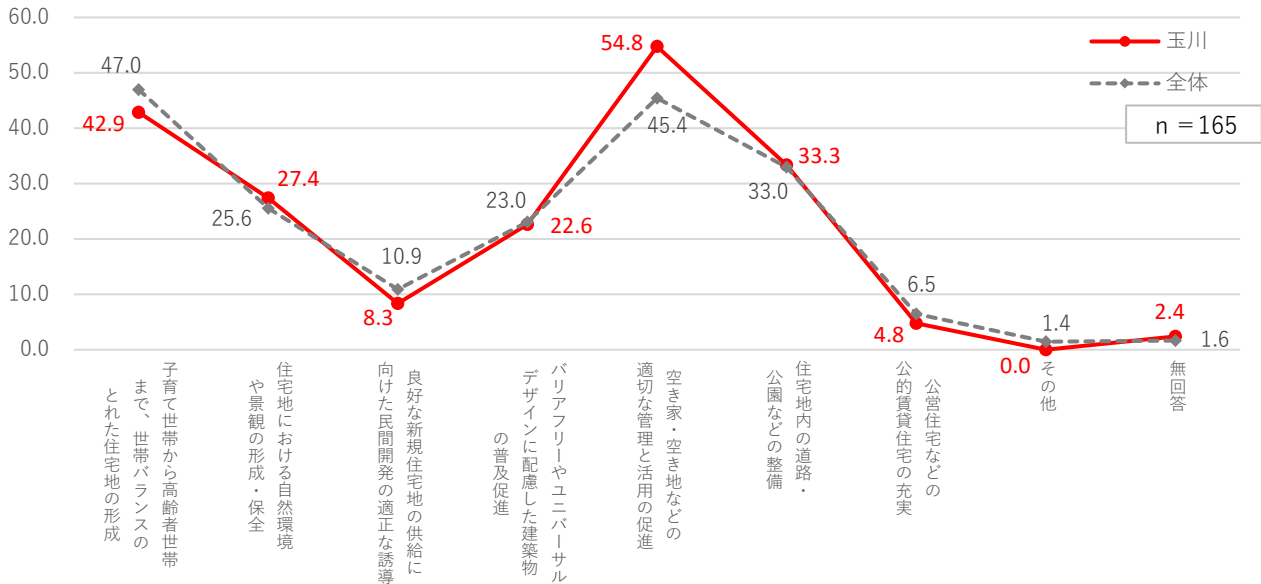


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

玉川学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（54.8%）「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（42.9%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（33.3%）、の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」が9.4%高くなっています。

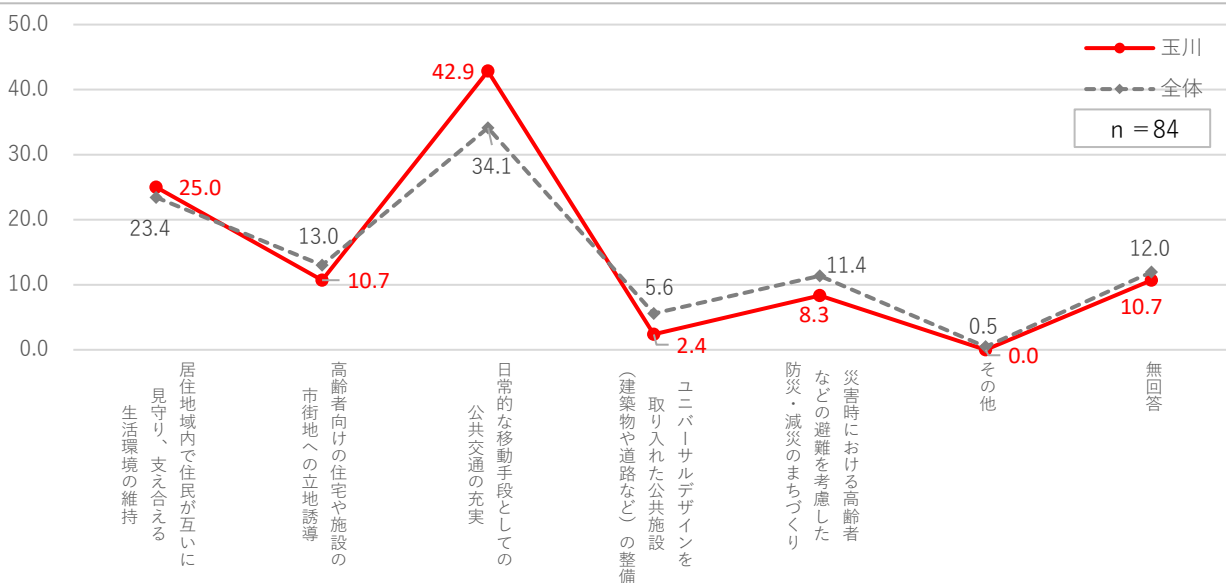


※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

玉川学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（42.9%）、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（25.0%）の回答が多くなっています。

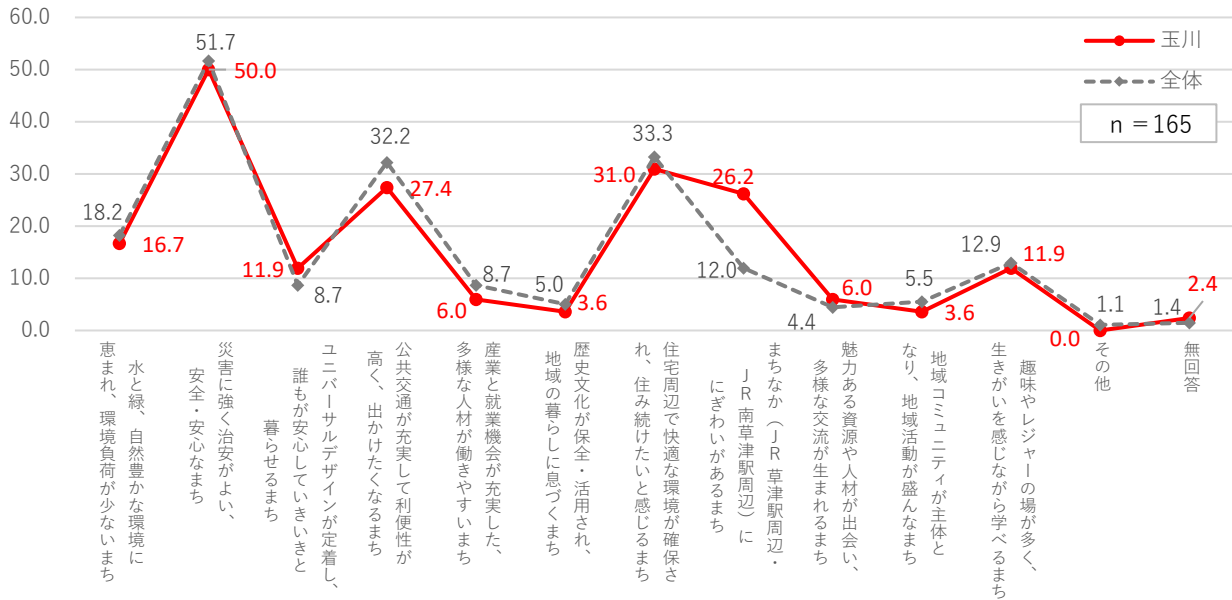
市全体の回答と比較すると、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」が8.8%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

玉川学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（50.0%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（31.0%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（27.4%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「まちなか（JR 草津駅周辺・JR 南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち」が14.2%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 南笠東学区】

配布数：187

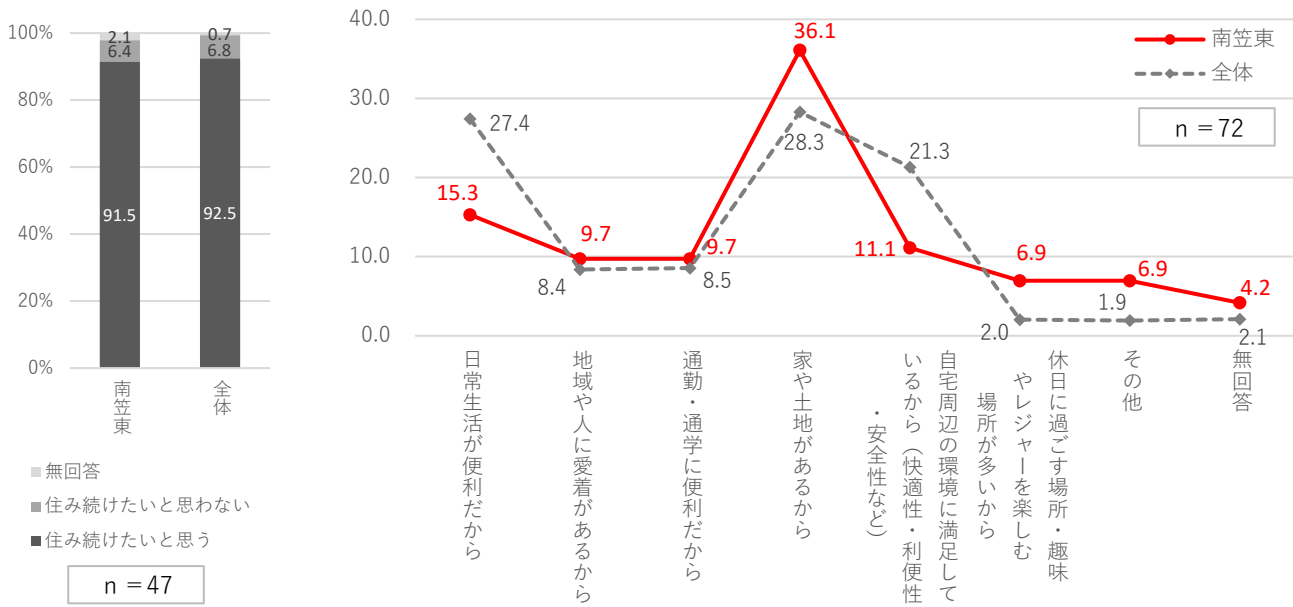
回答数：47

回収率：25.1

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

南笠東学区の居住継続意向については、91.5%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より1.0%低くなっています。

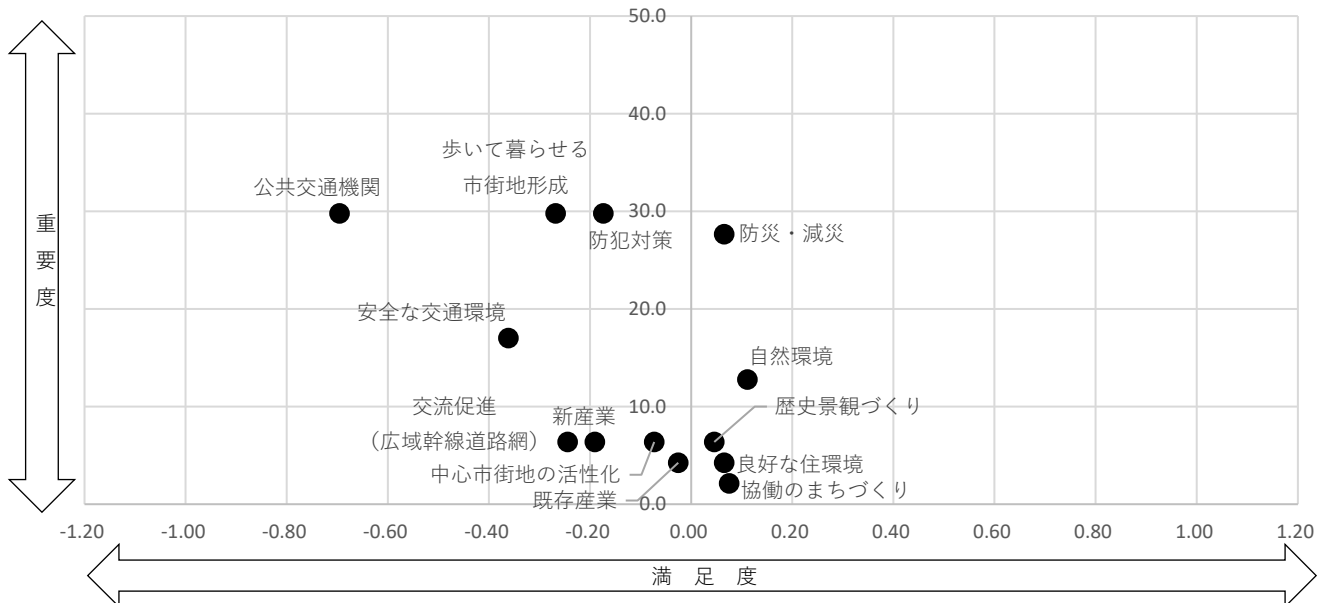
住み続けたい理由については、「家や土地があるから」（36.1%）の回答が多くなっています。市全体の回答と比較すると、「家や土地があるから」が7.8%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

南笠東学区の各分野の不満足度と重要度を比較すると、「公共交通機関」及び「歩いて暮らせる市街地形成」、「防犯対策」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

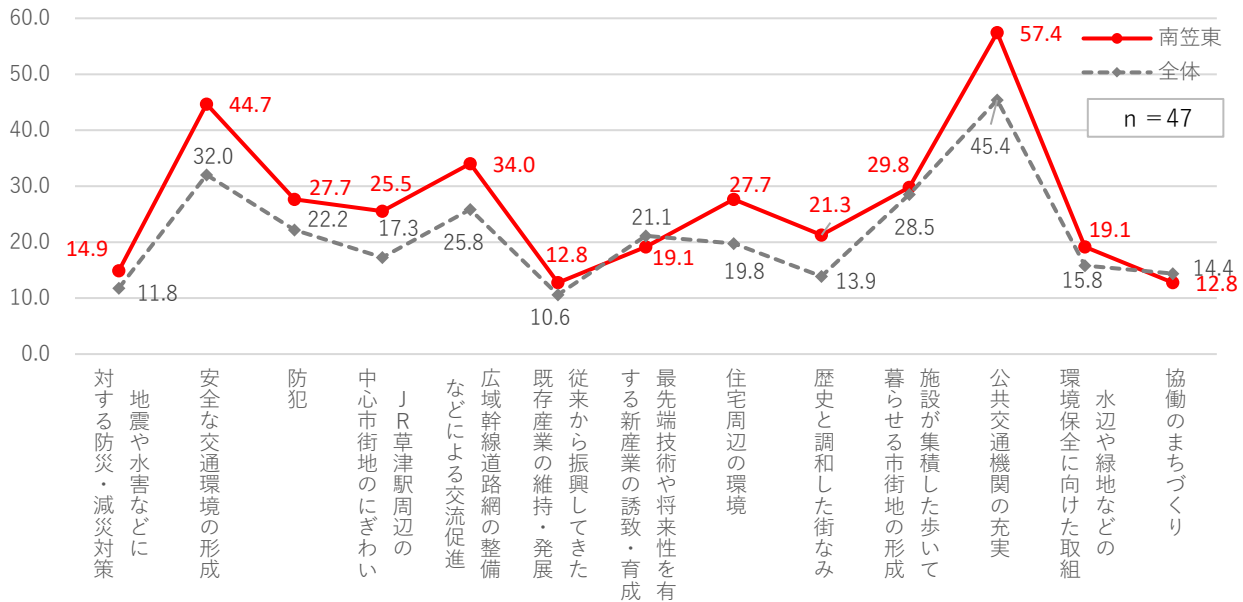


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

南笠東学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」(57.4%)、「安全な交通環境の形成」(44.7%)、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」(34.0%)、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」(29.8%)が高くなっています。

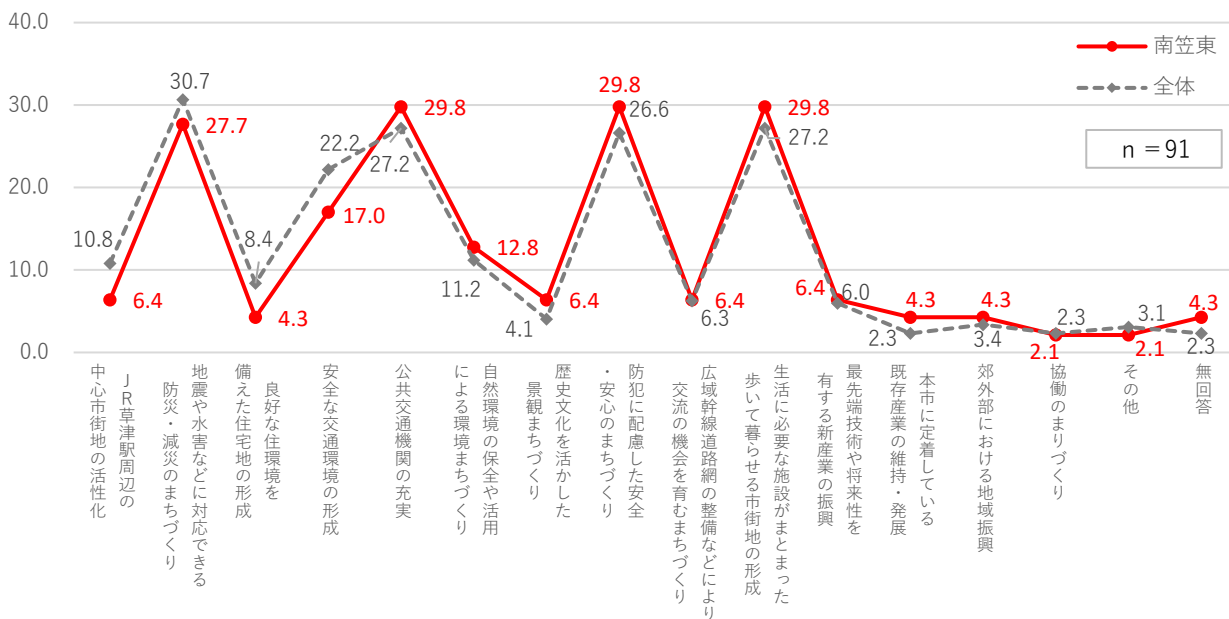
市全体の回答と比較すると、「安全な交通環境の形成」が12.7%、「防犯」が5.5%、「JR草津駅周辺の中心市街地のにぎわい」が8.2%、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」が8.2%、「住宅周辺の環境」が7.9%、「歴史と調和した街なみ」が7.4%、「公共交通機関の充実」が12.0%高くなっています。



※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

南笠東学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「公共交通機関の充実」、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」及び「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」(29.8%)、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(27.7%)の回答が多くなっています。

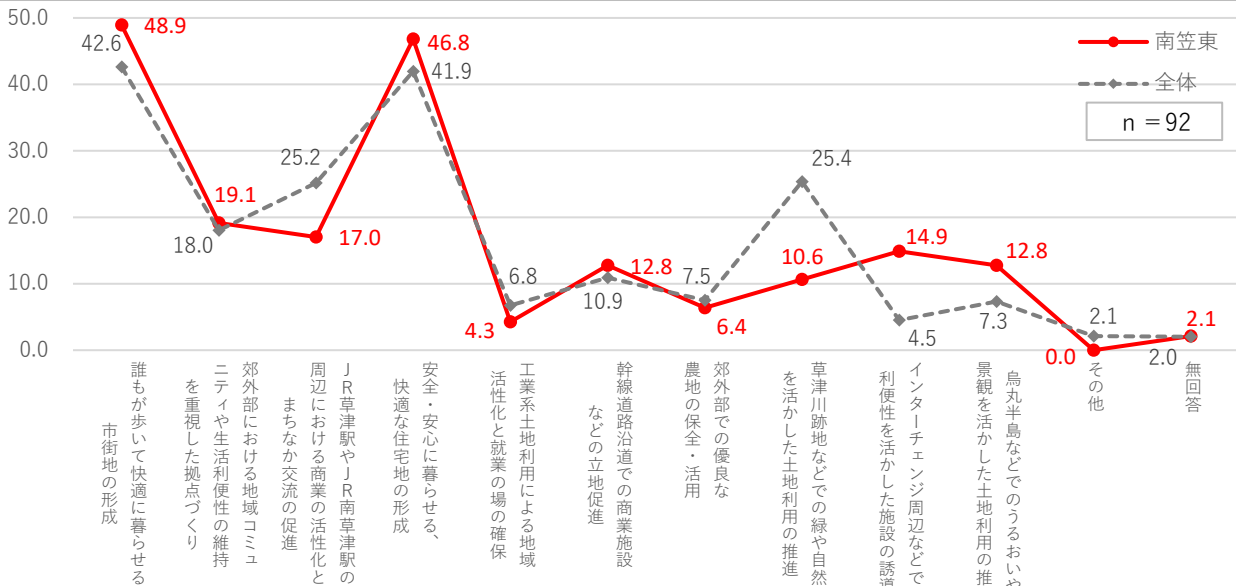


※ 2つまで回答

3. 土地利用の方針

南笠東学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(48.9%)、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(46.8%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」が6.3%、「インターチェンジ周辺などでの利便性を活かした施設の誘導」が10.4%、「烏丸半島などでのうまいや景観を活かした土地利用の推進」が5.5%高くなっています。

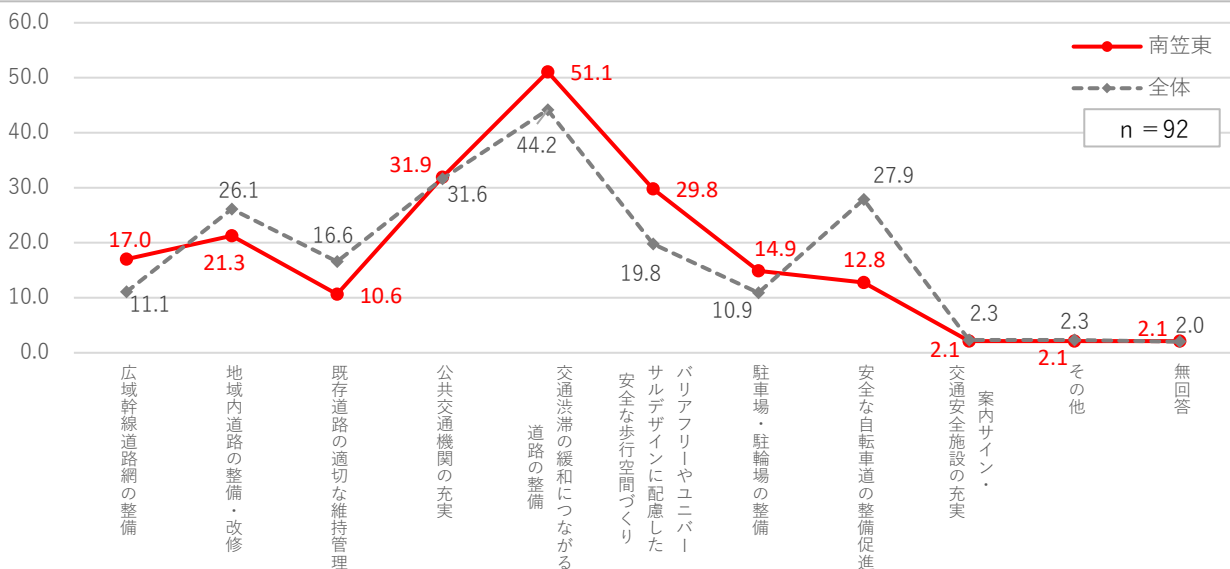


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

南笠東学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(51.1%)、「公共交通機関の充実」(31.9%)、「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間づくり」(29.8%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「広域幹線道路網の整備」が5.9%、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」が6.9%、「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間づくり」が10.0%高くなっています。

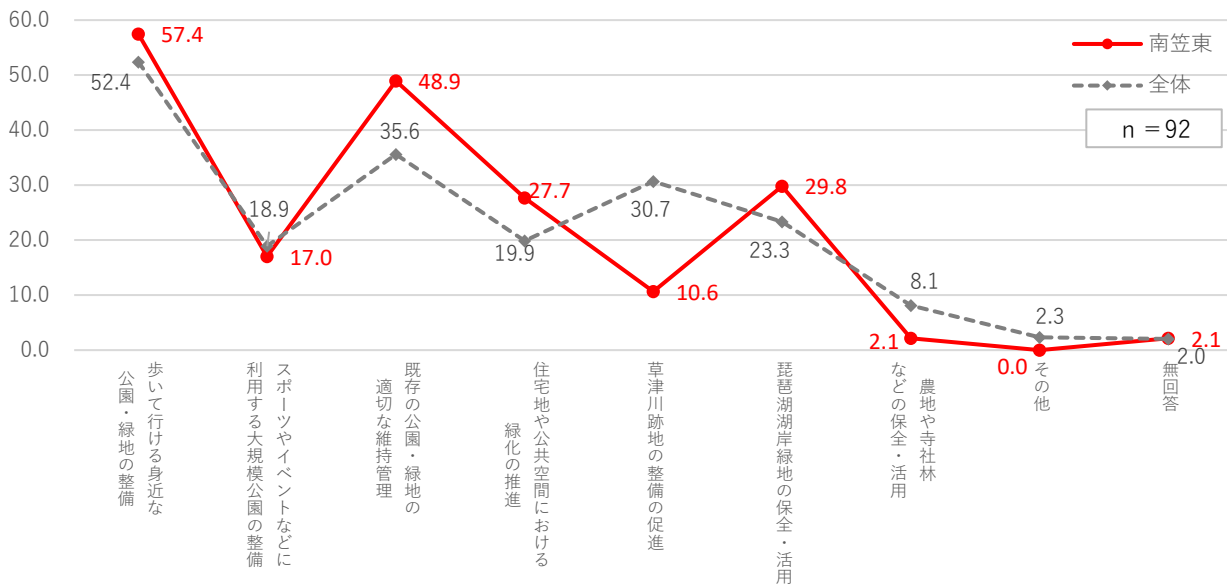


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

南笠東学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（57.4%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（48.9%）、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」（29.8%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」が5.0%、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」が13.3%、「住宅地や公共空間における緑化の推進」が7.8%、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」が6.5%高くなっています。

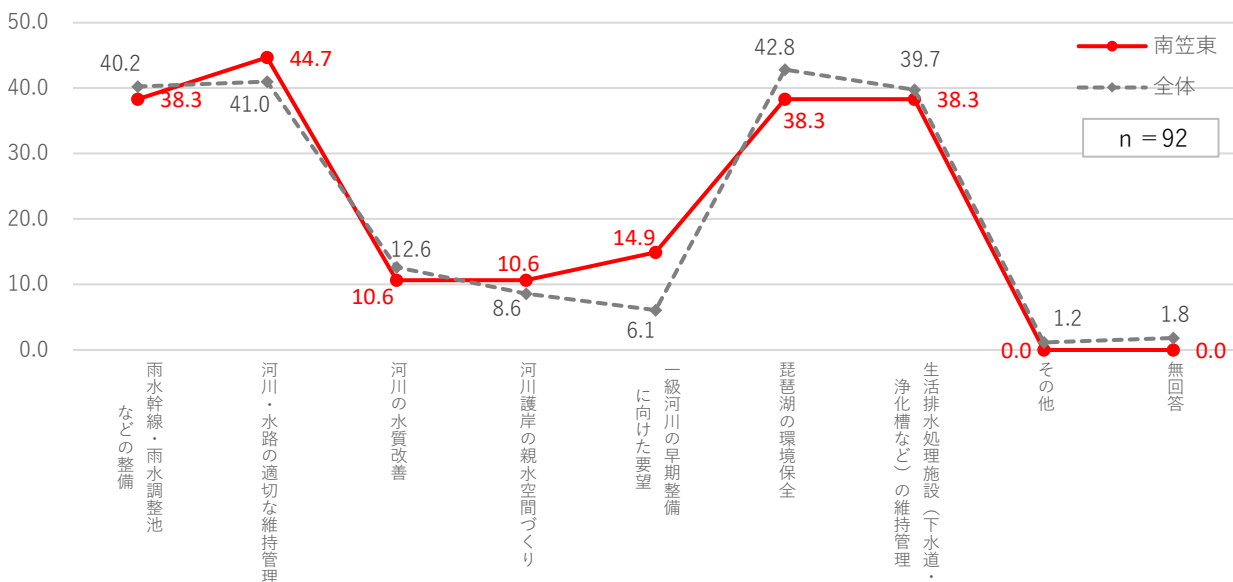


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

南笠東学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「河川・水路の適切な維持管理」（44.7%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」、「琵琶湖の環境保全」及び「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（38.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「一級河川の早期整備に向けた要望」が8.8%高くなっています。

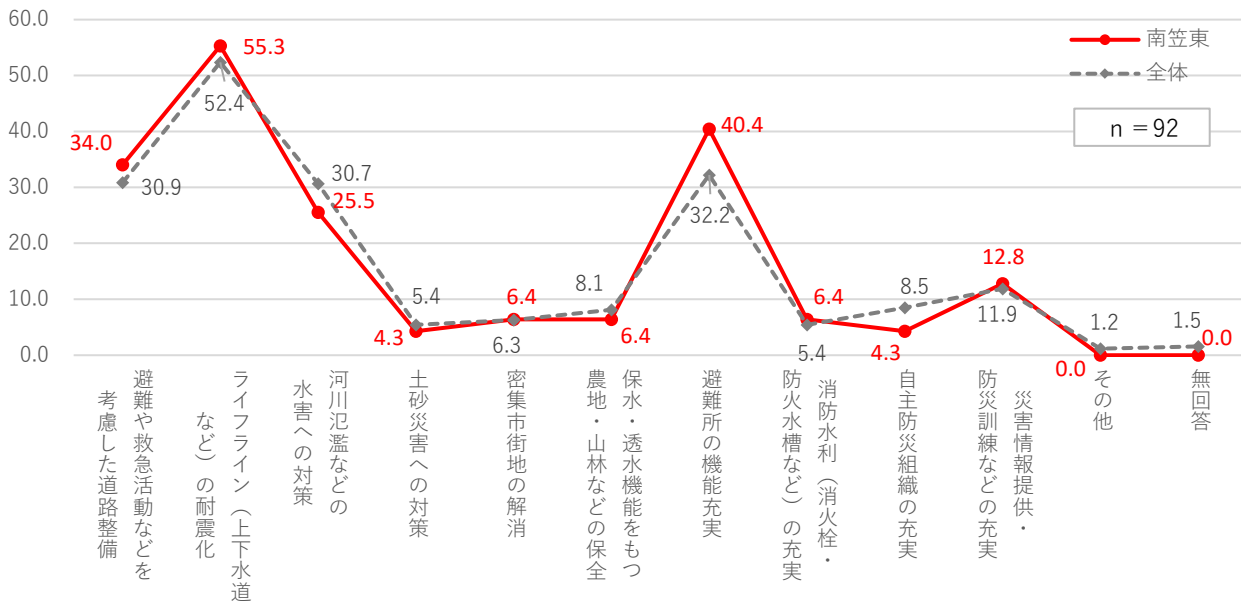


※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

南笠東学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（55.3%）、「避難所の機能充実」（40.4%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（34.0%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「避難所の機能充実」が8.2%高くなっています。

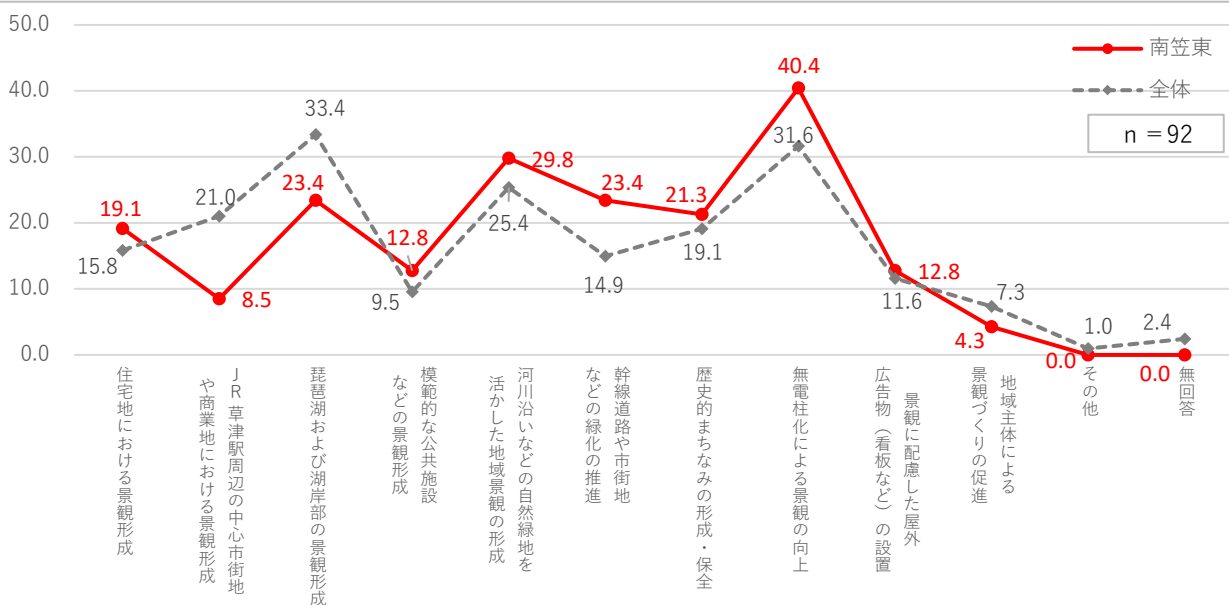


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

南笠東学区の景観に関して重要と思われる施策は、「無電柱化による景観の向上」（40.4%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（29.8%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「幹線道路や市街地などの緑化の推進」が8.5%、「無電柱化による景観の向上」が8.8%高くなっています。

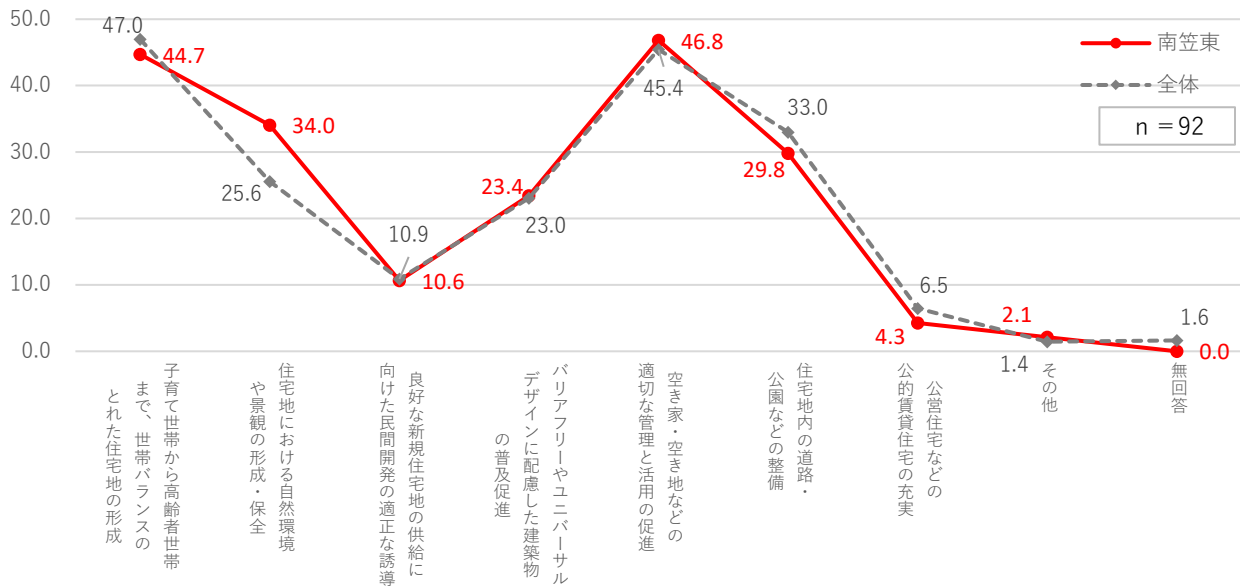


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

南笠東学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（46.8%）、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（44.7%）、「住宅地における自然環境や景観の形成・保全」（34.0%）の回答が多くなっています。

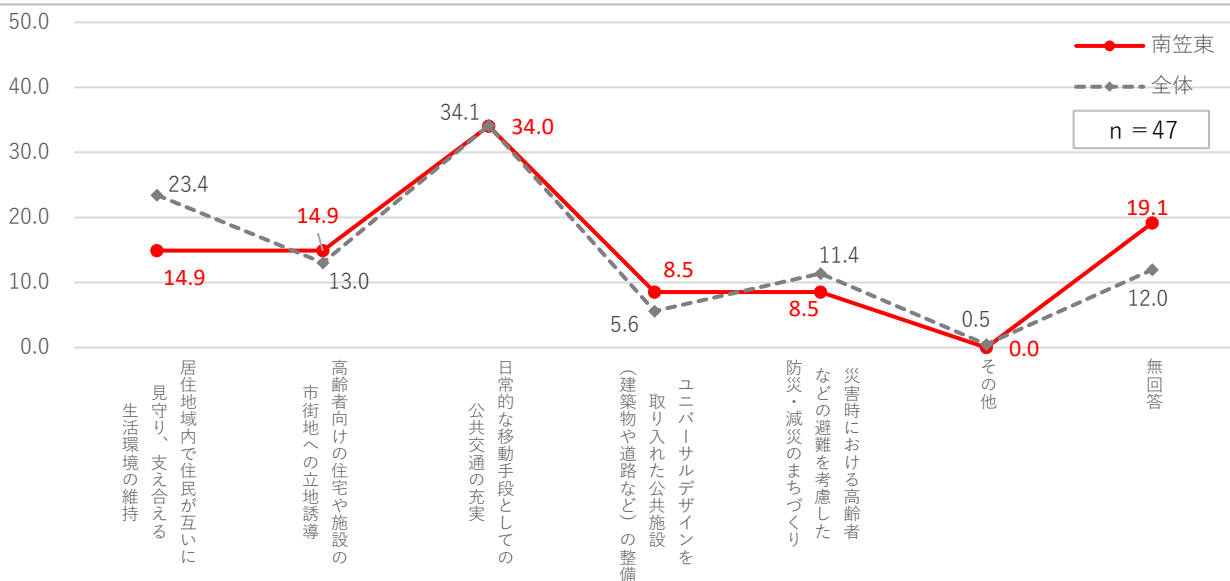
市全体の回答と比較すると、「住宅地における自然環境や景観の形成・保全」が8.4%高くなっています。



※2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

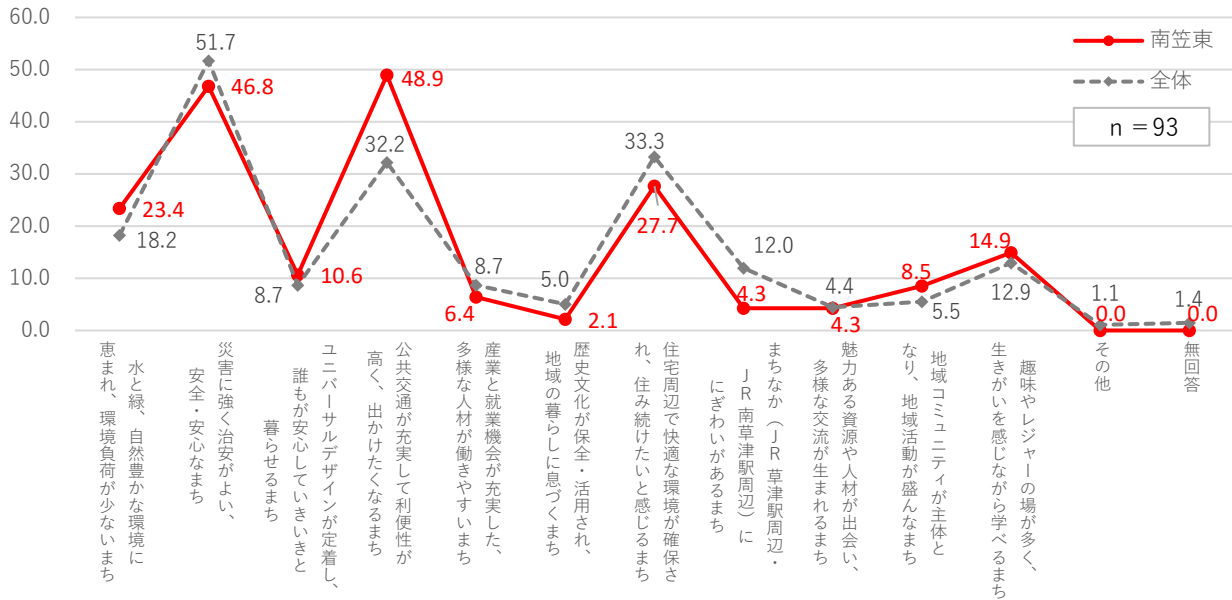
南笠東学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（34.0%）の回答が多くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

南笠東学区の草津市がめざすまちの将来像は、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」(48.9%)、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」(46.8%)、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」(27.7%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」が16.7%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 山田学区】

配布数：183

回答数：53

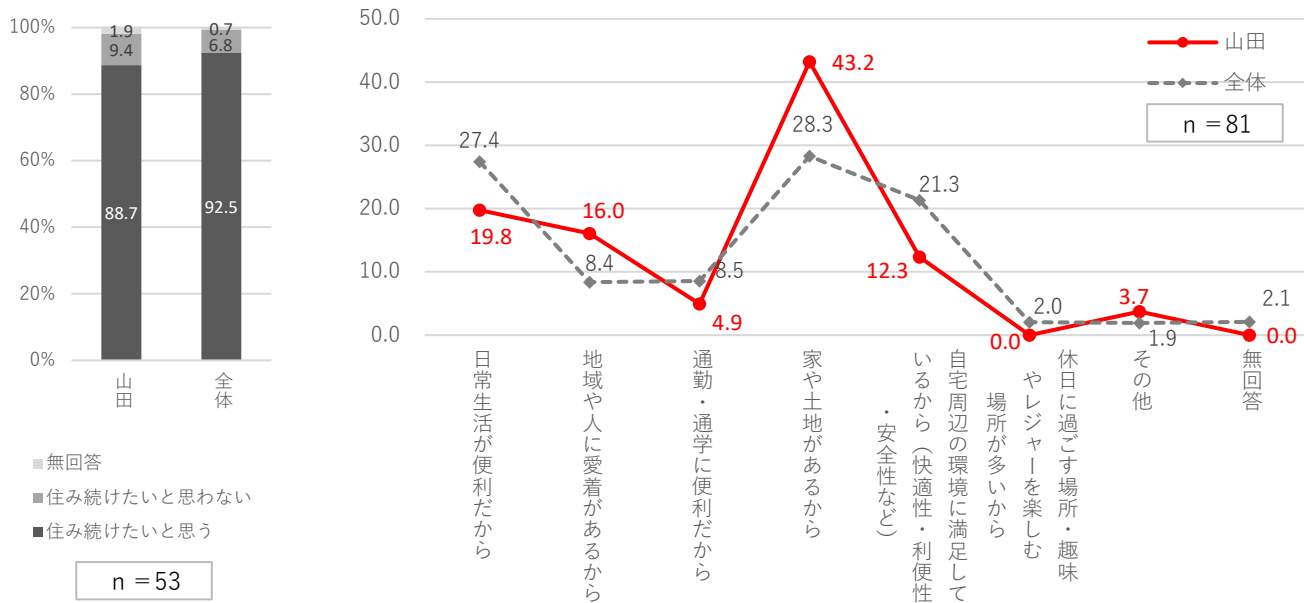
回収率：29.0

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

山田学区の居住継続意向については、88.7%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より3.8%低くなっています。

住み続けたい理由については、「家や土地があるから」（43.2%）の回答が多くなっています。

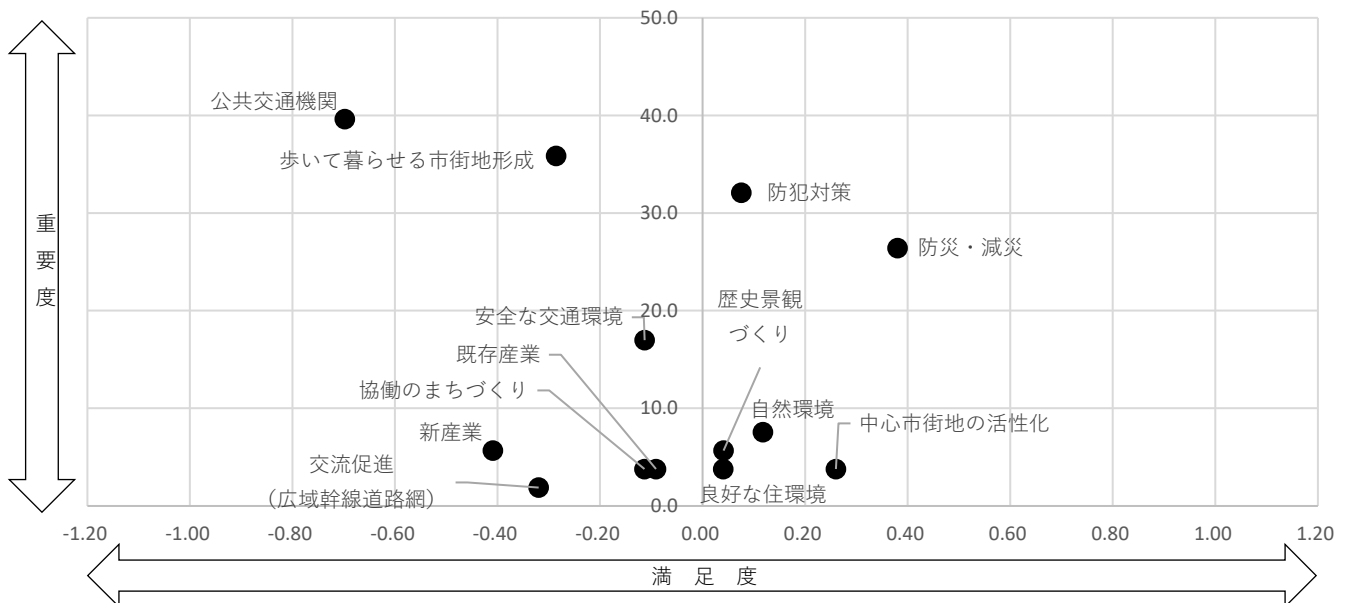
市全体の回答と比較すると、「地域や人に愛着があるから」が7.6%、「家や土地があるから」が14.9%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

山田学区の各分野の不満度と重要度を比較すると、「公共交通機関」及び「歩いて暮らせる市街地形成」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

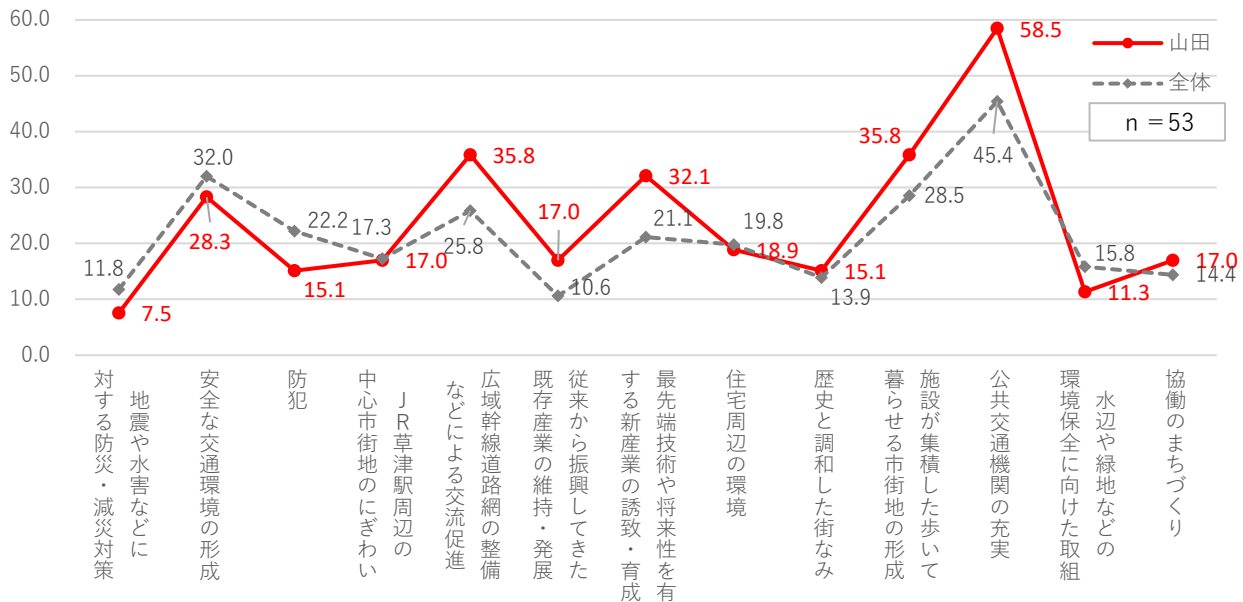


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満足度

山田学区の分野別の不満足度は、「公共交通機関の充実」(58.5%)、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」及び「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」(35.8%)、「最先端技術や将来性を有する新産業の誘致・育成」(32.1%)が高くなっています。

市全体の回答と比較すると、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進安全な交通環境の形成」が10.0%、「従来から振興してきた既存産業の維持・発展」が6.4%、「最先端技術や将来性を有する新産業の誘致・育成」が11.0%、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」が7.3%、「公共交通機関の充実」が13.1%高くなっています。

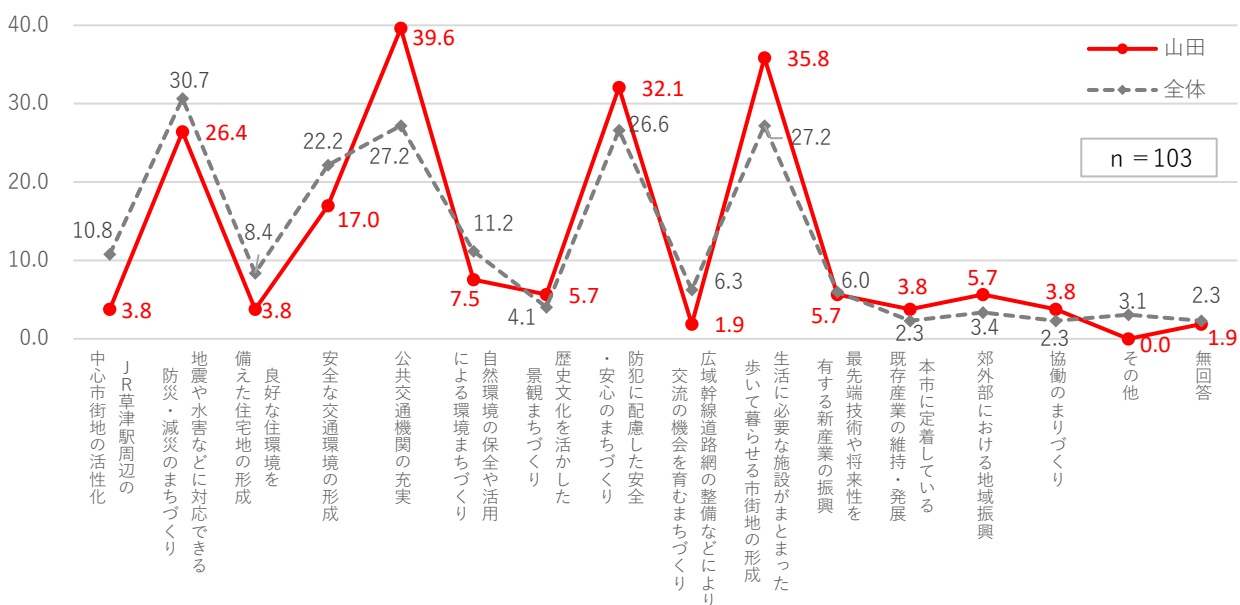


※不満足度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

山田学区の重点的に進めるべきだと思ふまちづくりの分野は、「公共交通機関の充実」(39.6%)、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」(35.8%)、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(32.1%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通機関の充実」が12.4%、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」が5.5%、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」が8.6%高くなっています。

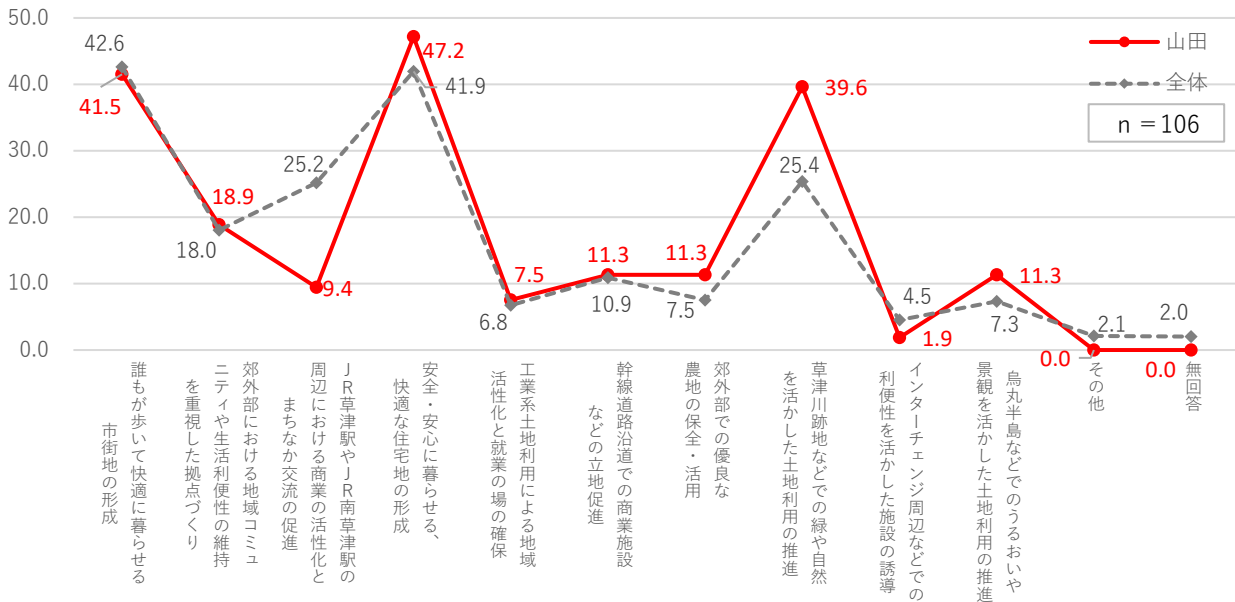


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

山田学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(47.2%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(41.5%)、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」(39.6%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」が5.3%、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」が14.2%高くなっています。

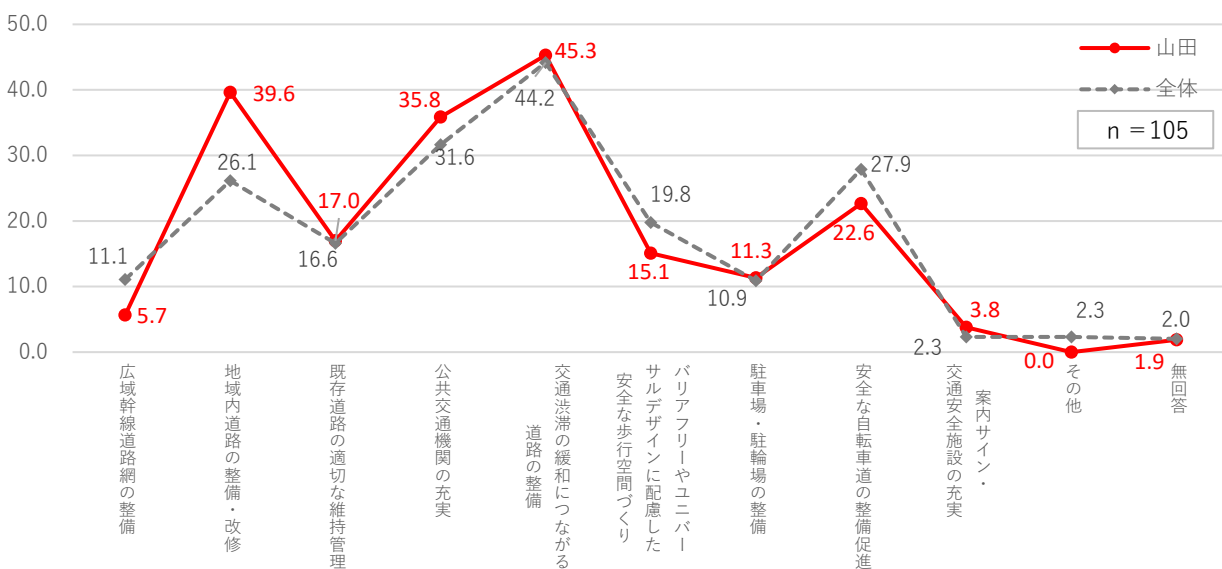


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

山田学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」(45.3%)、「地域内道路の整備・改修」(39.6%)、「公共交通機関の充実」(35.8%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「地域内道路の整備・改修」が13.5%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

山田学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「草津川跡地の整備の促進」（60.4%）、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（50.9%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「草津川跡地の整備の促進」が29.7%、「農地や寺社林などの保全・活用」が5.1%高くなっています。

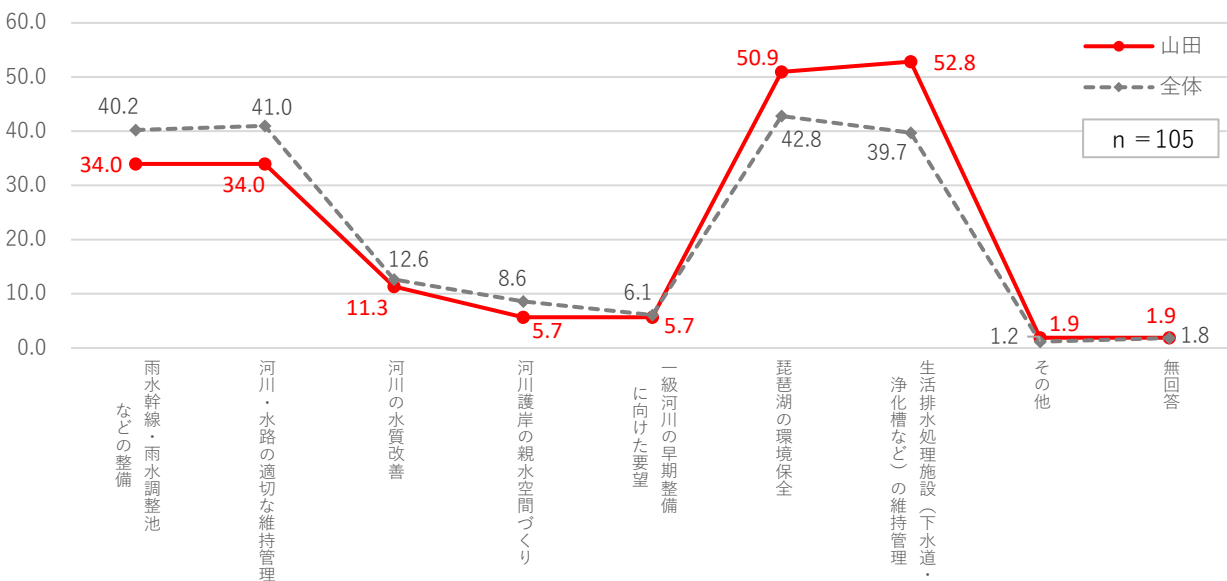


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

山田学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（52.8%）、「琵琶湖の環境保全」（50.9%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」及び「河川・水路の適切な維持管理」（34.0%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「琵琶湖の環境保全」が8.1%、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」が13.1%高くなっています。

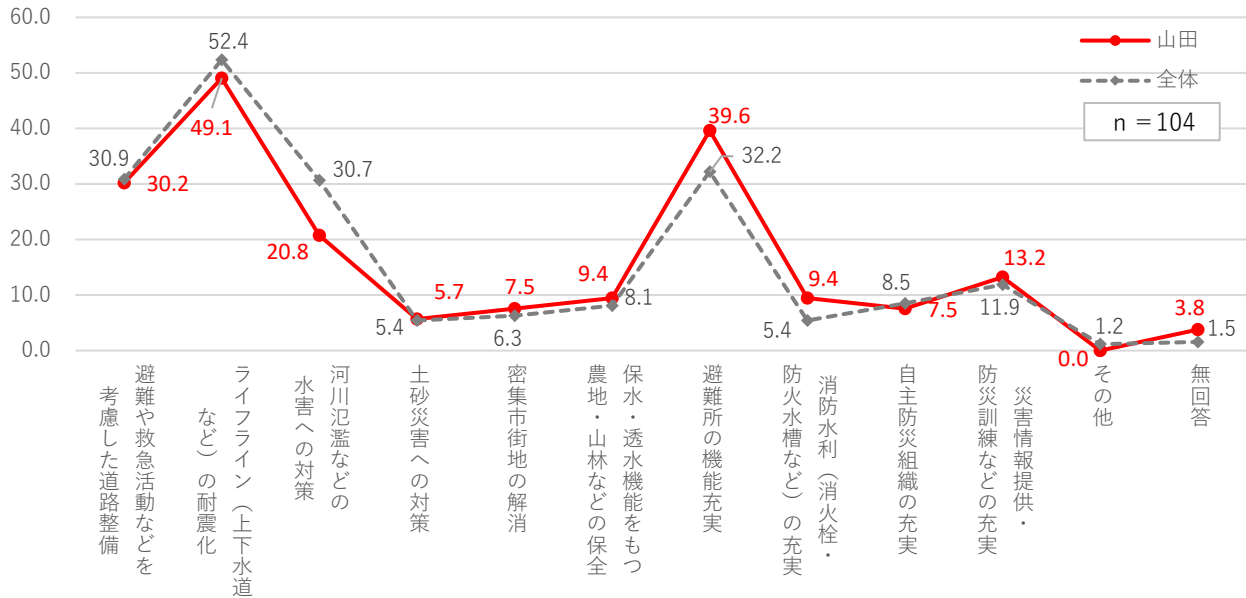


※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

山田学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（49.1%）、「避難所の機能充実」（39.6%）「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（30.2%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「避難所の機能充実」が7.4%高くなっています。

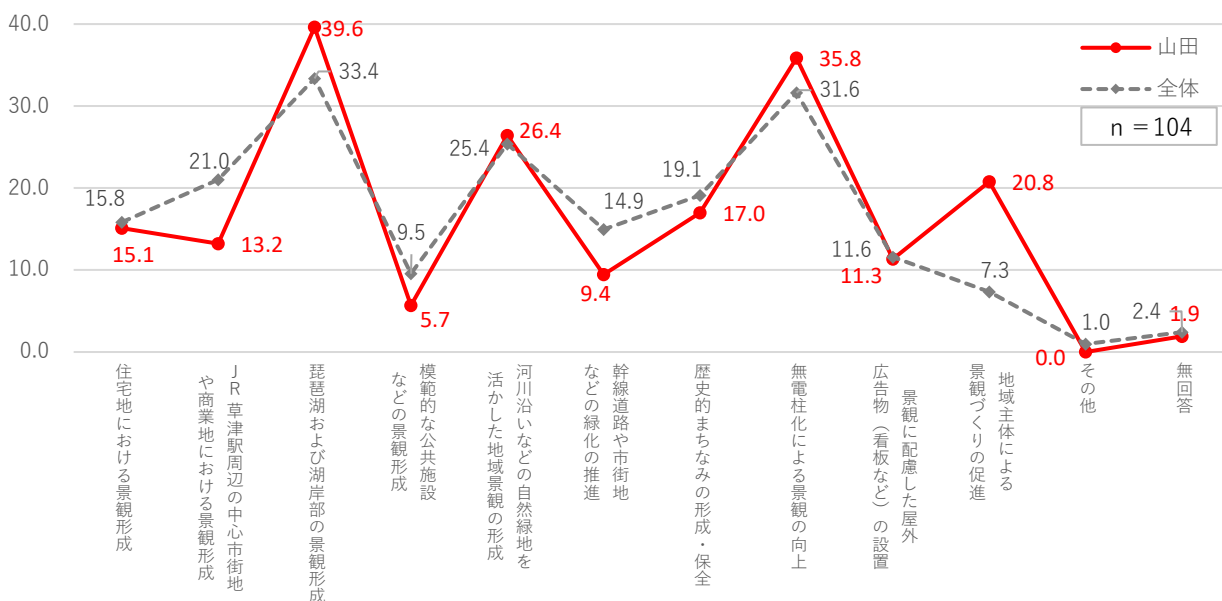


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

山田学区の景観に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（39.6%）、「無電柱化による景観の向上」（35.8%）、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（26.4%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」が6.2%、「地域主体による景観づくりの促進」が13.5%高くなっています。

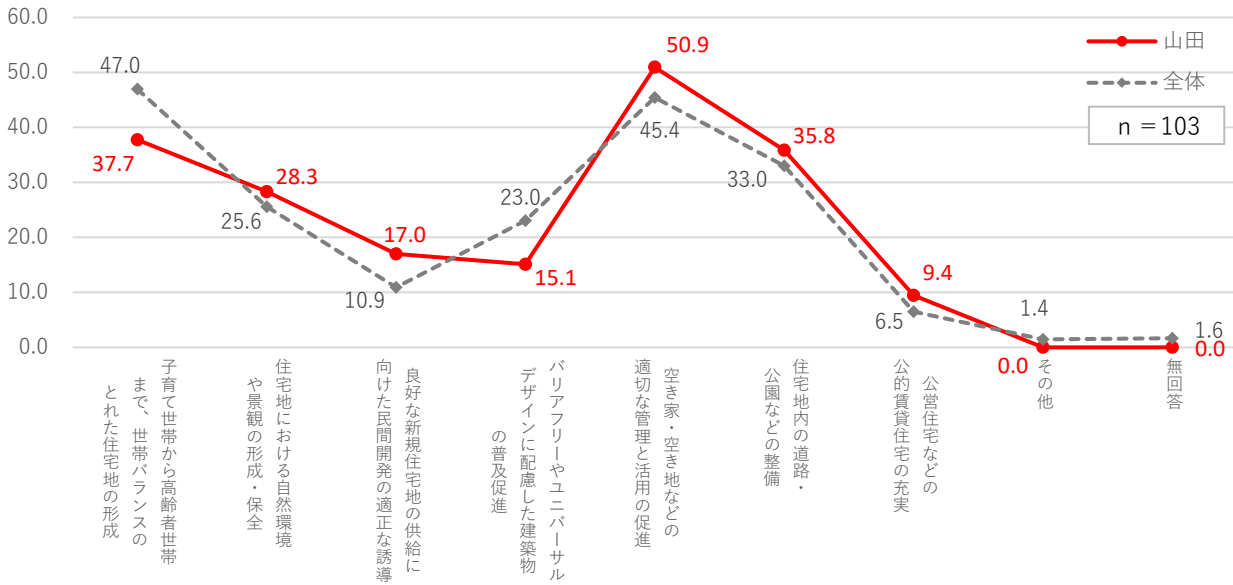


※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

山田学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（50.9%）、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（37.7%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（35.8%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「良好な新規住宅地の供給に向けた民間開発の適正な誘導」が6.1%、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」が5.5%高くなっています。

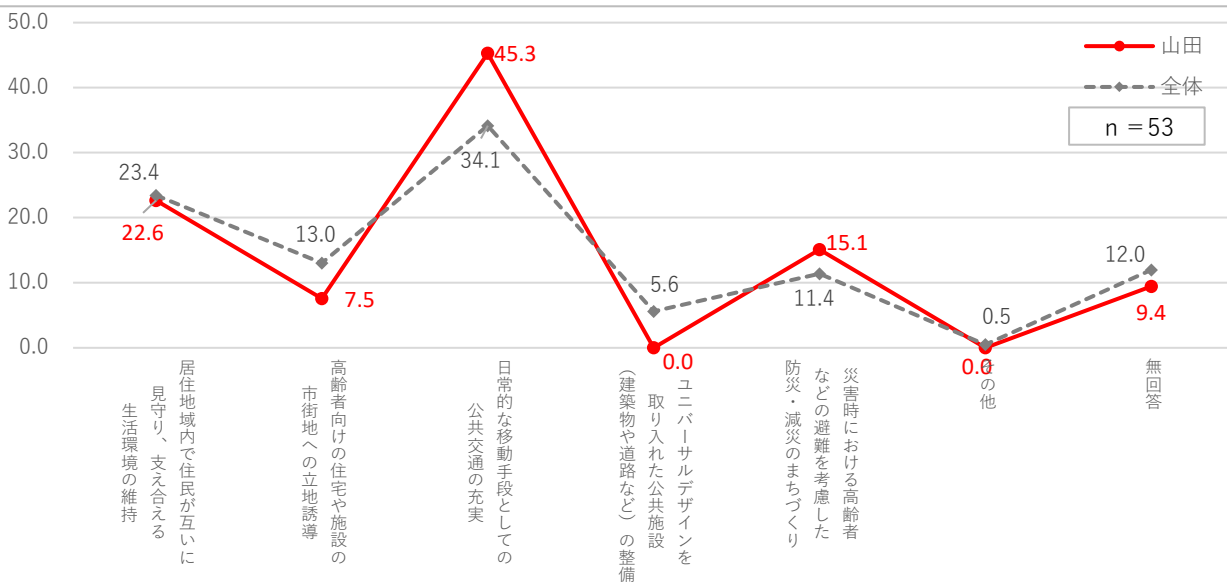


※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

山田学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（45.3%）、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（22.6%）の回答が多くなっています。

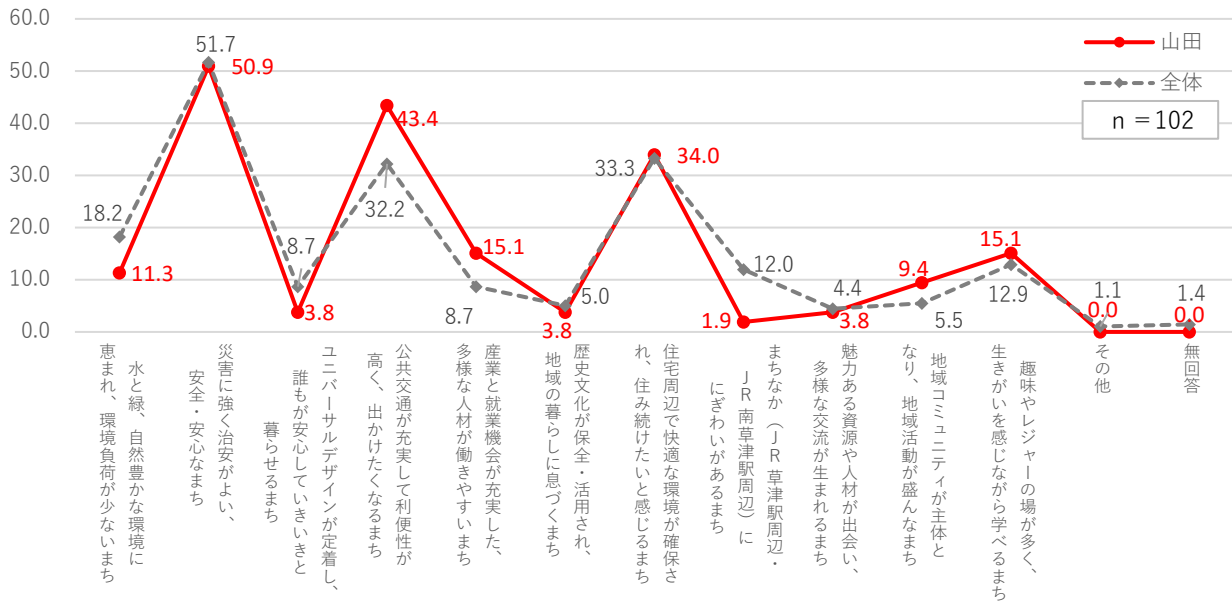
市全体の回答と比較すると、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」が11.2%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

山田学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（50.9%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（43.4%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（34.0%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」が11.2%、「産業と就業機会が充実した、多様な人材が働きやすいまち」が6.4%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 笠縫学区】

配布数：248

回答数：93

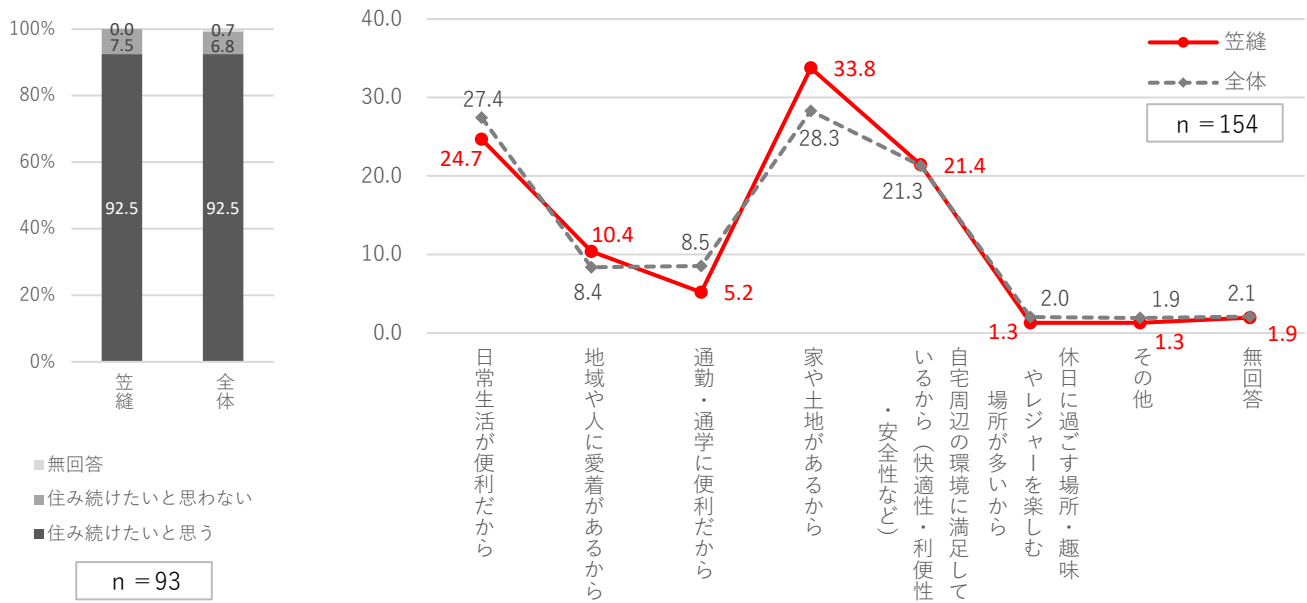
回収率：37.5

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

笠縫学区の居住継続意向については、92.5%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体と同じ割合となっています。

住み続けたい理由については、「家や土地があるから」（33.8%）、「日常生活が便利だから」（24.7%）の回答が多くなっています。

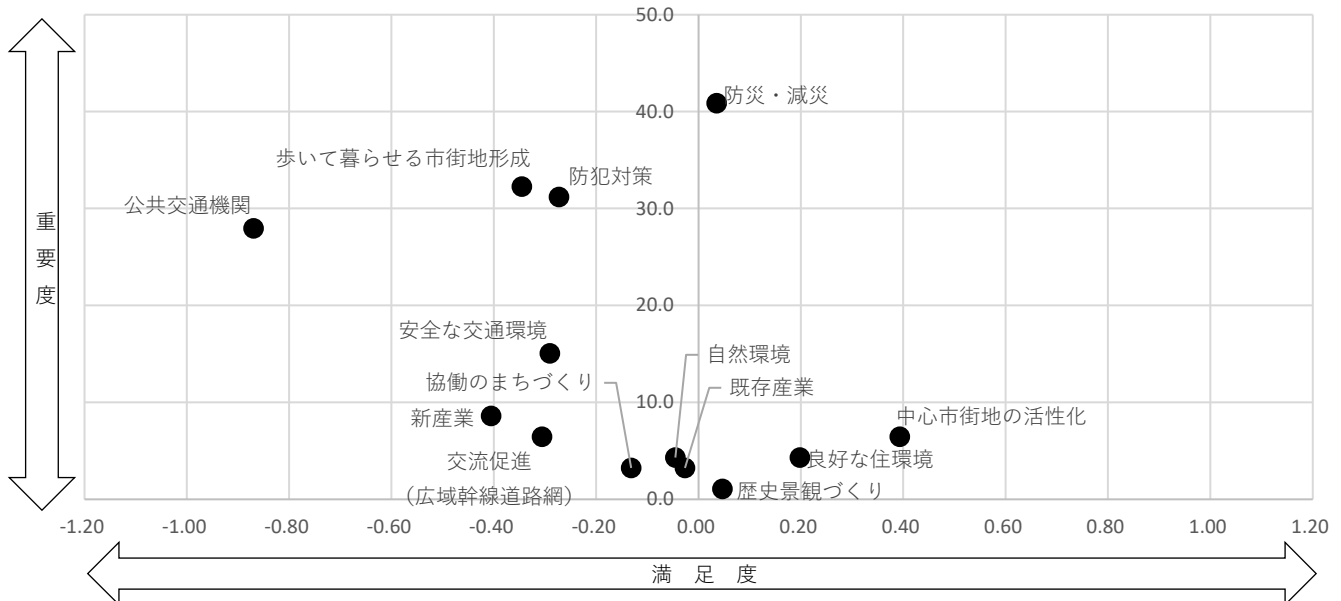
市全体の回答と比較すると、「家や土地があるから」が5.5%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

笠縫学区の各分野の不満度と重要度を比較すると、「公共交通機関」、「歩いて暮らせる市街地形成」及び「防犯対策」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

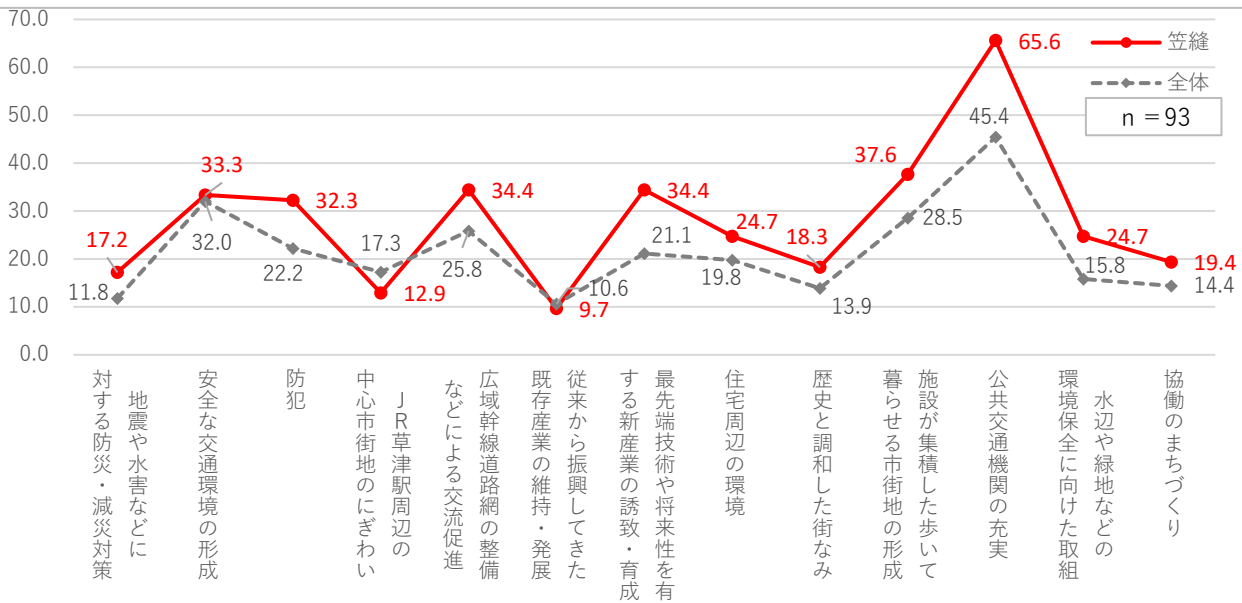


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

笠縫学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」(65.6%)、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」(37.6%)、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」及び「最先端技術や将来性を有する新産業の誘致・育成」(34.4%)、「安全な交通環境の形成」(33.3%)、「防犯」(32.3%)が高くなっています。

市全体の回答と比較すると、「地震や水害などに対する防災・減災対策」が5.4%、「防犯」が10.1%、「広域幹線道路網の整備などによる交流促進」が8.6%、「最先端技術や将来性を有する新産業の誘致・育成」が13.3%、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」が9.1%、「公共交通機関の充実」が20.2%、「水辺や緑地などの環境保全に向けた取組」が8.9%、「協働のまちづくり」が5.0%高くなっています。

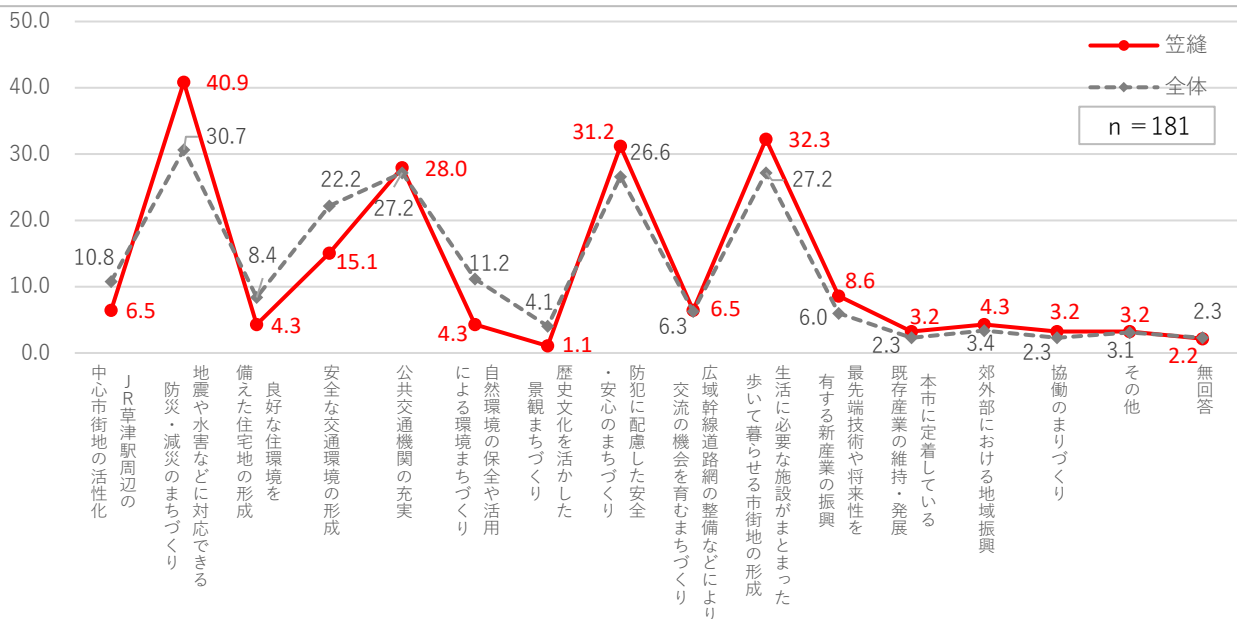


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

笠縫学区の重点的に進めるべきだと思うまちづくりの分野は、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(40.9%)、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」(32.3%)、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(31.2%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」が10.2%、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」が5.1%高くなっています。

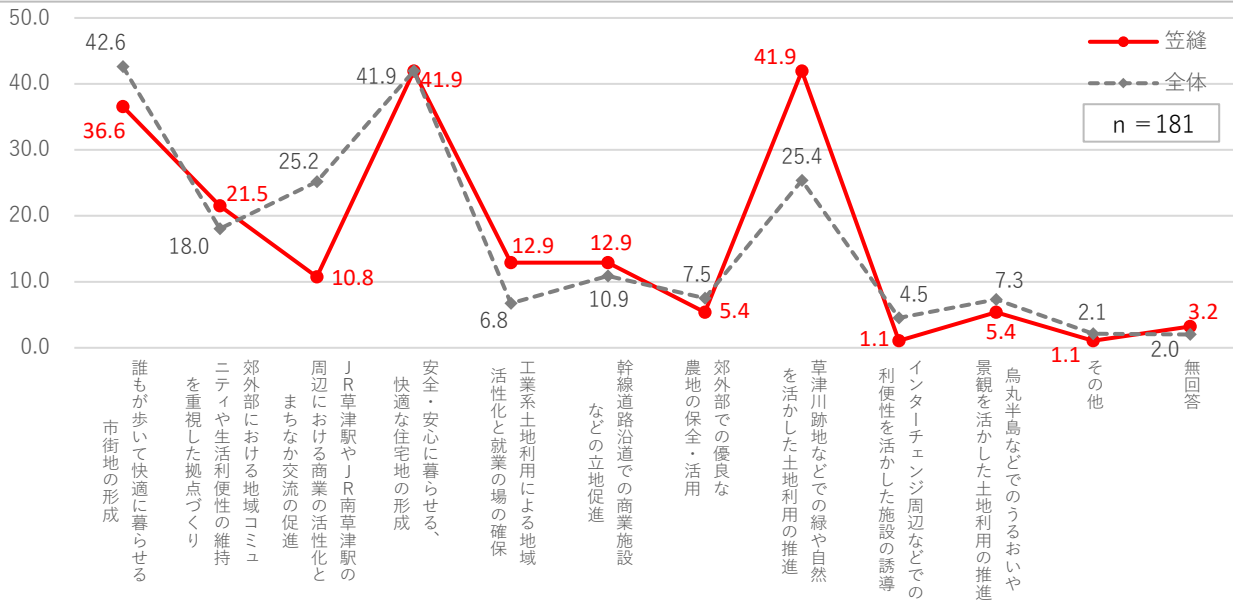


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

笠縫学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」及び「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」（41.9%）、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」（36.6%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「工業系土地利用による地域活性化と就業の場の確保」が6.1%、「草津川跡地などでの緑や自然を活かした土地利用の推進」が16.5%高くなっています。

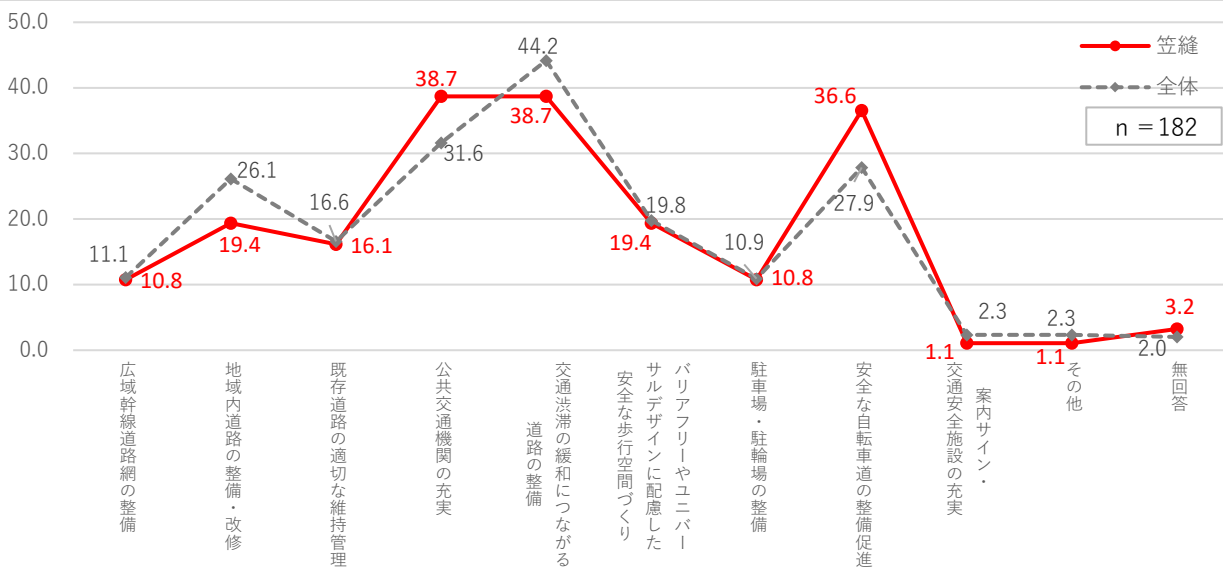


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

笠縫学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「公共交通機関の充実」及び「交通渋滞の緩和につながる道路の整備」（38.7%）、「安全な自転車道の整備促進」（36.6%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通機関の充実」が7.1%、「安全な自転車道の整備促進」が8.7%高くなっています。

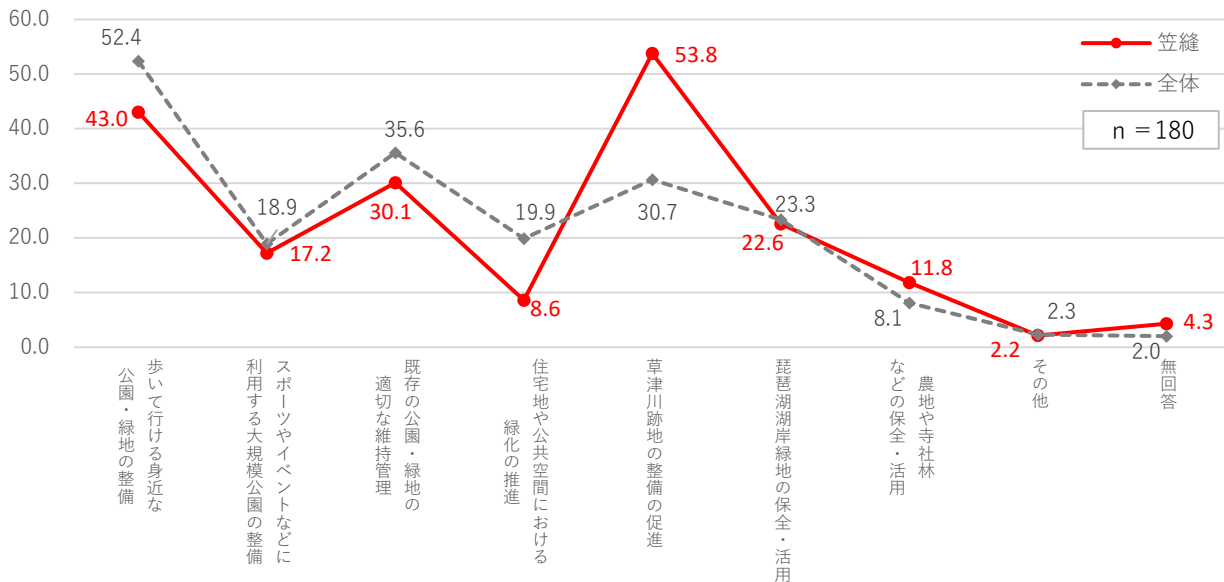


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

笠縫学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「草津川跡地の整備の促進」（53.8%）、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（43.0%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（30.1%）の回答が多くなっています。

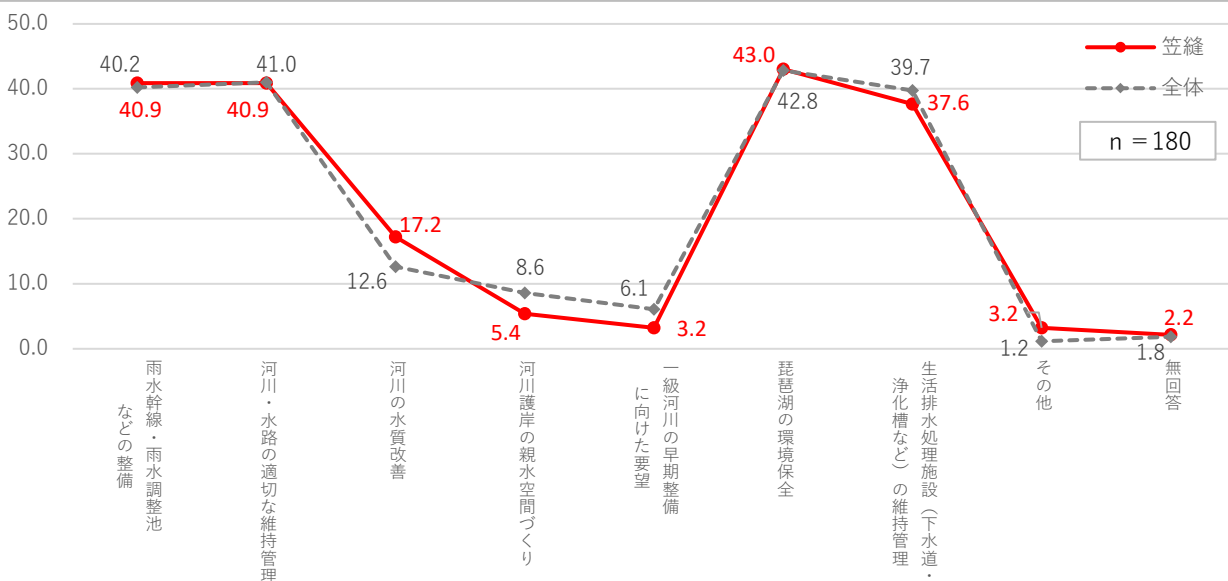
市全体の回答と比較すると「草津川跡地の整備の促進」が23.1%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

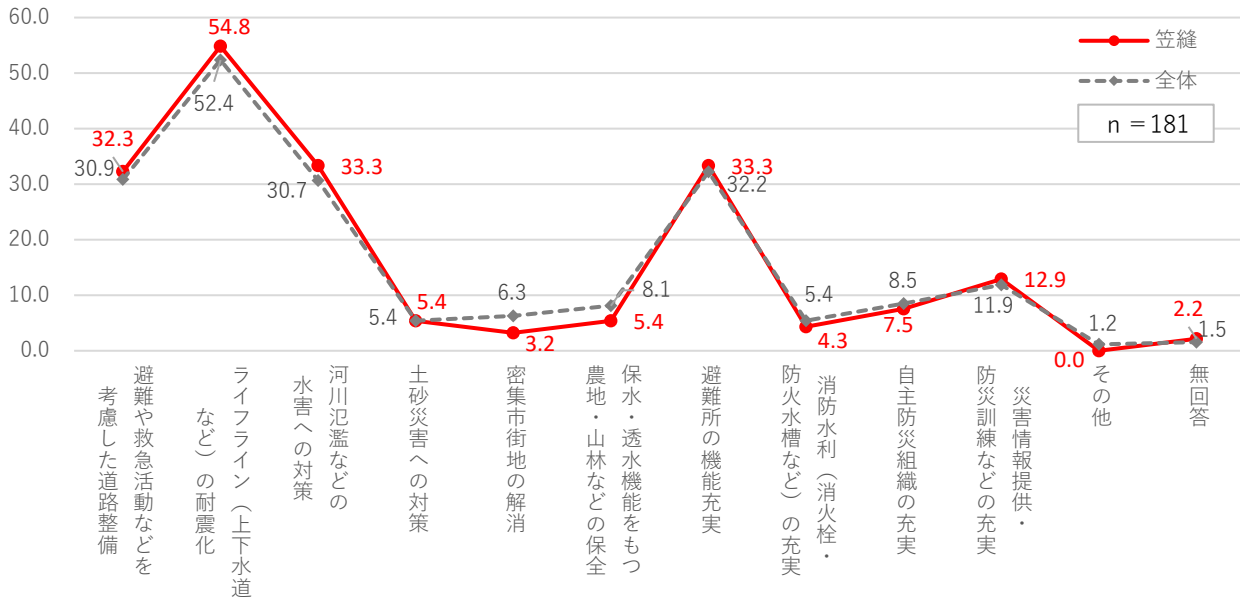
笠縫学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖の環境保全」（43.0%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」及び「河川・水路の適切な維持管理」（40.9%）、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（37.6%）の回答が多くなっています。



※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

笠縫学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（54.8%）、「河川氾濫などの水害への対策」及び「避難所の機能充実」（33.3%）、「避難や救急活動などを考慮した道路整備」（32.3%）の回答が多くなっています。

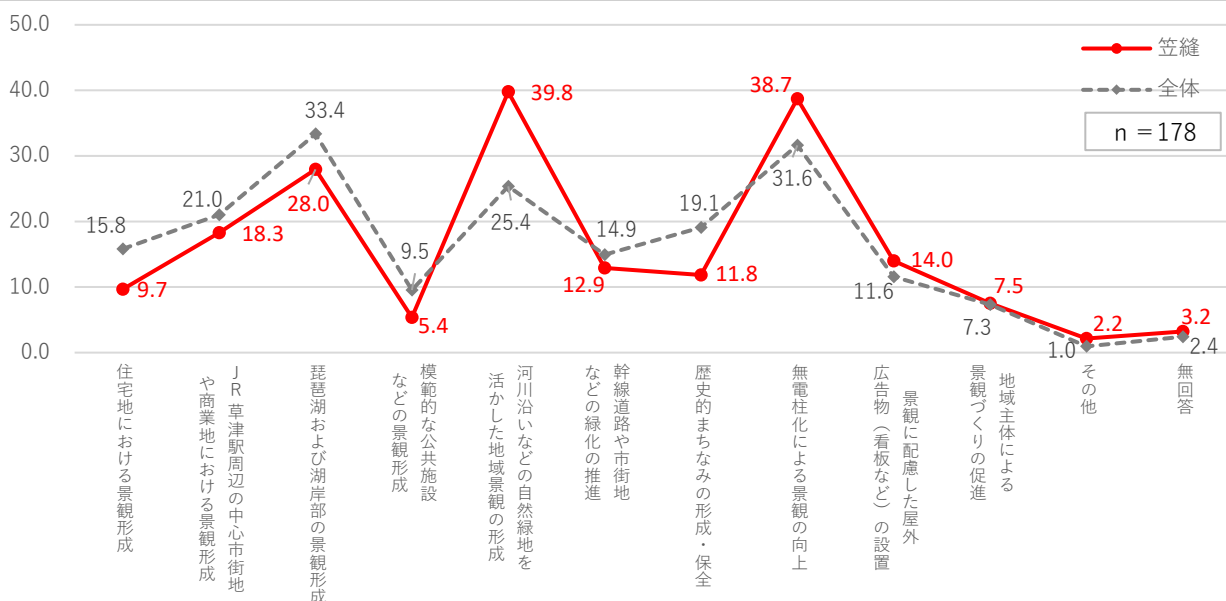


※ 2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

笠縫学区の景観に関して重要と思われる施策は、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（39.8%）、「無電柱化による景観の向上」（38.7%）、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（28.0%）の回答が多くなっています。

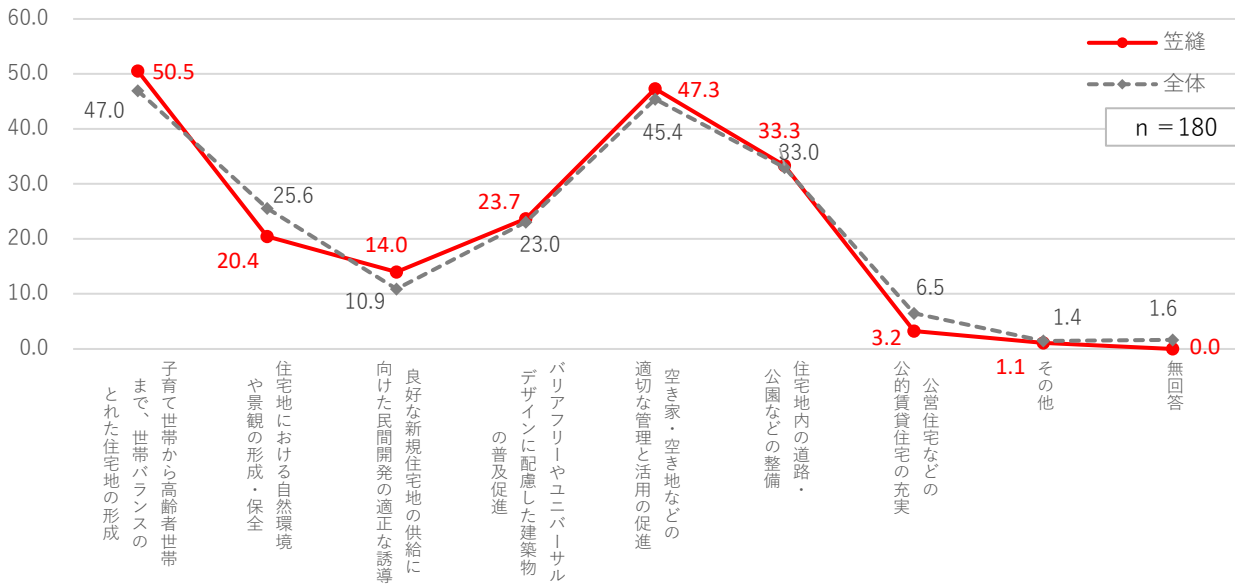
市全体の回答と比較すると、「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」が14.4%、「無電柱化による景観の向上」が7.1%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

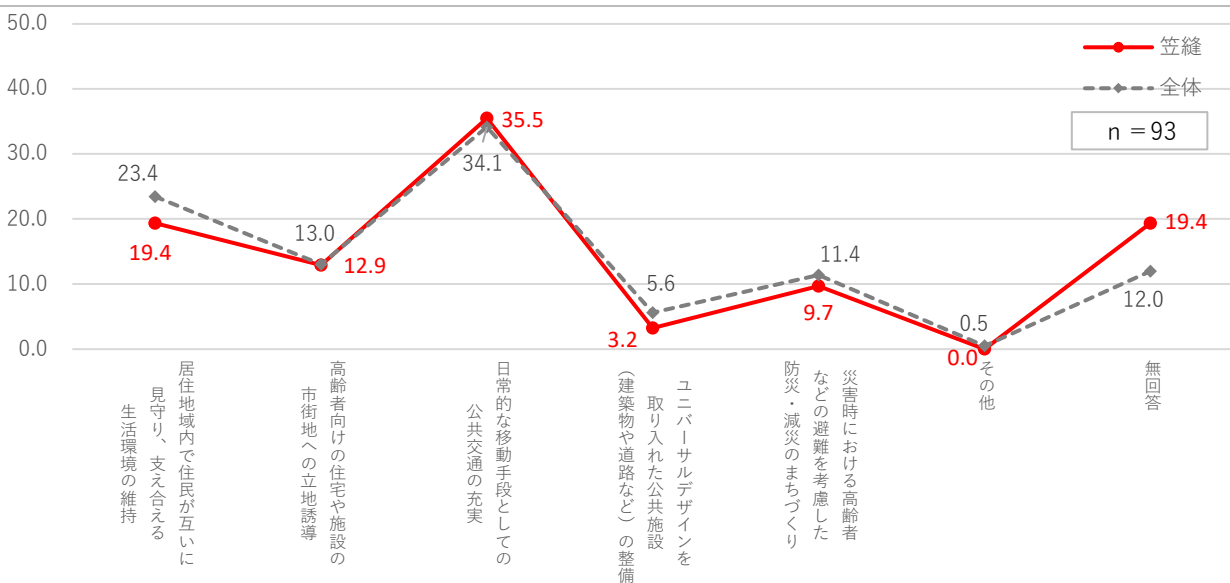
笠縫学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（50.5%）、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（47.3%）、「住宅地内の道路・公園などの整備」（33.3%）の回答が多くなっています。



※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

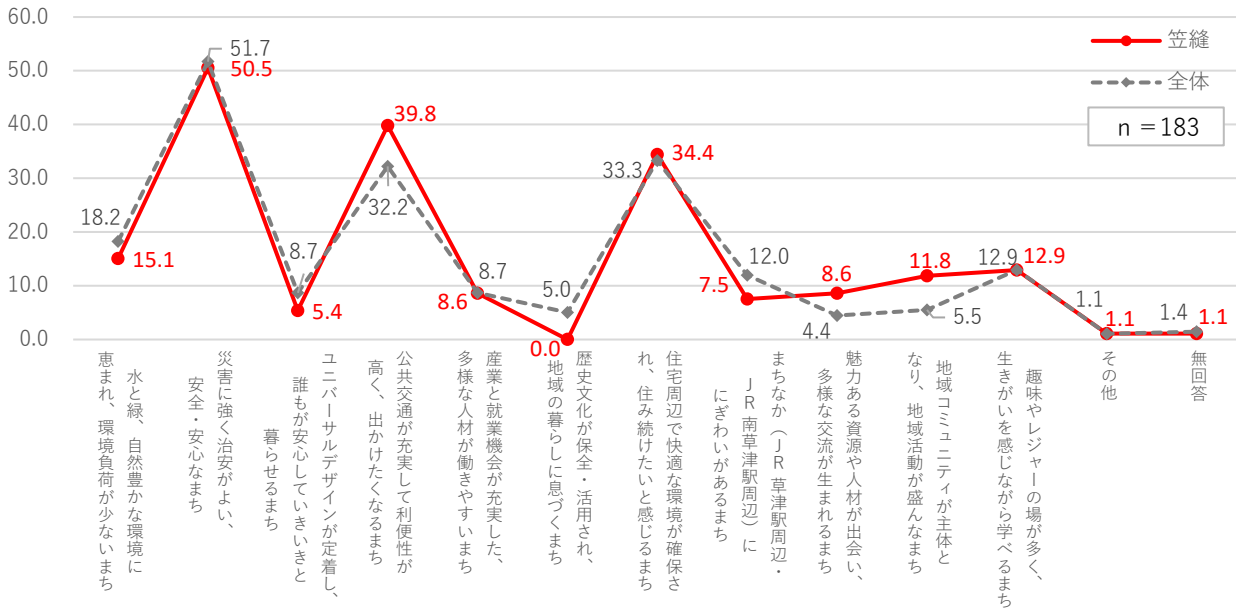
笠縫学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（35.5%）、「居住地域内で住民が互に見守り、支え合える生活環境の維持」（19.4%）の回答が多くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

笠縫学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（50.5%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（39.8%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（34.4%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」が7.6%、「地域コミュニティが主体となり、地域活動が盛んなまち」が6.3%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 笠縫東学区】

配布数：237

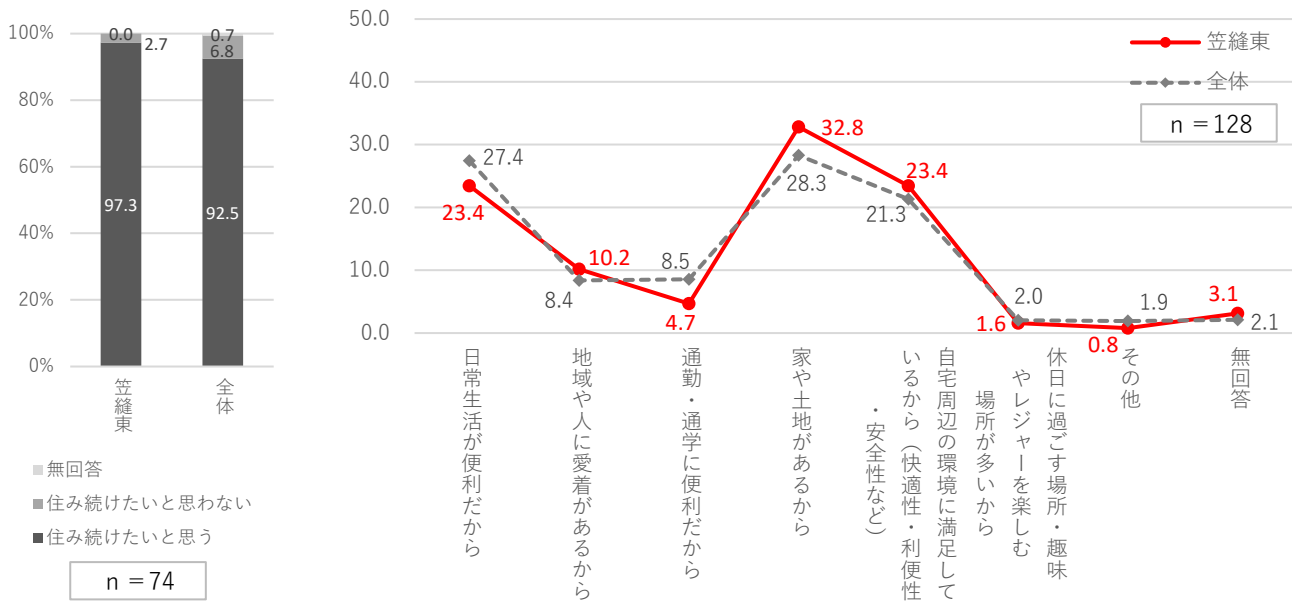
回答数：74

回収率：31.2

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

笠縫東学区の居住継続意向については、97.3%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より4.8%高くなっています。

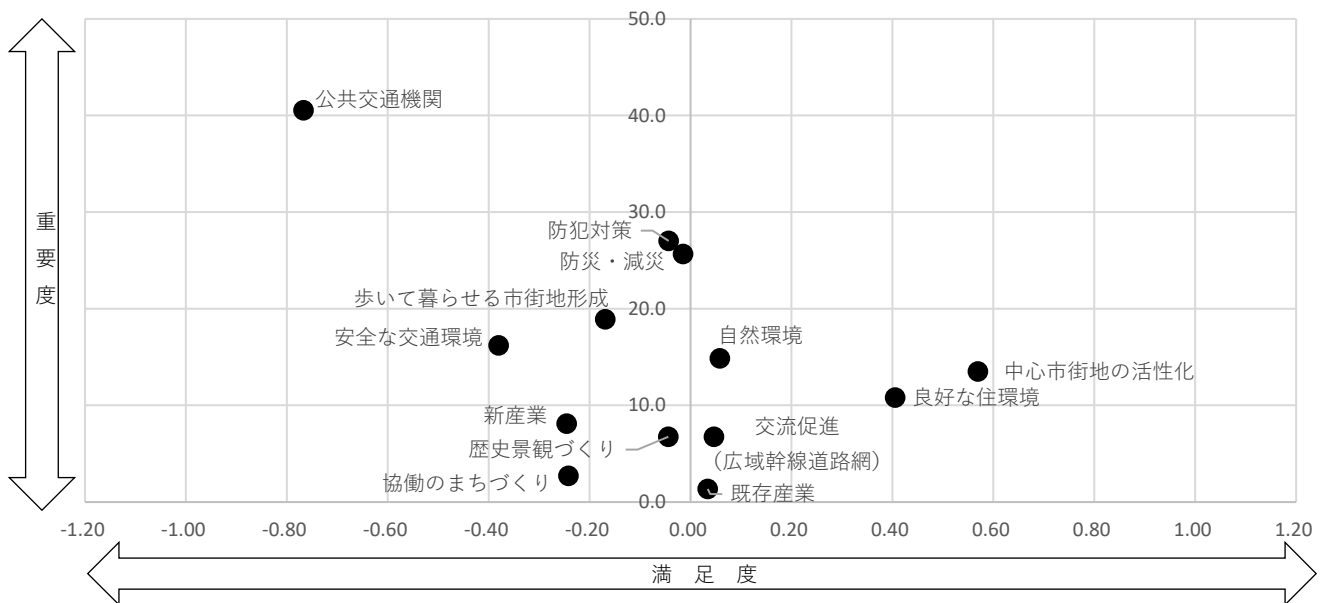
住み続けたい理由については、「家や土地があるから」（32.8%）、「日常生活が便利だから」「自宅周辺の環境に満足しているから（快適性・利便性・安全性など）」（23.4%）の回答が多くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

笠縫東学区の各分野の不満足度と重要度を比較すると、「公共交通機関」、「防犯対策」及び「防災・減災」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

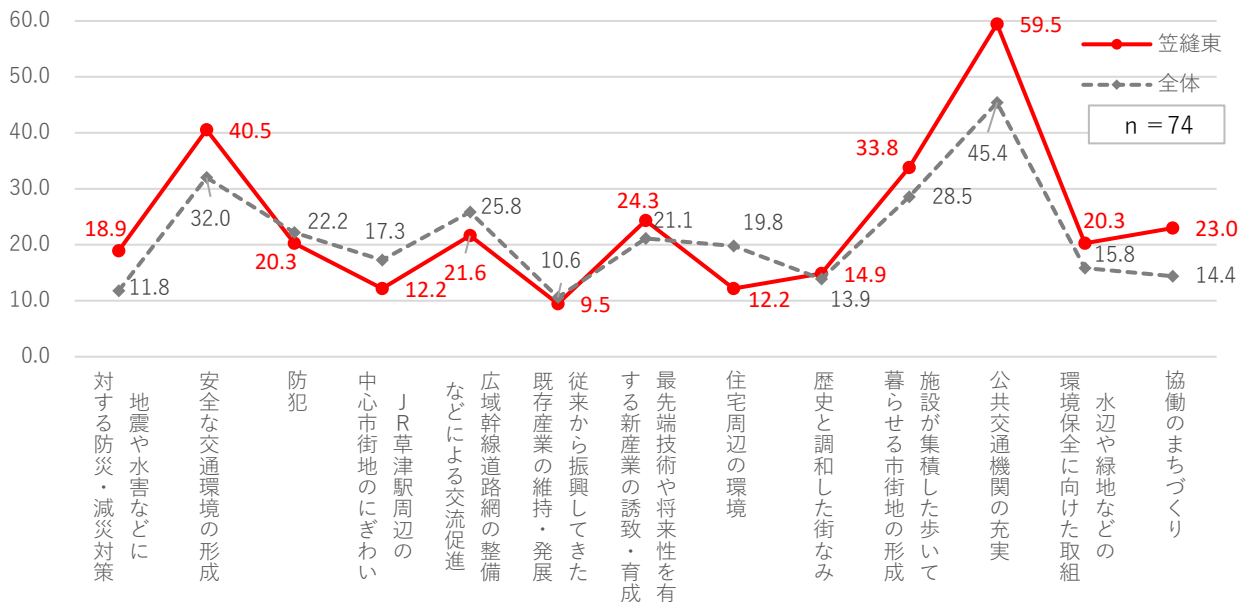


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

笠縫東学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」(59.5%)、「安全な交通環境の形成」(40.5%)、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」(33.8%)が高くなっています。

市全体の回答と比較すると、「地震や水害などに対する防災・減災対策」が7.1%、「安全な交通環境の形成」が8.5%、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」が5.3%、「公共交通機関の充実」が14.1%、「協働のまちづくり」が8.6%高くなっています。

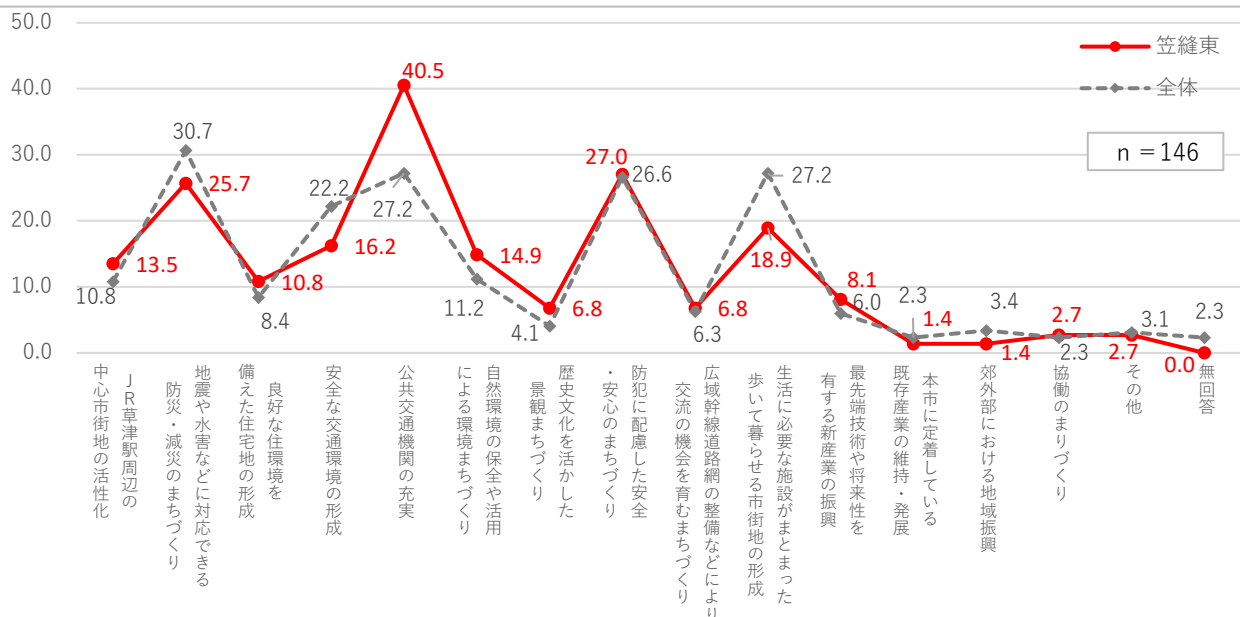


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

笠縫東学区の重点的に進めるべきだと思うまちづくりの分野は、「公共交通機関の充実」(40.5%)、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」(27.0%)、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」(25.7%)の回答が多くなっています。

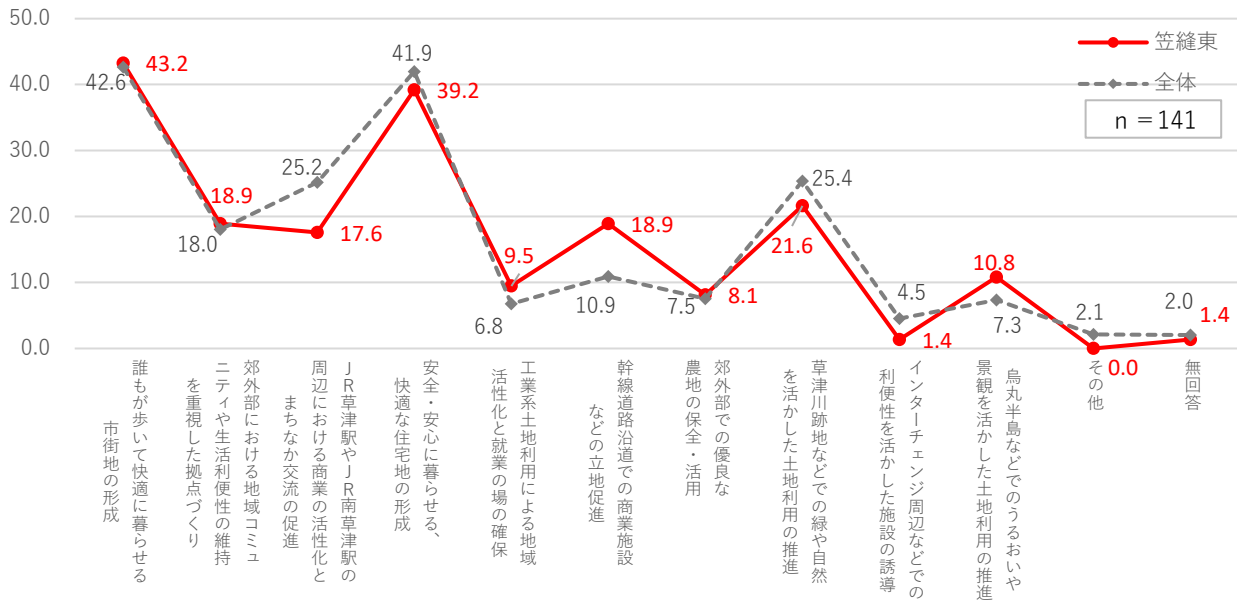
市全体の回答と比較すると、「公共交通機関の充実」が13.3%高くなっています。



※2つまで回答

3. 土地利用の方針

笠縫東学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(43.2%)、「安全・安心に暮らせる、快適な住宅地の形成」(39.2%)の回答が多くなっています。市全体の回答と比較すると、「幹線道路沿道での商業施設などの立地促進」が8.0%高くなっています。

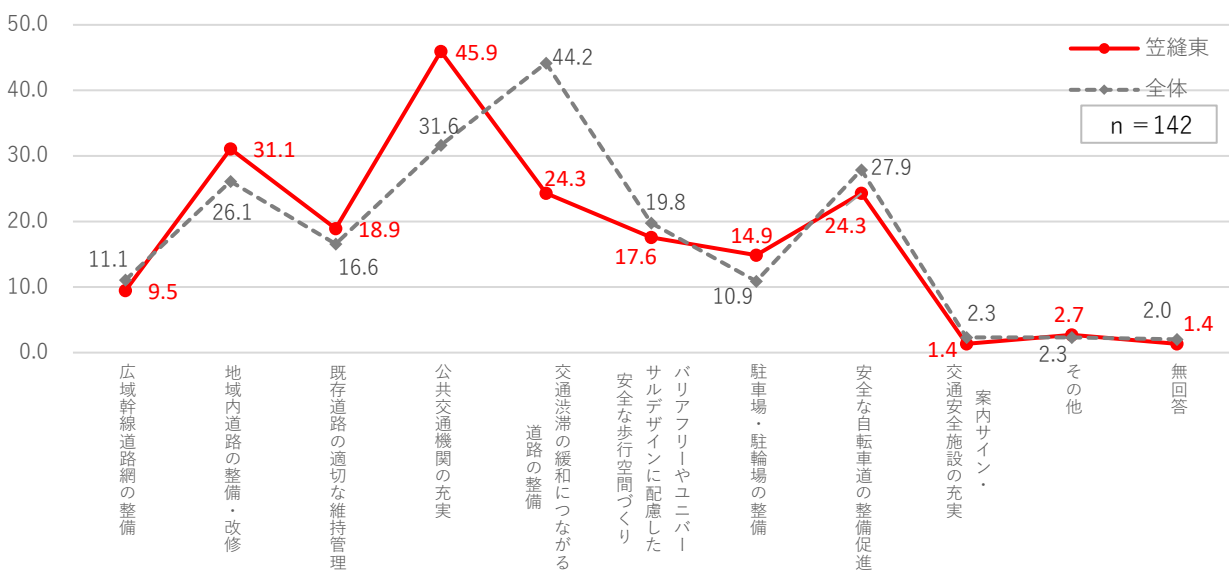


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

笠縫東学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「公共交通機関の充実」(45.9%)、「地域内道路の整備・改修」(31.1%)の回答が多くなっています。

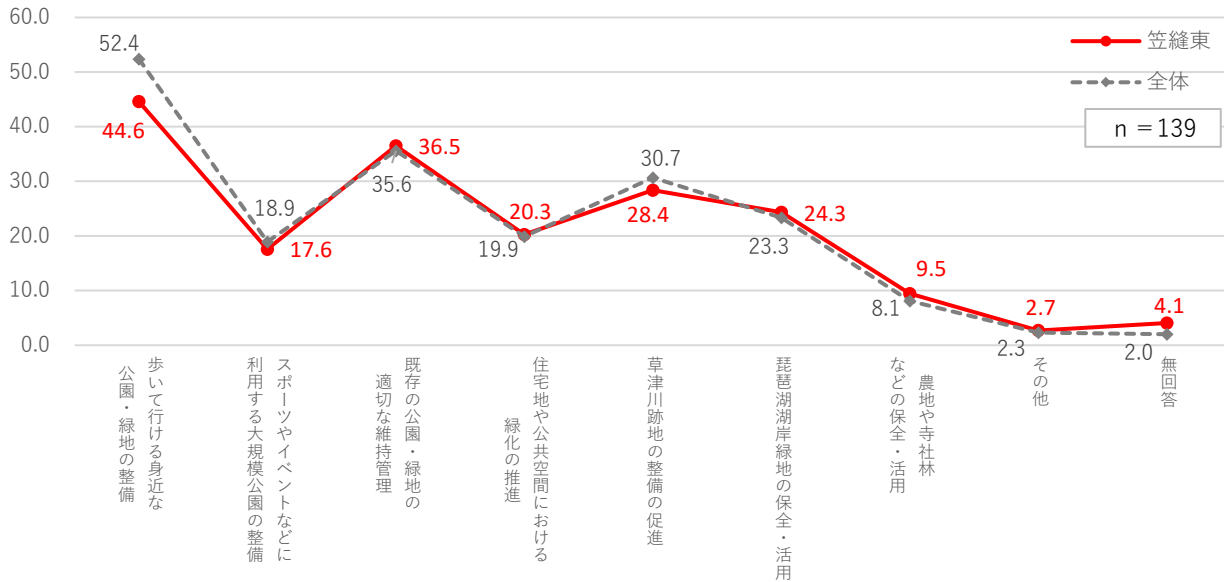
市全体の回答と比較すると、「地域内道路の整備・改修」が5.0%、「公共交通機関の充実」が14.3%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

笠縫東学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（44.6%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（36.5%）、「草津川跡地の整備の促進」（28.4%）の回答が多くなっています。

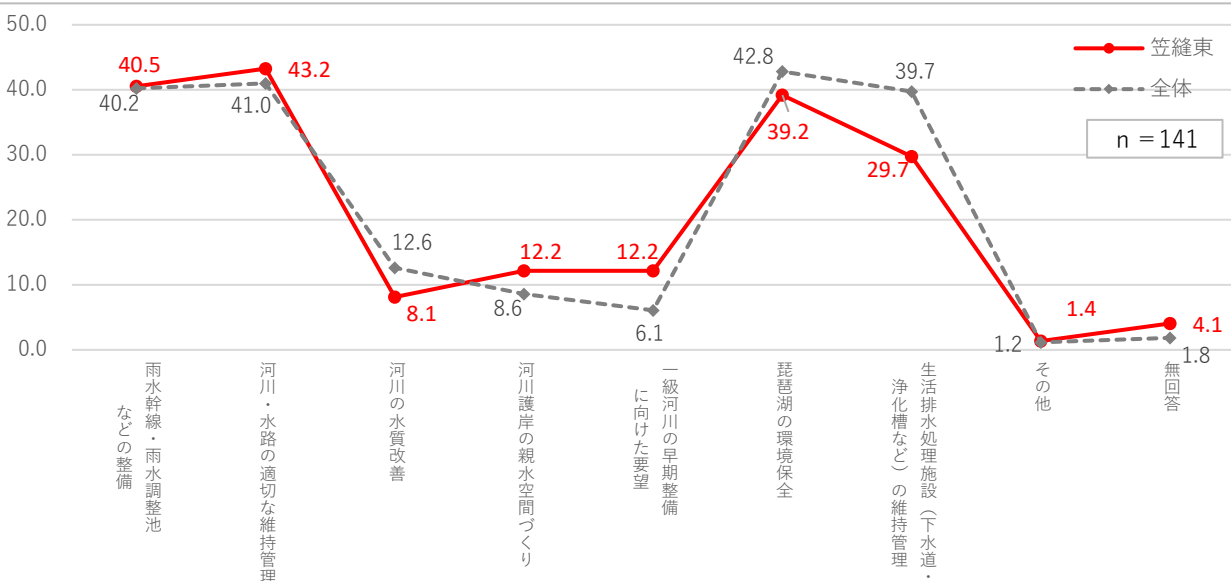


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

笠縫東学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「河川・水路の適切な維持管理」（43.2%）、「雨水幹線・雨水調整池などの整備」（40.5%）、「琵琶湖の環境保全」（39.2%）の回答が多くなっています。

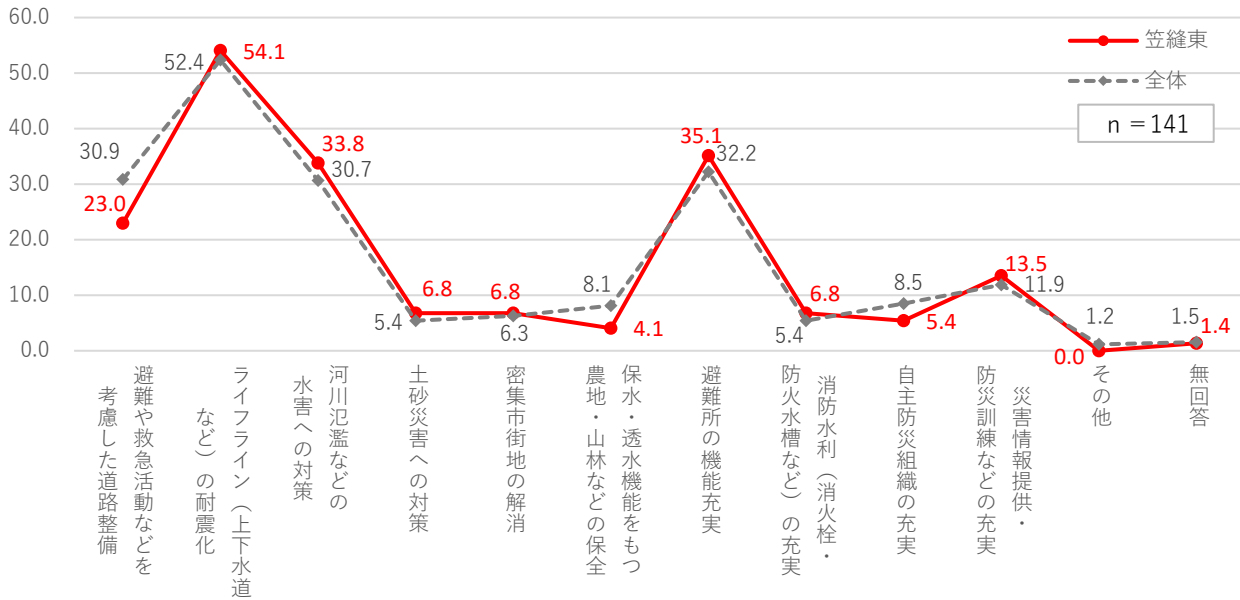
市全体の回答と比較すると、「一級河川の早期整備に向けた要望」が6.1%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

笠縫東学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（54.1%）、「避難所の機能充実」（35.1%）、「河川氾濫などの水害への対策」（33.8%）の回答が多くなっています。

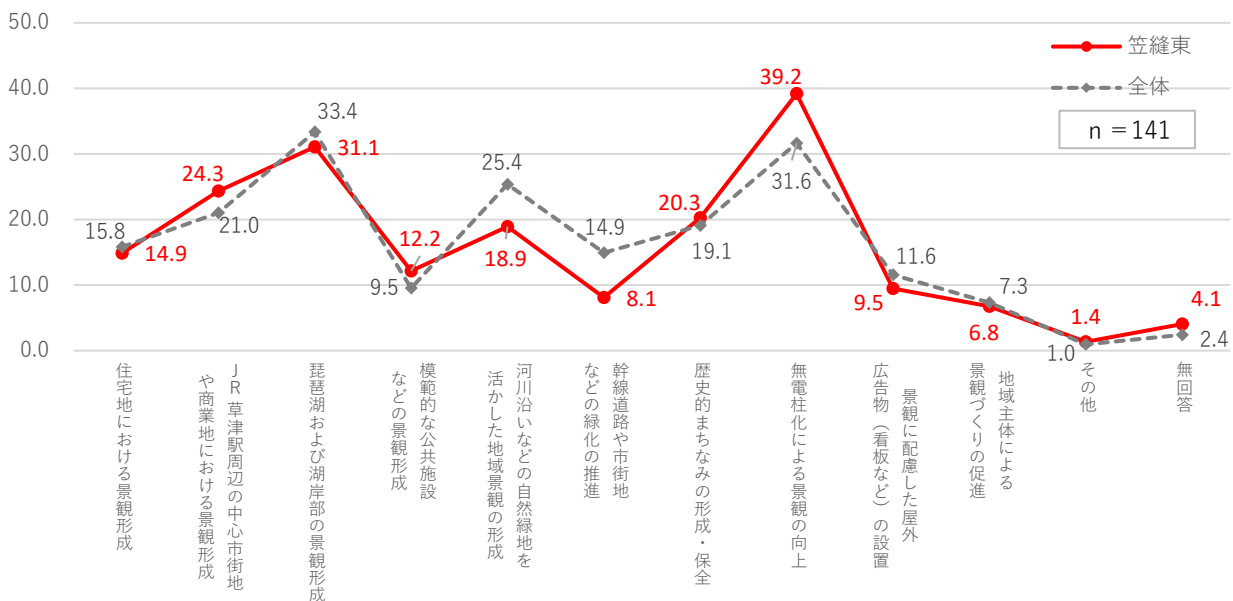


※2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

笠縫東学区の景観に関して重要と思われる施策は、「無電柱化による景観の向上」（39.2%）、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（31.1%）、「JR草津駅周辺の中心市街地や商業地における景観形成」（24.3%）の回答が多くなっています。

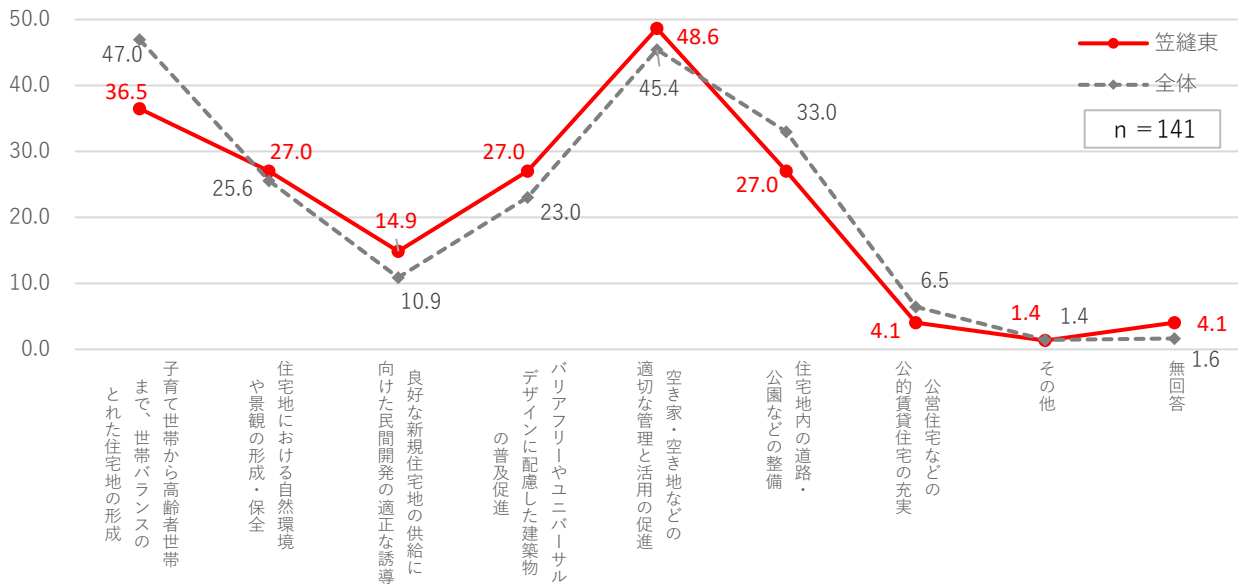
市全体の回答と比較すると、「無電柱化による景観の向上」が7.6%高くなっています。



※2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

笠縫東学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（48.6%）、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（36.5%）の回答が多くなっています。

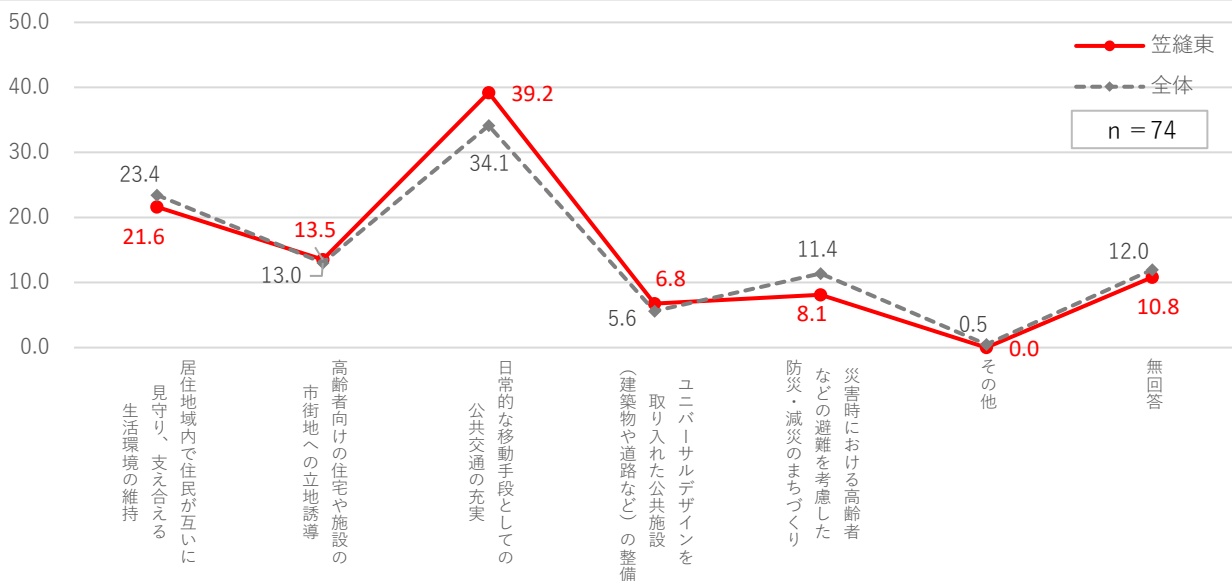


※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

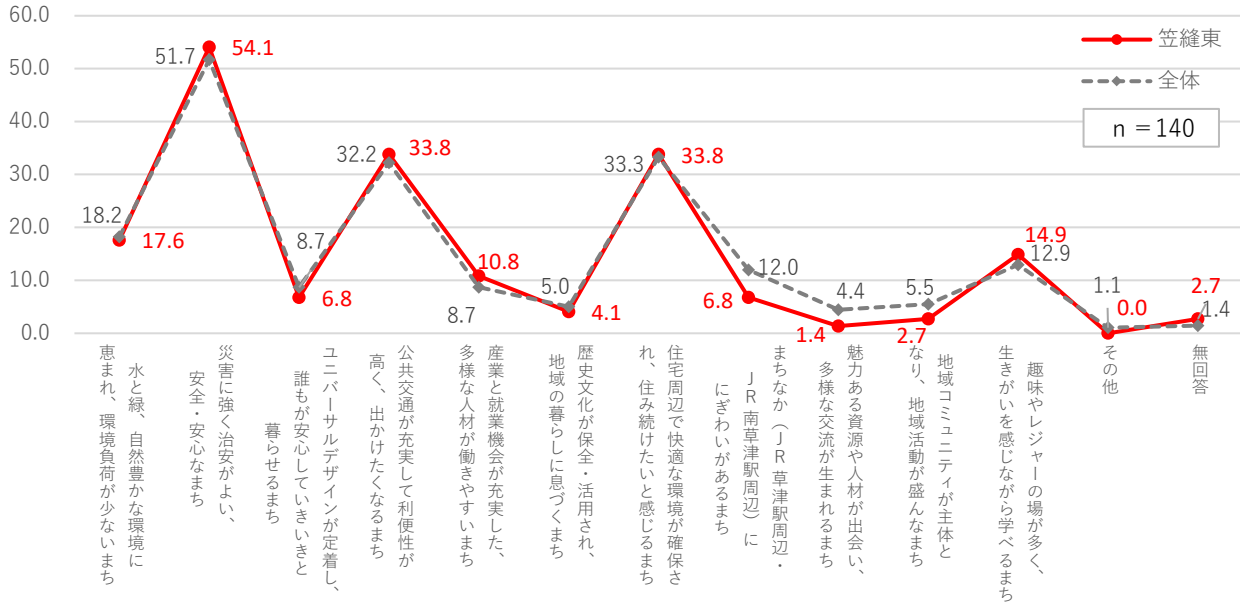
笠縫東学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（39.2%）、「居住地域内で住民が互に見守り、支え合える生活環境の維持」（21.6%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」が5.1%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

笠縫東学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（54.1%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」及び「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（33.8%）の回答が多くなっています。



※ 2 つまで回答

【学区別集計結果の概要 常盤学区】

配布数：111

回答数：35

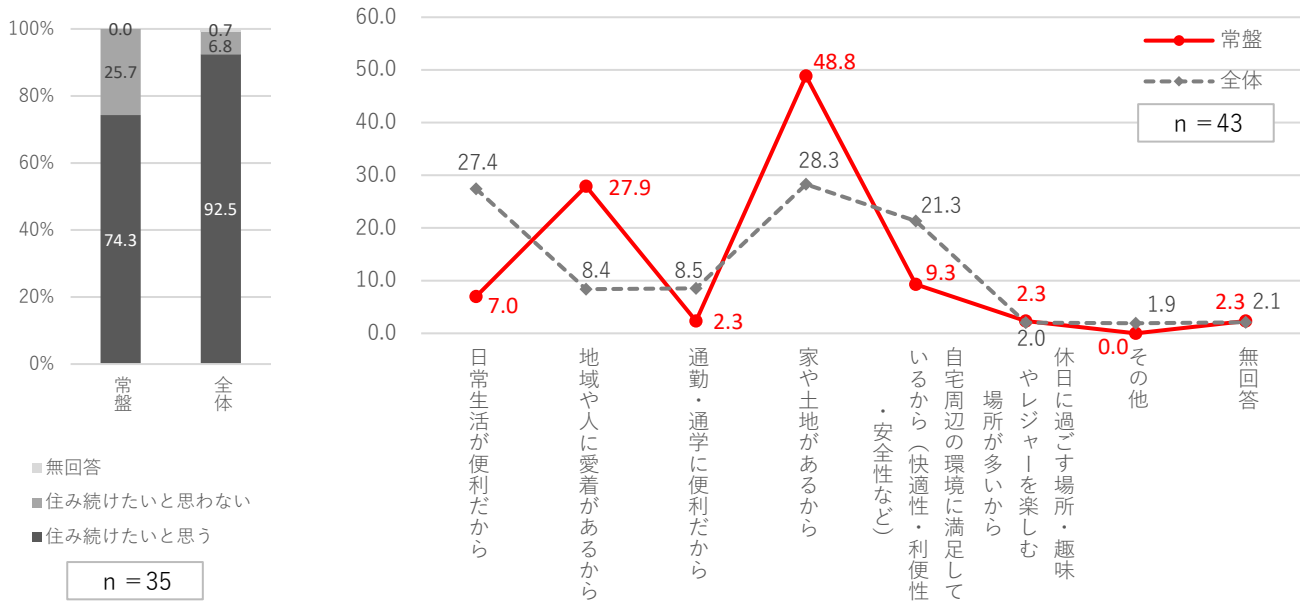
回収率：31.5

1. 居住継続意向（住み続けたいと思う理由）

常盤学区の居住継続意向については、74.3%が「住み続けたいと思う」と回答しており、市全体より18.2%低くなっています。

住み続けたい理由については、「家や土地があるから」（48.8%）、「地域や人に愛着があるから」（27.9%）の回答が多くなっています。

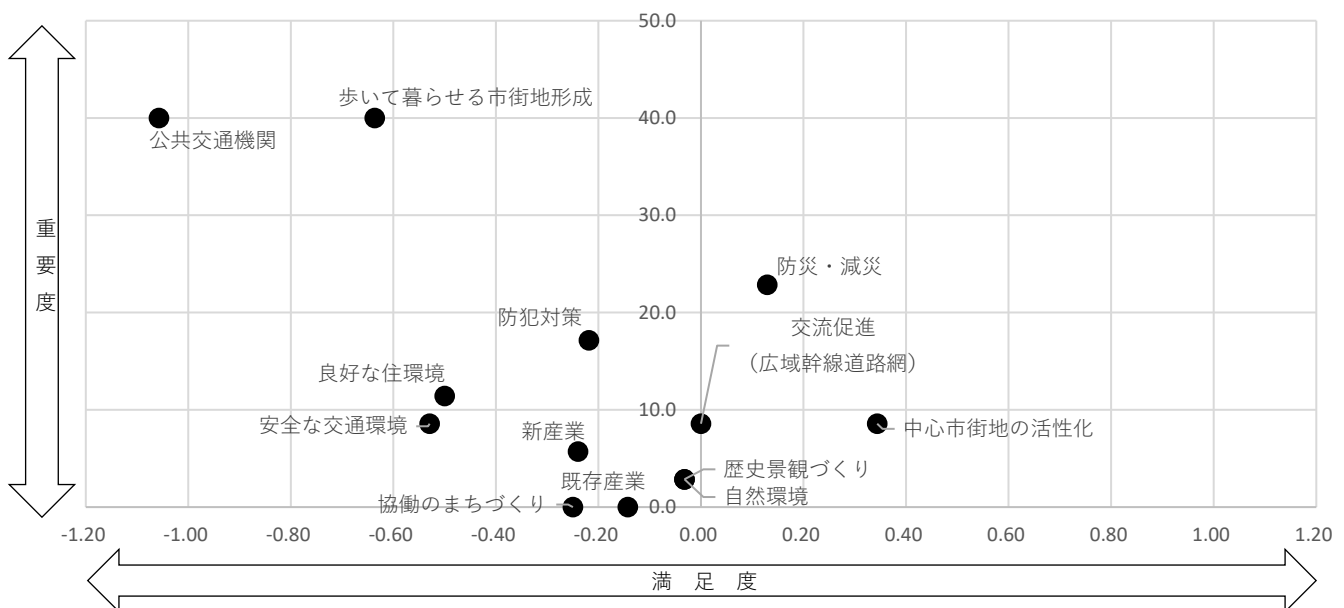
市全体の回答と比較すると、「家や土地があるから」が20.5%、「地域や人に愛着があるから」が19.5%高くなっています。



※住み続けたい理由は「住み続けたいと思う」と回答した方が2つまで回答

2-1. 草津市における各分野の満足度と重要度

常盤学区の各分野の不満足度と重要度を比較すると、「公共交通機関」及び「歩いて暮らせる市街地形成」の満足度が低く、重要度が高い分野と評価しています。

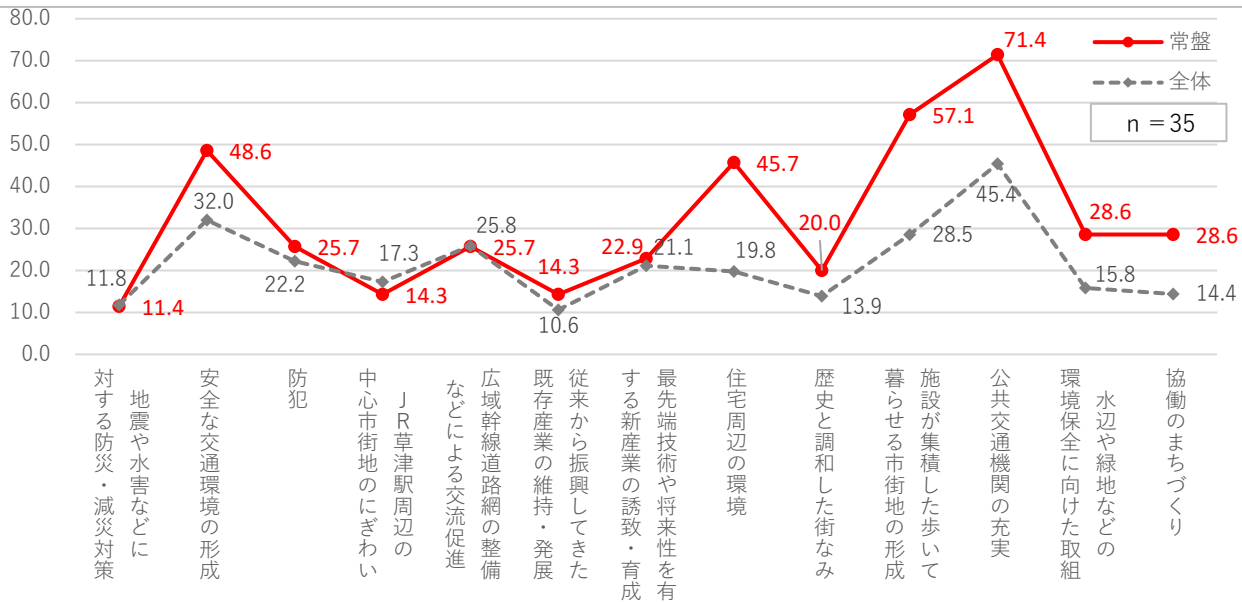


※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

2-2. 草津市における各分野の不満度

常盤学区の分野別の不満度は、「公共交通機関の充実」(71.4%)、「施設が集積した歩いて暮らせる市街地の形成」(57.1%)、「安全な交通環境の形成」(48.6%)、「住宅周辺の環境」(45.7%)が高くなっています。

市全体の回答と比較すると、「安全な交通環境の形成」が16.6%、「住宅周辺の環境」が25.9%、「公共交通機関の充実」が26.0%、「水辺や緑地などの環境保全に向けた取組」が12.8%、「協働のまちづくり」が14.2%高くなっています。

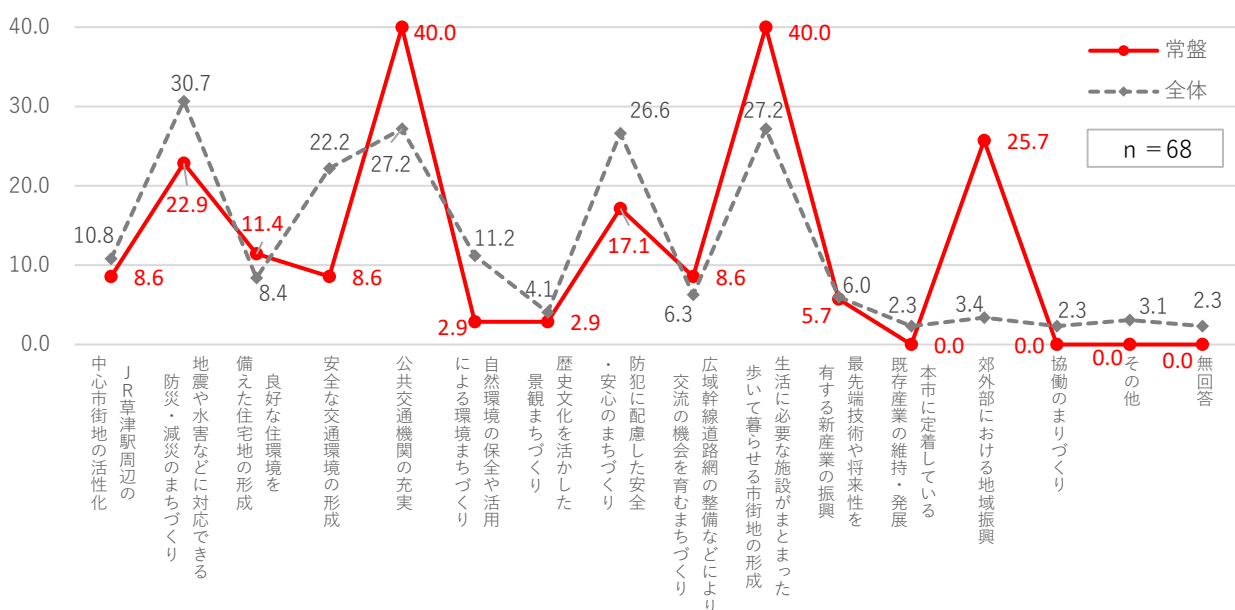


※不満度：「満足」・「やや満足」・「どちらでもない」・「やや不満」・「不満」のうち、「やや不満」または「不満」と回答した割合

2-3. 重点的に進めるべきまちづくりの分野

常盤学区の重点的に進めるべきだと思うまちづくりの分野は、「公共交通機関の充実」及び「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」(40.0%)、「郊外部における地域振興」(25.7%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「公共交通機関の充実」が12.8%、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」が12.8%、「郊外部における地域振興」が22.3%高くなっています。

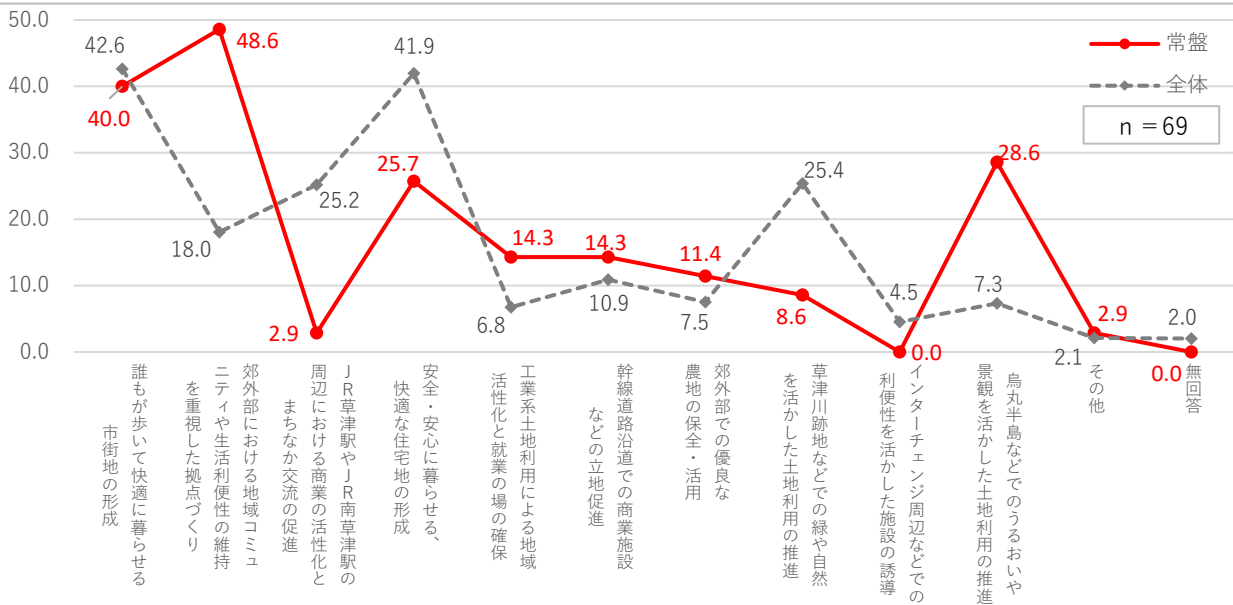


※2つまで回答

3. 土地利用の方針

常盤学区の土地利用において重要と思われる取り組みは、「郊外部における地域コミュニティや生活利便性の維持を重視した拠点づくり」(48.6%)、「誰もが歩いて快適に暮らせる市街地の形成」(40.0%)、「烏丸半島などでのうおいや景観を活かした土地利用の推進」(28.6%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「郊外部における地域コミュニティや生活利便性の維持を重視した拠点づくり」が30.6%、「工業系土地利用による地域活性化と就業の場の確保」が7.5%、「烏丸半島などでのうおいや景観を活かした土地利用の推進」が21.3%高くなっています。

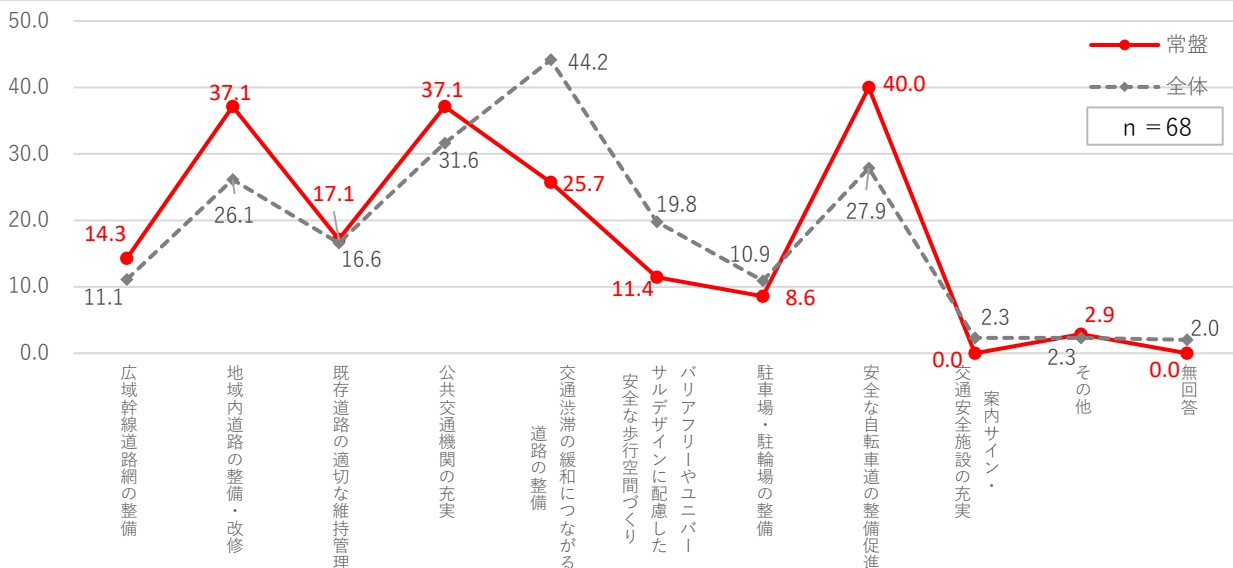


※ 2つまで回答

4-1. 都市計画に関する各分野の今後の方針（道路・交通環境）

常盤学区の道路・交通環境に関して重要と思われる施策は、「安全な自転車道の整備促進」(40.0%)、「地域内道路の整備・改修」及び「公共交通機関の充実」(37.1%)の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「地域内道路の整備・改修」が11.0%、「公共交通機関の充実」が5.5%、「安全な自転車道の整備促進」が12.1%高くなっています。

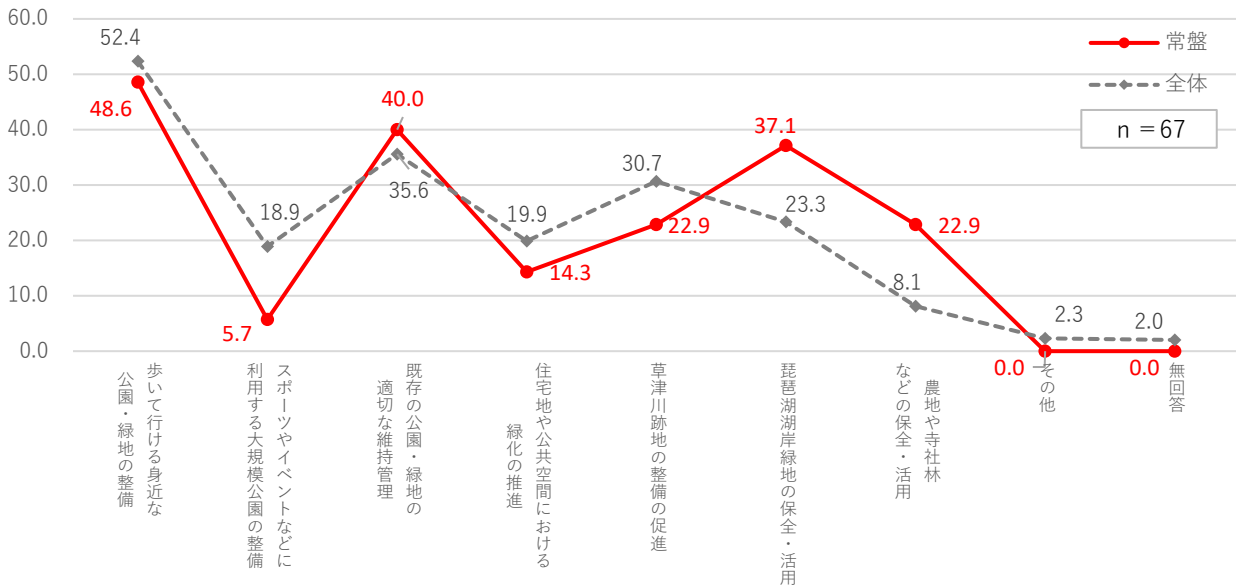


※ 2つまで回答

4-2. 都市計画に関する各分野の今後の方針（公園・緑地）

常盤学区の公園・緑地に関して重要と思われる施策は、「歩いて行ける身近な公園・緑地の整備」（48.6%）、「既存の公園・緑地の適切な維持管理」（40.0%）、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」（37.1%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「琵琶湖湖岸緑地の保全・活用」が13.8%、「農地や寺社林などの保全・活用」が14.8%高くなっています。

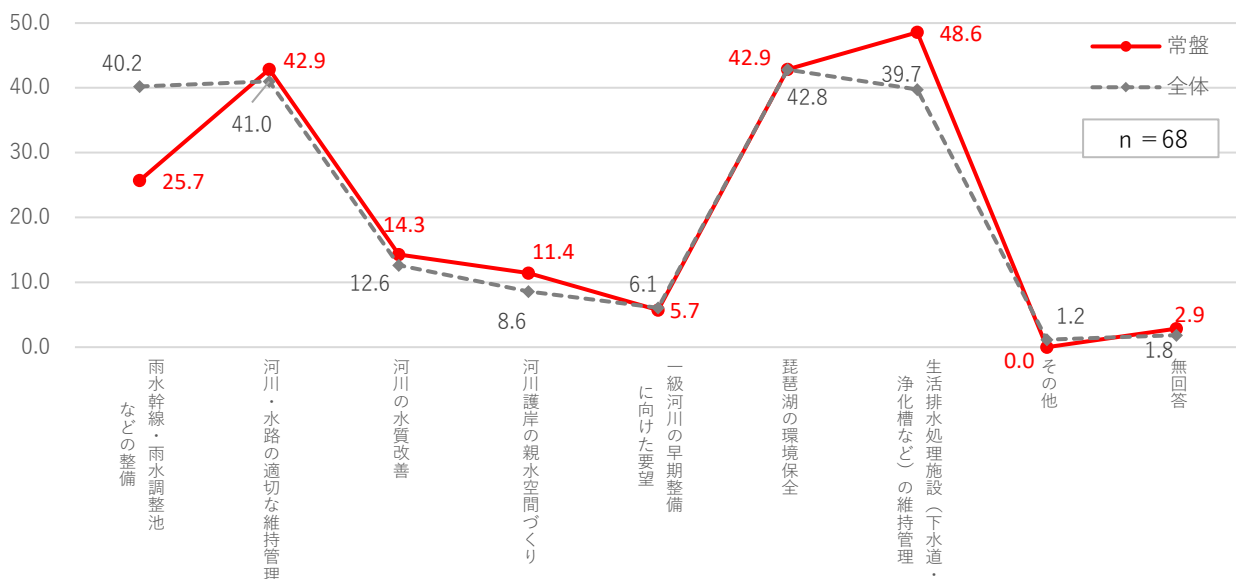


※ 2つまで回答

4-3. 都市計画に関する各分野の今後の方針（河川・下水道）

常盤学区の河川・下水道に関して重要と思われる施策は、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」（48.6%）、「河川・水路の適切な維持管理」及び「琵琶湖の環境保全」（42.9%）の回答が多くなっています。

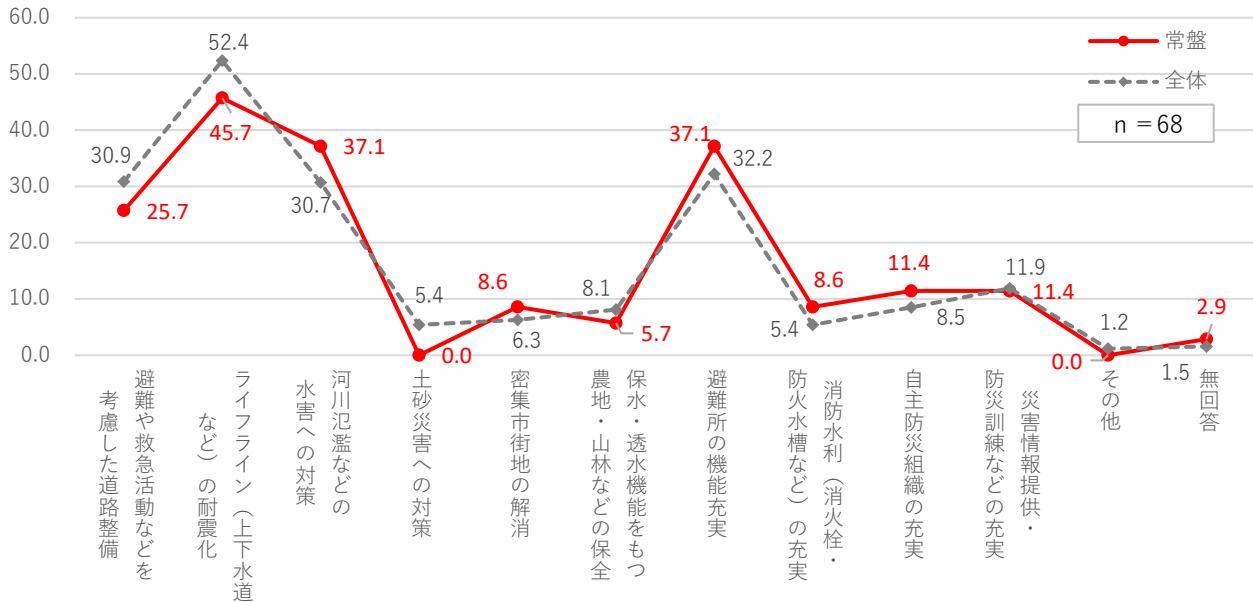
市全体の回答と比較すると、「生活排水処理施設（下水道・浄化槽など）の維持管理」が8.9%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-4. 都市計画に関する各分野の今後の方針（防災）

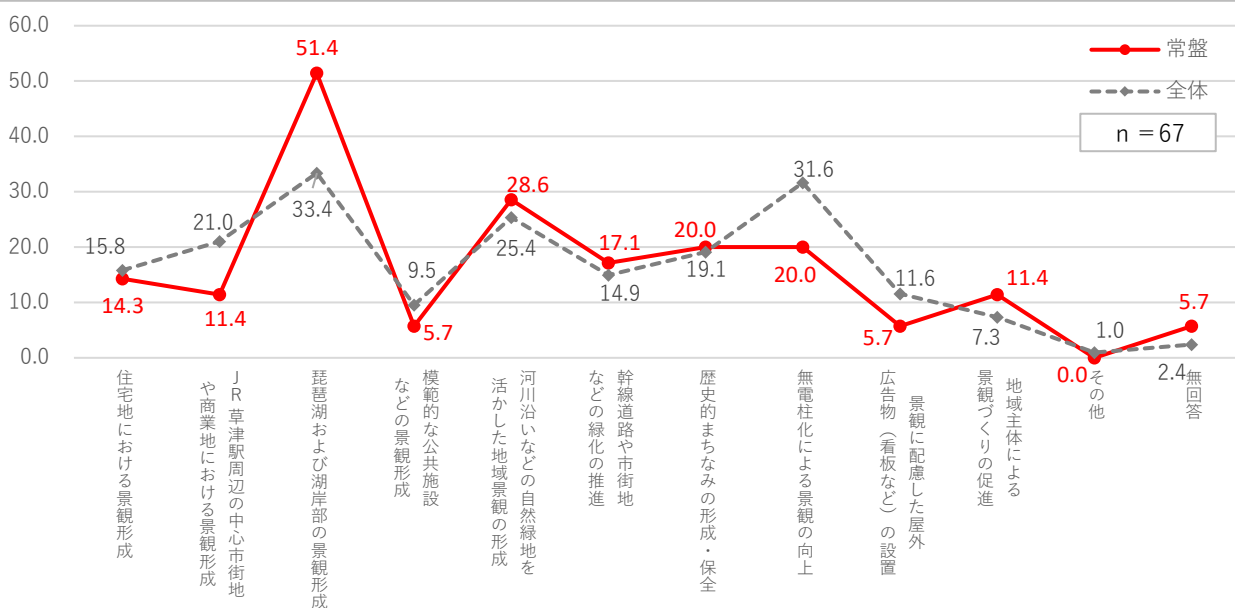
常盤学区の防災に関して重要と思われる施策は、「ライフライン（上下水道など）の耐震化」（45.7%）、
「河川氾濫などの水害への対策」及び「避難所の機能充実」（37.1%）の回答が多くなっています。
市全体の回答と比較すると、「河川氾濫などの水害への対策」が6.4%高くなっています。



※ 2つまで回答

4-5. 都市計画に関する各分野の今後の方針（景観）

常盤学区の景観に関して重要と思われる施策は、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」（51.4%）、
「河川沿いなどの自然緑地を活かした地域景観の形成」（28.6%）の回答が多くなっています。
市全体の回答と比較すると、「琵琶湖および湖岸部の景観形成」が18.0%高くなっています。

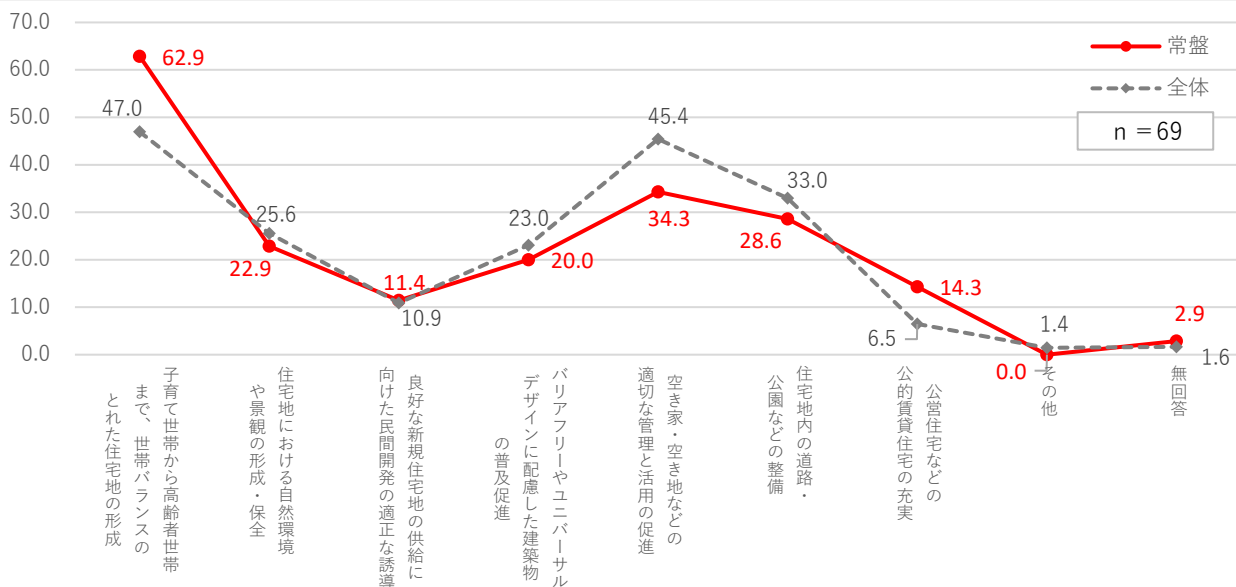


※ 2つまで回答

4-6. 都市計画に関する各分野の今後の方針（住宅・住環境）

常盤学区の住宅・住環境に関して重要と思われる施策は、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」（62.9%）、「空き家・空き地などの適切な管理と活用の促進」（34.3%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「子育て世帯から高齢者世帯まで、世帯バランスのとれた住宅地の形成」が15.9%、「公営住宅などの公的賃貸住宅の充実」が7.8%高くなっています。

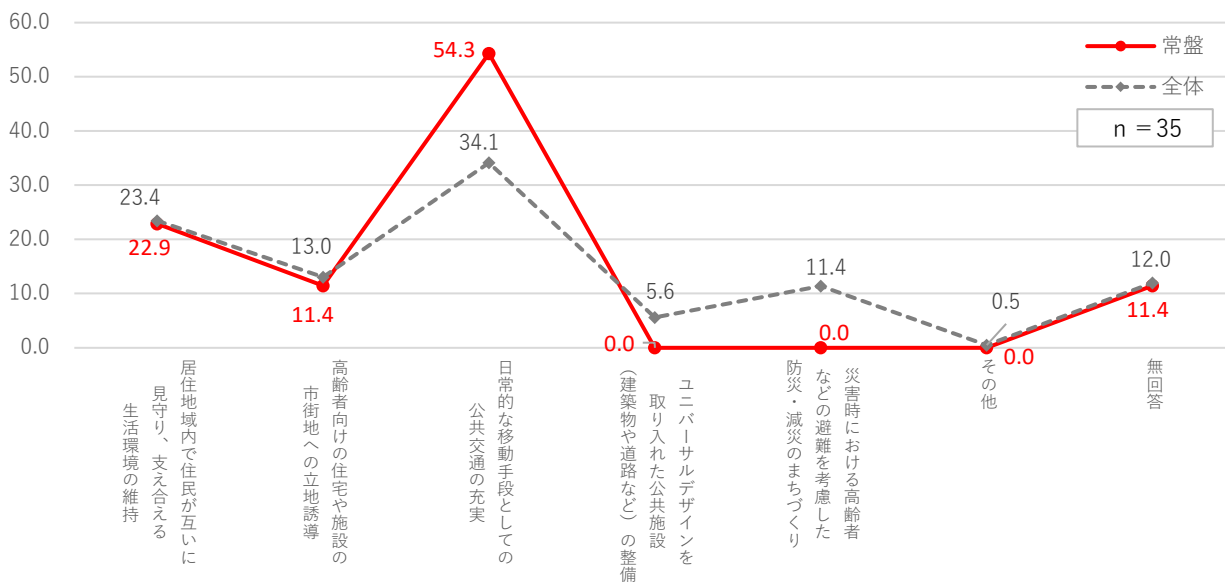


※ 2つまで回答

5. 超高齢社会に対応したまちづくりについて

常盤学区の超高齢社会に対応したまちづくりについては、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」（54.3%）、「居住地域内で住民が互いに見守り、支え合える生活環境の維持」（22.9%）の回答が多くなっています。

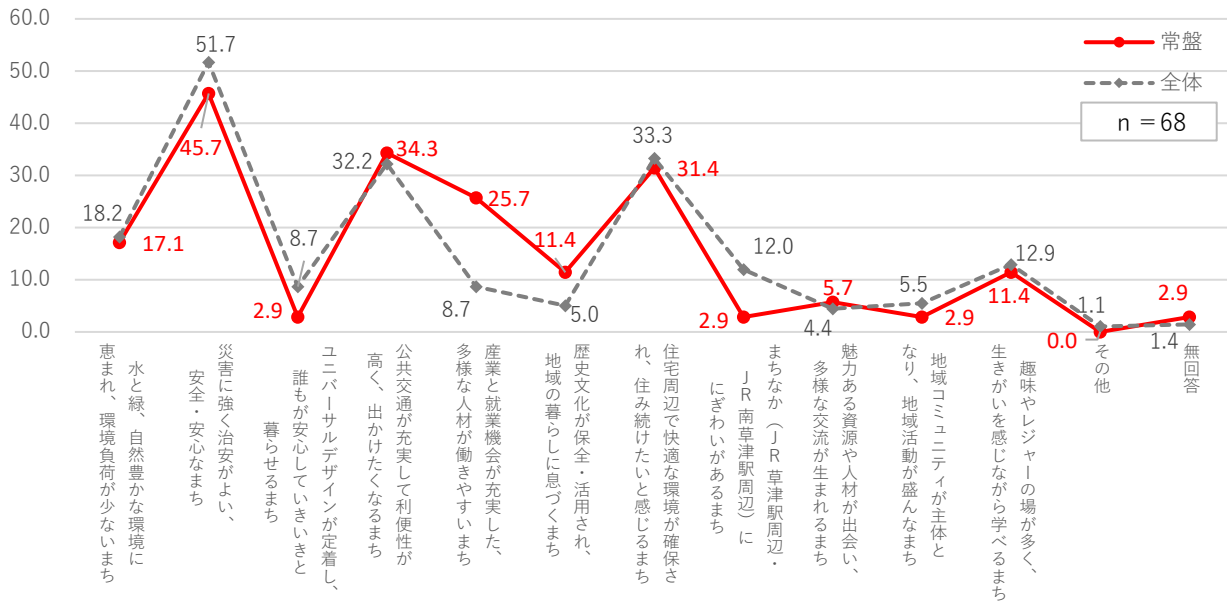
市全体の回答と比較すると、「日常的な移動手段としての公共交通の充実」が20.2%高くなっています。



6. 草津市がめざすべきまちの将来像

常盤学区の草津市がめざすまちの将来像は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（45.7%）、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（34.3%）、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」（31.4%）の回答が多くなっています。

市全体の回答と比較すると、「産業と就業機会が充実した、多様な人材が働きやすいまち」が17.0%、「歴史文化が保全・活用され、地域の暮らしに息づくまち」が6.4%高くなっています。



※ 2 つまで回答

【満足度・重要度別整理】

各学区の満足度・重要度の評価は以下の通りです。

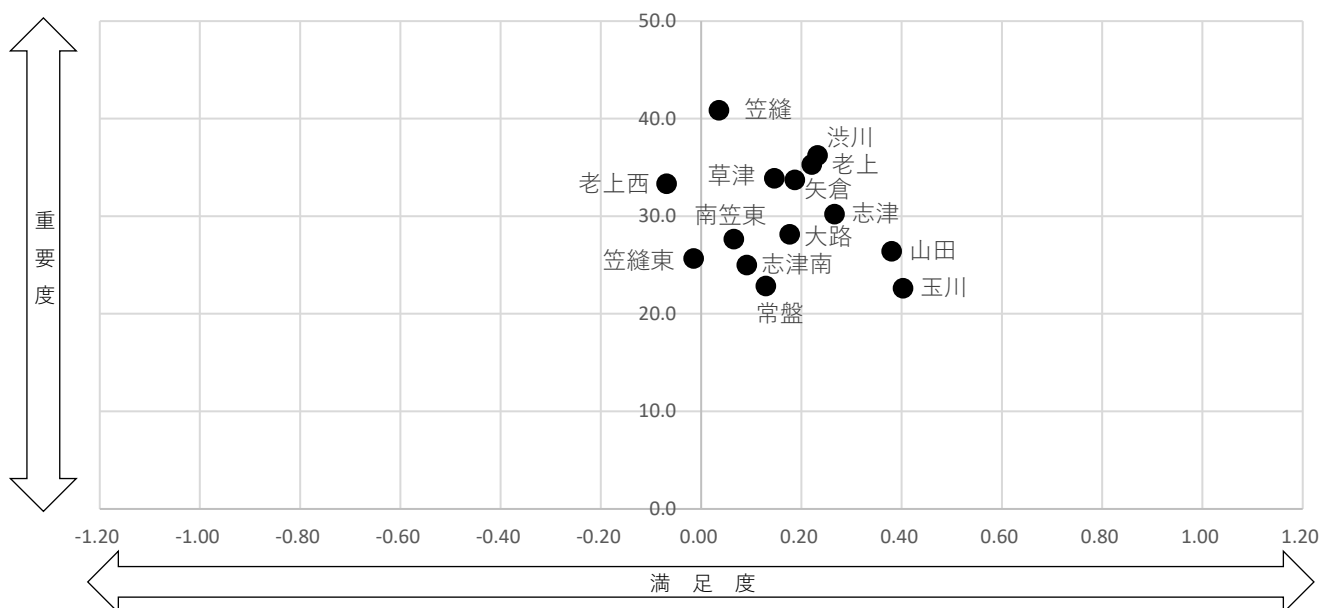
- ：満足度低い（0.00未満）、重要度高い（20.0以上）
- △：満足度高い（0.00以上）、重要度高い（20.0以上）
- ：満足度低い（0.00未満）、重要度低い（20.0未満）

	志津	志津南	草津	大路	渋川	矢倉	老上	老上西	玉川	南笠東	山田	笠縫	笠縫東	常盤	全体
防災・減災	△	△	△	△	△	△	△	●	△	△	△	△	●	△	△
安全な交通環境	●	●	●	●	●	●	□	●	●	□	□	□	□	□	●
防犯対策	△	●	●	●	△	●	●	●	△	●	△	●	●	□	●
中心市街地の活性化								□		□					
交流促進（広域幹線道路網）	□		□	□	□		□	□		□	□	□			□
既存産業				□				□		□	□	□		□	
新産業	□	□	□	□	□	□	□	□		□	□	□	□	□	□
良好な住環境														□	
歴史景観づくり								□					□	□	
歩いて暮らせる市街地形成	●	●		△		△	●	□	△	●	●	●	□	●	●
公共交通機関	●	●	●			●	●	●	△	●	●	●	●	●	●
自然環境												□		□	
協働のまちづくり		□	□	□			□	□			□	□	□	□	□

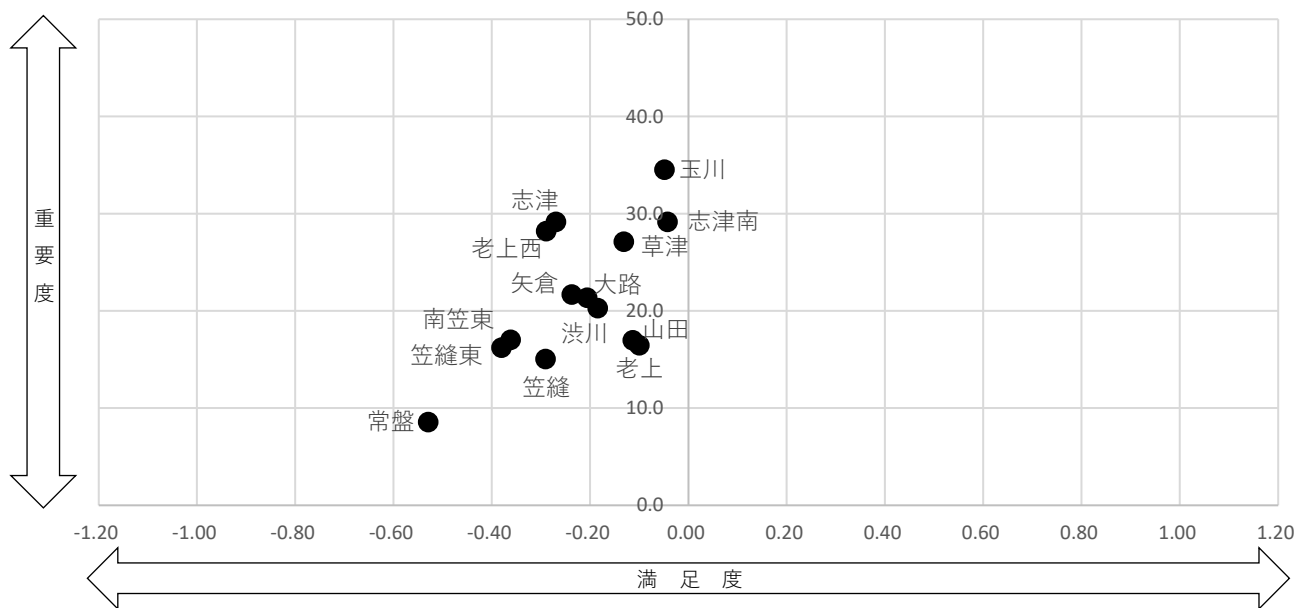
※満足度は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした加重平均

重要度は回答者数1,037人において、その分野を回答した割合（一人2つまで回答）

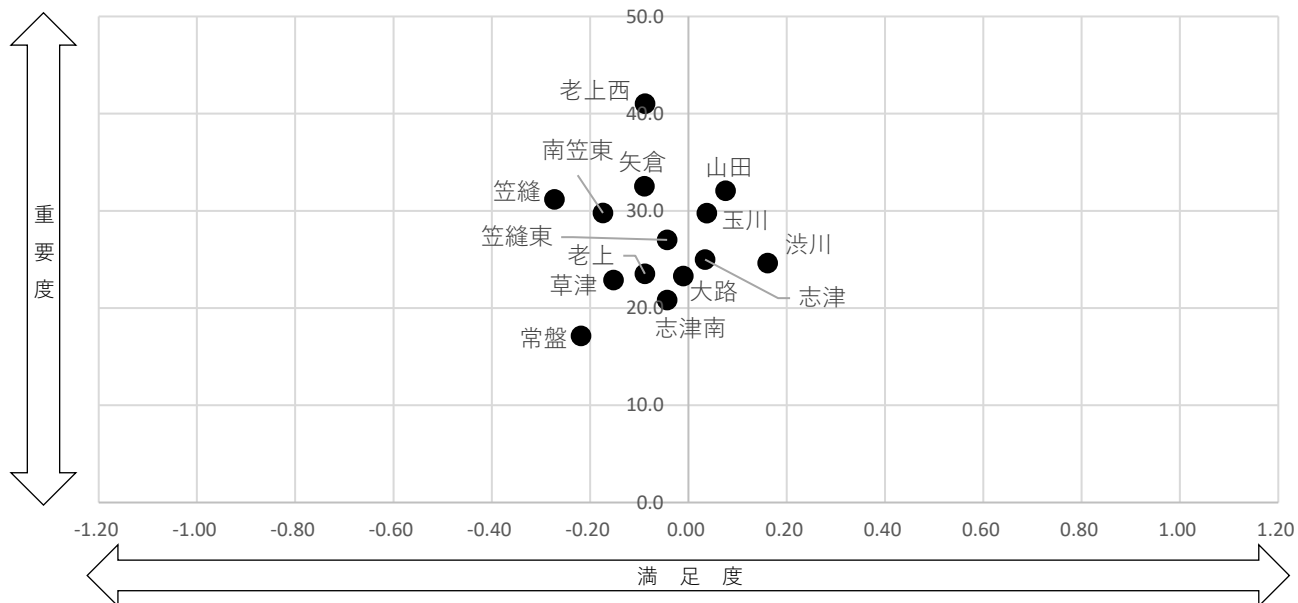
防災・減災



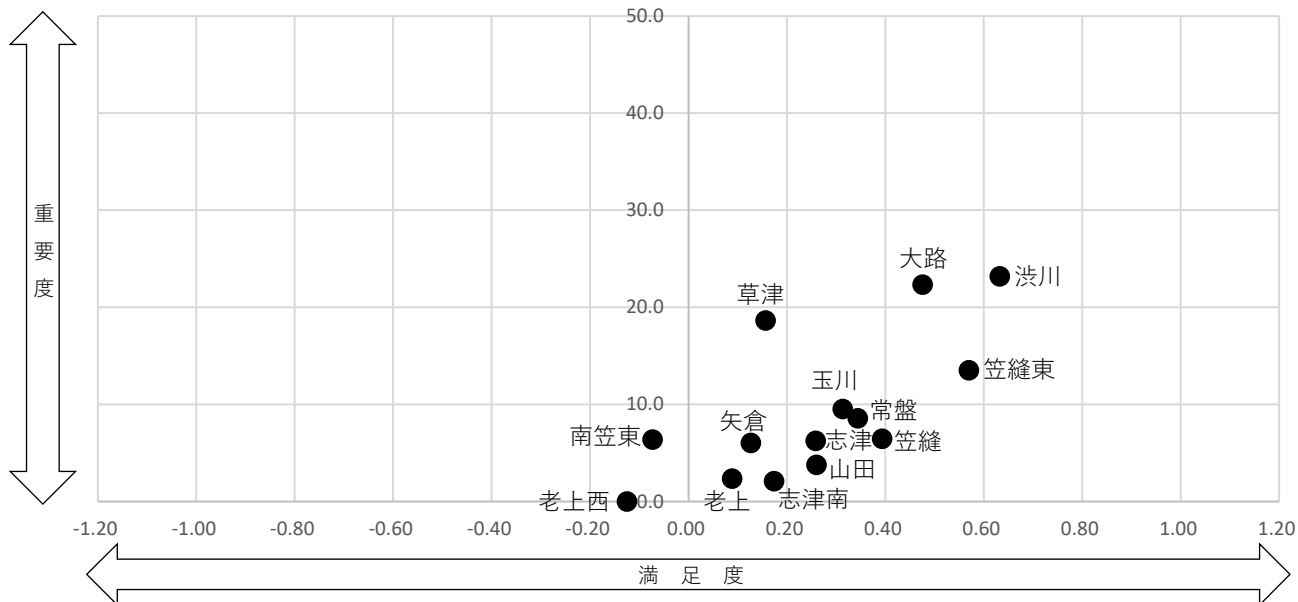
安全な交通環境



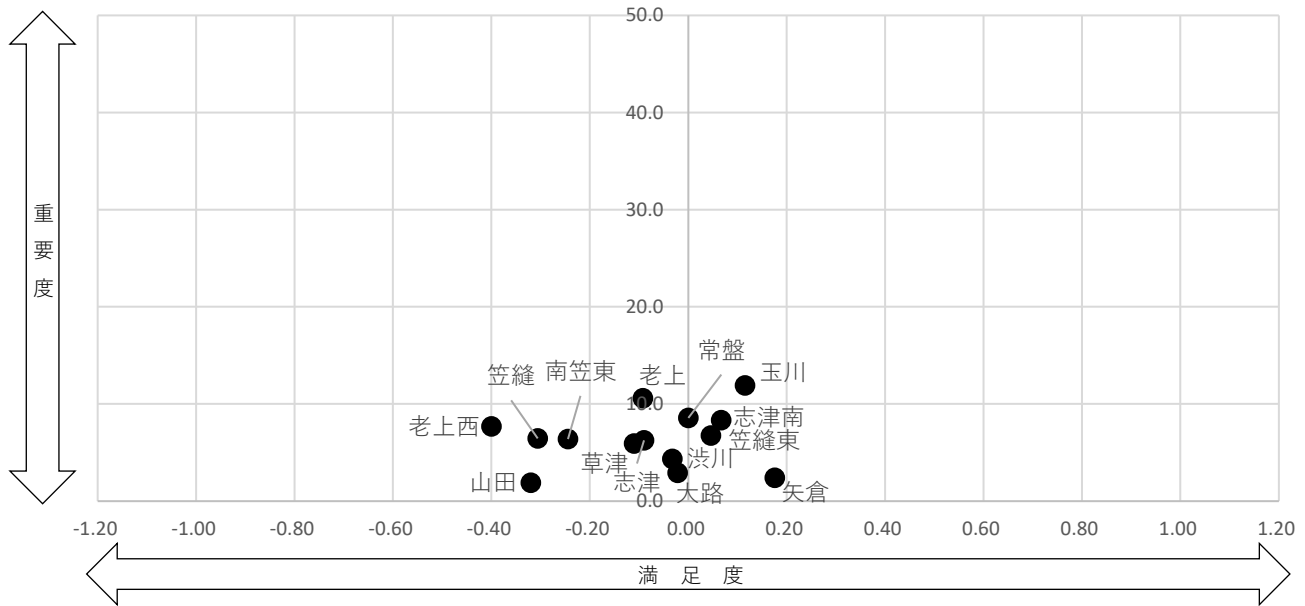
防犯対策



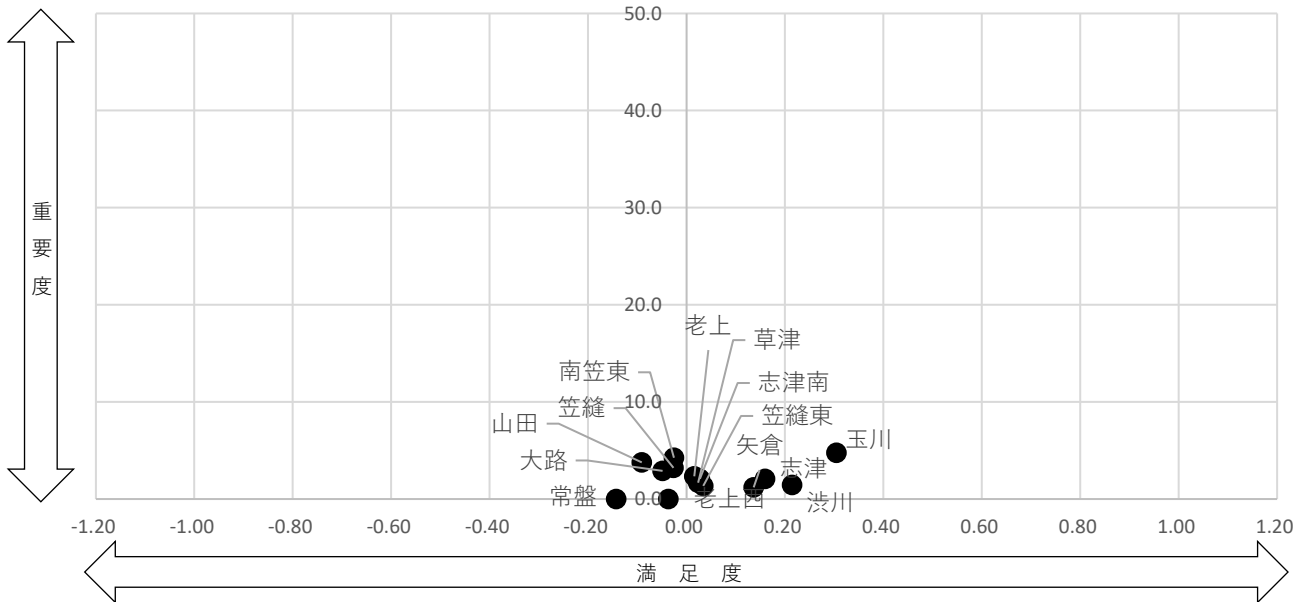
中心市街地の活性化



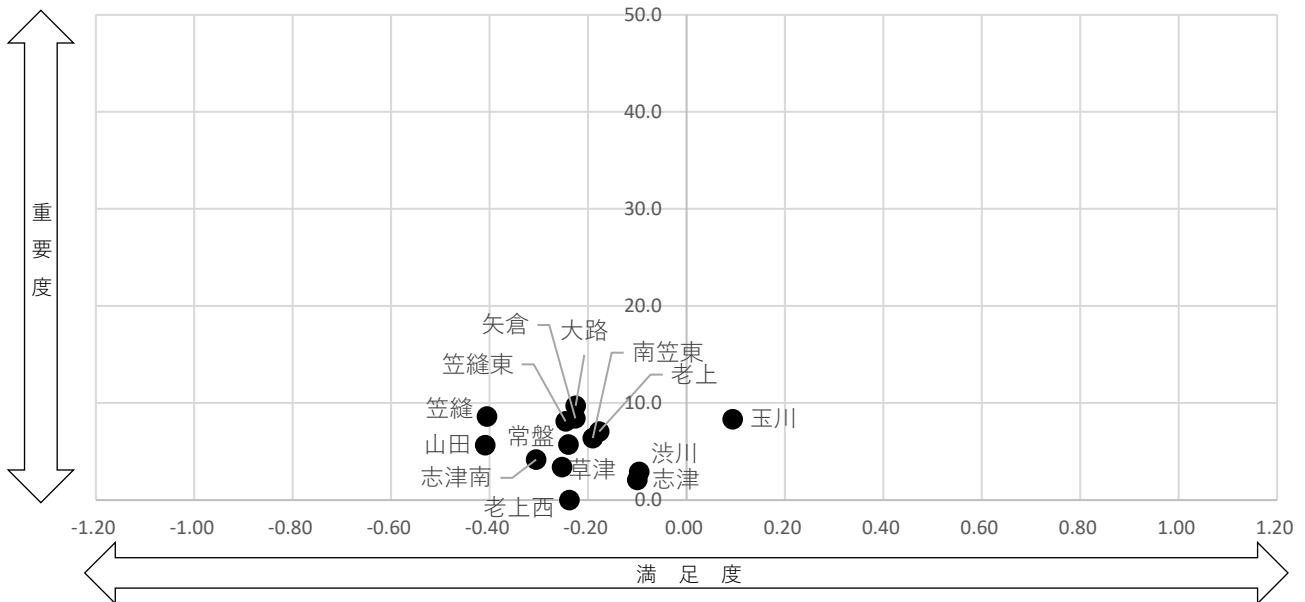
交流促進（広域幹線道路網）



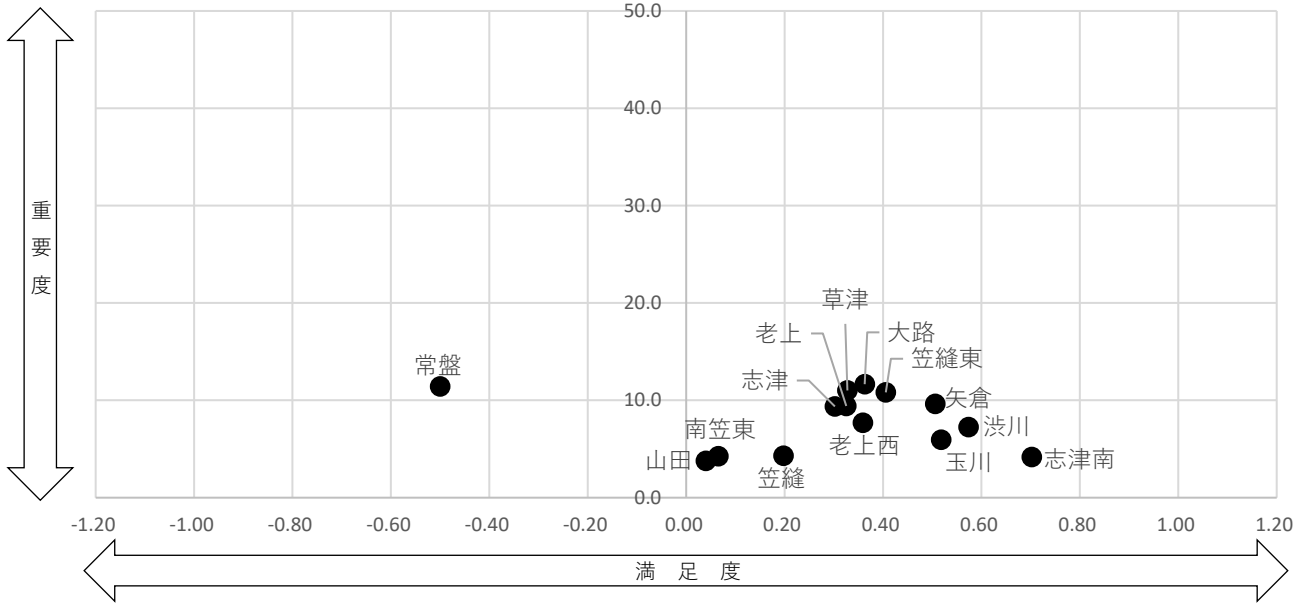
既存産業



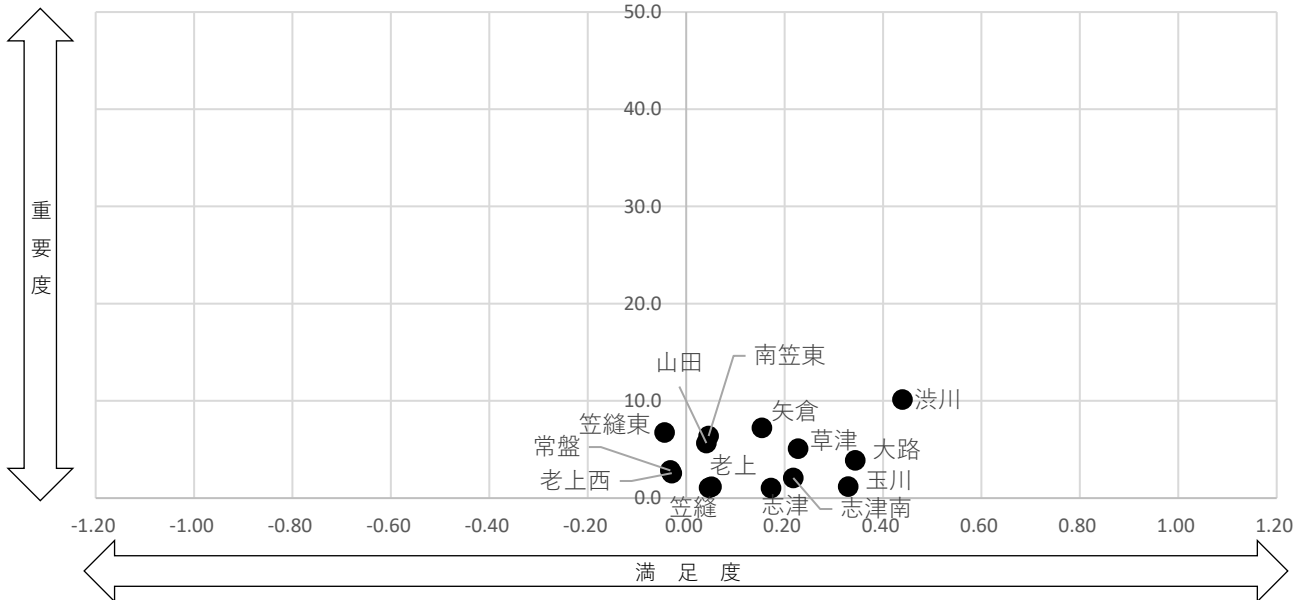
新産業



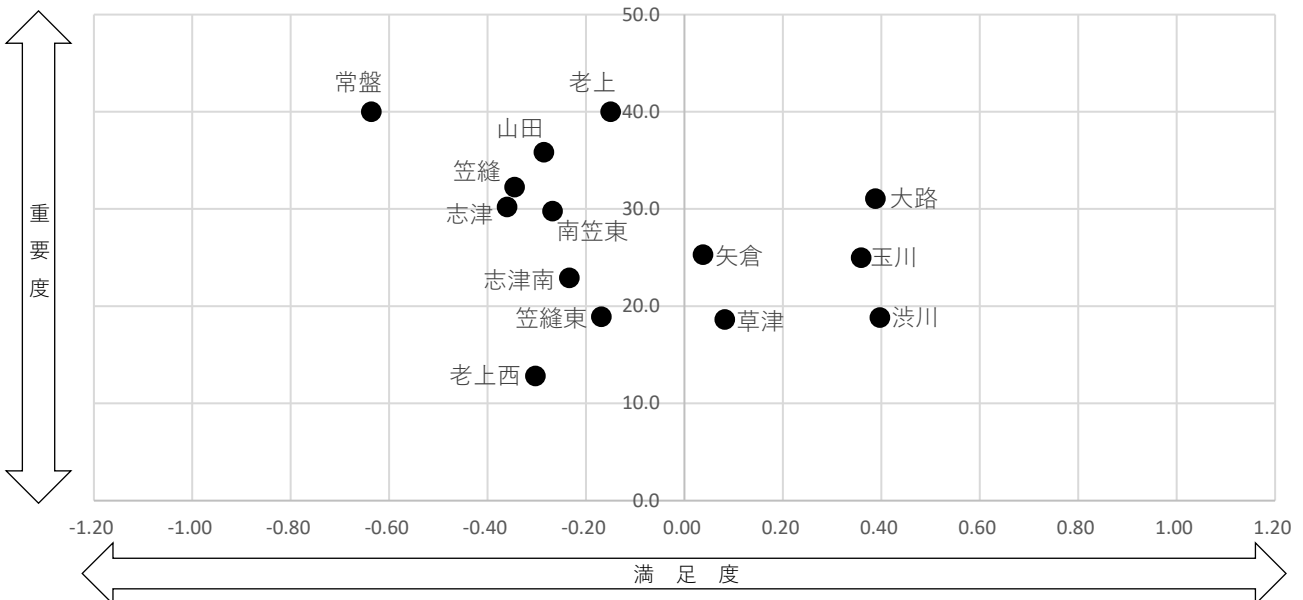
良好な住環境



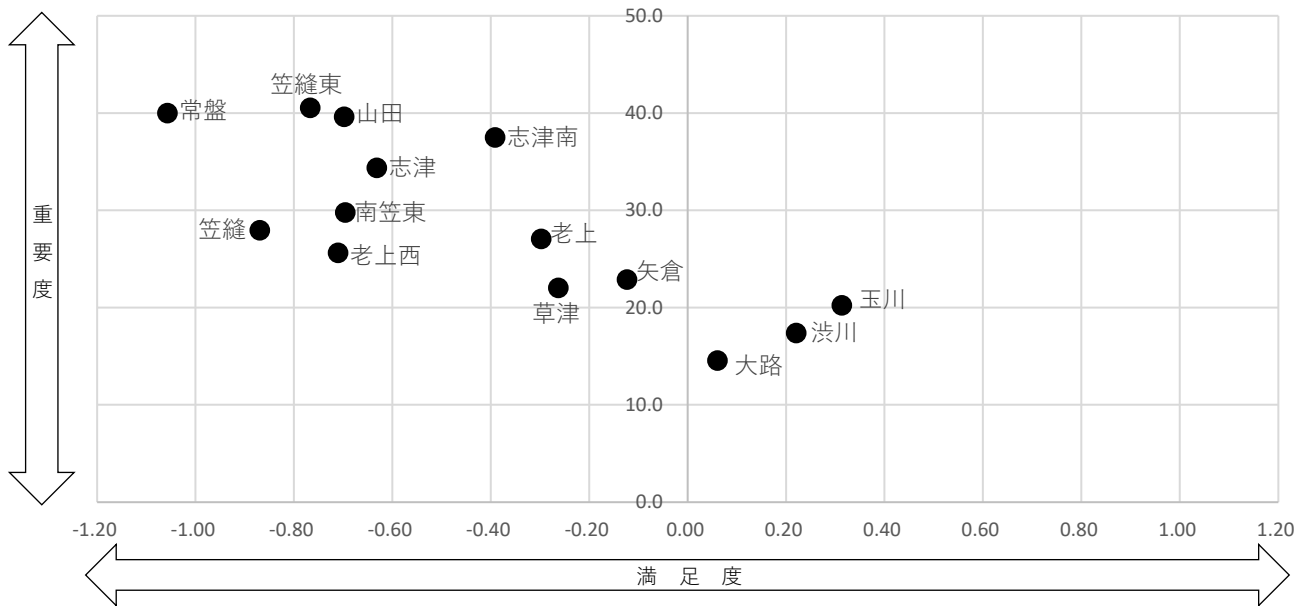
歴史景観づくり



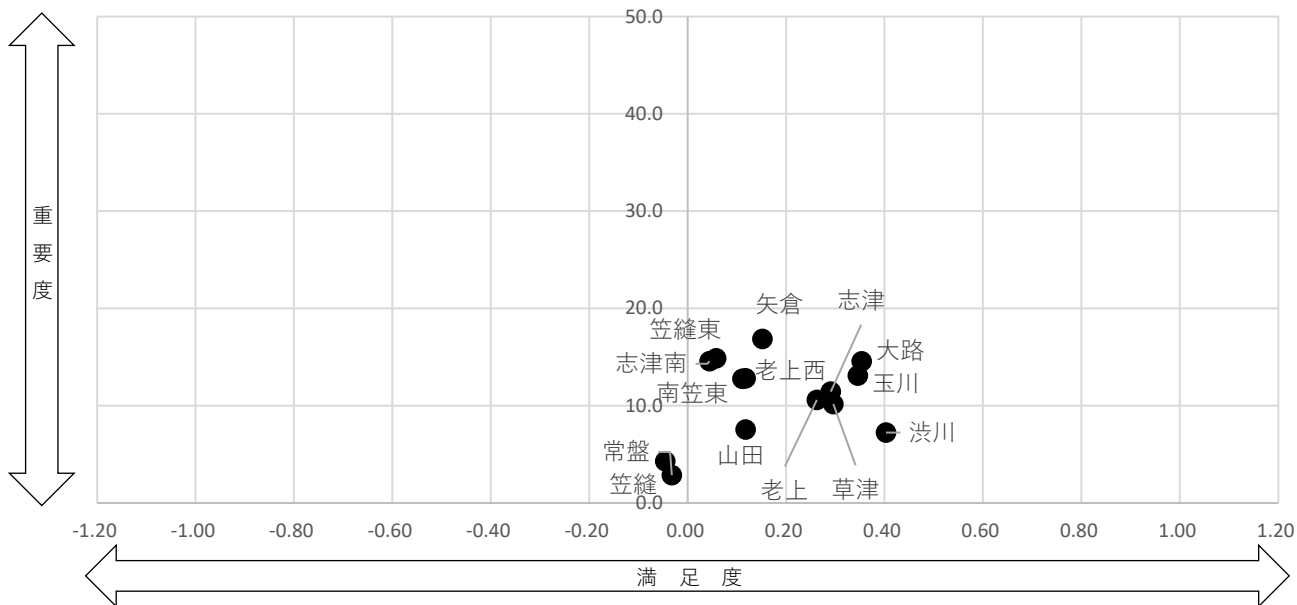
歩いて暮らせる市街地形成



公共交通機関



自然環境



協働のまちづくり

